乙金第二土地区画整理事業地内埋蔵文化財調查報告書3

乙金地区遺跡群3

~薬師の森遺跡第11・13・14・19次調査~

大野城市文化財調査報告書 第98集

2011

大野城市教育委員会

乙金第二土地区画整理事業地内埋蔵文化財調查報告書3

乙金地区遺跡群3

~薬師の森遺跡第11・13・14・19次調査~

大野城市文化財調査報告書 第98集

2011

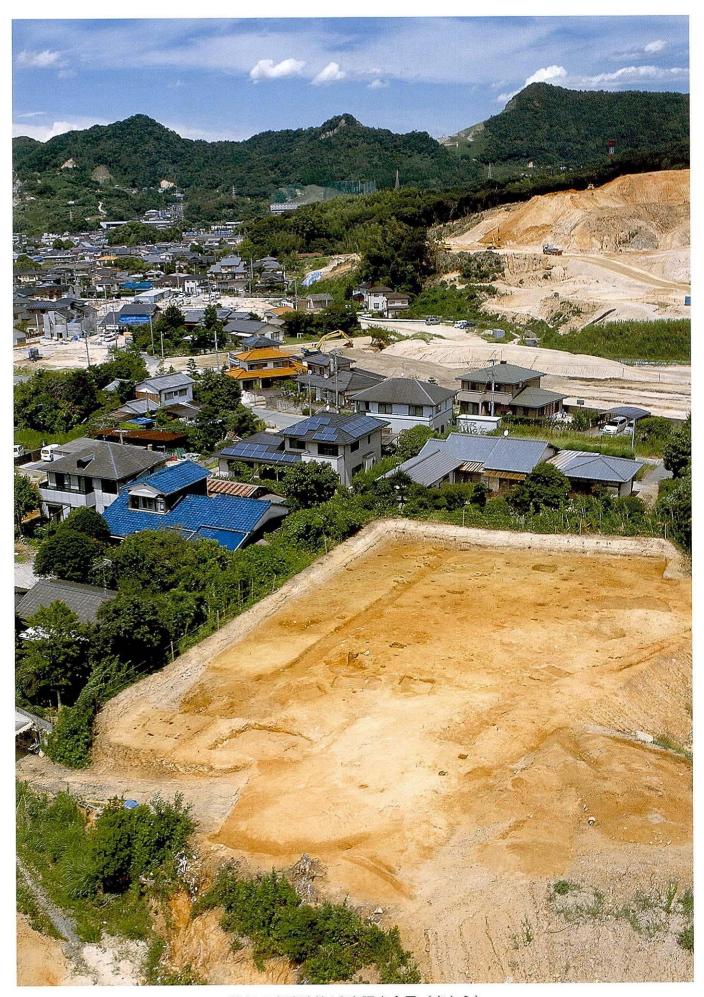
大野城市教育委員会



(1) 薬師の森遺跡第13次調査全景(西から)



(2) 薬師の森遺跡第14次調査全景(西から)



薬師の森遺跡第19次調査全景(南から)

大野城市乙金地区では、事業面積が41.2haにおよぶ大規模な区画整理事業が進められています。これに伴う発掘調査は、平成20年1月から行い、これまで約30か所で実施してきました。

今回報告する薬師の森遺跡第11・13・14・19次調査は、区画整理事業地内の やや南側に位置しています。調査の結果、古墳時代と鎌倉〜室町時代の集落のほ か、縄文時代〜近世の遺構遺物が確認され、人々の暮らしが連綿と続いていたこ とがわかりました。

もちろん、今回の発掘調査だけでは解明できない部分も多くありますが、こう した成果を一つ一つつなぎ合わせていくことによって、当時の集落の様子や人々 の暮らしぶりなどが明らかになってくることでしょう。

遺跡は土地に刻まれた歴史であり、私たちにたくさんのことを教えてくれます。 こうした遺跡を記録し、報告書というかたちで広く一般に公開するとともに、後 世へと伝えていけるよう本書を作成しました。本書が地域の歴史・文化再発見の 一助となるとともに、学術研究や教育の面で広く活用していただければ幸いです。

最後になりましたが、乙金第二土地区画整理組合をはじめ、㈱清水建設、工事 関係者ならびに地元の方々にご理解とご協力を頂きましたことに対し、厚く御礼 申し上げます。

平成23年3月31日

大野城市教育委員会 教育長 古賀 宮太

例 言

- 1. 本書は、大野城市教育委員会が乙金第二土地区画整理事業にともなって発掘調査を実施した、大野城市乙金3丁目所在の「薬師の森遺跡第11・13・14・19次調査」の報告書である。
- 2. 発掘調査は大野城市乙金第二土地区画整理組合の委託を受け、大野城市教育委員会が実施した。
- 3. 遺構写真は、第11・14・19次調査を吉田浩之、第13次調査を㈱アーキジオ福岡が撮影した。
- 4. 遺物写真は、第11・14・19次調査を国際文化財(株)、第13次調査を何文化財写真工房(岡紀久夫、埋蔵文化財写真研究会員)が撮影した。
- 5. 遺構平面実測図は、第11次調査を吉田、第13次調査を㈱アーキジオ福岡、第14次調査を吉田・ 久保翔平・田村杏士郎(福岡大学学生)、第19次調査の個別図を吉田・横山唯(福岡大学学生)・ 福永将大(九州大学学生)、全体図を㈱埋蔵文化財サポートシステム福岡支店が作成した。なお、 地形測量図のコンタは25cm間隔である。
- 6. 遺構実測図中の方位は座標北を表し、座標は世界測地系(第VI系)を示す。また図中の標高は、 乙金第二土地区画整理組合が提供した4級基準点網図の成果を使用している。
- 7. 遺物実測図は、國分ゆみ・上方高弘・吉田・林潤也が作成したほか、第11・14次調査の大部分を国際文化財(株)、第13次調査の大部分を(株)アーキジオ福岡が作成した。
- 8. 製図は、第11·14·19次の遺構図を渡辺美香、遺構配置図を㈱埋蔵文化財サポートシステム、 遺物実測図を国際文化財㈱、第13次調査の遺構図・遺物実測図を㈱アーキジオ福岡が作成した。
- 9. 拓本は、第11・14次調査を国際文化財(株)、13次調査を(株)アーキジオ福岡、第19次調査を國 分ゆみが作成した。
- 10. 観察表は、吉田・国際文化財㈱・㈱アーキジオ福岡が作成した。
- 11. 本書に掲載した遺跡分布地図は、国土地理院発行の1/25,000地形図『福岡南部』『太宰府』 を使用した。
- 12. 遺物の名称のうち、須恵器蓋杯については平城京分類、輸入陶磁器については太宰府分類(太宰府市教育委員会『大宰府条坊跡 X V』 2000年)による呼称を用い、須恵器編年に関しては、 牛頸編年(大野城市教育委員会『牛頸窯跡群-総括報告書 I - 』 2008)に準拠する。
- 13. 本書の遺物・実測図・写真はすべて大野城市教育委員会が管理・保管している。
- 14. 本書に使用する土色名は、『新版標準土色帖』 農林水産省技術会議事務局監修を使用している。
- 15. 本書の作成にあたり、武末純一・桃崎祐輔(福岡大学)、亀田修一(岡山理科大学)、久住猛雄(福岡市教育委員会)、山村信榮・井上信正(太宰府市教育委員会)の各氏から、ご指導、ご助言を頂きました。感謝申し上げます。
- 16. 本書の執筆は、I-1・3を林、I-2を石木秀啓、IIを上田龍児、II・V・VIを吉田、IVを 森隆 (㈱アーキジオ福岡)・林、Ⅵを㈱パリノ・サーヴェイ、Ⅷを吉田・林が担当し、編集は林・吉田がおこなった。

本 文 目 次

Ι.	はじめに	
	1.	調査に至る経緯1
	2.	平成21年度の調査経過3
	3.	調査体制8
II.	位置と環境	≋
	1.	地理的環境9
	2.	歴史的環境9
${\rm 1\hspace{1em}I}.$	薬師の森道	遺跡第11次調査
		調査概要15
	2.	遺構と遺物15
	3.	小結37
IV.		遺跡第13次調査
		調査概要39
		遺構と遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・42
	3.	小結74
٧.		遺跡第14次調査
		調査概要75
		遺構と遺物・・・・・・・75
	3.	小結 ······94
VI.		遺跡第19次調査
		調査概要95
		遺構と遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・95
		小結104
WI.		分析の成果105
VIII.	総括	114

挿 図 目 次

第1図	乙金第二土地区画整理事業地計画平面図	2
第2図	平成21年度乙金第二土地区画整理地内試掘調査および	
	薬師の森遺跡第11・13・14・19次調査地位置図(1 / 5,000)	4
第3図	乙金第二土地区画整理事業地周辺旧地形図(1961年撮影)(1 / 5,000)	5
第4図	周辺遺跡分布地図(1/25,000)11	~ 12
第5図	第11次調查遺構配置図第1面(1/150)	16
第6図	第11次調查遺構配置図第2面(1/150)	17
第7図	第11次調査SC01実測図(カマド実測図は1/30、他は1/60)・・・・・・・・・・・・・	18
第8図	第11次調査SC01出土遺物実測図(1/3) ·······	18
第9図	第11次調查SC02実測図(1 / 60) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	19
第10図	第11次調査SC02出土遺物実測図(1)(1/3) ····································	21
第11図	第11次調査SC02出土遺物実測図 (2) (39は1/6、他は1/3) ····································	22
第12図	第11次調査SC02出土遺物実測図 (3) (51は2/3、他は1/3)	23
第13図	第11次調査SC03実測図(カマド実測図は1/30、他は1/60)	24
第14図	第11次調査SC03出土遺物実測図 (1/3) ····································	26
第15図	第11次調査SC03·04出土遺物実測図	
	(79・80は1/2、81・82は2/3、他は1/3)	27
第16図	第11次調査SC04実測図(1 / 60) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	28
第17図	第11次調査SX11実測図(1/40)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	29
第18図	第11次調査SX43 ~ 45·SP75実測図(1 / 40) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	30
第19図	第11次調査SX·SD·SP出土遺物実測図(94は2/3、他は1/3)······	32
第20図	第11次調査SD01・02土層実測図(1 / 40) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	31
第21図	第11次調査包含層出土遺物実測図(111は1/2、他は1/3)	34
第22図	第11次調查包含層出土石器実測図(2/3)	35
第23図	第11次調査検出面ほか出土遺物実測図(128は1/2、他は1/3)	36
第24図	第13次調査 調査区東・北壁土層実測図(1/60)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	40
第25図	第13次調査 調査区西壁土層実測図(1/60)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	41
第26図	第13次調査遺構配置図(1/150)43	~ 44
第27図	第13次調査SB01·02実測図(1/60)······	45
第28図	第13次調査SB03·04実測図(1 / 60)·······	…46
第29図	第13次調査SB03出土遺物実測図(131は1/3、他は1/6) ······	…47
第30図	第13次調査SE01 ~ 03実測図(1 / 40) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	…48
第31図	第13次調査SE04実測図(1/40) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	…49
第32図	第13次調查SE01 ~ 04出土遺物実測図 (1/3) ······	51

第33図	第13次調查SX01出土遺物実測図(1/3) ······5	
第34図	第13次調査SX02·04実測図(1 / 40)······5	
第35図	第13次調査SX05·11実測図(1/40)······5	
第36図	第13次調査SX02·04·05·11出土遺物実測図(1/3)······5	
第37図	第13次調査SX15 ~ 20実測図(1 / 40) · · · · · · · · · 5	
第38図	第13次調査SX15 ~ 19出土遺物実測図(1/3) · · · · · · · · 5	
第39図	第13次調査SX20出土遺物実測図(1/3) ······5	
第40図	第13次調査SX21 ~ 24·38実測図(1 / 40) · · · · · · · · · 6	
第41図	第13次調査SX21·22·24出土遺物実測図(1/3)······6	
第42図	第13次調査SX26実測図(1/40) · · · · · · · · 6	
第43図	第13次調査SX26出土遺物実測図(225・226は1/2、他は1/3)6	
第44図	第13次調査SX27~31·34·35実測図(1/40)······6	5
第45図	第13次調査SX28~30・34・35出土遺物実測図(236は1/2、他は1/3)6	
第46図	第13次調査SX36·37·39実測図(1/40)······6	
第47図	第13次調査SX36·37·39出土遺物実測図(1/3)6	
第48図	第13次調査SD20·21土層実測図(1/40)······7	
第49図	第13次調査SD01·20·21·23出土遺物実測図(1/3)······7	
第50図	第13次調査ピット・包含層出土遺物実測図(1/3)7	2
第51図	第14次調査遺構配置図(1/200)・・・・・・・・・7	
第52図	第14次調查SB01実測図(1 / 60) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	8
第53図	第14次調査SB02実測図(1 / 60) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	9
第54図	第14次調査SB01·02出土遺物実測図(1/3)·····8	
第55図	第14次調査SC01·02実測図(1/60)······8	1
第56図	第14次調査SC01·02出土遺物実測図(1/3)·····8	
第57図	第14次調查SX18実測図(1/40) ······8	2
第58図	第14次調査SX13·14·16·19実測図(1 / 40)······8	
第59図	第14次調査SX20・26・37・38実測図(1 / 40) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
第60図	第14次調査SX65実測図(1 / 40)・・・・・・・8	5
第61図	第14次調查SX出土遺物実測図	
	(294は1/4、298・299・302は1/2、他は1/3)8	6
第62図	第14次調査SD14出土遺物実測図(305は2/3、304は1/3)8	8
第63図	第14次調査SP出土遺物実測図(310・323は1/2、315は1/4、他は1/3)…・9	0
第64図	第14次調査包含層ほか出土遺物実測図(337は1/2、338は2/3、他は1/3)…9	2
第65図	第19次調查遺構配置図(1/250)9	
第66図	第19次調査SB01・03実測図(1 / 60)・・・・・・・・・・・9	7
第67図	第19次調査SB02実測図(1 / 60) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	8

第68図	第19次調査SC01実測図(1 / 60) · · · · · · · 99
第69図	第19次調査SX01 ~ 03 · 06 · 10 · 12実測図 (1 / 60) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
第70図	第19次調査出土遺物実測図(348~353・357~360は2/3、他は1/3)102
第71図	花粉化石群集 · · · · · · · 107
	表目次
第1 志	花粉分析結果 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
第1表 第2表	種実分析結果
第3表	薬師の森遺跡第11次調査出土遺物観察表 ······118
第4表	薬師の森遺跡第13次調査出土遺物観察表120
第5表	薬師の森遺跡第14次調査出土遺物観察表 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
第6表	薬師の森遺跡第19次調査出土遺物観察表 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
31.0 20	
	図版目次
巻頭図版	1 (1)薬師の森遺跡第13次調査全景(西から)
	(2)薬師の森遺跡第14次調査全景(西から)
巻頭図版	2 薬師の森遺跡第19次調査全景(南から)
図版1	(1)第11次調査調査前風景(南西から) (2)第11次調査第1面全景(北から)
図版2	(1)第11次調査第2面全景(北から) (2)第11次調査SC01全景(西から)
図版3	(1)第11次調査SC02全景(北から)
	(2)第11次調査SC02遺物出土状況(北から)
図版4	(1)第11次調査SC03全景(北から) (2)第11次調査SC04全景(北から)
図版5	(1)第11次調査SX11全景(西から) (2)第11次調査SX11南北土層(東から)
図版6	(1)第13次調査調査前風景(北から) (2)第13次調査作業風景(南東から)
	(3)第13次調査調査完了状況(南から)
図版7	(1)第13次調査東半部全景(南東から) (2)第13次調査東半部北側(西から)
図版8	(1)第13次調査東半部東側(北東から) (2)第13次調査西半部全景(東から)
図版9	(1)第13次調査西半部全景(北から) (2)第13次調査西半部北側(南東から)
図版10	(1)第13次調査調査区東壁土層(南西から)
	(2)第13次調査調査区北壁東側土層(南西から)
	(3)第13次調査調査区西壁土層(東から)
図版11	(1)第13次調査ピット集中域(南東から)

	(2)第13次調査SP53柱材出土状況(南東から	5)
	(3) 第13次調査SP59柱材出土状況(東から)	
図版12	(1)第13次調査SE01土層(南東から)	
H104 2 -	(2) 第13次調査SE01完掘状況(南東から)	
図版13	(1)第13次調査SEO2井筒内完掘状況(東から	5)
	(2) 第13次調査SE02完掘状況(西から)	
図版14	(1)第13次調査SE03土層(南西から)	
	(2)第13次調査SE03漆器椀出土状況(北かれ	5)
	(3) 第13次調査SE03完掘状況(北東から)	
図版15	(1)第13次調査SEO4井筒内礫出土状況(東	b·6)
	(2)第13次調查SE04井筒内完掘状況(南東海	b· 5)
図版16	(1)第13次調査SE04井筒半裁状況(北東か	6) ·
	(2) 第13次調査SE04完掘状況(東から)	
図版17	(1)第13次調査SX01全景(東から)	(2)第13次調査SX01南側肩部(西から)
図版18	(1)第13次調査SX02完掘状況(北から)	(2)第13次調査SX04土層(南から)
	(3) 第13次調査SX05土層(南から)	
図版19	(1)第13次調査SX15土層(南西から)	
	(2)第13次調査SX15完掘状況(北東から)	
	(3) 第13次調査SX16土層 (南西から)	
図版20	(1)第13次調査SX17土層(南東から)	
	(2)第13次調査SX17完掘状況(北西から)	
	(3)第13次調査SX18土層(東から)	
図版21	(1)第13次調査SX19土層(北西から)	
	(2)第13次調査SX19完掘状況(南西から)	
	(3)第13次調査SX20土層(北西から)	
図版22	(1)第13次調査SX20完掘状況(南西から)	(2)第13次調査SX21土層(北西から)
	(3)第13次調査SX21完掘状況(北東から)	
図版23	(1)第13次調査SX25完掘状況(北東から)	(2)第13次調査SX26土層(西から)
	(3)第13次調査SX26完掘状況(西から)	
図版24	(1)第13次調査SX27土層(東から)	(2) 第13次調査SX29土層(南から)
	(3) 第13次調査SX30土層(北から)	
図版25	(1)第13次調査SX30完掘状況(北から)	
	(2) 第13次調査SX31礫出土状況(北西から)	
	(3) 第13次調査SX31完掘状況(北西から)	
図版26	(1)第13次調査SX36土層(南東から)	(2) 第13次調査SX39土層(西から)
	(3)第13次調査SX39完掘状況(北東から)	

図版27	(1) 第13次調査SD01完掘状況(東から)	(2) 第13次調査SD20土層(北西から)
	(3)第13次調査SD20完掘状況(西から)	
図版28	(1)第13次調査SD21土層(北東から)	
	(2)第13次調査SD21·SX22完掘状況(北北	5.6)
	(3)第13次調査SD23完掘状況(南西から)	
図版29	(1)第14次調査反転前全景(南から)	(2)第14次調査反転後全景(西から)
図版30	(1)第14次調査SB01全景(西から)	(2) 第14次調査SB02全景(北西から)
図版31	(1)第14次調査SC01全景(北から)	(2) 第14次調査SC02全景 (西から)
図版32	(1)第14次調査SX16全景(西から)	(2)第14次調査SX18全景(西から)
	(3) 第14次調査SX19全景(西から)	
図版33	(1)第14次調査SX20全景(西から)	(2)第14次調査SX26全景(南から)
	(3) 第14次調査SX38全景(東から)	
図版34	(1)第14次調査SX65全景(西から)	
	(2) 第14次調査反転後1面目全景(東から)	
	(3) 第14次調査SC01カマド土層 (西から)	
図版35	(1)第19次調査全景(東から)	
	(2) 第19次調査SB01 ~ SB03全景 (北から)
図版36	(1) 第19次調査SB01・03全景(南から)	(2)第19次調査SB02全景(東から)
図版37	(1)第19次調査SC01全景(東から)	
	(2)第19次調査SC01貼り床除去後全景(東	から)
図版38	(1)第19次調査SX01全景(東から)	(2)第19次調査SX01南北土層(西から)
図版39	(1)第19次調査SX02全景(東から)	(2)第19次調査SX02南北土層(西から)
図版40	(1)第19次調査SX03全景(南から)	(2)第19次調査SX03東西土層(南から)
図版41	(1)第19次調査SX06全景(南から)	(2)第19次調査SX06東西土層(南から)
図版42	(1)第19次調査SX10全景(北から)	(2)第19次調査SX12全景(北から)
図版43 ~ 5]	第11次調査出土遺物①~⑨	
図版52~56	6 第13次調査出土遺物①~⑤	
図版57~59	9 第14次調査出土遺物①~③	
図版60	第19次調査出土遺物	
図版61	自然科学分析写真(花粉化石)	
図版62	自然科学分析写真(種実遺体)	

I. はじめに

1. 調査に至る経緯

大野城市乙金地区は、市域北東側に位置し、大城山(通称 四王寺山)(標高410m)および乙金山(標高263m)の西側裾部にあたる。調査の原因となった乙金第二土地区画整理事業は、乙金地区の東側、九州縦貫自動車道の西側に沿うように計画され、現在の行政区域では大字乙金、乙金2・3丁目、乙金東1丁目の各一部に相当する。事業地は南北に長く(約1.6km)、施行面積41.2haにもおよぶ。事業前の土地利用状況は、住宅地2.6ha(6.7%)、農地8.5ha(21.7%)、公共用地3.0ha(7.5%)、山林・その他25.3ha(64.1%)からなり、概ね事業地の東側は山林、西側は既存集落を含む田園風景が広がっている。区画整理事業によって、この景観は一変し、豊かな自然を生かしながらも、計画戸数約500戸、計画人口約1,600人からなる利便性の高い街づくりが計画されている。乙金第二土地区画整理事業の経緯については下表のとおりである。

平成8年	『世話人会』発足
平成14年	「推進委員会」 発足
平成17年9月	「組合設立準備委員会」発足
平成19年3月	組合設立認可公示 第1回総会開催
平成19年10月	都市計画決定・市街化区域編入
平成19年12月	起工式開催
平成20年2月	事業計画認可公示
平成19年12月	起工式開催

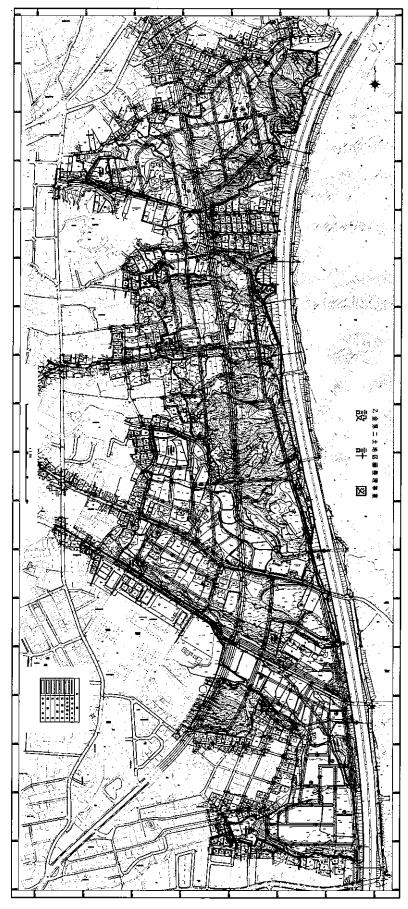
文化財については、平成16年11月より区画整理課企画指導担当と協議を開始した。埋蔵文化財に関しては、九州縦貫自動車道建設に伴う発掘調査の際に、王城山古墳群、喜一田古墳群、古野古墳群などの古墳群や窯跡が調査された一方で、元来宅地開発等の事業が少ない地域であったことから集落遺跡の存在は全く知られておらず、早期の試掘調査の実施と、すでに確認されている古墳群の一部について現地保存の協力を求めた。

また埋蔵文化財以外の文化財に関しては、未指定物件ながら「享保子丑餓死枯骨塔」(享保の大飢饉の際に無縁仏となった死者への供養塔)や「乙金宝満宮社叢」などが地域を代表する貴重な文化財として知られており、これらについても可能な限り現地保存できるように求めた。

調査費用については、市の内規に基づいて原則的に市と乙金第二土地区画整理組合とが折半することとし、調査開始時期・着手箇所については、平成18年度末から休耕が確定した範囲を対象として試掘調査を実施することで協議が整った。

こうした協議を踏まえて、平成19年3月15日付けで「乙金第二土地区画整理事業地内に関する協定書」を、同月16日付けで平成18年度の契約を締結し、3月20日より試掘調査を開始した。

本格的な試掘・発掘調査は平成19年度から開始し、文化財保護法第93条に基づく届出を平成19年11月30日(大教文848号)に行い、12月7日付け(19教文第4-585号)で県教育委員会からの通知があった。



第1図 乙金第二土地区画整理事業地計画平面図

2. 平成21年度の調査経過

(1)調査概要

平成21年度は試掘調査を10ヶ所(31~41次試掘調査、調査対象面積36,300㎡)、発掘調査を15ヶ所(一覧表参照、調査面積36,053㎡、平成20・22年度継続分を含む)実施した。試掘調査は国庫補助事業(32次試掘調査を除く)として実施した。バックホーによるトレンチ調査を基本とし、土層の堆積状況を確認しながら遺構の検出に努めた。発掘調査は、試掘調査により遺構が確認された部分の調査を実施したが、周囲の状況から遺跡の所在が確実な場所は試掘調査を実施しないで発掘調査に着手した。調査費用は、大野城市と乙金第二区画整理事業組合と費用を折半して実施した。

(2) 試掘調査

A) 31次試掘調査(乙金3丁目585-1他)

調査地は畑として利用されていた。2本のトレンチを設定、掘り下げ、遺構検出をおこなった。 調査の結果、現地表下20~50cmで黄橙色土~黒褐色土の地山を検出した。検出面は、西側へ向かって下がっている。この面でピット・溝・土坑を検出した。埋土は褐色土~黒褐色土~灰色土。土師器・青磁・陶器片が出土した。時期は中世にあたる。

B) 32次試掘調査(乙金3丁目585-1他)

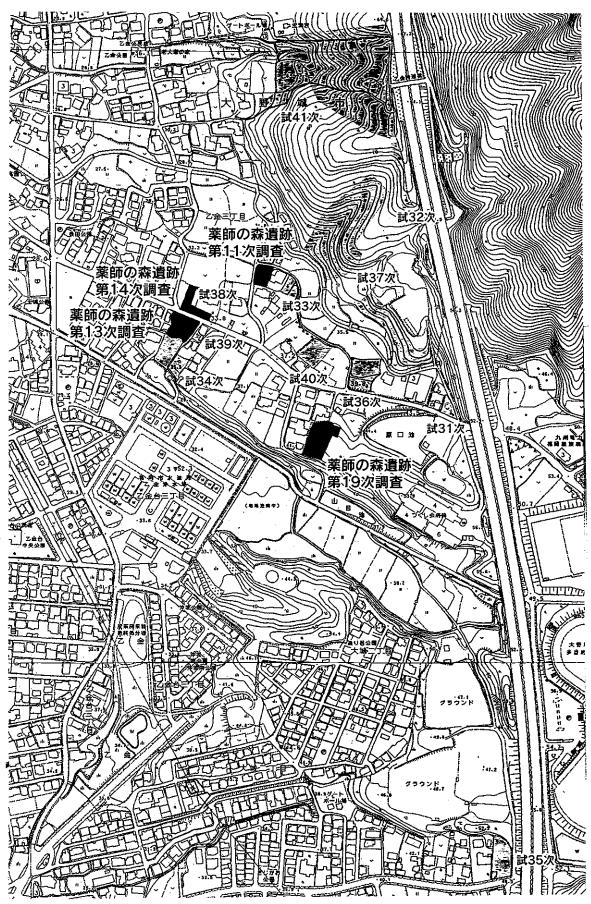
高速道路沿いの樹木伐採未実施の部分をスコップによる手掘りで調査を実施した。計9ヶ所で掘り下げを行い、現地表下20~50cmで花崗岩バイラン土を検出した。遺構・遺物は確認できなかった。

C) 33次試掘調査(乙金3丁目403他)

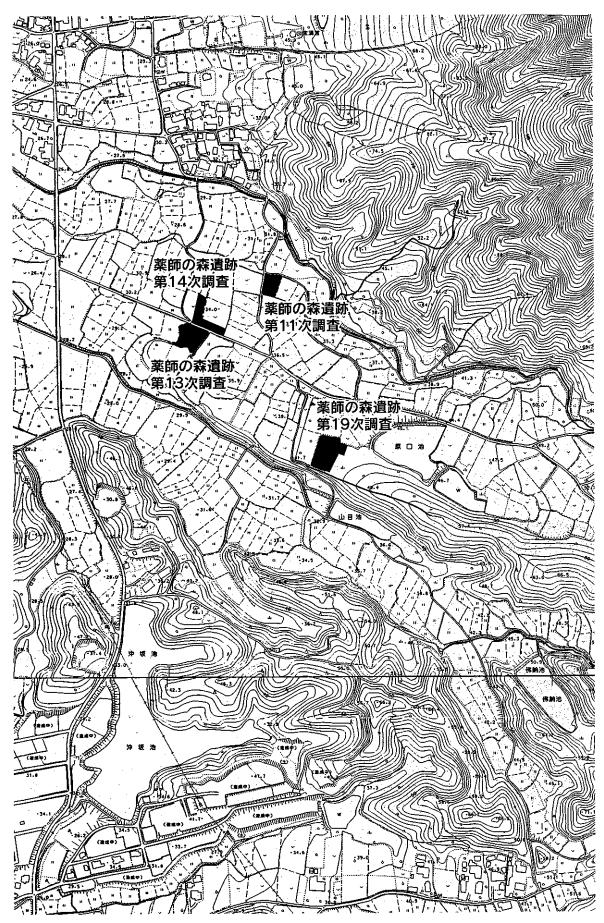
調査地は東西で2m近い比高差がある。高所と低所のそれぞれに計3本のトレンチを設定、掘り下げ、遺構検出をおこなった。調査の結果、高所では現地表下30~40cmで黄白色砂質土の地山を検出した。この面で土坑を検出した。埋土灰色土。周辺に江戸期の年号をもつ墓石が点在しており、これに関する墓坑と考えられた。低所では、現地表下20~95cmで褐色~黄褐色砂質土の地山を検出した。北側に向かって次第に下がる。埋土黒褐色土の広がりを認めたが、遺構プランの確定はできなかった。土師器・須恵器が出土した。平成21~22年度に薬師の森遺跡第16次調査として発掘調査を実施した。

D) 34次試掘調査(乙金3丁目351~1他)

調査地はほぼ平らで、畑として利用されていた。上下段の畑に計4本のトレンチを設定、掘り下げ、遺構検出をおこなった。調査の結果、下段の畑では現地表下20~30cmで黄橙色土の地山を検出した。南側は相当の削平を受けている。北側は表土下に褐色土が確認され、遺物を含む。住居跡状の遺構が確認された。埋土褐色土。上段の畑では、現地表下20~40cmで黄橙色土を検出し、ピット・溝が確認された。北側は表土下に褐色土が確認された。須恵器が出土した。平成21年度に薬師の森遺跡第12次調査として発掘調査を実施した。



第2図 平成21年度乙金第二土地区画整理地内試掘調査および 薬師の森遺跡第11・13・14・19次調査地位置図(1/5,000)



第3図 乙金第二土地区画整理事業地周辺旧地形図(1961年撮影)(1/5,000)

E) 35次試掘調査(大城3丁目37-1他)

調査地は元々宅地として利用されており、ほぼ平らに整地されていた。5本のトレンチを設定、掘り下げ、遺構検出をおこなった。調査の結果、現地表下30~100cmで橙色~褐灰色土の地山を検出した。地山は礫を多く含む。この面で遺構検出を行ったところ、土坑・ピットを検出した。埋土褐色土。須恵器が出土した。調査地は東から西へ向かって下がり、東側は大きく削平されている。

F) 36次試掘調査(乙金3丁目539-1)

調査地は田として利用されており、此の岡池から流れる小川の流路壁体天端とあまり比高差はない。4本のトレンチを設定、掘り下げ、遺構検出をおこなった。調査の結果、現地表下55~155cmで地山を検出した。地山には礫を含み、湧水した所もあった。土師器・青磁が少量出土したが、遺構は確認できなかった。

G) 37次試掘調査(乙金3丁目670他)

調査地は丘陵谷部にあたり、南西に下る。等高線に直交するように、トレンチ33本を設定、掘り下げをおこなった。周辺遺跡の調査から須恵器窯跡の存在が想定されていたため、斜面部を表土剥ぎして遺構・遺物の検出に努めた。調査の結果、南側丘陵先端で防空壕を確認し、北側丘陵南端で大きな土坑状遺構を確認した。須恵器・土師器が出土した。平成22年度に原口遺跡第4次調査として発掘調査を実施した。

H) 38次試掘調査(乙金3丁目419-1)

調査地は宅地として利用されており、ほぼ平らに整地されていた。西側の道路からは70cmほど上がっている。3本のトレンチを設定、掘り下げ、遺構検出をおこなった。調査の結果、現地表下70~120cmで橙色土+黒色土、褐色土~浅黄色土の地山を検出した。遺構面は西側へ緩く下がっている。この面を精査したところ、ピット・土坑が検出された。埋土褐色土。須恵器・土師器が出土した。平成21年度に道路拡張部分も含めて薬師の森遺跡第14次調査として発掘調査を実施した。

I) 39次試掘調査(乙金3丁目356-7)

調査地は宅地として利用され、ほぼ平らに整地される。2本のトレンチを設定、掘り下げ、遺構 検出をおこなった。調査の結果、現地表下65~80cmで黄白色+黄色砂質土~黄色粘質土~橙色 土の地山を検出した。この面で、ピット・土坑を検出した。埋土褐色土・灰褐色土。須恵器が出土 した。

J) 40次試掘調査(乙金3丁目394-1)

調査地は畑として利用され、東西に蛇行しながらのびる丘陵上にあたる。2本のトレンチを設定、掘り下げ、遺構検出をおこなった。調査の結果、現地表面下50~170cmで黄色~黄白色砂質土の地山を検出した。この面で精査したところ、ピット・土坑を検出した。埋土暗褐色土・黒色土、しまりなくやわらかであった。ピット内からは黒曜石チップが出土した。なお、他のトレンチで現地表下230cmまで掘り下げて黄色シルト土を検出した。上層は砂質土と粘質土が互層で堆積するが、これらは遺構面を構成するものであり、沖積地が開析されて現在の丘陵や谷が形成されていることが明らかになった。平成22年度に薬師の森遺跡第21次調査として発掘調査を実施した。

K) 41次試掘調査(乙金3丁目905-1他)

調査地は丘陵部にあたる。等高線に直交するように、トレンチ26本を設定、掘り下げをおこなった。調査の結果、南側の丘陵斜面では現地表下10~30cm程度で地山を検出した。地山は橙色土、礫を含む。ピットが検出され、須恵器が点在する。また、宝満宮から東にのびる丘陵では古墳3基が確認され、トレンチからは須恵器が出土した。試掘調査は平成22年度まで実施した。なお、調査地は平成22年度に古野遺跡第1次調査として発掘調査を開始した。

(3) 発掘調査

平成21年度に実施した発掘調査は下表のとおりである。

平成21年度発掘調査地一覧表 (継続分を含む)

平成21平及光畑調宜地一見衣(松杭力を含む)					
遺跡名	所在地	試掘調査次数	発掘調査期間	調査面積(mi)	担当
薬師の森遺跡 第5次調査	乙金3丁目 414-2他	14・22次	20.7.23 ~ 21.8.10	10,800	林・上田 甲斐
薬師の森遺跡 第6次調査	乙金3丁目 410他	24次	$20.12.25 \sim 21.6.4$	1,300	中島
薬師の森遺跡 第7次調査	乙金3丁目 373-1他	19・21次	21.1.31 ~ 22.3.31	7,900	林・上田 中島
薬師の森遺跡 第8次調査	乙金3丁目 406他	14・30次	21.2.18~9.25	1,920	下高・甲斐
薬師の森遺跡 第9次調査	乙金3丁目 349-1他	19次	21.6.16~9.30	700	中島
薬師の森遺跡 第10次調査	乙金3丁目 356-3·4他	21次	21.8.5~9.2	750	中村・林
薬師の森遺跡 第11次調査	乙金3丁目 405	25次	21.10.5~12.7	368	吉田
薬師の森遺跡 第12次調査	乙金3丁目 351-1他	34次	21.11.6~22.2.5	1,200	中島
薬師の森遺跡 第13次調査	乙金3丁目 350-1他	23次	22.1.12~2.25	790	林
薬師の森遺跡 第14次調査	乙金3丁目 413の一部他	38次	22.1.7~4.30	470	吉田
薬師の森遺跡 第15次調査	乙金3丁目 407-2他	_	22.1.6~3.5	525	上田
薬師の森遺跡 第16次調査	乙金3丁目 403他	33次	22.2.19~7.6	530	上田
原口遺跡 第1次調査	乙金3丁目 905-1他	29次	21.3.10~4.13	3,000	上田
原口遺跡 第2次調査	乙金3丁目 910-11他	29次	21.4.9~12.11	4,000	上田
原口遺跡 第3次調査	乙金3丁目 662-1他	37次	21.11.18~22.2.19	1,800	上田

(4)整理作業

整理作業は、発掘調査と並行しながら行い、薬師の森遺跡第4・6次調査、雉子ヶ尾遺跡第3次 調査の成果を収録した『乙金地区遺跡群II』を刊行した。

3. 調査体制

平成21 · 22年度

大野城市教育委員会

教育長 古賀宮太

教育部長 森 岡 勉

ふるさと文化財課長 舟 山 良 一

文化財担当係長 中山 宏

主查 徳本洋一 石木秀啓 丸尾博恵

主任技師 林 潤 也 早 瀬 賢 上 田 龍 児

嘱託 (調査関係) 石 川 健 大 里 弥 生 (平成21年度)

國 分 ゆ み (平成22年度) 茂 友 美 (平成22年度)

中島 圭 (平成21年度) 下高大輔 (~平成21年9月)

吉 田 浩 之 渡 邊 和 子 (平成22年度)

嘱託 (庶務) 井 上 絵美子 高 野 佳 子 (平成22年度)

発掘調査作業員(平成21年度のみ)

岡本妙子 大海雅子 高木幸子 藤田和子 前田チエ子 織田徹 坂本泰子 渡辺久美子小林敏子 小林久美子 西村清子 広渡隆子 田中照子 岩切ふえ 大蘭英美 深野一美 舩越桃子 穴井和子 仲前富美子 井口るみ子 日野律子 川岸晶子 溝口忍 飯田三治小川ケイ子 三善公子 山下隆子 団野ハマ子 篠崎繁美 東島真弓 安里由利子 中山文子 模坂陽子 大島五津子 大浦旗江 松尾純子 田中悦子 田野和代 宮原ゆかり 戸渡京子 野崎美智子 倉住孝枝 杉森宏治 有水友晴 井口薫 岩石いづみ 大津幸男 梶原久美子 竹内純 西浦喜久子 花田博雄 林祥夫 林田洋子 平江信子 酒井笑子 手嶋敏則 平江武士 香野博通 西依榮 川崎敏次郎 佐藤寛行 吉田秀俊 田中良一 諏訪博恭 諸岡久幸 横谷明美柴田徳平 柳俊輔 堤田貴利枝 永澤弘子 本村俊和 下田和弘 浅倉健之 金子照子 西川明子 松枝勉 井上光江 柴藤佳代子 武田敬子 堤末子 佐藤敏彦 古賀隆典 藤野與志孝 武藤マリ子 山室裕 (九州大学大学院生) 福永将大 (九州大学学生)

横山唯 田村杏士郎 久保翔平(以上 福岡大学学生)

飯田絢美 大川健 太田裕輝 大津舞 大庭森 川崎奈緒 北村幸嗣 河野祐一郎 小谷実咲七堂礼奈 志積由浩 住田圭紀 高粱加奈 竹中庸記 橘貞与志 辻綾実 中島知香 仲嶋秀志永田礼子 中村祥子 西田尚代 西野真 西村彩 西本成希 濱田嘉仁 藤川大 藤ノ原彰文藤原千佳 南修子 南貴明 村田一馬 森由紀子 森中啓丞 山口奈那(以上 大阪大谷大学学生)

整理作業員(平成21年度のみ)

松岡信子 町井裕子 鬼塚穂子 白井典子 村山律子 渡部美香 仲村美幸

大本哲士 小原高次 橋本通則 瀧口博司 早田眞一郎

II. 位置と環境

1. 地理的環境

大野城市の位置する福岡平野は、南を背振山地、東を三郡山地に挟まれ、北は博多湾に面している。 平野中央部に那珂川・御笠川が貫流し、広大な沖積平野を形成する。大野城市は福岡平野東南部の最 奥部に位置し、平野が狭くなる地峡部にあたる。古代以来この地峡部は交通の要衝で、現在でも九州 縦貫自動車道・JR鹿児島本線・西鉄大牟田線・国道3号線など九州の南北を結ぶ幹線道が走っている。 市域は東側を月隈丘陵に連なる乙金山・四王寺山、南側を牛頸山に挟まれ、中央に御笠川が貫流する。 山地は早良花崗岩からなり、風化が著しく真砂土となっており、山麓部から平地丘陵部にかけて段丘が発達する。高位段丘は開析がすすみ、中位段丘は平坦部も多く、平野部では沖積地が広がる。

乙金地区遺跡群は市域東部にあたり、乙金山・四王寺山から西にのびる緩やかな丘陵上に位置する。 丘陵は花崗岩を基盤とするが、中小の河川によって開析された谷部では砂礫層が発達し、小規模な扇 状地を形成する。

2. 歴史的環境

旧石器時代

市域では釜蓋原遺跡、雉子ヶ尾遺跡、松葉園遺跡、出口遺跡、横峰遺跡、本堂遺跡群など丘陵上の 遺跡でナイフ形石器・細石刃などの遺物が確認されている。周辺地域では南八幡遺跡、諸岡遺跡、諸 岡城館遺跡、井尻B遺跡、門田遺跡などで後期旧石器時代に属する遺物が出土している。

縄文時代

市域で草創期の遺構・遺物は確認されていないが、周辺では門田遺跡で爪形文土器が出土している。 早期になると遺跡の数が増加し、釜蓋原遺跡、雉子ヶ尾遺跡、本堂遺跡群などの丘陵地で押型文土器 や石器が確認されているほか、石勺遺跡など平野の微高地上にも遺跡が展開する。なお石勺遺跡では おとし穴状遺構が検出されている。前期~中期の遺跡は市域では確認されておらず、周辺地域でも遺 跡の数が減少する。後期の遺跡は牛頸塚原遺跡、日ノ浦遺跡で後期後半末~晩期にかけての竪穴住居・ 土坑が確認されている。また、牛頸川の河床で前期と考えられる玦状耳飾が採集されている。

弥生時代

弥生時代に入ると福岡平野全域で遺跡が増加し、沖積地にも遺跡が展開する。前期の遺跡は、市域では北部の丘陵・平野部に多く、特に墳墓遺跡は北部の丘陵地に集中する。御陵前ノ椽遺跡(前期中頃)、中・寺尾遺跡(前期中頃~中期)、塚口遺跡(前期後半~末)で甕棺墓・土坑墓・木棺墓などが営まれる。南部では牛頸日ノ浦跡で前期後半の甕棺墓・土坑墓がある。集落遺跡は多くないが、仲島遺跡、石勺遺跡、ヒケシマ遺跡は前期末頃に出現し、中期に継続する集落である。丘陵部では御陵遺跡で前期中頃~末の集落が確認されている。また川原遺跡では板付Ⅰ式期にさかのぼりうる集落が確認されている。周辺では、板付遺跡や那珂遺跡で早・前期の環濠集落が成立し拠点集落となる。また板付遺跡に隣接する諸岡遺跡では朝鮮系無文土器が多数出土しており、渡来系集落と位置づけられる。前期末~中期初頭段階の北部九州地域では、吉武高木遺跡や板付田端遺跡のように青銅器を多数保有する

墳墓が出現しており、各地にクニが成立すると考えられている。中期の遺跡として、市域では平野部の仲島遺跡、石勺遺跡、ヒケシマ遺跡が、前期末から中期を通して継続する集落である。丘陵地でも北部の中・寺尾遺跡、森園遺跡で中期前半~後半に集落が展開し、南部でも本堂遺跡群で小規模な集落がある。墳墓遺跡としては前期から継続する中・寺尾遺跡があるほか、森園遺跡で中期後半を中心にした甕棺墓群がある。周辺では春日丘陵に大規模な集落・墳墓が出現し、青銅器生産も開始される。特に須玖岡本遺跡D地点甕棺は約30面の前漢鏡・ガラス璧・多数の青銅器を副葬し「王墓」と称されており、当該期の春日丘陵は『三国志』「魏書」東夷伝倭人条に記された「奴国」の中心的な地域と位置づけられる。後期に入ると仲島遺跡、石勺遺跡、中・寺尾遺跡、森園遺跡、松葉園遺跡、本堂遺跡群などで集落の展開がみられるほか、村下遺跡、榎町遺跡で新たな集落が出現する。このうち仲島遺跡では賃布・銅鏡片・青銅製鋤先・銅鏃・青銅器鋳型などが出土しており拠点的集落と位置づけられる。周辺では中期以降春日丘陵一帯や那珂・比恵遺跡群が拠点集落として継続し、雀居遺跡では環濠集落が成立する。

古墳時代

前期

〔墳墓〕古墳時代になると福岡平野でも前方後円墳が出現し、那珂川流域を中心に首長墓級の前方後円墳が分布する。福岡平野最古式の前方後円墳として、三角縁神獣鏡が出土した那珂八幡古墳(全長75m)があり、このほか初期の前方後円墳として、須玖御陵古墳や三角縁神獣鏡を副葬する前方後方墳である妙法寺2号墳がある。これに後続する盟主墳として安徳大塚古墳(全長62m)や三角縁神獣鏡が出土したとされる卯内尺古墳がある。市域において前方後円墳は確認されていないが、御陵古墳群周辺で三角縁神獣鏡が出土しており、有力な在地勢力が存在したと考えられている。

[集落] 福岡平野の拠点集落としては、博多湾沿岸の西新町遺跡、博多遺跡群や那珂・比恵遺跡群があり大規模な集落が展開する。市域では仲島遺跡、石勺遺跡、村下遺跡が弥生時代後期から継続し、瑞穂遺跡、原ノ畑遺跡などでも集落が出現する。この他、森園遺跡や本堂遺跡群でも再び集落の形成が認められる。

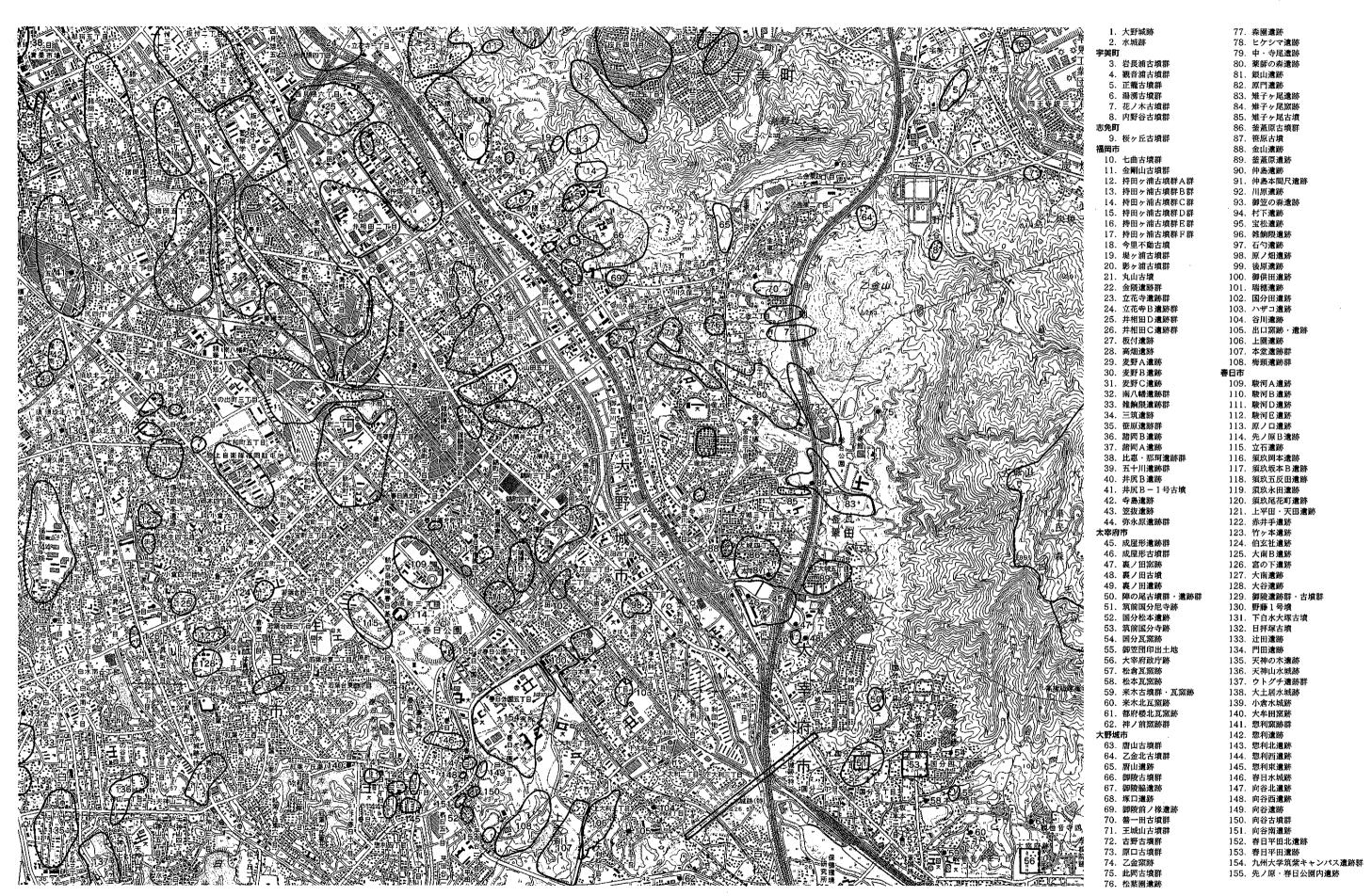
中期

[墳墓] 5世紀代では、初期横穴式石室を導入した老司古墳(全長76m)があり、博多遺跡群でも博多 1号墳(全長56m)が築造される。また剣塚北古墳、井尻B1号墳、野藤1号墳、貝徳寺古墳など中 規模の前方後円墳・円墳が築造される。市域では5世紀前半の笹原古墳(円墳:30m)があり、隣接 して5世紀後半の成屋形古墳(帆立貝式前方後円墳:32m、太宰府市)が築造され、御笠川流域の盟 主墳と考えられている。また5世紀後半にはカクチガ浦古墳群や市域南部の牛頸塚原古墳群など古式 群集墳の形成が認められる。

〔集落〕5世紀代の集落遺跡は非常に希薄で、前代までの拠点集落である那珂・比恵遺跡群や西新町遺跡は消滅する。周辺では井相田C遺跡、高畑遺跡、立花寺B遺跡などで集落が展開する。市域では中・寺尾遺跡、森園遺跡、上園遺跡、仲島遺跡で散発的に集落が形成される。

後期

[墳墓] 6世紀前半の首長墓として赤井出古墳(30m)があり、これに続き6世紀中頃の東光寺剣塚古



第4図 周辺遺跡分布地図(1/25,000)

墳 (75m)、日拝塚古墳 (46m) といった前方後円墳がある。特に東光寺剣塚古墳は石屋形・最古式の複室両袖型横穴式石室を採用しており、八女地域・肥後北部地域との関係が指摘されている。6世紀後半には上白水天神山古墳、下白水大塚などの中規模前方後円墳が築造されるが、大型前方後円墳は姿を消す。大野城市と福岡市博多区の境界に位置する今里大塚古墳は直径30mの円墳であり、御笠川右岸地域の該期の盟主墳と考えられる。前方後円墳の終焉にかわって6世紀後半以降、福岡平野一帯の丘陵上には直径10mほどの小円墳を主体とした群集墳が爆発的に増加する。市域においては月隈丘陵から乙金山・四王寺山にかけての丘陵上に大規模な群集墳が営まれる。また市域南部では須恵器工人の墓と考えられる牛頸中通・後田・小田浦古墳群などがあるほか、梅頭窯跡では窯を転用した墳墓から象嵌太刀が出土しており注目できる。これらの群集墳は6世紀後半~7世紀前半頃にかけて築造が認められ、7・8世紀代を通じて追葬が行われる。

[集落] 5世紀代に希薄であった集落遺跡は、6世紀中頃以降、福岡平野の各地で再び増加する。特に 比恵遺跡群では6世紀後半に大型建物群が出現し、「那津官家」の可能性が指摘される。市域では仲島 遺跡や塚原遺跡群、日ノ浦遺跡群、上園遺跡などで集落が展開する。特に仲島遺跡では移動式カマド・ 滑石製模造品・馬骨などが出土しており、隣接する井相田C遺跡では竪穴住居や掘立柱建物が多数検 出されていることから、拠点的な集落があったと考えられる。仲島遺跡や中・西コモリ遺跡(森園遺跡 の一部)では滑石製品の未製品やチップが出土し、滑石工房の存在が指摘される。

また牛頸窯跡群は6世紀中頃から操業を開始し、以後規模を拡大していく。一方、乙金地区においても6世紀後半を中心に乙金窯跡、雉子ヶ尾窯跡、裏ノ田窯跡などが操業するが、いずれも小規模なものである。

飛鳥時代

7世紀前半代は集落・墳墓ともに古墳時代の様相を踏襲する。6世紀後半に比恵遺跡群でみられた 大型建物群は那珂遺跡群に移動する。この時期牛頸窯跡群の須恵器生産はひとつのピークを迎える。 また野添4次2号窯や月ノ浦窯跡などでは初期瓦を生産しており、那津官家比定地の那珂遺跡に供給 されたことが知られる。牛頸窯跡群内の牛頸塚原遺跡、日ノ浦遺跡、上園遺跡、梅頭遺跡、惣利西遺 跡などは須恵器工人集落と考えられている。

7世紀後半になると朝鮮半島三国間で争いがおこり、唐の介入もあって東アジア全体が動乱の時代をむかえる。その結果、日本も白村江の戦(663年)で敗戦を経験し、日本史上初の国際的な危機に直面する。これに伴い664~665年にかけて水城、大野城が相次いで築造される。国内情勢でも壬申の乱(672年)が起こり、これを機に律令体制に基づく本格的な中央集権国家を形成していくことになる。また当該期には大宰府第 I 期政庁が成立する。牛頸窯跡群では供膳具を大量生産しており、権状製品や円面硯などが出土することから、大宰府にむけた生産をおこなっていたと考えられている。

奈良時代

奈良時代になると律令国家が成立し、九州も大宰府を中心とした支配体制が整い、各地に官衙が設置される。またこの時期には官道も整備され、井相田C遺跡、板付遺跡、那珂久平遺跡(水城東門ルート)や谷川遺跡、先ノ原・春日公園内遺跡などで道路状遺構が確認されている。集落遺跡として市域では仲島遺跡や隣接する井相田C遺跡で掘立柱建物を中心とした遺構が確認されており、なんらかの

公的施設と考えられる。御笠の森遺跡では石帯(丸鞆)が出土しており注目できる。周辺の高畑遺跡は「高畑廃寺」あるいは那珂郡衙の可能性が指摘され、麦野遺跡、南八幡遺跡で大規模な村落が成立する。このように御笠川中流域の官道沿いに官衙や村落が展開している様子が窺える。墳墓の検出例は少ないが、石勺遺跡で火葬墓が確認されている。牛頸窯跡群では8世紀前半に窯の数が増加し、8世紀後半には甕の生産が認められず、8世紀代を通じて供膳具を中心に大量生産がおこなわれる。この他、本堂遺跡群では村落内寺院と考えられる遺構が確認されている。

平安時代

平安時代前半の9・10世紀代は福岡平野全域で遺跡数が減少し、大宰府でも遺構・遺物量が減少する。牛頸窯跡群も規模が縮小し、9世紀中頃には操業を停止する。市域の遺跡も減少し、集落では日ノ浦遺跡で9世紀中頃までの遺構は確認できるが、これを最後に姿を消す。また前代に見られた仲島遺跡、井相田C遺跡や麦野遺跡の集落も9世紀代に消滅する。9~10世紀代の墳墓遺跡としては牛頸月ノ浦窯跡、本堂遺跡群、塚口遺跡、中・寺尾遺跡で土壙墓があり、持田ヶ浦古墳群ではマウンドを伴う塚状の遺構が確認されている。また胴ノ元古墳、中通古墳で横穴式石室を再利用した例がある。なお9世紀前半に改称した鴻臚館は対外交渉の窓口として機能し、9世紀後半以降は中国商人の滞在・交易施設となり、初期貿易陶磁器が大量に出土している。

平安時代後半になると、11世紀中頃~後半に大宰府政庁・鴻臚館が廃絶し、かわって博多遺跡群に おいて中世都市「博多」が成立する。律令制は完全に崩壊し、各地で武士が活躍する時代を迎える。 市域においては塚口遺跡、森園遺跡、中・西コモリ遺跡(森園遺跡の一部)、松葉園遺跡、薬師の森遺 跡で、輸入陶磁器を埋納する土葬墓が確認されており、有力者の存在を示す。集落は薬師の森遺跡、 松葉園遺跡、御笠の森遺跡、上園遺跡で確認されており、また本堂遺跡群では「大日如来」銘の墨書 土器や木製形代などの祭祀遺物が出土している。また小水城周辺遺跡では掘立柱建物・溝などが検出 されており、小水城が防衛施設として機能していないことを示す。

鎌倉時代~戦国時代

市域では御笠の森遺跡、本堂遺跡群、石勺遺跡、川原遺跡などで当該期の遺構が確認されている。 なかでも御笠の森遺跡は11世紀後半以降継続して集落が展開し、13~14世紀代には遺構が密に分布 するようになる。その後、15世紀に一時的に遺構が減少するが、16世紀後半~17世紀中頃に多数の 方形区画溝が展開し、有力農民層の集落跡と考えられている。御笠の森遺跡の方形区画溝は中世末期 ~近世初頭の集落像を考える上で非常に注目される遺跡である。また、市域には戦国期の山城として 乙金の唐山城、牛頸の不動城があるが、未調査のため詳細は不明である。

江戸時代

後原遺跡、御笠の森遺跡、雑餉隈遺跡、村下遺跡、川原遺跡、屛風田遺跡などで、遺構・遺物が確認されているが、当該期の遺跡の多くは現在の集落域と重複していると考えられる。御笠の森遺跡では中世以来継続する集落が、17世紀後半に消滅する。これは『筑前国続風土記拾遺』の山田村の項にある「此村昔は御笠の森の辺にあり、延宝の頃(延宝年間:1674~1680年)今の地に移せり」という記載と一致しており、「中世的」集落から「近世的」集落への変質を考える上で重要な遺跡である。

薬師の森遺跡第11次調査



Ⅲ. 薬師の森遺跡第11次調査

1. 調査概要

薬師の森遺跡第11次調査地は区画整理事業地のほぼ中央に位置し、大野城市乙金3丁目405(小 字:草場) にあたる。調査面積は約390㎡を測る。調査地は四王寺山から西側にむかって派生する 丘陵の西側裾部付近で、調査区は西および北側にむかって緩斜面となっている。調査前は畑として 利用されていた。表土剥ぎはバックホーを用いて調査区南側から行い、その結果、調査区南側では 約30cmの表土を除去すると淡黄色砂質土(地山)が現れ、これを切り込んで黒褐色土の埋土をも つ遺構が検出された。そのため、これを遺構検出面と認識し、表土剥ぎを進めた。調査区南端から 北に約10m表土を剥ぐと、これより北側は暗褐色の遺物包含層が堆積し、この遺物包含層の上か ら切り込んでいる遺構が確認された。当地の西に隣接する薬師の森遺跡第8次調査でも遺物包含層 を切り込んだ中世の遺構の存在が確認されたことを勘案し、本調査地でも同様に遺物包含層から中 世の遺構が切り込んでいると判断した。そのため、この面を第1面とし、調査を実施した。第1面 の調査は平成21年10月13日より作業員・機材を投入し、それと並行して写真撮影・遺構実測を行 い、11月5日に終了した。第1面の調査の結果、中世の溝状遺構2条、土坑多数などを検出した。 遺物は土師器・須恵器・陶磁器などが出土した。第1面の調査終了後、第2面の調査を11月9日 より開始し、人力にて遺物包含層を少しずつ掘り下げ、包含層下の灰褐色土上面で遺構を検出した。 遺物包含層は、深い所で約60cmを測り、掘削に時間がかかったものの、12月7日に全ての作業が 終了し、調査を完了した。第2面の調査の結果、古墳時代後期の竪穴住居4軒、土坑・ピット多数 などを検出した。遺物は土師器・須恵器・鉄製品・石製品などが出土した。

2. 遺構と遺物

(1) 竪穴住居

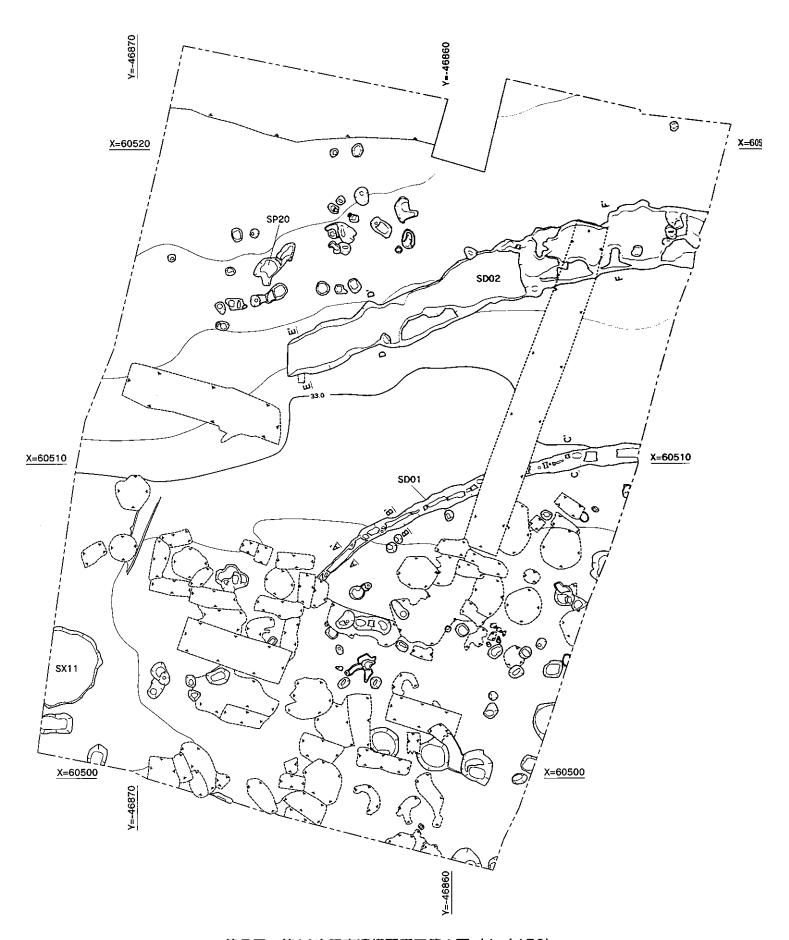
SC01 (第7図、図版2)

調査区南側西端付近に位置し、第2面で検出された。住居の西半分は調査区外で、住居全体の規模は不明であるが、北東側の一辺が長さ3.7mを測るため、約3.7m四方の隅丸方形プランを呈する住居と考えられる。住居は残りの良い場所で壁高約20cmを測り、貼床は約10cmの厚さで住居の床面全体に施される。なお、主柱穴・壁溝は確認できなかった。カマドは北東壁中央部に設置されているが、小型の重機で激しく撹乱されており、遺存状況は悪かった。そのため、袖部・燃焼部を部分的に検出したのみで、煙道・支脚などは検出されなかった。

出土遺物 (第8図、図版43)

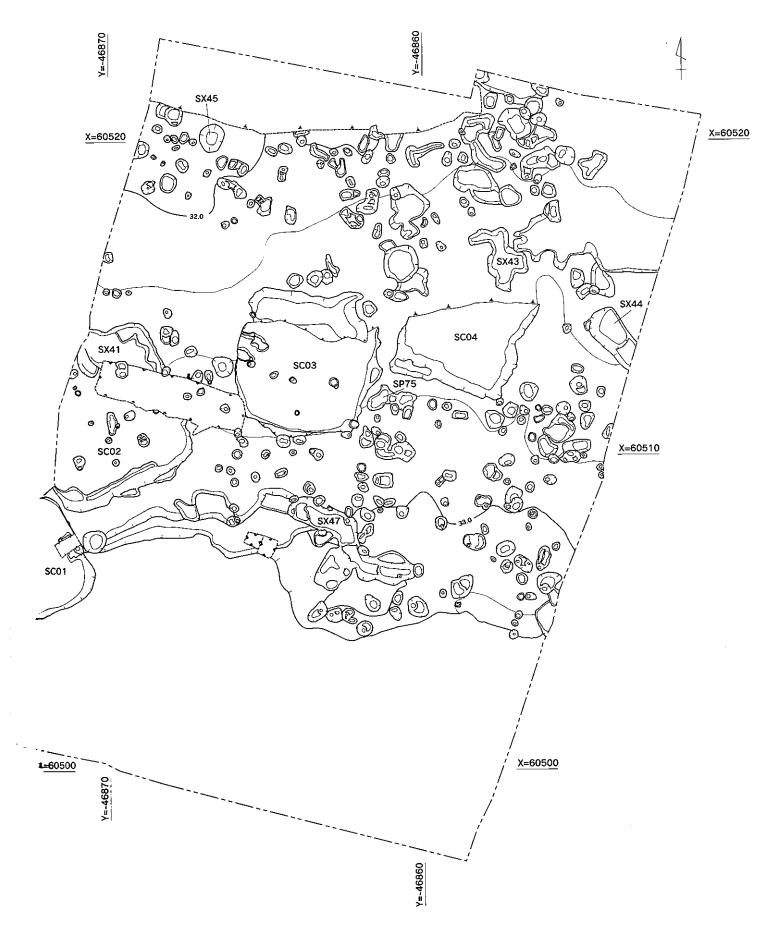
須恵器(1~3) 1 は杯H蓋である。天井部外面に回転ヘラケズリを施し、他は内外面共に回転ナデ、天井部内面に不定方向のナデを施す。天井部外面にヘラ記号を有する。 2 はカマド内から出土した杯H身である。底部外面に回転ヘラケズリを施し、他は内外面共に回転ナデを施す。 3 は高杯脚部片で、杯部を欠損している。内外面共に回転ナデで、内面にシボリ痕を残し、外面中位に2~3条の沈線を施す。脚端部は丁寧なつくりである。





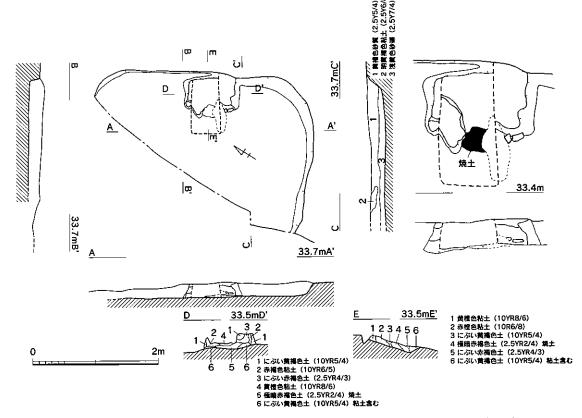
第5図 第11次調査遺構配置図第1面(1/150)



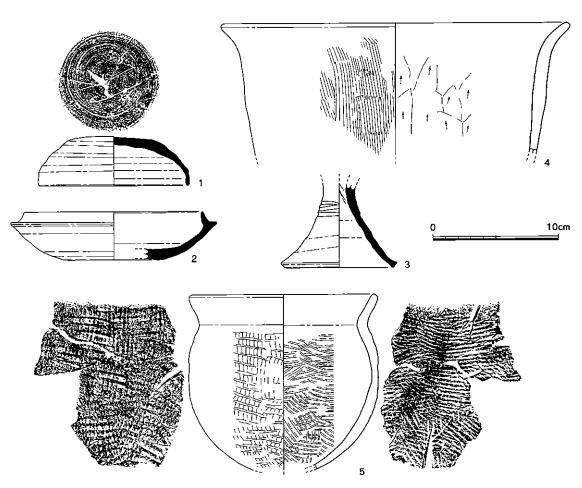


第6図 第11次調査遺構配置図第2面(1/150)

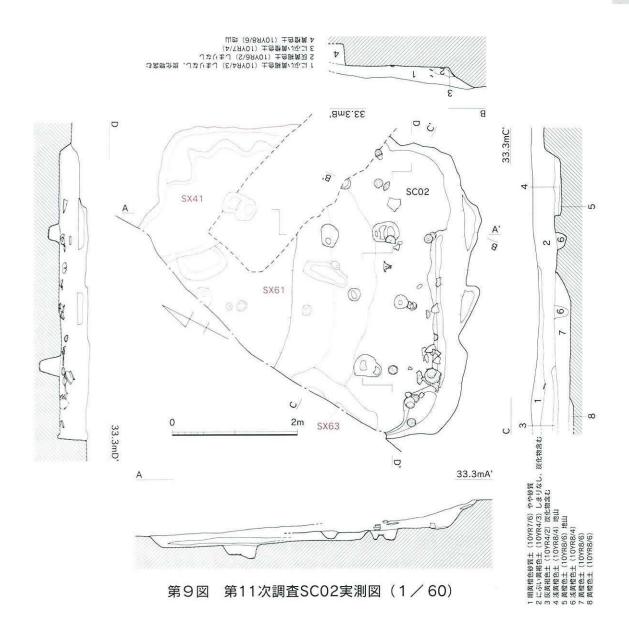




第7図 第11次調査SC01実測図 (カマド実測図は1/30、他は1/60)



第8図 第11次調査SC01出土遺物実測図(1/3)



土師器 (4・5) 4は甑口縁部である。口縁部は緩やかに外反し、端部は丸い。口縁部内外面は 回転ナデ、その他は外面に縦方向のハケメ、内面に粗いヘラケズリを施す。5はカマド内から出土 した小形の甕で、口縁部から頸部には回転ナデ、体部外面に擬格子タタキ、内面に当て具痕を明瞭 に残す。口縁端部は丸く仕上げ、胴部は球形を呈し、底部は欠損している。

SC02 (第9図、図版3)

調査区中央西端に位置し、第2面で検出された。住居西側が調査区外で未掘であること、北西下がりの緩斜面に立地していることから、北辺が消失しており、全体の規模は不明である。ただ、遺存状況の良い南辺の長さが約4.6mであることから、住居の規模は一辺が約4.6mの方形プランを呈すると考えられる。壁面は残りの良い場所で約50cmを測り、南辺では緩やかな立ち上がりだが、西辺では急勾配の立ち上がりとなる。壁溝は南辺に幅約60cm、深さ約5cmで設けられているが、途中で途切れている。主柱穴は2本検出され、径40~50cmの楕円形を呈し、床面からの深さ約10~40cmを測る。住居の北半分が消失しているため主柱穴が2本しか検出されなかったが、2本の柱の位置から本来は4本の主柱穴が存在していたと推測される。カマドは住居北側にわずかに



検出されたが、上面が削平されていること、カマドの大半が調査区外になることから、カマドの構築材である粘土と燃焼部の範囲をかろうじて確認できただけで詳細は不明である。なお、床面に貼床は確認できなかった。また、SCO2の下層には、黒褐色土を埋土とするSX61、63が検出された。

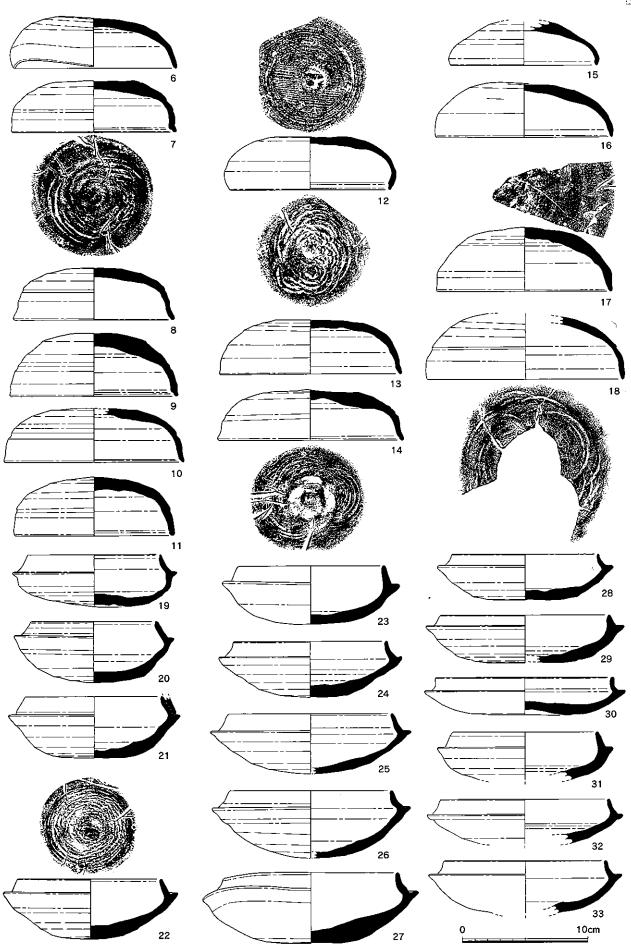
遺物の出土状況は、多くが住居の南西角付近を中心に、床面もしくは床面直上で出土し、高台付鉢(50)は逆位の状態で床面から若干浮いた状態で出土した。

出土遺物(第10~12図、図版43~47)

須恵器(6~ 39) 6~ 18は杯H蓋で、いずれも天井部外面に回転ヘラケズリ、その他内外面共 に回転ナデの調整である。7・12・14・18には天井部内面に同心円当て具痕を残す。12の天井部 外面には回転ヘラケズリを施した後、木目状の圧痕と思われる跡が残る。17の天井部外面にはへ ラ記号が施される。7~11・14・18は、外面の天井部と体部の境に段または沈線を有する。7 ~ 12·14は、口縁部内面端部に段を有する。口径は12.0 ~ 15.85cmとばらつきがあるが、 14cmを超えるものが約半数を占める。19 ~ 33は杯H身で、調整不明のもの以外は、いずれも底 部外面に回転ヘラケズリ、その他内外面共に回転ナデの調整である。21の口縁部には別個体が付 着し、焼成時に杯蓋を杯身に被せていたことがわかる。22の底部内面にはシッタ痕が残る。19・ 20は口縁部内面端部に段を有する。いずれも口縁部の立ち上がりは内傾し、ほとんどが1cm以上 でやや高い。最大径は12.75 ~ 17.2cmでばらつきがあるが、13.5cm前後のものと15.5cm前後 のものが多くみられる。34は無蓋高杯の杯部片である。杯部はやや浅めで、口縁端部内面に段を 有する。底部外面はカキメ、底部内面は不定方向のナデ、その他は回転ナデを施す。35は高杯脚 部片である。短くラッパ状に開き、脚端部を下方につまみ出す。脚部内外面共に回転ナデ、杯底部 内面は不定方向のナデを施す。36は高杯脚部片である。裾部は焼け歪みが激しいが、ラッパ状に 開くと思われる。中位に2条の沈線を廻らせ、方形2段透かしが3方向に穿たれる。37は腺の胴 部片である。外面肩部に2条、体部に1条の沈線を廻らせ、その間に箆状工具の小口部を押し当て たと思われる連続刺突文を施し、円孔を1つ穿つ。底部は丸底、体部は球形を呈し、胴部と頸部の 接合部の径が比較的大きい。底部外面は回転ヘラケズリ、その他は内外面共に回転ナデを施す。 38は短頸壺の体部で、肩部にカキメと2条の沈線を廻らせる。底部は回転ヘラケズリ、その他は 内外面共に回転ナデを施す。39は甕の頸部~底部片である。外面には平行タタキ後カキメ、内面 には同心円当て具痕が施される。肩部外面に降灰、底部外面に窯体の釉着が認められる。底部はや や焼け歪む。

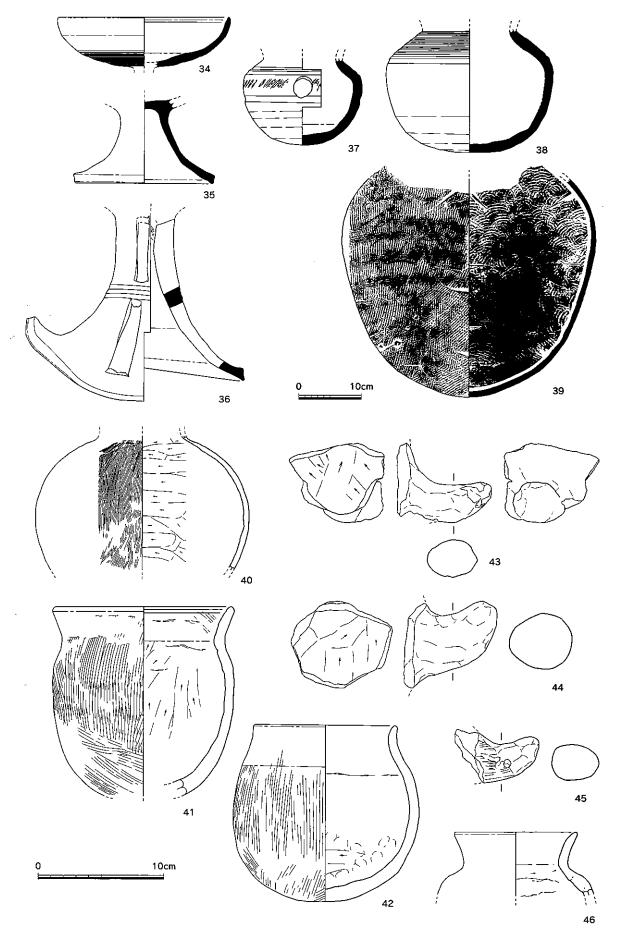
土師器 (40~50) 40は甕の頸部~胴部片で、内面に横方向のヘラケズリ、外面に縦方向のハケメを施す。41は小形の甕で、底部を欠く。口縁部付近の内外面は回転ナデ、内面は縦方向のヘラケズリ、ハケメ、接合痕を残す。外面は底部に不定方向のハケメ、胴部に雑な縦方向のハケメを施す。口縁部は若干外反し、口縁端部は丸く仕上げる。42は小形の甕の完形品である。底部は丸底で頸部の絞まりが小さく、口縁部は直線的で口縁端部は丸い。口縁部は内外面共にヨコナデを施し、外面は胴部までが縦方向のハケメ、底部付近は不定方向のハケメを施す。内面はヘラケズリの後、ヨコナデを施し、底部付近は不定方向のナデと指頭圧痕を残す。頸部付近に接合痕を残す。また、内面底部から約3cm付近~頸部まで黒色の付着物が確認でき、内容物の痕跡と思われる。43~





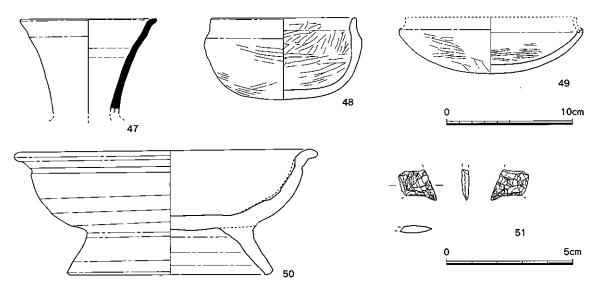
第10図 第11次調査SC02出土遺物実測図(1)(1/3)





第11図 第11次調査SC02出土遺物実測図(2)(39は1/6、他は1/3)





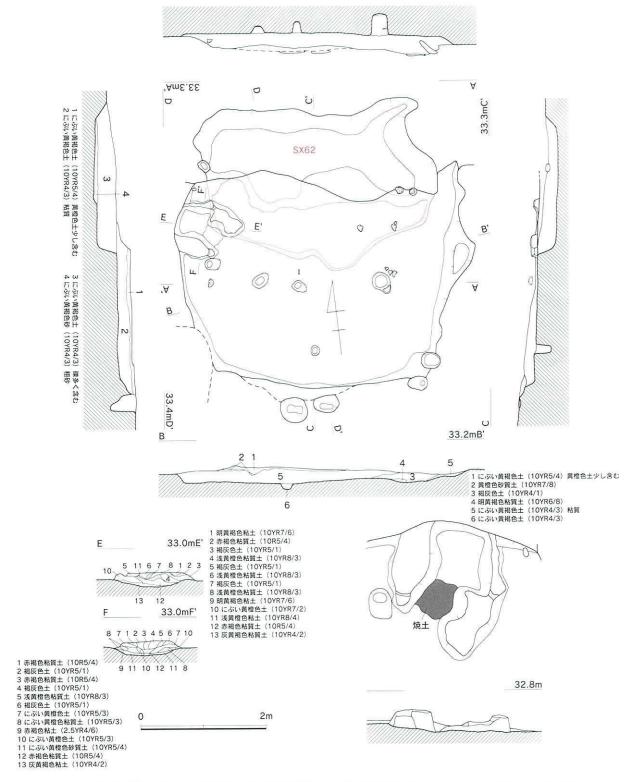
第12図 第11次調査SCO2出土遺物実測図(3)(51は2/3、他は1/3)

45は甑の把手片で、43・44はナデ、指オサエによって成形し、把手端部は斜め上方にわずかに立ち上がる。45は、ナデ、指オサエ、ハケによって成形し、把手端部は斜め上方に立ち上がる。挿し込みにより体部と接合していたと思われ、破断面は擬口縁状を呈する。46は壺の口縁部片で、口縁部はわずかに外傾し、直立気味である。口縁部は内外面共にヨコナデ、内面体部はヘラケズリを施し、接合痕が残る。47は膣の頸部~口縁部片である。土師質に焼成されているが、胎土・製作技法からみて須恵器であろう。口縁部は屈曲し外傾しながら開く。内外面共に摩滅が著しく調整は不明である。48は杯で、凸レンズ状の底部から内湾しながら立ち上がる。肩部が張った器形で、肩部に稜がつく。口縁部は直線的に立ち上がり、口縁端部でわずかに外反する。口縁部内外面は回転ナデ、内面はハケメ後ミガキ、外面はタタキ後ナデを施す。49は模倣杯身で、口縁部は欠損している。受け部の突出がほとんどなく、器高はやや浅い。内外面共に黒塗りの痕跡をわずかに残す。外面底部にはヘラケズリ、外面体部・内面底部にはミガキ、内外面共に受け部付近は回転ナデを施す。50は高台付鉢である。高台はかなり高く、外側に直線的に開く。鉢は内湾しながら立ち上がり、口縁下に1条の沈線を廻らせる。口縁部はやや水平に外反し端部は丸く収める。高台部内外面は回転ナデ、鉢部外面は中位で回転へラケズリ、他は回転ナデを施す。鉢部内面は口縁下から全面、著しく器面が剥離しており、調整は不明である。

石器(51) 黒曜石製の石鏃で、先端部および一方の脚部を欠損する。

SC03 (第13図、図版4)

調査区中央に位置し、第2面で検出された。住居は北西下がりの緩斜面に立地していることから、 北辺が消失しており、全体の規模は不明である。住居の規模は、南辺3.6m、東辺と西辺は現状で 3.4m、3.5mを測る。ただ、西辺に構築されるカマドが南東角から2.2mに位置することから、カ マドを住居の西辺中央に設置したと仮定すると、西辺・東辺は4.4m程度の長さに復元できる可能 性があり、住居の平面形は南北にわずかに長い、長方形のプランも想定される。壁高は残りの良い 所で約15cmを測る。主柱穴は住居の北半分が消失しているためか、2基しか検出されなかった。



第13図 第11次調査SCO3実測図(カマド実測図は1/30、他は1/60)

いずれも径20~40cmの平面楕円形のプランを呈する。なお、貼床・壁溝は検出されなかった。 カマドは住居西壁に設けられるが遺存状況は悪い。右袖約60cm、左袖約1mの長さを測り、左袖 が長い。支脚・煙道は確認できず、住居廃絶の際にカマドの破壊を行った可能性も考えられる。

出土遺物 (第14·15図、図版47·48)

須恵器 (52~70) 52は蓋である。端部を外側につまみだし、外面に降灰している。小片のため



詳細は不明だが、降灰の状況から、壺などの蓋を想定した。53は高杯蓋で、天井部に中央を窪ま せたつまみをつける。天井部外面は回転ヘラケズリ、つまみ部はナデ、その他は内外面共に回転ナ デ調整である。54 ~ 58は杯H蓋で、いずれも天井部外面に回転ヘラケズリ、その他は内外面共 に回転ナデの調整である。54・58は外面の天井部と体部の境に段を持つ。55 ~ 58は天井部外面 にヘラ記号を刻む。口径は11.95 ~ 13.4cmを測るが、13cm前後のものが多い。59 ~ 65は杯H 身で、いずれも底部外面に回転ヘラケズリ、その他は内外面共に回転ナデの調整である。60は中 位に1~2本の沈線を施し、63は底部中央に焼成後、内面から打撃を加えたような穿孔の痕跡が 残る。60・64・65は底部にヘラ記号を刻む。いずれも口縁部の立ち上がりは内傾し、1 cmに満 たない。最大径は、11.4 ~ 14.0cmを測る。66は椀である。底部は凸レンズ気味の平底で、やや 外反しながら立ち上がる。底部外面は回転ヘラケズリ、外面中位に2条の沈線を廻らせ、その上下 にはカキメを施す。内面は底部に不定方向のナデ、その他は回転ナデを施す。底部外面にはヘラ記 号が刻まれる。67は小形の椀である。底部は若干丸く、体部はやや直線的に立ち上がる。底部外 面を回転ヘラケズリ、その他に回転ナデを施し、底部外面にはヘラ記号が刻まれる。68は無蓋高 杯の杯部片である。底部外面に回転ヘラケズリ後ナデ、底部内面に不定方向のナデ、その他に回転 ナデを施す。69は小形短頸壺である。底部は平底で、体部はやや扁平になる。外面底部は回転へ ラケズリ、その他は回転ナデを施す。70は飉の胴部である。肩部外面に1条、体部に1条の沈線 を廻らせ、その間に箆状工具の小口部を押し当てたと思われる連続刺突文を施す。底部は凸レンズ 状で、体部は扁平な球形を呈する。底部外面は回転ヘラケズリ、肩部外面にカキメ、その他は内外 面共に回転ナデを施す。底部外面にはヘラ記号が刻まれる。

土師器 (71~78) 71は甑の口縁部片である。口唇部はヨコナデ、外面はタタキ後ハケメ、内面はハケメを施す。72は甕の口縁部片である。やや直線的な体部から、頸部で明瞭な段がつき、口縁部は外反しながら立ち上がり、口唇部には1条の沈線が廻る。口縁部内外面は回転ナデ、体部外面は格子目タタキ、体部内面はハケメを施す。73は甑の底部片である。外面にハケメを施し、内面は摩滅しており調整不明。径5mmの孔を穿つ。74は甑の底部片である。外面に平行タタキ、内面は摩滅しており調整不明。75は甑の底部片である。桟が内面にわずかながら残る。外面に平行タタキ後ョコナデの痕跡がわずかに残る。76~78は甑の把手片で、ナデ、指オサエによって成形する。把手端部は斜め上方にわずかに立ち上がる。78は挿し込みにより体部と接合していたと思われ、破断面は擬口縁状を呈する。

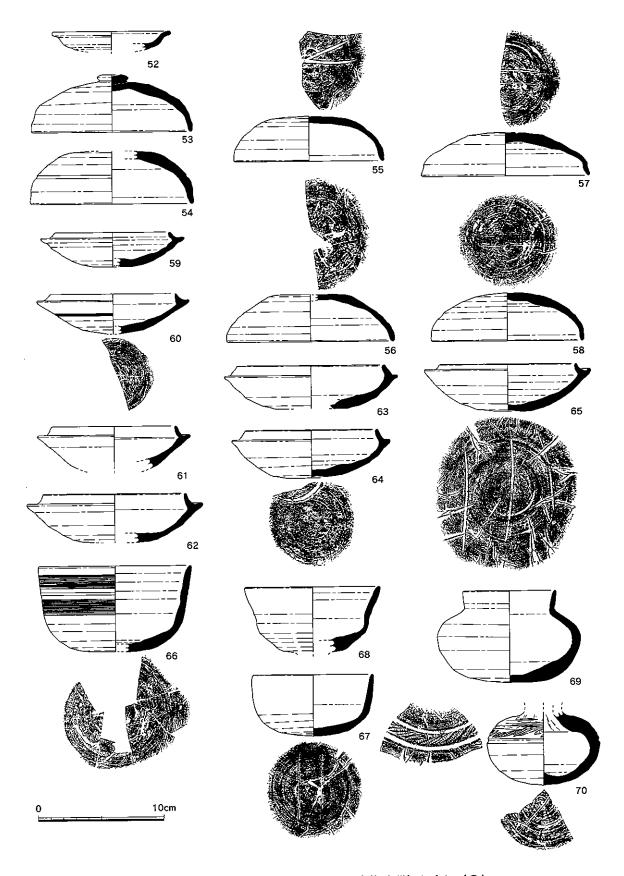
鉄器(79・80) 79は鉄釘である。断面方形と思われ、頭部を鉤状に短く折り曲げる。木質などは遺存しない。80は刀子である。背は一直線で、刃部は先端部にむかって幅が狭まる。茎部で80° ほど折れ曲がるが、人為的なものか土圧などによるものか判断がつかない。

石製品 (81・82) 81は滑石製紡錘車である。断面台形で中央に径8mmの孔を穿つ。82は滑石製勾玉である。三日月形を呈し、断面は扁平である。頭側に径3mmの孔を穿つ。

SC04 (第16図、図版4)

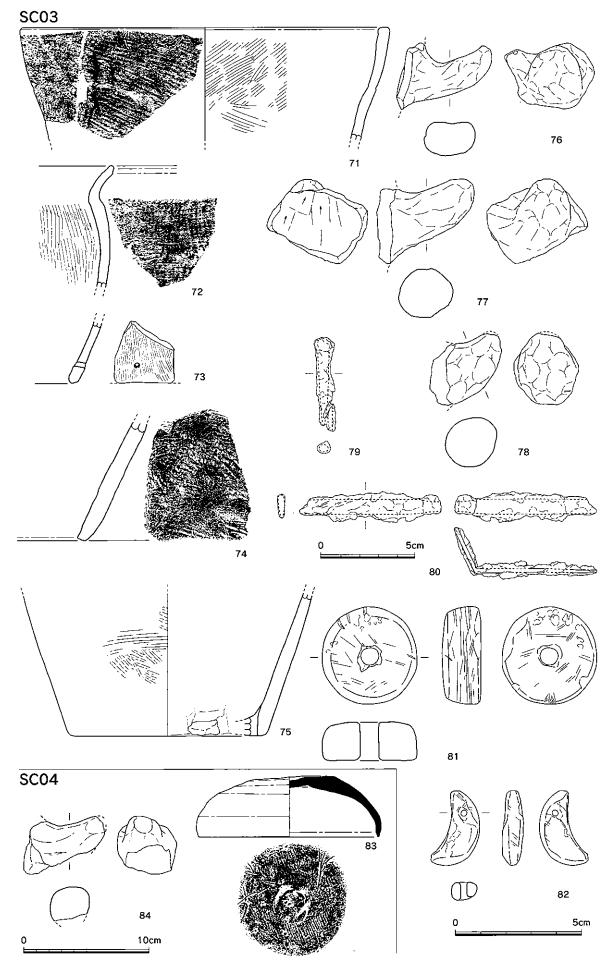
調査区中央に位置し、第2面で検出された。住居は北西下がりの緩斜面に立地していることから、 北辺が消失しており、全体の規模は不明である。住居の規模は、南辺が3.8m、東辺と西辺が現状





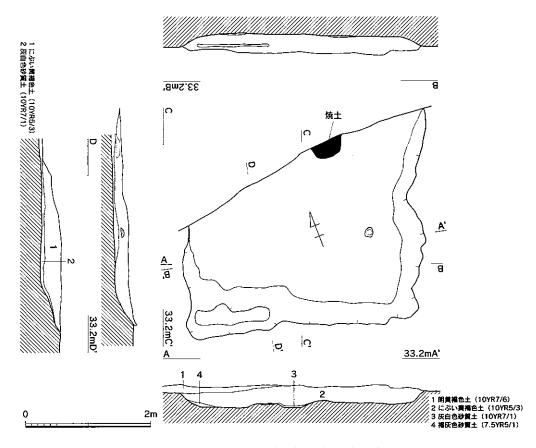
第14図 第11次調査SCO3出土遺物実測図(1/3)





第15図 第11次調査SC03·04出土遺物実測図(79·80は1/2、81·82は2/3、他は1/3)





第16図 第11次調査SC04実測図(1/60)

で3.2m、1.8mの長さを測る。住居北側にある、カマドの火床と考えられる焼土の位置から、住居の平面形は隅丸方形のプランが想定される。床面には、地山が礫石をかなり含む粗砂であることから、5 cm程度の貼床を施す。壁面は残りの良い所で約30cmを測る。壁面はいずれも緩やかな立ち上がりである。なお、主柱穴、壁溝は確認できなかった。

出土遺物 (第15図、図版49)

須恵器(83) 杯H蓋である。焼け歪みが目立ち、外面に降灰、別個体の釉着が確認できる。天井 部外面は回転ヘラケズリ、天井部内面は不定方向のナデ、その他は内外面共に回転ナデを施す。天 井部内面にはシッタ痕が残る。

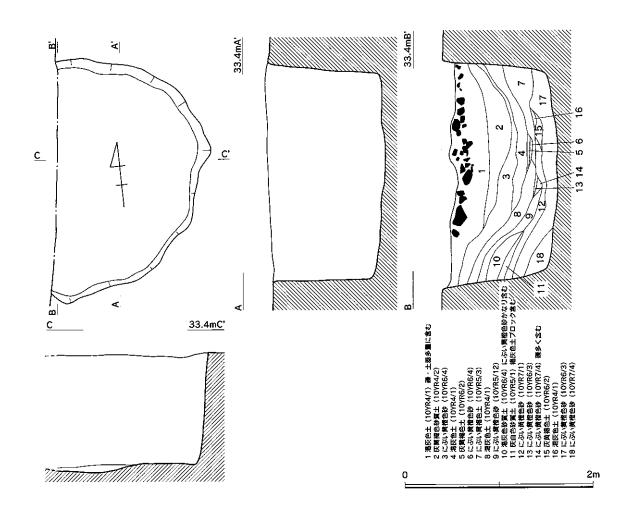
土師器(84) 甑の把手片で、ナデ、指オサエによって成形する。把手端部は斜め上方に立ち上がる。

(2) 土坑 (第17·18図、図版5)

当調査地では、遺物を包含する土坑が63基が検出された。

SX11 (第17図、図版5)

調査区南西隅付近に位置し、第1面で検出された。土坑は西側の半分が調査区外のため完掘できていないが、平面プランは直径約2.6mの円形を呈すると思われる。深さは約1.2mを測り、立ち上がりは急勾配で断面四角形を呈する。底面は平坦で、直径約2.1mの円形を呈すると思われる。土



第17図 第11次調査SX11実測図(1/40)

層観察の結果、埋土は自然堆積した状況を示しており、最上層で中世の遺物と礫石が出土し、最下層からは古墳時代後期の遺物が出土している。掘削年代は判然としないが、自然堆積で土坑がある程度埋まった後、地表面から一段窪んだ状態となり、中世段階で礫石などを廃棄したと考えられる。出土遺物 (第19図、図版49)

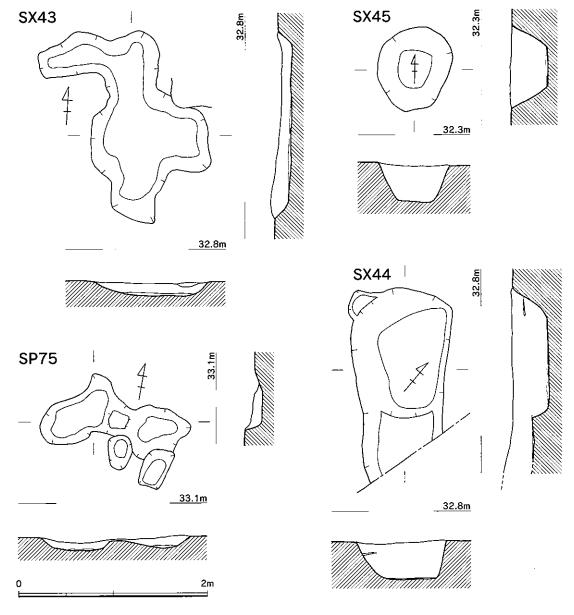
須恵器 (85) 杯 H 身である。底部外面に回転ヘラケズリ、その他に回転ナデを施す。最下層で出土した。

白磁 (86) 白磁皿の底部片である。底部外面はやや上げ底気味で、内面見込み中央部は円形に凹む。体部下位で屈曲し、体部下半から底部には施釉しない。第1層で出土した。

青磁(87·88) 87は龍泉窯系青磁杯Ⅲ-1aの口縁部片である。釉の発色は軽くかすんだ緑色で、厚く施される。胎土は精良、乳白色で、器肉は薄い。体部は内湾しながら立ち上がり、口縁部で短く外反する。88は龍泉窯系青磁椀Ⅱ-a類の体部片である。釉の発色は灰オリーブ色で全体に細かい貫入が入る。胎土は精良で、灰白色である。体部外面に鎬のない連弁文を有する。いずれも第1層で出土した。

鉄器 (89) 棒状の鉄器である。用途は不明。最下層で出土した。





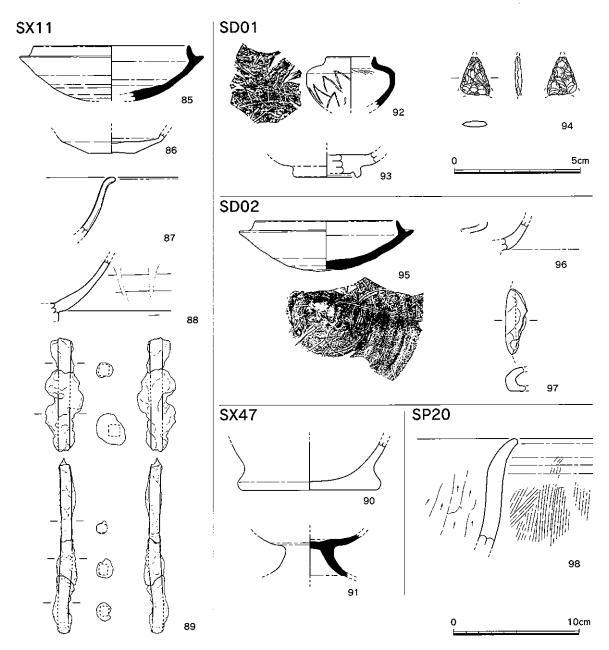
第18図 第11次調査SX43~45·SP75実測図(1/40)

SX41 (第9図)

SC02の北側に位置し、第1面で検出された。平面プランは南側を試掘トレンチで掘削されるため、詳細は不明だが、現状で不整楕円形を呈すると考えられる。埋土は灰褐色土で、小礫を多く含む。現存長約2.0m、幅約1.6m、深さ約20cmを測る。図上では、SC02東辺とつながるように見えるが、床面の標高が異なること、埋土が異なることから、SC02と別の遺構と判断した。遺物は土師器が出土したが、図化できるものはなかった。

SX43 (第18図)

調査区北東、SC04の北側に位置し、第2面で検出された。平面プランはいびつな形状を呈し、 長さ約2.0m、輻約1.2m、深さ約15cmを測る。調査区北側ではこのような土坑が多く検出されたが、 窪地に埋土が堆積しただけで遺構ではない可能性も考えられる。遺物は須恵器、土師器が出土した が、図化できるものはなかった。



第19回 第11次調査SX·SD·SP出土遺物実測図(94は2/3、他は1/3)

SX44 (第18図)

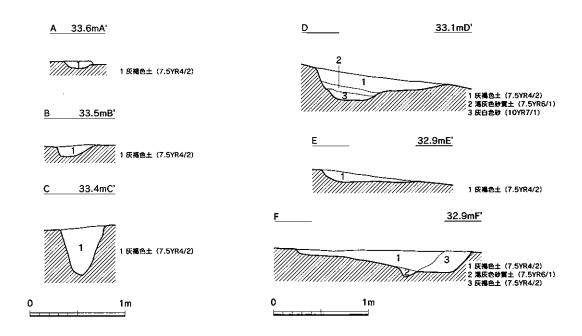
調査区北東、SC04の東側に位置し、第2面で検出された。遺構の南東側は調査区外に続いており、 完掘していない。平面は隅丸長方形プランを呈し、南西側にテラスを有する。底面は平坦で楕円形 を呈する。現存長約2.0m、幅約1.0m、深さ約0.4mを測る。遺物は土師器が出土したが、図化で きるものはなかった。

SX45 (第18図)

調査区北西隅付近に位置し、第2面で検出された。平面プランは直径約0.8mの円形を呈し、深 さ約0.4mを測る。底面は平坦で円形を呈する。遺物は須恵器、土師器が出土したが、図化できる ものはなかった。

SX47 (第6図)





第20図 第11次調査SD01·02土層実測図(1/40)

調査区中央南側に位置し、第2面で検出された。平面プランは、凸字形の不定形で、長さ約4.6m、幅約1m、深さ45~50cmを測る。自然の窪地であった可能性がある。

出**土遺物** (第19図)

弥生土器 (90) 弥生土器底部である。接地面を台形状に張り出した平底の底部で、底部中央付近はやや薄くつくられる。

須恵器 (91) 高杯脚部片で、杯部、脚端部を欠損する。脚部が短い。

SX61 (第9図)

SC02床面下から検出された。SX41、63に前出する。試掘トレンチで遺構中央部分が消失し、 西側が調査区外であるため、全体の平面プランは不明である。現存する南辺は3.2mを測る。底面 は南側から北側にかけて緩やかな傾斜がつき、検出面からの深さは南側で約10cm、北側で約 20cmを測る。壁高は南辺ではかなり緩やかな立ち上がりになる。埋土は黒褐色土で、遺物は土師 器が出土したが、図化できるものはなかった。

SX62 (第13図)

SC03下層の土坑である。土坑の規模は長さ3.7m、幅2.4mで、遺物は須恵器、土師器が出土したが、図化できるものはなかった。

SX63 (第9図)

SC02床面下で検出された。遺構の半分が調査区外であるが、現状で楕円長方形の平面プランを 呈する。規模は南北方向に長さ約1.5m、検出面からの深さは約20cmを測る。遺物は出土しなかった。

(3) 溝状遺構

SD01 (第5·20図、図版1)

調査区中央南側に位置し、南西から北東に走り、湾曲しながら調査区外にのびる。第1面から検



出された。等高線に沿うように走るが、遺構の深さが南端にむかって浅くなるため、南端で遺構が消失してしまう。幅約30~60cm、検出面からの深さは約10~40cmを測り、底面は凹凸がみられる。底面の標高は南端で33.25m、北東端で32.55mを測り、北東にむかって低くなる。なお、土層の精査の結果、流滞水の状況は見られなかった。

出土遺物 (第19図、図版49)

須恵器 (92) 短頸壺の小形品である。底部から胴部にかけて鋸歯状のヘラ記号を斜めに連続して刻む。

青磁 (93) 龍泉窯系青磁械 I 類の底部片である。高台部内以外を全面施釉後、高台畳付部分の釉薬を一部削る。釉の発色は灰オリーブ色で、全体に細かな貫入が入る。胎土は精良で、灰白色、露胎部は灰色である。

石器 (94) 黒曜石製の石鏃である。脚端部と先端部を欠損している。

SD02 (第5·20図、図版1)

調査区中央北側に位置し、南西から北東に走り、湾曲しながら調査区外にのびる。第1面から検出された。SD01に沿うように走る。遺構の深さが南端にむかって浅くなるため、南端で遺構が消失してしまう。幅約1.6m、検出面からの深さは約20cmを測り、底面は凹凸がみられる。底面の標高は南端で33.6m、北東端で32.3mを測り、北東にむかって低くなる。なお、土層精査の結果、流滞水の状況は見られなかった。

出土遺物 (第19図、図版49)

須恵器 (95) 杯H身である。底部外面に回転ヘラケズリ後不定方向のナデ、底部内面に不定方向のナデ、その他は内外面共に回転ナデを施す。底部外面にヘラ記号を刻む。

青磁 (96) 龍泉窯系青磁椀 I 類の底部小片である。内面にわずかに文様が認められる。釉の発色はオリーブ黄色で、胎土は精良、灰白色を呈する。

土製品 (97) 土錘か。およそ半分を欠損しているが、穿孔され、中空であったことがわかる。断 面楕円形を呈し、穿孔は円形と思われる。

(4) ピット・その他の出土遺物

ピット (第5・18・19図、図版1・2)

SP20 (第5図)

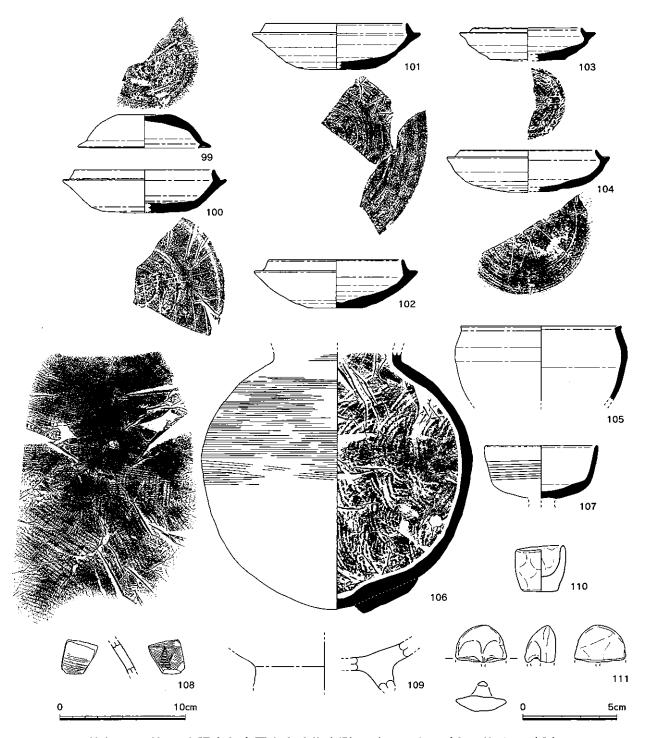
調査区北西に位置し、第1面で検出された。平面プランは不整楕円形を呈し、長さ約1.5m、幅約40~60cm、深さ約30cmを測る。

出土遺物 (第19図)

土師器 (98) 甑あるいは甕の口縁部である。内外面の口縁部周辺はヨコナデ、外面はハケメ、内面は縦方向のヘラケズリを施す。

SP75 (第18図)

SC03とSC04の間に位置し、第2面で検出された。平面プランは不整楕円形を呈する。長さ約 1.5m、幅約40 $\sim 80cm$ 、深さ約20cmを測る。遺構の中心に平坦なテラスがあり、2つのピット

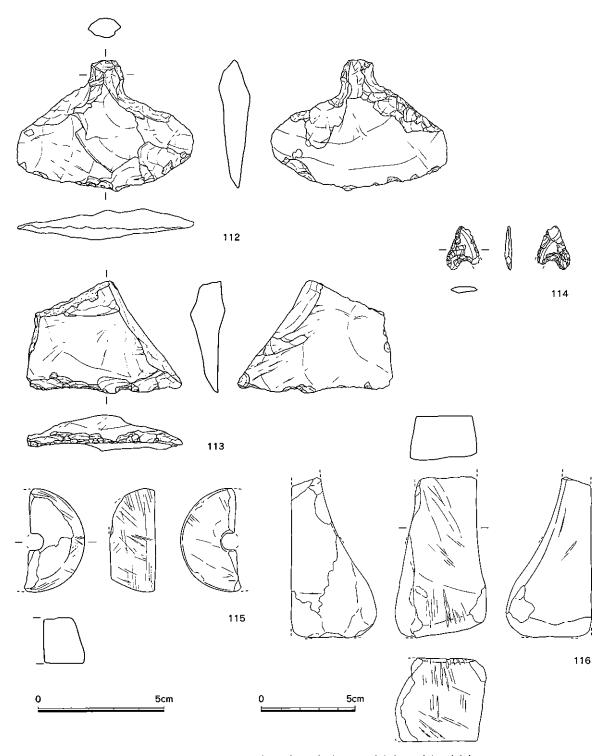


第21図 第11次調査包含層出土遺物実測図(111は1/2、他は1/3)

を同時に掘削した可能性もあるため、ピットとして報告する。出土遺物は土師器が出土したが、図 化できるものはなかった。

包含層出土遺物 (第21・22図、図版49 ~ 51)

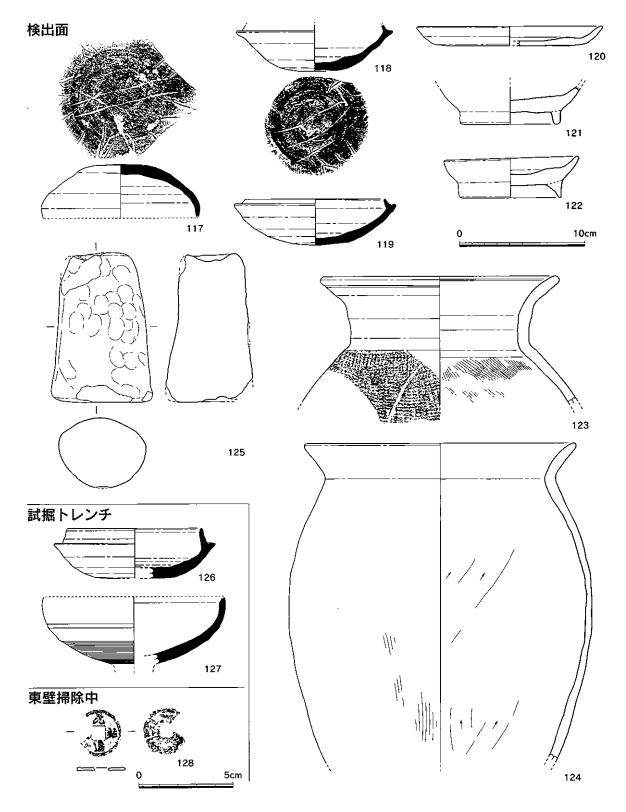
須恵器 (99~107) 99は杯G蓋である。天井部外面は手持ちヘラケズリ、天井部内面は不定方向のナデ、その他は内外面共に回転ナデを施す。天井部外面にヘラ記号を刻む。100~104は杯 H身である。いずれも底部外面に回転ヘラケズリ、底部内面に不定方向のナデ、その他は内外面共に回転ナデを施す。100・101・103・104は底部外面にヘラ記号を刻む。102は底部外面に別個



第22図 第11次調査包含層出土石器実測図(2/3)

体が釉着し、焼け歪みが著しい。105は鉢口縁部である。口縁端部はシャープなつくりで、平坦面を有し、わずかに外反する。106は小形の甕で、口縁部を欠く。胴部外面下方は擬格子目タタキ、胴部上方はカキメ、内面は同心円当て具痕が施される。全体的に降灰が認められ、底部付近に2ヶ所、胴部に1ヶ所、別個体が釉着している。107は高杯杯部である。土師質に焼成されているが、胎土・製作技法からみて須恵器であろう。体部中位に4条の沈線が廻り、内外面とも摩滅のため調整不明である。





第23図 第11次調査検出面ほか出土遺物実測図(128は1/2、他は1/3)

土師器(108·109) 108は壺の肩部片か。外面にヨコハケを施した後、三角形文の線刻を有する。 内面はカキメか。109は高台付鉢の脚部小片で、SC02出土の高台付鉢(50)とほぼ同じ器形になると思われる。

土製品(110·111) 110はミニチュア土器である。手捏ね成形で、粗雑なつくりである。111

は土製模造鏡である。楕円形と想定され、下半を欠損する。

石製品 (112~116) 112は安山岩製の石匙である。一方を刃部、もう一方に抉りを入れてつまみ状に調整する。刃部・周縁調整とも全体的に粗雑な印象を受ける。113は安山岩製の二次加工剥片である。114は黒曜石製の石鏃である。脚端部の一部を欠損する。115は滑石製の紡錘車である。ほぼ半分を欠損し、断面台形を呈する。116は砥石である。砂岩製で、使用面は4面確認できる。よく使い込まれており、側面観は鞍状になる。

遺構検出時出土遺物 (第23図、図版51)

須恵器 (117~119) 117は杯H蓋で、天井部外面に回転へラケズリ後不定方向のナデ、天井部内面に不定方向のナデ、その他は内外面共に回転ナデを施す。天井部外面にへラ記号を刻む。118は杯H身で、底部外面に回転へラケズリ後不定方向のナデ、底部内面に不定方向のナデ、その他は内外面共に回転ナデを施す。底部外面にへラ記号を刻む。117・118はいずれも第1面で出土した。119は第2面で出土した杯H身で、底部外面に回転へラケズリ、底部内面に不定方向のナデ、その他は内外面共に回転ナデを施す。

土師器 (120~124) 120は皿である。摩滅が著しく、調整は不明だが、底部に板状圧痕が残る。 121は高台付椀である。高台は高く、底部端につく。外面は回転ナデ、内面は不定方向のナデを施す。122は高台付皿である。高台は高く、底部端につく。内外面共に回転ナデを施す。120~122は第1面で出土した。123は甕の口縁部片である。口縁部~頸部にかけて内外面共にヨコナデ、肩部内面はハケメ、肩部外面は格子目タタキを施す。124は甕である。口縁部内外面はヨコナデ、その他外面はハケメ、内面はヘラケズリを施す。123・124は第2面で出土した。

土製品 (125) 第1面で出土した不明土製品である。形状は円柱状で、上にむかって細くなる。 上面には窪みがあり、下面は平坦である。器面はナデ、指オサエで調整する。カマド支脚の可能性 も考えられるが、二次焼成は受けていない。

試掘トレンチ内出土遺物 (第23図、図版51)

須恵器 (126·127) 126は杯H身で、口縁部の立ち上がりが高い。底部外面に回転ヘラケズリ、 底部内面に不定方向ナデ、その他は内外面共に回転ナデを施す。127は無蓋高杯の杯部である。口 縁端部内面、外面の底部と体部の境に段を持ち、底部外面にカキメ、降灰が認められる。

調査区東壁掃除中(第23図)

銭 (128) 北宋1086年初鋳「元祏通寶」行書の銅銭で、一部を欠損している。SD02付近の壁を 掃除中に出土したが、SD02の埋土内なのかどうかは確認できなかった。

3. 小結

第11次調査では、縄文時代~鎌倉時代の遺物が出土し、第2面で検出された古墳時代後期の竪 穴住居と、第1面で検出された平安時代~鎌倉時代の遺構を主体としている。以下、主要な遺構・ 遺物について時期ごとに述べる。



縄文~弥生時代

この時期の遺構は検出されなかったが、石鏃(51·94·114)、石匙(112)、二次加工剥片(113)、 弥生土器底部(90)などの遺物が主に包含層から出土している。

古墳時代

遺構は、第2面で検出されたSC01~04がある。SC01はNA期、SC02はⅢB期~NA期、SC03はNA期、SC04はⅢB期の須恵器が出土している。住居廃絶の時期差はあるようだが、おおよそ6世紀後半~7世紀初頭までの時期に、当地の緩斜面上に集落が営まれていたと考えられる。また、西に隣接する第8次調査、第5次調査でも同時期の住居が多数検出されている。

平安時代~鎌倉時代

遺構は、第1面で検出されたSX11、SD01、SD02がある。SX11は掘削時期はわからないものの、 龍泉窯系青磁椀皿類などが上層で出土しており、14世紀初頭までには埋没したと考えられる。 SD01·02は、並行して東西に走る溝状遺構である。標高の高い西側はいずれも削平されているが、 当地の西に隣接する第8次調査地点で確認された同時期の区画溝と繋がる可能性もある。いずれも 龍泉窯系青磁椀 I 類が出土しており、12世紀中頃~後半までには埋没したと考えられる。

薬師の森遺跡第13次調査



IV. 薬師の森遺跡第13次調査

1. 調査概要

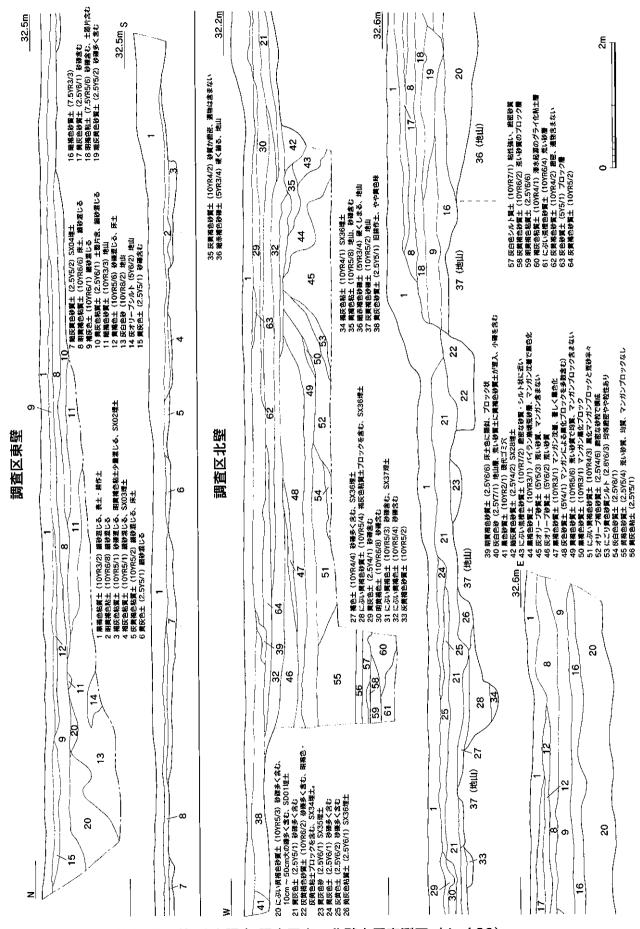
調査地は区画整理事業地の西端付近、大野城市乙金3丁目350-1·3·4 (小字:猪ノ坂) に所在する。調査面積は約960㎡を測る。巨視的には、四王寺山から西側に向かって舌状に張り出す丘陵尾根部付近に位置するが、詳細に見た場合、当該丘陵部を開析する小規模な谷部にあたる。現地表面の標高は、最も高い南東角付近で33.7m前後、最も低い北西角付近で32.8m前後、南側に隣接し丘陵頂部に位置する第12次調査地との比高差は約2.5mを測る。調査直前まで水田として利用されており、南北に細長い3筆の水田で区画されていた。1961年撮影の航空写真を基にした旧地形図においても同様の土地利用であったことが知られる。

平成20年7月に実施した試掘調査(第23次試掘調査)では、対象地の東側は概ね耕作土直下が 地山になることを確認していたが、西側の一部については土層の堆積が著しく地山の深さを確認す ることができなかった。従って西側部分については谷状に深く落ち窪んでいる可能性が高いといえ た。このため想定できる遺構面が調査地の東側においては1面であるのに対し、西側では二面ない しはそれ以上の遺構面を確認できるのかどうかが、今回の調査の大きな課題となった。

調査はまず東側半分から着手した。重機による表土層の機械掘削は1月12日から開始し、作業員による人力掘削を1月18日から開始、遺構測量・写真撮影の作業を経て2月2日に終了した。ついで西半部分の反転調査は2月3日から表土および上層土の機械掘削に着手、2月8日から作業員を遺構検出と掘削に投入し、遺構測量・写真撮影の作業を経て2月24日に終了した。さらに翌2月25日に重機を使用して調査地の北壁に沿って部分的にサブトレンチを掘削し、下層確認をおこなったが、現状でさらなる遺構面の存在は確認できなかった。直ちにこの部分の土層図を追加作成するとともに、排出土の埋め戻しをおこない、2月26日をもって全ての調査を終了した。

つぎに調査の結果であるが、まず調査地の西半部において、西側に向かって「U」に開析する谷 状の大きな落ち込み(SX01)を検出した。谷部分の最も低い地点での標高は30m前後、肩部の高 い部分で31.5m前後、比高差約1.5mを測る。谷の埋没土からは中世の遺物が散発的に出土してお り、中世以降にこの谷の埋没が進んだことが予想される。ただしこの谷の基底部はさらにかなり深 くなるようで、調査終了間際に機械で部分的に谷の底面を掘り下げたところ、1.5m近く掘り下げ ても基盤層に到達することができなかった。一方この谷状落ち込みの東肩部から北肩部にかけての 約10m四方の狭い範囲内で、掘立柱建物4棟、井戸4基、土坑、ピット多数が密集して検出された。 これらの遺構密集部分は北側と東側を溝(SD20・21)によって「L」字状に区画されていた可能 性も指摘できる。一方調査地の東半部は一段高くなっており、この部分においても土坑、溝、ピットなどが検出されたが、相対的にその密度は低く、機能が明確なものは殆ど確認できなかった。出 土遺物には須恵器・土師器・黒色土器・瓦器・青磁・白磁・施釉陶器・瓦・石鏃・石製品・土製品・ 鉄滓があり、12~13世紀の遺構・遺物が大半を占める。



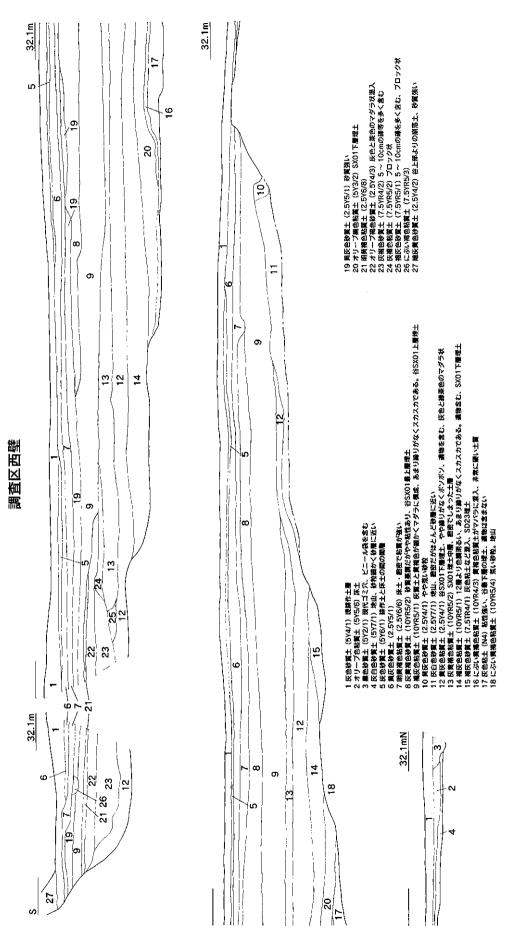


第24図 第13次調査 調査区東・北壁土層実測図(1/60)



2m

لا ہ



第25図 第13次調査 調査区西壁土層実測図(1/60)



2. 遺構と遺物

(1) 掘立柱建物

掘立柱建物は4棟を復元した。いずれも調査区西側のピット集中域で検出したが、残念ながら現 場段階で明確に把握できたものはなかった。なお、柱穴は小形の円形プランのみで構成され、方形 の掘方を有するものはみられなかった。

SB01 (第27図)

ピット集中域を覆うように検出された。今回検出された建物の中で最も規模が大きく、東西2間 (4.6m) ×南北3間 (6.1m) の総柱構造の建物と推定されるが、さらに南西側に1間分の張り出しを有している。床面積は32.4mを測る。主軸方位は $N-50^\circ$ -Wを向く。また東側の南北柱列の一部がSE04に切り込まれ消失しており、この建物がSE04に先行する時期のものであることがわかる。柱穴は円形で、 $0.2\text{m}\sim0.3\text{m}$ の直径を有す。少量の須恵器片が出土したが、作図可能なものはみられなかった。

SB02 (第27図)

SB03 (第28図)

出土遺物 (第29図、図版52)

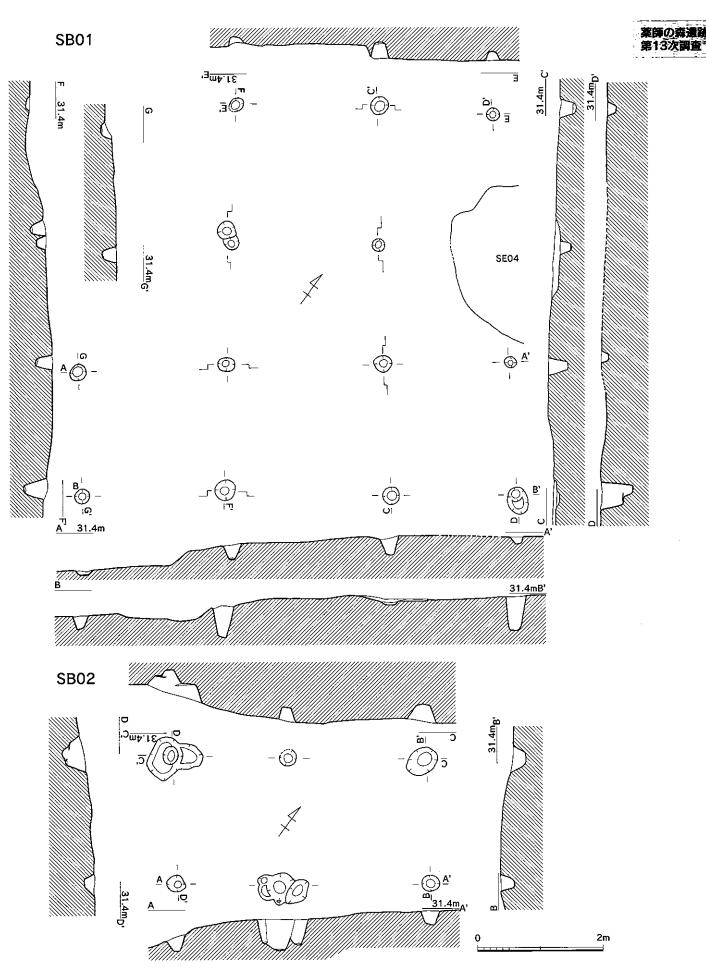
柱材 (129・130) 129・130とも建物の柱材と考えられる。129は最大径8cm、現存長32.2cm を測る。下端部を面取りしながら削り込み、先端を細く仕上げている。SP53出土。130は最大径9.8cm、現存長28.2cmを測る。129と同様に下端部を面取りしながら削り込み、先端を細く仕上げている。SP59出土。

土師器 (131) 131は小皿。口径8.8cm、器高1.2cmを測る。底部外面に回転糸切り痕と板状圧痕が残る。SP48出土。

SB04 (第31図)

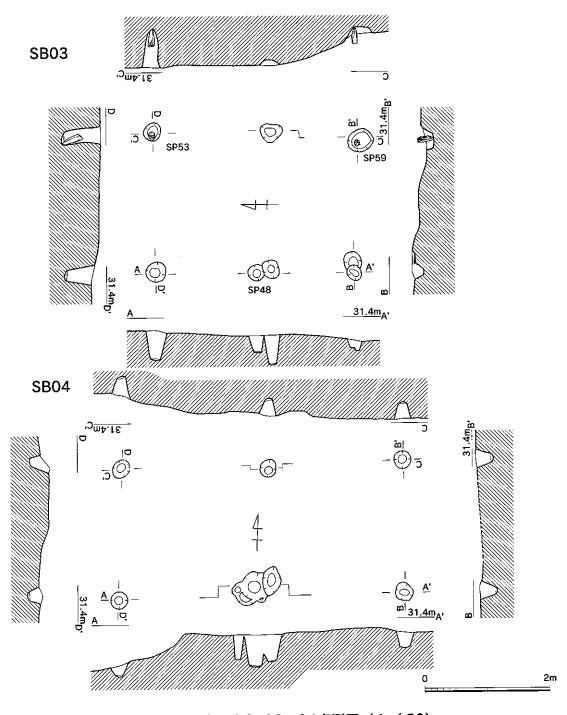
ピット集中域の中央で検出された。南北1間 (2.1m) ×東西2間 (4.5m) の小型建物で、床面 積は9.5㎡を測る。主軸方向はN-87°-Eを向く。SB03に概ね直交するが、建物位置が一部重複し ており同時共存は想定できない。先後関係は不明である。柱穴は円形で、0.25m ~ 0.45mの直径 を有す。土師器の小片が出土したが、作図可能なものはなかった。





第27図 第13次調査SB01·02実測図(1/60)





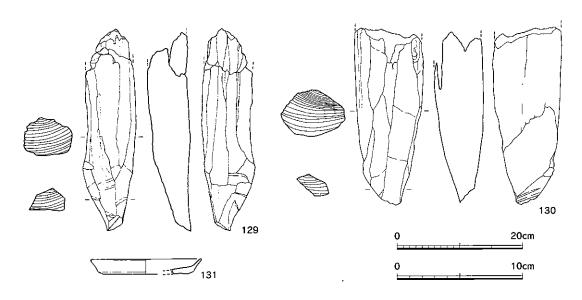
第28図 第13次調査SB03·04実測図(1/60)

(2) 井戸

SE01 (第30図、図版12)

谷の肩部、ピット集中域のやや東側で検出された。検出面での平面プランは楕円形で、長径 1.86m、短径1.34m、深さ1.6mを測る。検出面から約0.4m掘り下げると隅丸長方形プランとなり、これが本来の平面形と理解すべきであろう。井戸内の堆積土層もほぼ水平堆積の様相を示しており、井戸枠の痕跡などは観察されなかった。現状では素掘りの井戸と考えておく。湧水は確認できなかった。 須恵器杯・甕、土師器小皿・杯、瓦質土器、白磁などが出土した。

出土遺物 (第32図)



第29図 第13次調査SB03出土遺物実測図(131は1/3、他は1/6)

土師器 (132·136) 132は小皿。底部外面は回転糸切り。136は鉢の口縁部片。内外面ともヨコナデを施す。

須恵器 (133) 133は杯B身。体部外面は回転ヘラケズリを施す。

白磁 (134) 134は白磁椀 V類の口縁部片。

瓦質土器(135) 135は擂鉢の体部片。内面に擂り目を施す。底部付近は使用により磨耗している。 **SE02** (第30図、図版13)

SE01の南側約6m離れ、ちょうど谷(SX01)の肩から一段低くなった場所に位置する。掘方の一部をSX39に切り込まれている。掘方の形態は円形で、径1.0m、残存高1.03mの規模を有する。井戸の掘方内には井筒に転用された曲物が一段分残存していた。曲げ物の直径は0.43m、高さは0.23mほどが残るが、井戸の土層断面の観察によると痕跡は最低でも0.3m以上あり、単なる集水升としての曲物を一段井戸の底面に設置したのではなく、曲物を何段かに積み上げて井筒にしていたのであろう。湧水は確認できなかった。出土遺物には土師器、施釉陶器、青磁などがあるが、これらの遺物は全て井筒内の下層から出土している。須恵器、土師器小皿・杯、陶器椀、青磁椀などが出土した。

出土遺物 (第32図、図版53)

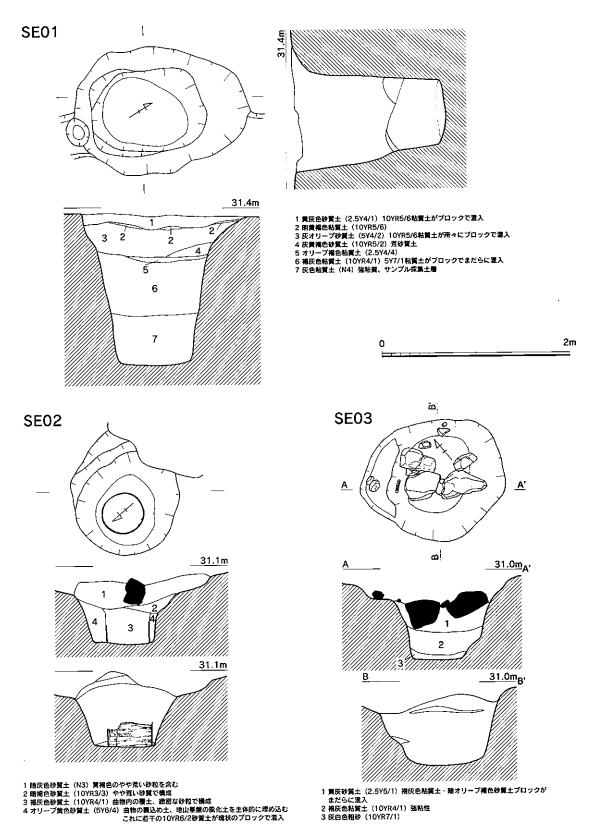
土師器 (137 ~ 139) 137は小皿。摩滅のため内外面とも調整不明。138・139は杯。底部は回転糸切りである。139は底部外面に板状圧痕が確認できる。

施釉陶器 (140) 140は鉢あるいは椀の底部。内外に黒褐色の釉を施す。見込み部は釉を粗く拭き取る。見込み部と体部の境に沈線を廻らす。

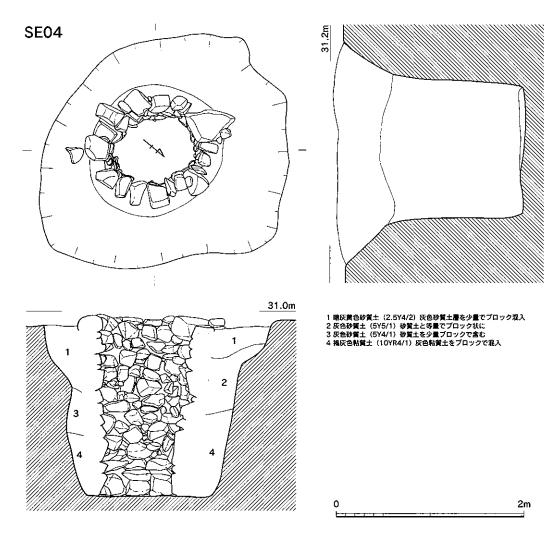
青磁 (141) 141は龍泉窯系青磁碗の底部。周縁を打ち欠き、円盤状に成形している。

SE03 (第30図、図版14) 調査区ほぼ中央、SE02の北側に近接して位置する。掘方の形態は円形で、径1.29~1.53m、残存深0.95mの規模を測る。東側に片寄せした二段堀状の形態を有する。 埋土上層では大型礫が複数出土しており、投棄されたものであろう。最下層は腐植土性の青灰色土





第30図 第13次調査SE01 ~ 03実測図(1 / 40)



第31図 第13次調査SE04実測図(1/40)

の堆積が部分的に観察された。井戸枠の残存はないものの、形態がSE02に近似しており井戸と判断した。湧水は確認できなかった。最下層の埋土を採取し、花粉分析・種実同定を行なった(Ⅶ章)。 出土遺物は少ないが、井戸底面の直上から漆器椀が出土した他、須恵器、土師器、瓦器椀、瓦質土器、建築部材などが出土している。

出土遺物 (第9図、図版52)

瓦質土器(142) 142は瓦質土器鍋。内面にはハケメが観察される。外面は煤の付着が著しく調整は不明。最下層から出土している。

木製品(143) 143は建築部材と考えられる木製品。径3.3~5 cm、残存長13.2 cmを測る。両端を折損している。樹種は不明。

漆器 (144) 144は漆器椀。口縁部と底部の一部が残存する。復元口径は20cm、高さ6cm前後と考えられる。浅く内湾しながら立ち上がる体部と口縁部を有す。底部には高台の痕跡が観察されるが、先端を欠失している。破棄以前に一度補修されたことがあるものと考えられ、割れ口に沿って補修孔が14カ所観察される。黒色漆の上に赤色系漆を用いて加飾するが、黒色漆とともに剥落が著しく、モチーフは判然としない。瓦質土器と同様に最下層から出土した。



曲物(145) 145は曲げ物の側板。内面は縦方向、外面は斜方向に刀子による刻み目の痕跡が残る。 **SE04** (第31図、図版15・16)

SE01の北側に接して位置する。大型でしっかりした作りの石組み井戸である。井戸の掘方は井 筒部に比べかなり大きく掘削しており、平面形態は2.62 ~ 3.0mのやや楕円形を呈し、底面まで の深さは1.9mを測る。この掘方のほぼ中央部に内径が0.7~0.8mの井筒となるように石を組んで 積み上げている。井筒部は最上面の内径と最底面の内径が0.2mほどしか変わらず、ほぼ垂直となる。 石組の方法は、下位部分は大型礫の輪積みと推定されるが、中位より上の部分は石列がやや斜行し ており、螺旋積みの可能性が高い。掘方の充填土の土層断面は大きく3層に分層することができ、 最低3回以上に分けて掘方に埋め土が充填されていることがわかる。井筒内については最上層まで 井筒の石材と同質の礫で密に充填されており、井戸破棄時の祭祀のあり方を示すものと考えられる。 SE03も類似した事例といえるのかもしれない。とくにSE04の場合、下層になればなるほど礫の 大きさが増し、作業員による掘削が非常に困難なほどであった。このため井筒内の土層観察は部分 的にしかできなかったが、礫以外の土層部分は概ね青灰色系の粘質土が主体となっていた。井戸底 部から湧水が認められた。他遺構との先後関係については、SB01と重複しこれを切り込んでいる。 その他周囲の概ねの遺構についても同様にこのSE04が切り込んでおり、最も新しい時期に比定さ れる。最下層の埋土を採取し、花粉分析・種実同定を行なった(VII章)出土遺物には須恵器杯・甕、 土師器小皿・杯、龍泉窯系青磁椀、瓦質土器などのほかに、木製品など有機質遺物も若干出土した。 出土遺物(第32図、図版53)

土師器 (146~151) 146・147は小皿。体部内外面とも回転ナデ、底部内面は不定方向ナデを施す、回転糸切り。146は口径8.4cm、器高1.2cmを測り、内外面底部に黒斑を有する。147は口径8.0cm、器高2.0cm。体部が強く内湾する。148~151は杯。149が口径14.0cm、器高3.0cm、150が口径12.0cm、器高3.4cm、151が口径11.2cm、器高2.7cmを測る。形態の特徴では底端部が強くヨコナデされ、体部全体が「S」次状に屈曲する切り高台の底部を有するもの(148~150)と、体部が内湾気味に立ち上がるもの(151)がある。いずれも体部の内外面は回転ナデ、底部内面は不定方向ナデである。151の底部外面は摩滅のため不明だが、それ以外は回転糸切りである。150は底部に外面から焼成後に穿孔している。井戸祭祀に関わるものであろうか。149・150は内外面に煤が付着している。

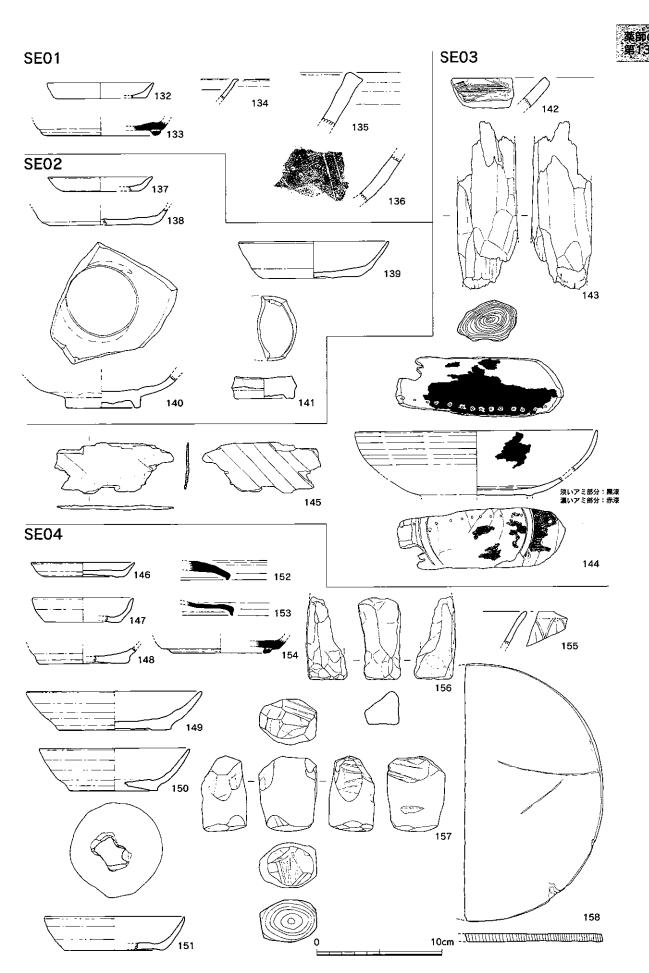
須恵器(152~154) 152·153は杯B蓋。天井部外面は回転ヘラケズリを施す。154は杯B身。 回転ナデを施す。

青磁 (155) 龍泉窯系青磁椀Ⅱ類で、体部外面に片彫りによる鎬蓮弁文を施す。釉はオリーブ灰 色で素地は灰白色を呈し、内外面とも貫入を有する。

瓦質土器(156) 156は鍋の脚部であろうか。全体形状がよくわからない。

木球(157) 157は木球であろうか。径3.5~4.5cmの木材の両端を切断し、さらに切断面を手 斧で細かく面取り加工している。長さ6cm程度の円筒状の製品となるが、機能・用途は判然としない。

曲物底板(158) 158は曲げ物の底板。復元直径20.4cm、厚さ0.5cmを測る。概ね中央部分で



第32図 第13次調査SE01 ~ 04出土遺物実測図(1/3)



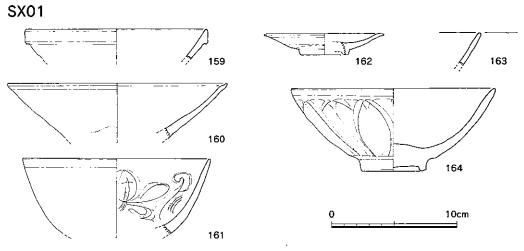
(3) 谷

SX01 (第26図、図版17)

調査概要でも触れたように、本調査地は丘陵上に位置しながらも、小規模な谷状の低地部分にあ たる。ただ調査地全体が底平なわけではなく、とくに調査地の北端と西端ではかなりの落差がみら れる。これを平面から見た場合、調査地の中央付近から西側に向かって「U」字状に開析していく 谷状の大きな落ち込み部分をみることができ、この部分を谷状遺構(SX01)とした。この谷は現 状で最も大きく開析した部分で約40mの幅を有する。また谷の最も深い部分は現地表から約2mで あるが、谷の基底部の確認ができなかったことは前述の通りである。谷の南北断面に概ね相当する 調査区西壁土層断面での観察によると、現耕作土・床土0.4m程の堆積ののち、谷の埋土は約 10cm厚の灰黄褐色粘質土 (第25図13層) を間層に大きく上層と下層に二分される。ただ上層・ 下層とも中世の遺物が出土しており、概ね掘立柱建物や井戸などの廃絶後に埋没が進行したものと 考えることができる。一方この谷の谷頭部分で検出されたSX26は、出土遺物からも明らかに奈良 時代の遺構と考えられるが、このSX26周辺の谷底面直上部分で、最大厚で約10cmの古代包含層 の堆積を確認することができた。以上からも谷状遺構(SX01)は奈良時代には既に存在したとみ て間違いないが、さらにいつまでその時期が遡上するのかについては、今回の調査で谷最部の基盤 層を確認することができなかったこともあり不明である。遺物は、谷落ち際で出土した一群のみを SX01として取り上げている。須恵器甕、土師器杯・甕、瓦器椀、白磁椀・皿などが出土した。谷 落ち際以外の遺物については、古代包含層・中世包含層として取り上げ、第50図に図化している。

出土遺物 (第33図、図版53)

白磁(159・160・162) 159・160は白磁椀。159は幅の広い玉縁を有するⅣ類である。釉・素地とも灰白色である。釉は半透明で光沢があり、わずかに気泡が入る。160は口縁端部が外傾する。釉は灰色で素地は灰白色である。釉は半透明で光沢があり、ガラス質である。162は白磁皿Ⅲ



第33図 第13次調査SX01出土遺物実測図(1/3)



-1類である。削り出し角高台の付いた底部から体部が浅く開き、口縁端部は屈曲して側方へ突出する。内面見込み部分の釉を輪状に掻き取っている。釉は不透明で灰白色、素地は鈍い黄橙色を呈する。

青磁(161·164) 161は龍泉窯系青磁碗 I 類。内面に片彫りによる輪花文を施す。釉は暗灰オリーブ色で素地は灰色を呈する。外面にはやや大きな貫入が入る。164は龍泉窯系青磁椀 II 類。体部外面に鎬蓮弁文を描く。内外ともに細かい気泡が入る。釉は暗灰オリーブ色で素地は灰色を呈する。高台内側には砂粒が付着している。

瓦器(163) 163は瓦器椀。内外面とも回転ナデで、内面の一部で微かにミガキが確認できる。 内外面とも口縁端部から約1cm幅で黒化している。

(4) 土坑

土坑 (SX) として調査を行った遺構は、40基を超える。概ね調査区の東側で検出された一群は、 不定形かつ極めて浅いものが多く、西側で検出された一群は比較的定形的で、一定の深さを持つも のが多い傾向がある。調査区東側の一群は、中世集落廃絶後の耕作に伴う可能性が高く、西側の大 部分は中世期の所産と考えられる。

SX02 (第34図、図版18)

調査地区南東角付近に位置する。不整形土坑プランを呈し、東西2.35m以上、南北3.62m、最大深0.15mを測る。壁の立ち上がりは、南側と西側の肩は比較的明瞭であったが、北側は極めて緩やかで輪郭は不鮮明となる。遺構底面上には小さなピット状の窪みが多数みられる。時期や機能・用途は判然としないが、集落廃絶後の耕作活動に付随する痕跡の一部であろうか。須恵器(坏蓋・甕)・土師器、龍泉窯系青磁椀、瓦質擂鉢などが出土した。

出土遺物 (第36図)

瓦質土器(165) 165は瓦質擂鉢。内面は4条1単位程度の荒い擂り目が施される。外面には黒 褐色の付着物が観察される。

SX04 (第34図、図版18)

SX02の北側、調査区東壁に接して検出された。不整形プランを呈し、最大深で0.1m程度。土坑というよりも、溝状遺構と分類すべきかもしれない。SX02と同様に、集落廃絶後の耕作に関連するなんらかの痕跡であろうか。埋土は、明灰黄色砂質土の単層であった。須恵器、土師器、瓦質擂鉢が出土した。

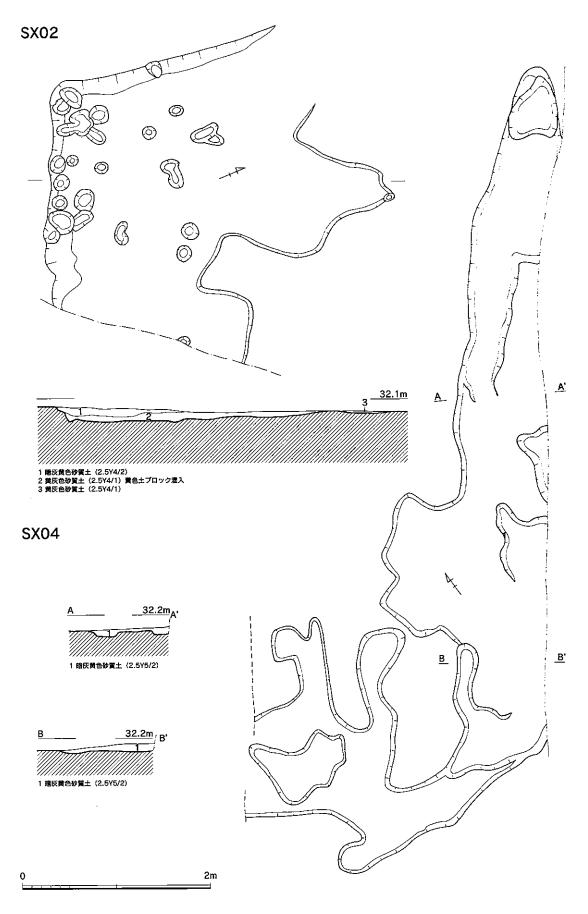
出土遺物 (第36図)

瓦質土器 (166) 166は瓦質擂鉢。内面には4条以上1単位の擂り目が施される。摩滅が著しく 調整不明。

SX05 (第35図、図版18)

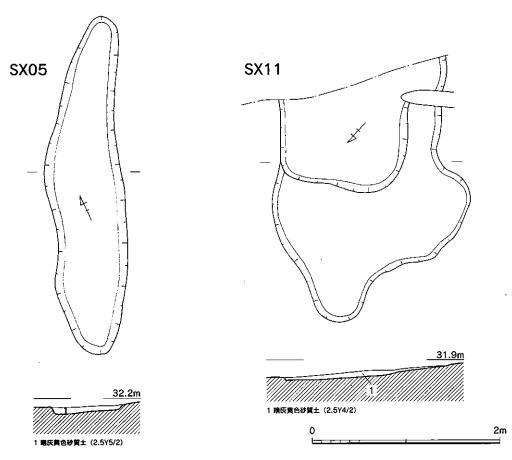
調査区の東側、SX04の北側に位置する。長楕円形プランを呈し、長径3.58m、幅0.8m、深さ0.07m を測る。埋土は暗灰黄色砂質土の単層であった。須恵器(杯蓋)・土師器(鍋・杯)などが出土した。 出土遺物(第36図)



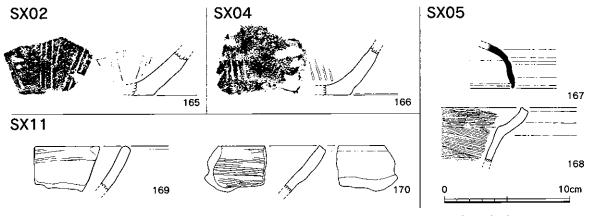


第34図 第13次調査SX02·04実測図(1/40)





第35図 第13次調査SX05·11実測図(1/40)



第36図 第13次調査SX02·04·05·11出土遺物実測図(1/3)

須恵器(167) 167は杯H蓋。外面天井部は回転ヘラケズリが施される。該当期の遺構は今回の 調査では検出されていない。

土師器 (168) 168は鍋の口縁部。内面はハケメ、外面は回転ナデを施す。口縁部は内湾し、端部はやや摘みあげる。

SX11 (第35図)

SX05の北東側、調査区東壁に接して位置する。不整楕円形プランを呈し、現状で最大長3.04m、最大幅2.1m、深さ0.1mを測る。南東側は調査区外へとのびている。埋土は暗灰黄色砂質土の単層



であった。土師器(鍋・杯)が出土した。

出土遺物 (第36図)

土師器 (169・170) 169・170は鍋の口縁部片。169の口縁端部は丸みを帯び、170は平坦面を有している。いずれも内面にはハケメを施し、外面には煤の付着が顕著である。

SX15 (第37図、図版19)

調査地区の北西端付近に位置する。SD25と重複しこれを切り込む。円形プランを呈し、径1.46 ~ 1.58m、検出面からの深さ0.12mを測る。埋土は灰色土を基調とする自然堆積であった。土師器杯が出土した。

出土遺物 (第38図)

土師器 (171) 171は杯の底部。底部外面には回転糸切り痕が観察される。

SX16 (第37図、図版19)

調査区北側、SX15の北東側約4mに位置する。円形プランを呈し、径1.2~1.3m、検出面からの深さ0.28mを測る。埋土は4層に分層可能な自然堆積であった。土師器(小皿・鍋)・青磁片などが出土した。

出土遺物 (第16図、図版53)

土師器(172) 172は鍋。口径30.0cm、器高20cm以上を測る。やや丸みを帯びた体部から、わずかに内湾しながら外傾する口縁部に続く。内面はハケメとヨコナデが観察される。外面は煤の付着が顕著である。

SX17 (第37図、図版20)

調査区のやや北側に位置する。SD23の東肩部に重複してこれに切り込まれており、この溝に先行する。本来は楕円形プランであろうか。残存長径1.2m以上、短径1.42m、深さ0.28mを測る。 埋土は灰色土を基調とする自然堆積であった。土師器(小皿・鍋)・龍泉窯系青磁椀などが出土した。

出土遺物 (第38図)

土師器 (173·174) 173·174は小皿。173は口径8.2cm、174は口径8.4cmを測る。いずれ も底部は回転糸切りを施す。

青磁 (175) 龍泉窯系青磁碗の底部。釉は半透明の浅黄色で素地は灰白色を呈する。

SX18 (第37図、図版20)

調査区北側、SX16とSX17の中間に位置する。やや不整な楕円形プランを呈し、長径1.1m、短径0.82m、深さ0.28mの規模を測る。埋土は灰黄褐色砂質土を基調とする。須恵器、土師器(鍋・杯類)・瓦器・青磁片などが出土した。

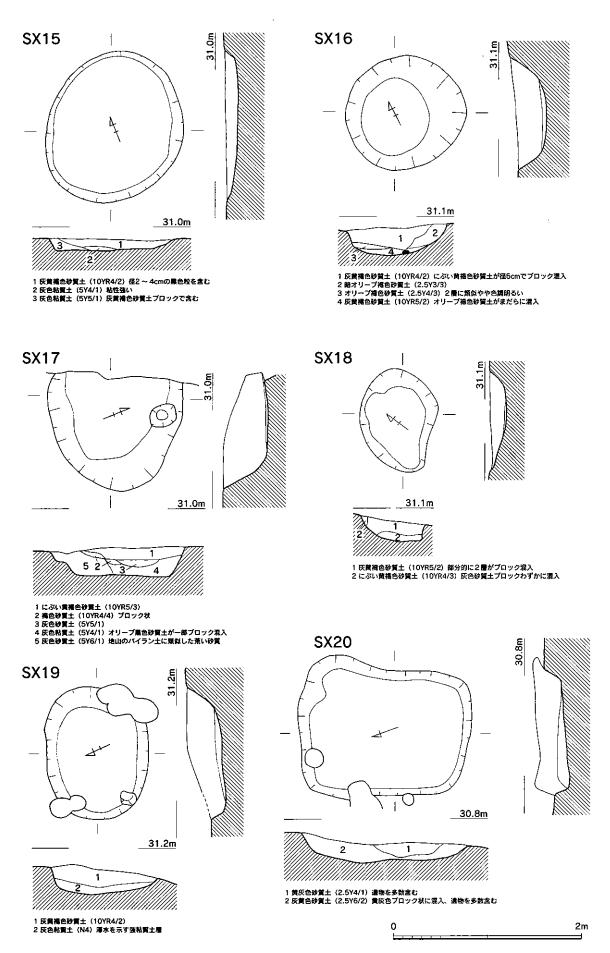
出土遺物 (第38図)

土師器(176) 176は鍋。内面はハケメ、口縁端部はヨコナデが施される。外面は煤の付着が顕著である。

SX19 (第37図、図版21)

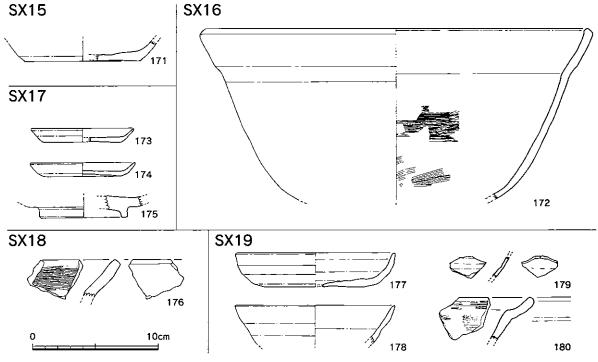
調査区の西側、ピット集中域の西側に位置する。平面形態は隅丸長方形で、長辺1.44m、短辺1.08m、深さ0.3mを測る。埋土は上層が灰黄褐色砂質土、下層が黄褐色粘質土となる。須恵器(杯・





第37図 第13次調査SX15~20実測図(1/40)





第38図 第13次調査SX15~19出土遺物実測図(1/3)

甕)・土師器 (杯・鍋)・白磁などが出土した。

出土遺物 (第16図)

土師器 (177·178·180) 177·178は杯。177はやや内湾気味に、178は直線的に立ち上がる。 177の底部は回転糸切りを施す。180は鍋の口縁部。内面はハケメを施し、外面は煤の付着が顕著 である。口縁部は内湾する。

施釉陶器 (179) 179は小壺の体部下半であろうか。外面ににぶい赤褐色釉を施す。胎土は緻密で粘性が強く、灰褐色を呈する。宜興窯系であろうか。

SX20 (第37図、図版21)

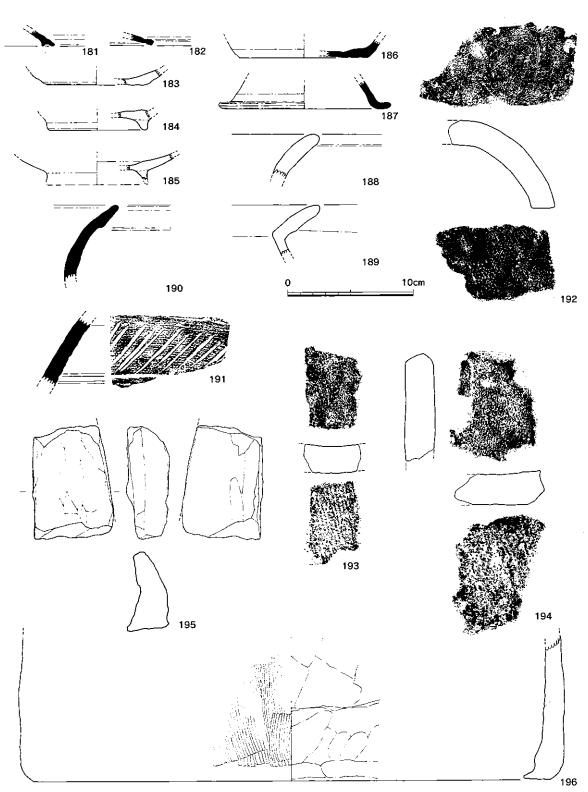
調査区の西側、SX19の西側に隣接して位置する。隅丸方形プランを呈し、長辺1.83m、短辺1.5m、深さ0.34mを測る。埋土は灰黄色砂質土を基調とする。他の土坑と異なり、飛鳥時代から平安時代の須恵器(杯・甕)、土師器(杯・甕・椀・移動式カマド)・黒色土器・瓦が出土した。

出土遺物(第39図、図版54)

須恵器(181・182・186・187・190・191) 181・182は杯B蓋の口縁部。181は口縁部内端に短いカエリを有する。外面は回転ヘラケズリを施す。182は端部を折り返すタイプであるが、極めて緩慢で沈線も確認できない。186は杯A身の底部。底部外面は回転ヘラ切り後ナデを施す。187は高杯脚部。接地面を屈曲させ端部を側方に突出ている。190・191は甕。190は口縁部をやや肥厚させる。頸部に文様を持たない。191は頸部片で、カキメの後、横走する沈線間に左下りの粗雑な斜線文が描かれている。

土師器(183・184・188・189・195・196) 183は杯底部。底部外面糸切り。184は高台付 椀の底部。底端部に逆台形の貼り付け高台が付く。188・189は甕口縁部。いずれもやや外反気味 に伸びる。外面はハケメを施す。189の体部内面にはケズリが観察される。195は移動式カマドの





第39図 第13次調査SX20出土遺物実測図(1/3)

薬師の森遺跡 第13次調査

庇部。カマド本体との接合面で剥離しており、全面ナデ調整を施す。庇の先端は概ね直線的であるが、焚口の側面にあたるのか、上面にあたるのか判然としない。196は移動式カマドの体部下位~底部。内面は荒いナデで接合痕が残り、外面はハケメ調整が施される。

黒色土器(185) 185は黒色土器A類の底部。内面のミガキは摩滅により確認出来ない。外面は回転ナデである。高台は貼り付けされるが、下部は欠損している。

瓦 (192~194) 192は丸瓦、193・194は平瓦。3点とも凹面には布目、凸面には縄目が残るが摩滅が著しく不鮮明である。192・193は土師質、194は瓦質に焼成されている。

SX21 (第40図、図版22)

調査区のやや北側、SX18とSX19の間に位置する。平面形態は長楕円形で、長径3.57m、短径1.98m、深さ0.21mを測る。須恵器(杯)・土師器(小皿・杯・甕)・龍泉窯系青磁椀などが出土した。

出土遺物 (第41図、図版54)

土師器 (197・198) 197は小皿。口径9.0cm、底径7.2cm、器高1.1cmを測る。底部外面には回転糸切りと板状圧痕が残る。198は杯の底部。内面に不定方向ナデを施し、外面には回転糸切り痕が残る。

青磁 (199・200) 199・200は龍泉窯系青磁械 II 類。ともに外面に鎬蓮弁文を描く。199の釉は灰オリーブ色、素地は灰白色を呈する。200の釉はオリーブ灰色、素地は灰白色を呈する。

SX22·38 (第40図)

調査区やや南側、SE02・SX39の東側に近接して位置する。ほぼ同位置で重複にあるため一括して提示した。時期的に先行するのはSX22である。SX22は平面楕円形プランを呈し、長径1.27m、短径0.84m、残存深0.22mを測る(土層図1層)。ついでこのSX38の上面をSD21が切り込んでいる(土層図2・3層)。その後SX38の上面を覆うように一回り大きなSX22が構築されている。SX22は円形に近い楕円形プランを呈し、長径1.63m、短径1.09m、深さ0.17mを測る(土層図4~6層)。なお遺物はSX22から須恵器(瓷)・土師器(杯)・瓦器・中国産施釉陶器などが出土したが、SX38からの出土遺物は認められなかった。

出土遺物 (第41図)

土師器(201) 201は杯。内面は摩滅のため調整不明、体部外面は回転ナデ、底部は回転糸切り 痕が観察される。

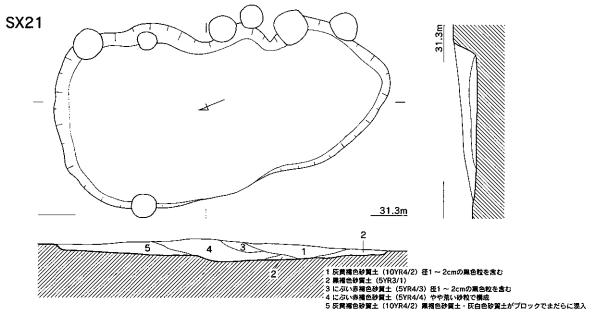
瓦器(202) 202は椀の底部。底部から体部にかけてゆるやかに開く形態で、高台は断面三角形の貼り付け高台となる。体部内面にはミガキ、外面には回転ナデの痕跡が残る。

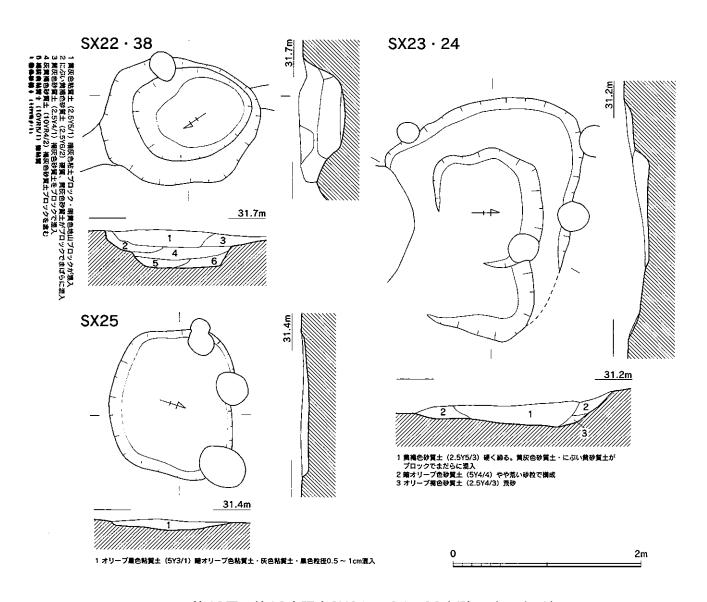
施釉陶器(203) 瓶の体部片。内面は回転ナデ、外面は回転ヘラケズリで、釉垂れの痕跡がある。 被熱のためか釉の色調は判然としない。

SX23 · 24 (第40図)

調査区ほぼ中央、SE03の北側に接して位置する。ほぼ同位置で重複にあるため一括して提示した。切り合い関係では大型のSX24が先行し、これを小型のSX23がSX24のちょうど中央部分に切り込んでいる。SX23は隅丸長方形プランを呈し、長辺1.28m、短辺1.12m、深さ0.25mを測る。

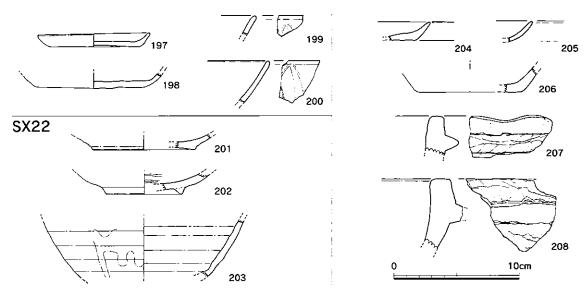






第40図 第13次調査SX21 ~ 24·38実測図(1/40)





第41図 第13次調査SX21·22·24出土遺物実測図(1/3)

埋土は黄褐色砂質土の単層(土層図 1 層)。須恵器・土師器(小皿・杯)・白磁などが出土したが、図化できるものはない。SX24は楕円形プランを呈し、長径2.57m、短径2.16m、深さ0.36mを測る。埋土は暗オリーブ褐色砂質土を基調とする(土層図2・3 層)。須恵器(杯・甕)、土師器(小皿・杯)・白磁・石鍋などが出土した。

出土遺物 (第41図、図版54)

土師器 (204・206) 204は小皿。内外面とも摩滅により調整不明だが、底部に回転糸切り痕が確認できる。206は杯の底部。底部に回転糸切り痕が残る。

白磁 (205) 205は皿の口縁部。釉は明オリーブ灰色、素地は灰白色である。釉は不透明で光沢がある。

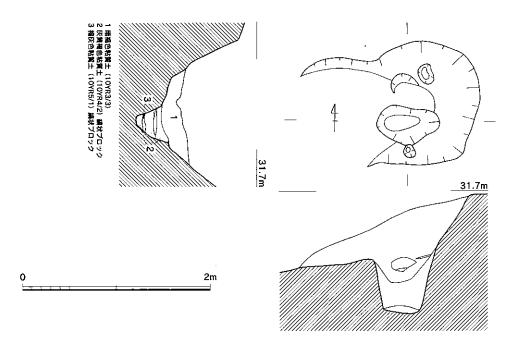
石製品 (207・208) 207・208は滑石製石鍋。207は直立気味に、208は内湾しながら立ち上がる。208の外面には煤が付着する。

SX25 (第18図、図版23)

SE04の南西側に接し、ピット集中域の中央に位置する。平面形態は隅丸長方形に近い楕円形で、 長径1.58m、短径1.29m、深さ0.11mの規模を有す。埋土はオリーブ黒色粘質土を基調とする。 須恵器・土師器 (小皿・杯)・青磁片が出土したが図化できるものはない。

SX26 (第20図、図版23)

調査区南側、ちょうど谷(SX01)の谷頭部の落ち際に位置する。当初は土坑とは認識できず、SX01の一部と考えていたが、下層を掘り下げていくにつれ土器が多く出土し、しかもまとまりを持つようだったので、改めて平面を精査したところ、不整楕円形プランの土坑(SX26)を検出した。現存長径約1.9m、短径1.3m、深さ0.62mを測り、底面にさらに長径0.67m、短径0.4m、深さ0.6mの小型楕円形の土坑が二段掘りされていた。埋土中には、比較的多くの土器類が出土したが、完存する個体はなく、意図的な遺棄の状況は確認できなかった。なお出土遺物はほぼ奈良時代に限定され、当該期に比定できる数少ない遺構といえる。須恵器・土師器(甕・甑)・打製石器・鉄滓など



第42図 第13次調査SX26実測図(1/40)

が出土した。

出土遺物 (第43図、図版54・55)

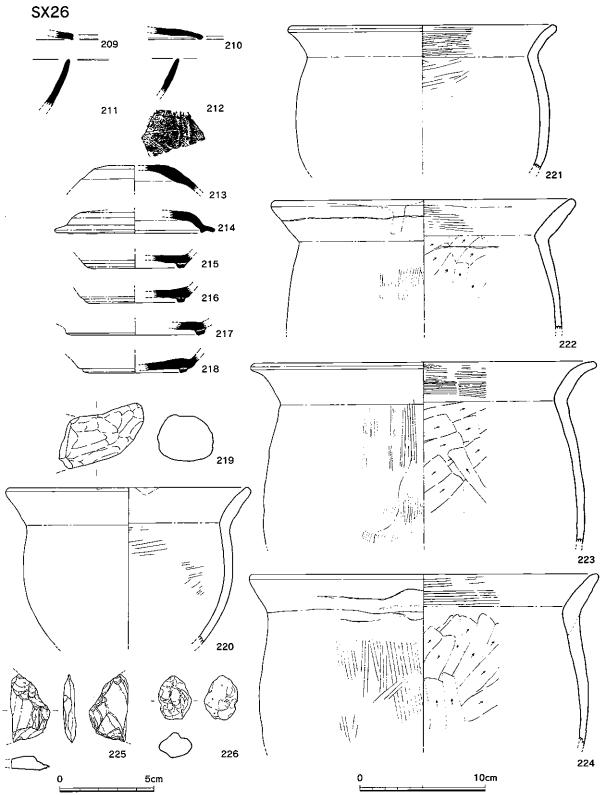
須恵器(209~218) 209·210は杯B蓋。いずれも扁平で、口縁端部の折り返しも緩慢である。 内外面とも回転ナデを施す。 $211 \cdot 212$ は杯B身。体部から口縁部は直線気味に立ち上がる。内外面とも回転ナデを施す。213は杯G蓋であろうか。杯H身あるいは杯G身の可能性も否定できない。 天井部外面にヘラ記号が観察される。214は杯G蓋。口縁内端には短いカエリを有する。215~218は杯B身。いずれも高台は低く、潰れたような形状を呈し、底部外縁($215 \cdot 217$)あるいは外縁に近接して貼り付けられる。

土師器(219~224) 219は甑の把手。荒くナデ調整される。220~224はいずれも甕。法量的には口径20~22cmで中型のもの(220・221)と、口径25~28cmの大型のもの(222~224)に二分できる。まず中型甕の220・221では、底部を大きく欠失するものの、球形の体部から口縁部が屈曲して短く逆「ハ」字状に開く形態を有する。口縁の端面はやや丸みを帯びている。内外面とも摩滅が著しく成形・調整の痕跡を観察し難いが、体部内面に部分的にハケ調整の痕跡を確認することができる。また220については口縁端部にタール状の付着物が認められる。大型甕の22~224では、中甕と同様に体部過半を欠失しているものの、中型甕ほど体部に張りがなく長胴気味の体部と考えられる。口縁部は中甕と同様に短く逆「ハ」字状に開くものであるが、強く外反するもの(223)と、軽く外傾気味に開くもの(222・224)がある。口縁端部は丸みをもっておさめている。成形・調整痕については、いずれも口縁部内面ハケメ、外面ヨコナデ、体部内面ケズリ、外面ハケメを施す。224は粘土帯接合痕が観察される。

石製品 (225) 225は安山岩製の二次加工剥片。比較的粗い刃部加工を施す。中央部で大きく折損している。

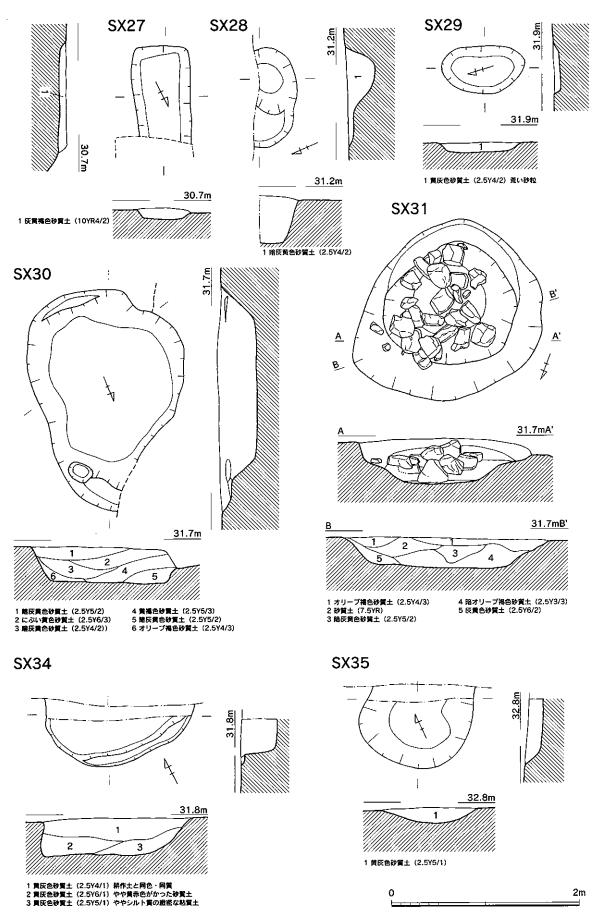
鉄製品 (226) 226は鉄滓である。長軸2.35cm、短軸1.75cm、厚さ1.3cm、重さ4.0gを測る。





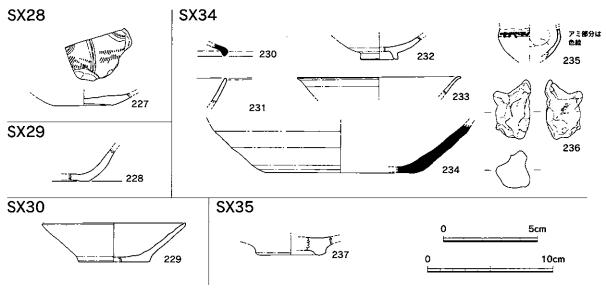
第43図 第13次調査SX26出土遺物実測図(225・226は1/2、他は1/3)





第44図 第13次調査SX27~31·34·35実測図(1/40)





第45図 第13次調査SX28 ~ 30・34・35出土遺物実測図(236は1/2、他は1/3) SX27(第44図、図版24)

調査区南東側、谷状遺構(SXO1)の南肩部の一段低い位置で検出された。平面形態は長方形を 呈しており、北側が谷に抉られるように消失している。現存長1.02m、幅0.61m、深さ0.07mを 測る。埋土は灰黄褐色砂質土の単層。検出当初は、平面形態や主軸方向を勘案して、中世墓の可能 性を考慮したが、出土遺物もなく現状では判断できない。

SX28 (第44図)

調査区の北壁中央よりやや西側に接して位置する。平面形態は楕円形と推測されるが、半分ほど が調査区外となっている。長径1.05m、現存短径0.42m、深さ0.48mを測る。埋土は暗灰黄色砂 質土の単層である。青磁皿が出土した。

出土遺物 (第45図、図版55)

青磁 (227) 227は同安窯系青磁皿。内面にはヘラによる文様と櫛点描文を施す。釉はオリーブ 灰色で貫入があり、素地は灰白色である。

SX29 (第44図、図版24)

調査区のほぼ中央、ピット集中域の東端付近に位置する。楕円形の平面形態で、長径0.88m、 短径0.5m、深さ0.1mを測る。埋土は黄灰色砂質土の単層である。調査時にはSK01として記録を 作成した。須恵器(瓶類)・土師器(小皿・杯)・黒曜石剥片などが出土した。

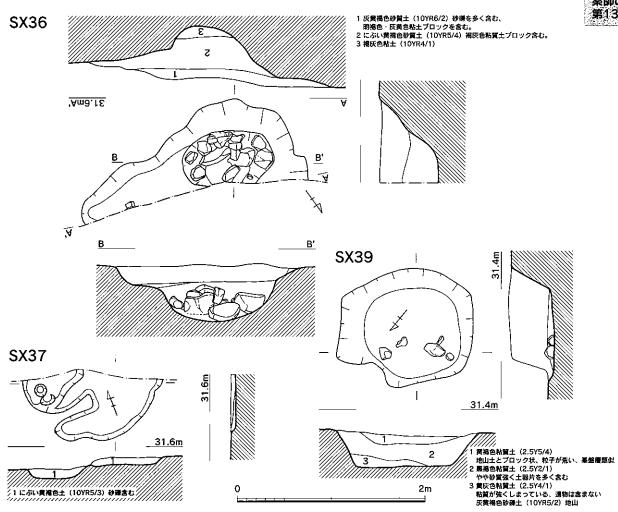
出土遺物 (第45図)

土師器(228) 杯の底部。体部は内外面とも回転ナデを施し、底部外面には回転糸切り痕が残る。 SX30 (第44図、図版24・25)

調査地中央やや北西側に位置する。西側を試掘トレンチに切られていてやや歪な形となっているが、概ね楕円形プラント想定できよう。残存部分で長径2.36m、短径1.68m、深さ0.38mを測る。 土坑内の埋土は、黄灰色系の砂質土を基調に、概ねレンズ状に6層に分層できる。調査時には SKO2として記録を作成した。土師器(杯・鍋)・瓦器椀・施釉陶器片などが出土した。

出土遺物 (第45図、図版55)





第46図 第13次調査SX36·37·39実測図(1/40)

土師器 (229) 229は杯。平坦な底部から体部が直線的に大きく開く形態である。口径11.4cm、底径5.6cm、器高3.1cmを測る。内外面は回転ナデされるが、底部外面は摩滅のため切り離し痕は確認できない。

SX31 (第44図、図版25)

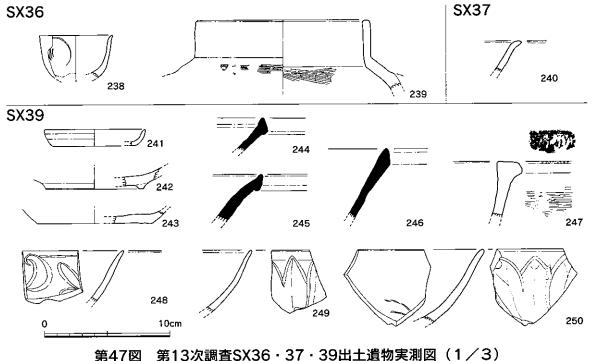
SX30の北西側に隣接して位置する。平面形態・規模等もSX30に類似する。西側の一部を試掘トレンチで切られているが、概ね楕円形プランを呈する。現状で長径1.96m、短径1.34m、深さ0.32mを測る。土坑内からは、拳大から人頭大の礫(花崗岩)が多く出土した点が特徴的である。調査時にはSK03として記録を作成した。土師器・白磁・青磁(龍泉窯系椀)などが出土したが図化できるものはない。

SX34 (第44図)

調査区北壁の中央やや東側に位置する。平面形態は楕円形と推定されるが、北半が調査地外となるため詳細を知り得ない。現状で長径1.56m、短径0.64m、深さ0.4mを測る。土坑内の埋土は黄灰色系の砂質土を基調とする。調査時にはSK06として記録を作成した。須恵器(杯・捏鉢)・土師器(小皿・鍋)・白磁・鉄滓などが出土した。

出土遺物 (第45図、図版55)





須恵器 (230·234) 230は杯B蓋。口縁下端を三角形に肥厚させる。内外面は回転ナデを施す。 234は捏ね鉢。平坦な底部から体部が直線的に外傾する。体部の内外面に回転ナデが観察される。 内面には使用痕が認められる。

白磁 (231 ~ 233·235) 231·233は碗。釉·素地とも灰白色を呈する。232は小椀の底部で、底部には径の小さな削りだし角高台が付く。釉は淡黄色、素地は灰白色を呈する。235は燭台の一部であろうか。型押によって成形される。素地は明るい乳白色で、外面のみに薄く施釉する。外面の刻目列に沿って、釉の上から赤色顔料を連点状に塗布する。

鉄製品 (236) 236は鉄滓。長さ3.15cm、幅2.0cm、厚さ1.9cm、重さ15.7gを測る。

SX35 (第44図)

SX34の西側に隣接して位置する。SX34と同様に北半が調査地区外にのびる。平面形態は円形あるいは楕円形と推定される。現状で長径0.88m以上、短径1.1mを測る。埋土は黄灰色砂質土の単層である。調査時にはSK07として記録を作成した。須恵器(甕)・土師器・白磁・陶器片が出土した。

出土遺物 (第45図)

白磁(237) 碗底部である。Ⅳ類であろうか。幅のある削りだし高台を有する。内面は施釉され、 外面の残存部分は露胎となる。高台内面に重ね焼き痕跡が残っている。釉は半透明の明オリーブ色 で、素地は灰白色を呈する。

SX36 (第46図、図版26)

調査区の北壁中央付近に位置する。平面形態は長楕円形が想定されるが、ちょうど北側半分が調査区外へと伸びている。現状で長径2.38m、短径1.1m以上、深さ0.62mの規模を測る。土坑内は二段掘り状に段差があり、西側が一段低く掘り窪んでいる。この部分に多量の礫が破棄された状態

で出土した。この点でSX31での礫出土状況と類似した様相を呈している。調査時にはSK08として記録を作成した。須恵器・土師器(鍋)・瓦質土器・磁器などが出土した。

出土遺物 (第47図、図版55)

磁器 (238) 238は猪口。肥前産であろう。半透明光沢のある灰白色の釉を施釉する。外面には 草文であろうか、文様を描く。

瓦質土器 (239) 239は湯釜。口縁部は垂直に立ち上がり、肩部には耳部が剥離した痕跡が残っている。口縁部は内外面ともヨコナデ、体部内面は指押さえ後ハケメ、肩部外面はハケメと耳部取付の指頭痕が観察される。

SX37 (第46図)

調査区の北壁中央付近、SX36に近接して位置する。北側は調査地区外にのびる。浅く形状も不整形で明確ではない。現状で長径1.5m、短径1.22m以上、深さ0.22mを測る。埋土はにぶい黄褐色砂質土を基調とする。調査時にはSK09として記録を作成した。青磁(龍泉窯系)が出土した。

出土遺物 (第47図)

青磁 (240) 240は龍泉窯系青磁碗。口縁端部が短く外反し、先端を細く仕上げている。釉は半透明の緑灰色、素地は灰白色を呈する。

SX39 (第46図、図版26)

調査区中央やや南側に位置する。SE02と重複し、これを切り込んでいる。本来的には円形プランと想定され、径1.4m、深さ0.38mを測る。埋土は3層に分層され、底面近くで土器類や礫が比較的多く出土した。調査時にはSK11として記録を作成した。須恵器(杯・甕・捏鉢)・土師器(小皿・杯)・瓦器・青磁・白磁などが出土した。

出土遺物 (第25図、図版55)

土師器 (241・243・247) 241は小皿。口径8.0cm、底径1.3cmに復元図化したが、小片のため判然としない。243は杯。底部外面に回転糸切り痕が残る。247は鍋。口縁部上面には縄状の圧痕が観察される。体部外面はハケメを施す。

瓦器 (242) 242は瓦器椀。外底面に低く幅のある台形の貼り付け高台を有す。内面のミガキは確認できない。

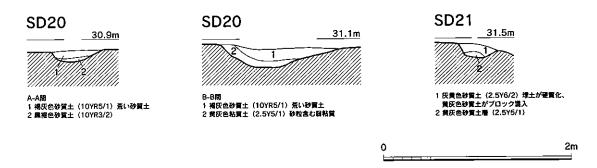
須恵器 (244 ~ 246) 244・246は捏ね鉢。いずれも内外面ヨコナデを施す。245は甕の口縁部。 青磁 (248 ~ 250) 248は龍泉窯系青磁椀 I 類。釉はオリーブ黄色で細かい貫入が入り、素地は灰白色である。内面に片彫りで輪花文を施す。249・250は龍泉窯系青磁椀 II 類。いずれも外面に鎬連弁文を施す。249は釉が灰オリーブ色、素地が灰白色で、貫入がある。250は釉が明オリーブ灰色、素地は灰白色、内面には微かに文様が確認できる。

(5) 溝状遺構

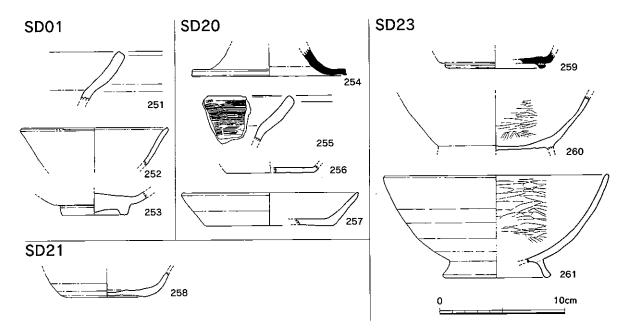
SD01 (第48図、図版27)

調査地の北東角付近に位置する。東西よりやや北西方向に振れた方向にのび、南側肩部が約8m 分検出されている。北側肩部は調査区外で検出できていない。幅2.5m以上、検出面から溝底まで





第48図 第13次調査SD20·21土層実測図(1/40)



第49図 第13次調査SD01·20·21·23出土遺物実測図(1/3)

の深さは0.77mを測る。溝内の堆積土層は、上層は暗褐色砂質土を、下層はにぶい黄褐色砂質土を基調とする(第24図16・20層)。今回の調査では最も深く規模の大きな溝である。下層より須恵器甕・土師器(鍋・鉢)・白磁・青磁などが出土した。流滞水の痕跡は確認できなかった。

出土遺物 (第49図)

土師器 (251) 251は鍋の口縁部。内外面とも摩滅が著しく調整は不明である。

白磁 (252) 252は白磁碗 IX類。釉・素地とも灰白色で、釉には柔らかな光沢がある。口縁端部は釉を掻き取る。

青磁 (253) 253は龍泉窯系青磁椀。釉は灰オリーブ色で素地は灰白色を呈する。釉は硬質で細かい貫入がある。

SD20 (第48図、図版27)

ピット集中域の北側に接して北西方向にのびる。この溝を境にピット群が途切れ、北側にはピットはほとんどみられない。区画溝的な性格が想定される。溝は軽い円弧を描きながら約12mのびている。最大幅1.6m、検出面からの最大深0.2m程度で、底面のレベルは北西側がやや高い。埋土は褐灰色砂質土を基調とする。流滞水の痕跡は確認できなかった。須恵器甕・土師器(小皿・杯・鍋)・瓦器・白磁・青磁椀(龍泉窯系)・鉄滓などが出土した。



出土遺物 (第49図)

須恵器(254) 254は高杯の脚部。裾部は屈曲し、端部はつまみ出している。内外面とも回転ナデを施す。

土師器 (255・257) 255は鍋。内面はハケメを施し、外面には煤が付着する。257は杯。復元口径15.0cmを測る。底部は回転糸切り痕が残る。

白磁 (256) 256は皿の底部。釉・素地とも灰白色を呈する。

SD21 (第48図、図版28)

調査区中央やや南側に位置し、概ね南北方向に約4m伸びる。先述したようにSX22・38と重複しており、最大幅0.5m、深さ0.14m、底面のレベルは南側に向かい低くなる。埋土は灰黄色砂質土を基調とする。SX22・38の項目で述べたように、SX38→SD21→SX22の順に掘削されている。溝の南端は谷状遺構(SX01)の肩部に接して消失している。北側は試掘トレンチに切られているため、どこまで延びるか確認できなかった。ただ位置的にみて、SD20と同様にピット集中域を東西に区画する溝の可能性が指摘できる。須恵器甕・土師器(小皿・杯)・青磁椀(同安窯系)・鉄滓などが出土した。

出土遺物 (第49図)

土師器 (258) 258は杯。底端部が緩やかに丸みを帯びて屈曲する。底部外面には回転糸切り痕が残る。

SD23 (図版28)

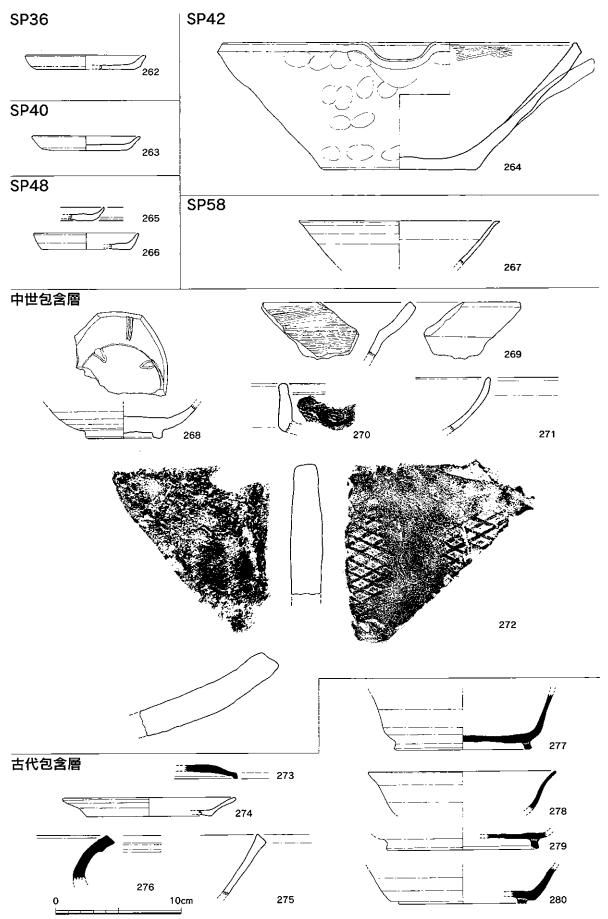
ピット集中域の西側に位置する。概ね北東一南西方向に伸びる。北東端部は浅くなり消失しているが、南西側は、最大2.5mほどまで大きく広がっている。最大深0.58mを測る。ちょうど地形的に高い部分から谷状遺構(SX01)の低い部分に向かってコンタに直交する方向にのびており、低くなるに従い開析されたように溝幅を増すことから、人為的に掘削された溝ではなく、雨水等の流路の可能性が想定される。埋土は淡灰色砂質土を基調とし、流滞水の痕跡は確認できなかった。須恵器(杯・高杯・横瓶・甕)・土師器(椀・杯類・甕)・黒色土器が出土した。

出土遺物 (第27図、図版56)

須恵器 (259) 259は杯B身。底端部のやや内側に外方に低めの高台を貼り付ける。

黒色土器(260・261) 260・261は黒色土器A類。底部から口縁部まで内湾しながら立ち上がる。 高台は高さがあり「ハ」字状に開く撥高台の形状である。260は内面が横方向のヘラミガキ、外面 はヨコナデである。外面底部に黒斑が残る。261も内面は横方向のヘラミガキ、外面はヨコナデと 回転ヘラケズリを施す。





第50図 第13次調査ピット・包含層出土遺物実測図(1/3)

(6) ピット・包含層・その他

SP36出土遺物 (第50図、図版56)

土師器 (262) 262は小皿。口径9.6cm、器高1.1cmを測る。外底面には回転糸切り痕と板状圧痕が残る。

SP40出土遺物 (第50図、図版56)

土師器 (263) 263は小皿。口径9.0cm、器高1.2cmを測る。

SP42出土遺物 (第50図、図版56)

土師器(264) 264は捏ね鉢。平坦な底部から体部が外傾気味に開き、口縁端部に幅広の端面を持つ。口縁部の一部に幅の広い片口を形成する。体部外面の所々に指頭圧痕が、また口縁部内面に一部ハケ調整の痕跡が観察される。体部下位~底部には顕著な使用痕が認められる。

SP48出土遺物 (第50図)

土師器(265·266) 265·266は小皿。いずれも外底面には回転糸切り痕が残る。266は口径8.2cm に復元図化したが、小片であり確証にかける。

SP58出土遺物 (第50図)

白磁 (267) 267は碗。太宰府分類 V 類であろうか。

包含層出土遺物

SX01の項目で報告したとおり、谷部出土遺物のうち、落ち際の遺物群をSX01出土遺物として取り上げた。落ち際以外の遺物については、SX26周辺に広がっていた包含層を「古代包含層」、それ以外の包含層出土遺物は「中世包含層」として取り扱った。よって、本来全てSX01出土と報告すべきかもしれないが、取り上げ時の呼称に従い、中世包含層・古代包含層として報告する。

中世包含層出土遺物 (第50図、図版56)

青磁 (268) 268は龍泉窯系青磁碗 I 類の底部。破片である。体部内面には輪花の区画を示すへ ラ彫りが施されている。内底面には目跡が観察される。

土師器(269) 269は鍋。口縁部は緩やかに内湾し、端部は平坦に仕上げる。内面全体にハケ調整を施す。

瓦質土器 (270) 270は湯釜。口縁部は短く直立する。外面に菊花文のスタンプが確認できる。 **瓦器 (271)** 271は瓦器椀。内外面ともナデ調整。

瓦 (272) 272は平瓦。凹面に布目痕、凸面に斜格子目の叩きが観察される。

古代包含層出土遺物 (第50図)

須恵器(273·276·277 ~ 280) 273は杯B蓋。口縁端部を下方に短く屈曲させる。276は甕。 口縁部は肥厚させて角状に仕上げる。277 ~ 280はいずれも杯B身。277·279はやや外方に踏 ん張る高台を、280は比較的扁平な角高台を有する。

土師器(274・275) 274は皿。体部は外反しながら伸びる。275は鉢。口縁端部は幅の広い平 坦面を持つ。



3. 小結

飛鳥時代~奈良時代

今回の調査では飛鳥・奈良時代の遺構・遺物はそれほど多くみつかっていない。このなかで出土 遺物から古代と推定できる遺構としてはSX20、SX26などの若干の土坑があるが、性格は不明で ある。竪穴住居などの集落遺構も今回の調査地では検出されていない。一方、谷状遺構SX01につ いては、ちょうどSX26の西側に接して谷の肩部で古代の遺物包含層が検出された。このことから 谷状遺構SX01が古代に存在したことは間違いないが、この谷自体の底面では基盤層まで掘り下げ て確認したわけではない。従って谷の形成時期がどこまで遡るのかは現状では判断できない。

平安~室町時代

掘立柱建物4棟、井戸4基、土坑、柱穴など、今回の調査で検出された多くの遺構がこの時代の 所産と考えられる。とくに谷状遺構SX01の北側肩部とSD20・21に囲まれた狭い地域で、掘立柱 建物をはじめ多数の柱穴や土坑、井戸を検出した。このうち掘立柱建物には主軸方位が約50°東に 振れる建物 (SB01·02) と、これとは異なり主軸方位が南北方向のもの (SB03·04) がみられ る。次にこれらの建物群と井戸との組み合わせと配置関係について考えてみる。まずSB01の一部 柱穴がSE04に切られており、SB01がSE04に先行することがわかる。SB02については井戸との 直接の重複はないものの、SE01と共伴するには近接し過ぎている。一方南北方位のSB03·04では、 SB04がSE01と重複関係にある。なおSE02・03についてはどの建物とも重複がない。次いで個 別の井戸を検討する。まず井戸の種別では、井筒に曲物を転用したもの(SE02とおそらく SE03)、素掘りのもの (SE01)、石組みのもの (SE04) がある。このうち石組み井戸が最も後出 する時期の井戸であろう。実際の切り合い関係でも、この井戸を切り込む遺構はほとんど無く、時 期的に最後出の遺構となっている。この井戸の最下層からは廃絶時の井戸祭祀に使用されたと考え られる土師器杯・皿が出土している。これらの土師器は大宰府編年XX期に比定できることから、 井戸の廃絶時期をおおよそ14世紀代と考えることができる。一方SE02の曲物内から出土した土師 器杯・皿は大宰府編年のX1個期に相当し、SE04よりやや古い13世紀半ば前後の時期が想定される。 なお個々の井戸の配置関係に着目すると、SE01とSE04の2基、SE02・03の2基がそれぞれ近 接しており、空間的な対をなしている。以上の様相を整理するとSB01・02の2棟の建物について はSE01・04とは併存し難くSE02・03に伴う建物の可能性が高い。SB03・04については SE01・04が共伴の対象となるが、SB04がSE01と重複するため、SB03がSE01と、SB04が SE04と共伴関係にあるものと整理できる。これに井戸からの出土遺物を参考に建物群の時期を推 定すると、先行するSB01・02が13世紀代に、後出するSB03・04が14世紀代におおよその時期 を比定することができよう。ただ今回の調査で検出されたような建物1棟に井戸1基という組み合 せが本遺跡で一般化できるかどうかは、周辺調査地の建物群のあり方の検討とあわせてもう少し慎 重に判断していく必要があろう。

薬師の森遺跡第14次調査

V. 薬師の森遺跡第14次調査



1. 調査概要

薬師の森遺跡第14次調査地は区画整理事業地の中央西側に位置し、大野城市乙金3丁目423-2、416-2、419-2、418の一部、413の一部(小字:草場)にあたる。東側に第6次調査地、西・北側に第5次調査地、南側に第13次調査地が隣接する。調査面積は460㎡で、土置き場の都合上、調査区を東半部と西半部とに分けて発掘調査を実施した。調査区は道路拡幅部分と個人住宅部分をまとめて調査したため「L」字形となり、東半部は道路拡幅部分、西半部は個人住宅部分に概ね該当する。当調査地は、東端を最高所として、西側・北側にかけて緩斜面になる地形で、最高所で標高約33.1m、南西端の低いところで標高約32.1mを測る。当地のこのような地形状況と、南に隣接する第13次調査との比高差を考えると、調査区南側は急斜面になり、西側は緩斜面となる。

調査はまず、調査区東半部の道路拡幅部東端から、平成21年1月7日よりバックホーにて表土の除去を開始した。調査区東端では、現地表下0.4mで褐色土が現れ、これを切り込んで黒褐色埋土の遺構が検出されたため、これを遺構検出面と認識し、表土剥ぎを進めた。東半部の調査は平成21年1月12日より作業員・機材を投入し、人力による発掘調査を開始、2月25日に終了した。調査区西半部の調査は、東半部から出た土砂の移動と調査区西半部の表土剥ぎを3月1日から実施した。作業員による発掘作業は3月16日に再開し、2010年4月30日に全ての調査を終了した。

東半部は、幅約5m、長さ約30mの狭小な調査区である。遺構は東端で密に展開し、中央部では やや密度が低い状況であった。東半部の調査の結果、竪穴住居1軒、溝状遺構、土坑多数、ピット 多数を検出し、出土遺物は、土師器、須恵器、陶磁器、石製品、鉄器などが出土した。

西半部は、南側で遺構が密に展開し、北側にむかって遺構密度が低くなる状況であった。南側ではピットを主体とした遺構が、かなりの密度で検出され、数棟の掘立柱建物の存在が想定されたものの、明確な柱配置は認識できなかった。また、調査区中央付近の一部では、遺構検出面と認識していた褐色土上に堆積していた暗褐色土から切り込む遺構が検出され、遺構面が2面ある状況が確認された。1面目は古代、2面目は古墳時代後期を主体とする遺構である。西半部の調査の結果、掘立柱建物2棟、竪穴住居1軒、溝状遺構、ピット多数、土坑多数が検出された。出土遺物は土師器、須恵器、陶磁器、石製品、鉄器などが出土した。

2. 遺構と遺物

(1) 掘立柱建物

SB01 (第53図、図版30)

調査区西半部、中央北寄りで検出された。P9がSB02のP7と切り合い関係にあるが、表面精査の結果、明確な切り合いをみつけることができなかった。柱穴掘り方は、いずれも直径約1~1.5m前後の不整長楕円形、不整円形の平面プランを呈し、検出面からの深さは約20~70cmを測る。2間×2間の方形プランの総柱建物で、現状で南北4.8m、東西5.0mの規模で、面積は24㎡である。東西を桁行きとするならば、桁行きの主軸方向はN-32°-Eを指す。柱痕は平面、断面で

第51図 第14次調査遺構配置図(1/200)

観察したものの、認識できなかった。P2~9は断面2段掘りとなっている。

出土遺物 (第54図、図版57)

須恵器(281~285) 281・282は甕の口縁部で、いずれも外反しながら立ち上がる。281は端部を折り曲げて肥厚させ、282は口縁端部に1条の沈線を廻らせる。283~285は杯H身で、口縁部はやや垂直気味に立ち上がり、いずれも高さ1cm未満である。283・285は底部外面に回転へラケズリ、その他は内外面共に回転ナデで調整する。

SB02 (第52図、図版30)

調査区西半部、中央北寄りで検出された。P7がSB01のP9と切り合い関係にあるが、表面精査の結果、明確な切り合いを確認することができなかった。柱穴掘り方は、いずれも径約1m前後の不整楕円形の平面プランを呈し、検出面からの深さは約20~30cmを測る。現状で、2間×2間の方形プランの総柱建物で、南北4.5m、東西4.2m、面積は18.9㎡を測る。南北を桁行きとするならば、桁行きの主軸方向はN-20°-Eを指す。柱痕は平面、断面で観察したものの、認識できなかった。P1・2・4・5・8・9は断面2段掘りとなっている。

出土遺物(第54図、図版57)

須恵器(286) 杯H身で、底部外面に回転ヘラケズリ、その他は回転ナデ調整である。口縁部は 内傾しながら立ち上がり、やや高い。底部内面に同心円当て具痕が残る。

(2) 竪穴住居

SC01 (第55図、図版31)

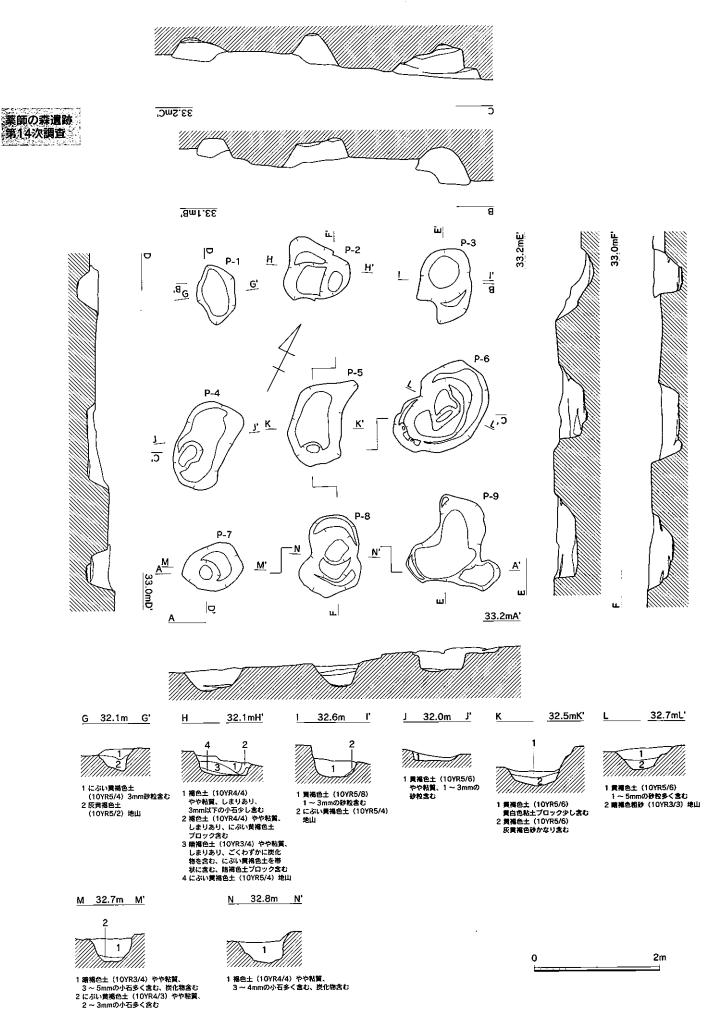
調査区東半部、東側で検出された。SX13・14に前出する。平面プランは不整方形で、北辺の一部は調査区外である。南北の一辺が約2.4m、東西の一辺が約3.4mを測り、住居の深さは残りが良いところで検出面から15cmを測る。床面に貼り床は確認できなかった。主柱穴は2基検出され、いずれも柱痕を確認できなかったが、直径約40~50cmの不整楕円形を呈し、床面からの深さ約50cmを測る。壁溝は東辺で一部を検出したのみで、長さ1.3m、幅15cm、深さ5cmを測る。カマドは東辺で検出されたが、そのほとんどが調査区外であったため、調査区を拡張した。しかし、カマドが後出する中世のピットによって壊されていたこと、作業中のミスで袖部を掘削してしまったことから、カマドの詳細は不明である。なお、支脚や煙道・火床は確認できなかった。

出土遺物 (第56図、図版57)

須恵器 (287・288) 287・288は杯H蓋で、天井部外面に回転ヘラケズリ、その他は内外面共に回転ナデ調整である。287は口唇部に細かい刻み目を施す。

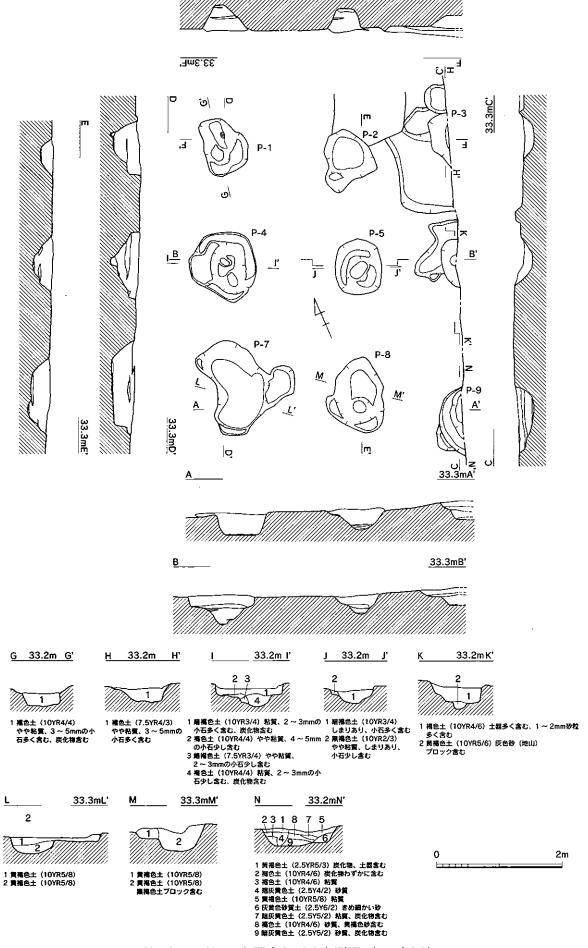
SC02 (第55図、図版31)

調査区西半部の北側で検出された。SD12、SX54に前出する。住居は北側と西側を撹乱されており、東辺と南辺の一部のみを検出した。おそらく平面プランは隅丸方形が想定され、現状で南北の一辺が3.5m、東西の一辺が1.7mを測り、残りが良いところで検出面からの深さ約30cmを測る。 床面に貼り床、壁溝は確認できなかった。主柱穴は2基検出され、いずれも柱痕を確認できなかったが、直径約40cmの不整楕円形を呈し、床面からの深さ約40cmを測る。なお、カマドや火床は



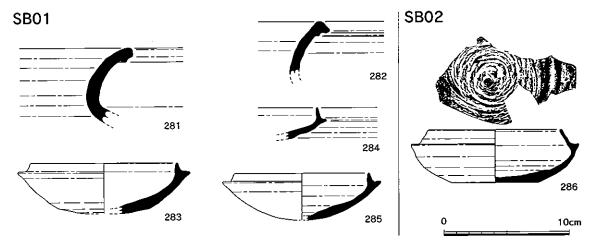
第52図 第14次調査SB01実測図(1/60)

薬師の森遺跡 第14次調査



第53図 第14次調査SB02実測図(1/60)





第54図 第14次調査SB01·02出土遺物実測図(1/3)

確認できなかった。

出土遺物 (第56図、図版57)

須恵器 (289・290) 289・290は杯H蓋で、天井部外面に回転ヘラケズリ、その他は内外面共に回転ナデ調整である。289は体部と天井部の境に段を持ち、焼け歪みが著しい。

(3) 土坑

SX13 (第58図、図版29)

調査区東半部の東側で検出された。SC01に後出する。平面プランは不整形で、床面にピットを有する。土坑の規模は、長さ2.5m、幅1.3m、検出面からの深さ10cmを測る。埋土は灰黄褐色土が堆積する。遺物は須恵器、土師器が出土したが、図化できるものはなかった。

SX14 (第58図、図版29)

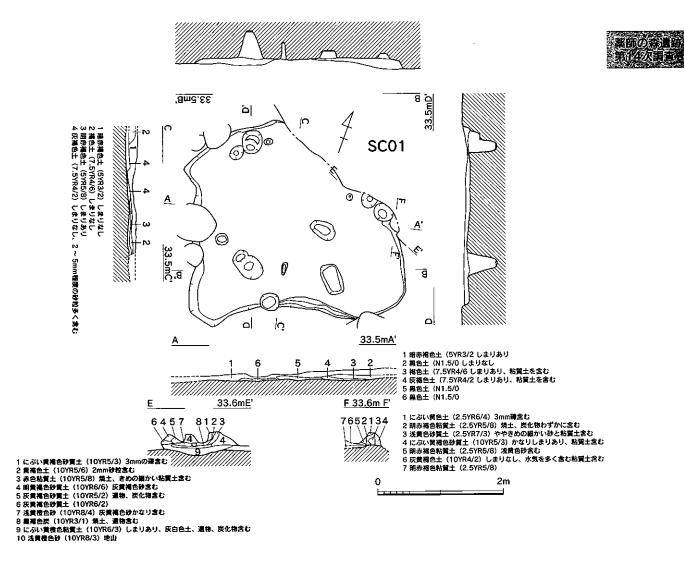
調査区東半部の東側で検出された。SC01に後出する。平面プランは長楕円形で、床面にピットを有し、南東側にテラスを有する。土坑の規模は、長さ2.6m、幅0.8m、検出面からの深さ約10cmを測る。埋土は灰黄褐色土が堆積する。遺物は須恵器、土師器が出土したが、図化できるものはなかった。

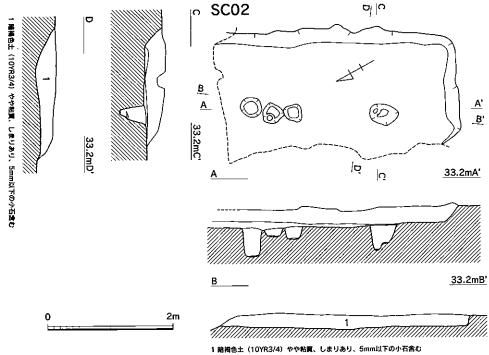
SX16 (第58図、図版32)

調査区東半部の南東側で検出された。平面プランは不整方形で、遺構の南側が調査区外に続く。 床面は東から西にむかって緩やかに低くなり、ピットを有する。土坑の規模は、現状で長さ2.9m、幅1.0m、検出面からの深さ18cmを測る。埋土は黄褐色土で、約40cmの礫や細かい炭化物が入る。 遺物は須恵器、土師器、染付けを施した陶磁器が出土したが、図化できるものはなかった。

SX18 (第57図、図版32)

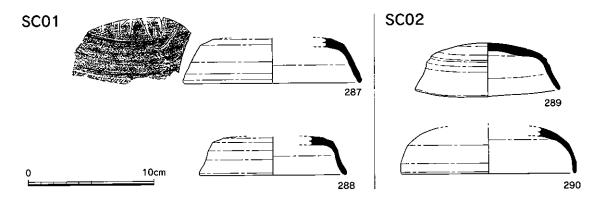
調査区東半部のSD01内の東壁立ち上がり部分で検出された礫群である。礫は拳大~人頭大の大きさで、列状に検出されたが、礫を規則的に敷き詰めたような状況ではなく、溝がある程度埋まった時期に廃棄されたと考えられる。礫の検出された範囲は、長さ1.9m、幅0.5m、検出面からの深さ25cm、溝の床面からの高さ30cmである。なお、礫に混じって遺物が出土した。



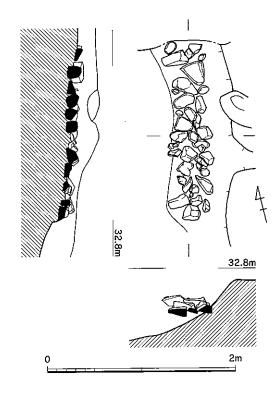


第55図 第14次調査SC01·02実測図(1/60)





第56図 第14次調査SC01 · 02出土遺物実測図(1/3)



第57図 第14次調査 SX18実測図 (1 / 40)

出土遺物 (第61図、図版57)

青磁 (291) 龍泉窯系青磁椀 I 類の底部片である。 内面見込みに片彫りによる文様を施す。

白磁 (292) 白磁皿 I-1 類である。釉は底部外面には施されない。口縁端部は折り曲げて肥厚させる。 SX19 (第58図、図版32)

調査区東半部中央付近で検出された。埋土は炭化物がかなり混じり、しまりのない褐色土であった。平面プランは不整長楕円形で、南側に広いテラスを有する。土坑の規模は、長軸2.5m、短軸1.3m、検出面からの深さ10cmを測る。図化したもの以外に土師器が出土している。

出土遺物 (第61図、図版57·58)

白磁 (293) 中国製白磁皿の完形品である。高台に 4箇所、孤状に抉り込みを入れる。内面見込みには4 箇所の目跡が残る。

鉄製品 (294) 鉄鎌の完形品である。刃部はわずか

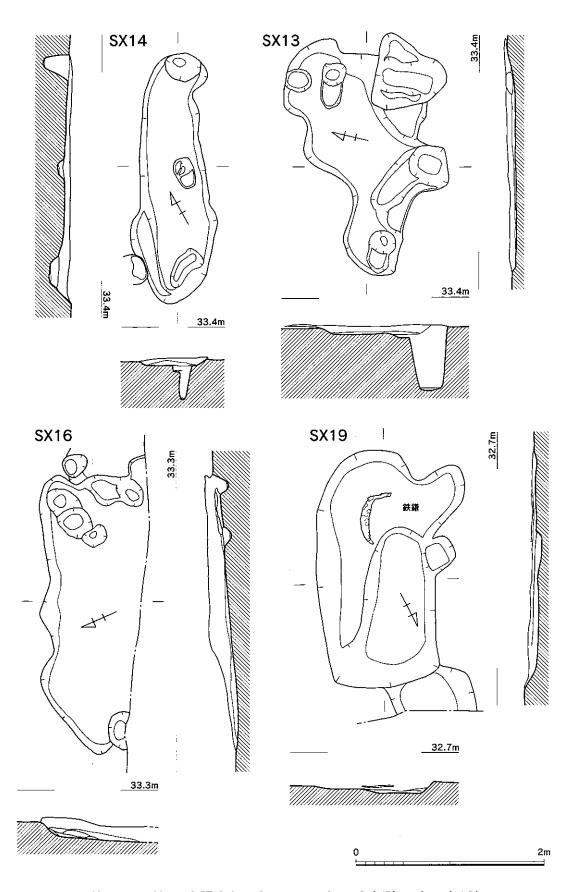
に湾曲し、柄部は直線的である。

SX20 (第59図、図版33)

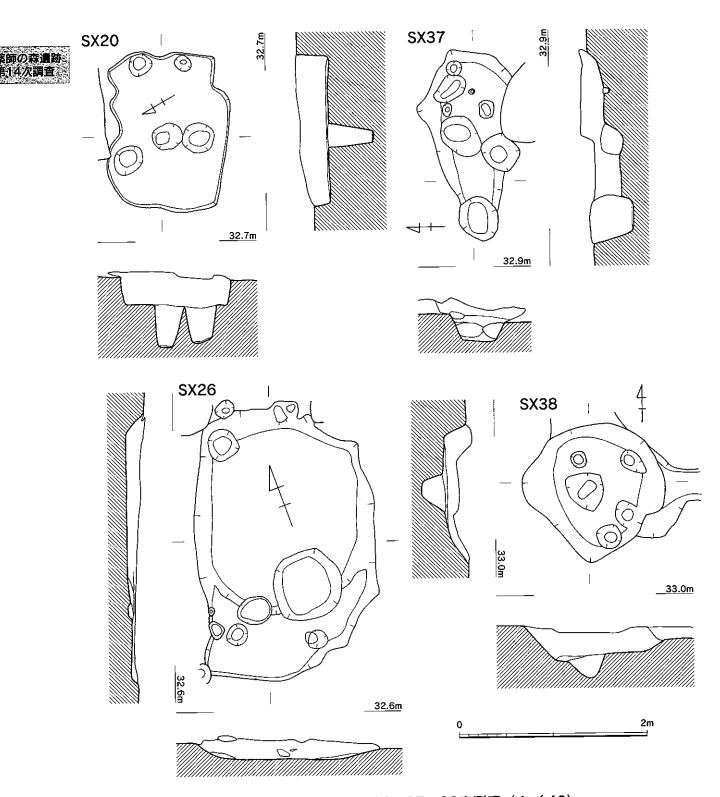
調査区東半部、南西側で検出された。平面プランは不整方形である。床面は平坦で、直径約30cm、深さ約50cmのピットを3基有する。土坑の規模は、長さ1.6m、幅1.2m、検出面からの深さ30cmを測る。埋土は黄褐色土でしまりがある。遺物は須恵器、土師器皿、陶器製擂鉢、染付けを施した陶磁器が出土したが、図化できるものはなかった。

SX21 (第59図、図版29)

調査区南西端で検出された。平面プランは不整形を呈し、長さ約1.1m、深さ約20cmを測る。 図化したもの以外に須恵器、土師器皿、龍泉窯系青磁が出土している。



第58図 第14次調査SX13·14·16·19実測図(1/40)



第59図 第14次調査SX20·26·37·38実測図(1/40)

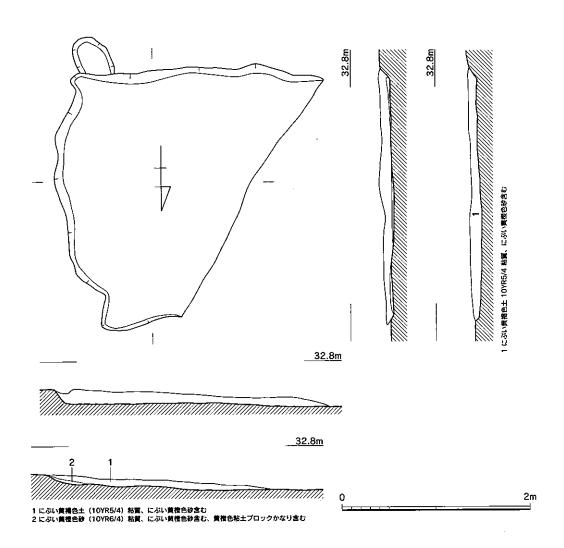
出土遺物 (第61図、図版58)

須恵器 (295) 甕の頸部片である。連続刺突文の下に3条の沈線を施す。

SX24 (第59図、図版29)

SX26の西側にあった土坑であるが、深さ5cm程度と浅く、遺構実測時には消失してしまった。 長楕円形の平面で、長さ約2m程であった。図化したもの以外に須恵器、土師器皿、染付けを施し





第60図 第14次調査SX65実測図(1/40)

た陶磁器などが出土している。

出土遺物 (第61図)

土師器 (296) 皿である。底部糸切り後、板状圧痕が残る。

SX25 (第51図、図版29)

SX26の東に位置する、不整土坑である。長さ約1.8m、幅約1m、深さ約5cmを測る。図化したもの以外に土師器、龍泉窯系青磁が出土している。

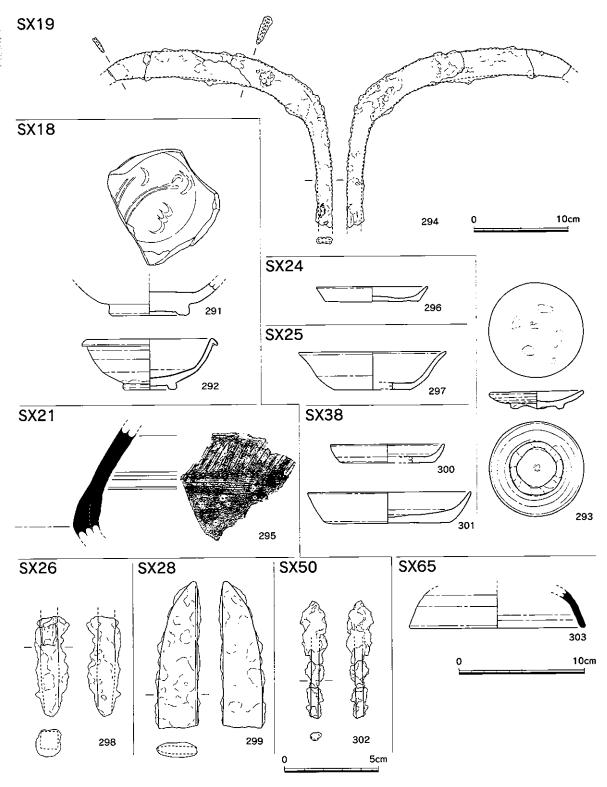
出土遺物 (第61図、図版57)

白磁 (297) 白磁 Ⅲ IX-1 類である。口縁端部が口禿げになる。底部は平底で、板状の工具で釉をのばした痕跡が残る。

SX26 (第59図、図版33)

調査区西半部、南側で検出された。平面プランは不整方形である。床面は平坦で、南側にテラスを有し、底面から5基のピットが検出された。土坑の規模は、長さ2.9m、幅1.9m、検出面からの深さ8~20cmを測る。埋土は黄褐色土でしまりがある。遺物は図化したもの以外に、須恵器、土師皿、陶器製擂鉢、龍泉窯系青磁が出土した。





第61図 第14次調査SX出土遺物実測図(294は1/4、298·299·302は1/2、他は1/3)

出土遺物 (第61図)

鉄製品 (298) 小片で全体は不明である。鉄鏃の茎部と思われる。

SX28 (第51図、図版29)

SX20とSX26の間で検出された。平面不整円形で、直径約65m、深さ30cmを測る。底面に直径約30cm、床面からの深さ約15cmのピットが掘り込まれる。遺物は図化したのも以外に、土師器、

龍泉窯系青磁が出土した。

出土遺物 (第61図、図版58)

鉄製品(299) 刀子か刀の切先と思われる。刃部のほとんどを欠損しているため詳細は不明である。

SX37 (第59図、図版29)

調査区西半部、南側で検出された。平面プランは長楕円形である。床面は東側が一段高いテラスになり、西側床面より15cmほど高い。土坑中央には2基のピットが検出され、東側のテラスにもピットが検出された。土坑の規模は、長さ1.5m、幅0.8m、検出面からの深さ8~20cmを測る。埋土はしまりのある黄褐色土で炭化物がかなり混じる。遺物は須恵器、土師器が出土したが、図化できるものはなかった。

SX38 (第59図、図版33)

調査区西半部、南東側で検出された。平面プランは不整円形である。床面は平坦で、5基のピットが検出された。土坑の規模は、長さ1.5m、幅1.4m、検出面からの深さ40cmを測る。埋土はしまりのある黄褐色土で炭化物がかなり混じる。遺物は図化したもの以外に、須恵器、土師器が出土した。

出土遺物 (第61図、図版58)

土師器 (300・301) 300は皿、301は杯である。いずれも底部糸切りで、その他に回転ナデを施す。

SX50 (第51図、図版29)

調査区西半部、中央付近で検出された。平面プランは直径約1m、深さ約5cmの不整円形を呈する。底面に直径約50cm、深さ約20cmのピットが1基掘り込まれる。遺物は図化したもの以外に、 須恵器、土師器、龍泉窯系青磁が出土した。

出土遺物 (第61図)

鉄製品 (302) 錆膨れが著しく、詳細は不明であるが、鉄鏃の茎部の可能性がある。

SX65 (第60図、図版34)

調査区西半部、中央西側で検出された。平面プランは不整方形を呈する。遺構の西側は削平されており、東辺と南辺の一部のみを検出した。現状で南北の一辺が3.5m、東西の一辺が1.7mを測り、深さは検出面から15cmを測る。床面は平坦である。平面プランから、竪穴住居跡の可能性も考えられるが、主柱穴・カマドなどが存在しないことから、積極的に住居跡とする根拠がない。遺物は図化したもの以外に、土師器が出土した。

出土遺物 (第61図)

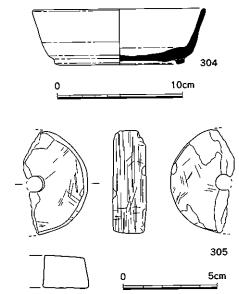
須恵器 (303) 坏H蓋の口縁部である。内外面共に回転ナデを施す。口縁端部のみを著しく磨耗 している。

(4) 溝状遺構

SD01 (第51図、図版29)

調査区東半部で検出された溝状遺構である。当地は南側が谷部となるため、急斜面であるが、そ





第62図 第14次調査SD14出土遺物 実測図(305は2/3、304は1/3)

れに直行するように南北に伸びる。北側は調査区外へ伸び、南側は斜面になっており、消失する。現状で、長さ約3.0m、幅約1.4m、深さ約50cmを測る。土層観察では流滞水は確認できなかった。当調査地西側の遺構密度を勘案すると、中世段階の区画溝の可能性も考えられる。遺物は、須恵器、土師皿、龍泉窯系青磁、瓦が出土したが、図化できるようなものはなかった。

SD14 (第51図、図版34)

調査区西半部中央、第1面で検出された溝状遺構である。SD12に切られ、南北に直線的に伸びる。幅約30cm、深さ約15cmを測る。遺物は図化したもの以外に、土師器、染付けを施した陶磁器が出土した。

出土遺物 (第62図、図版58)

須恵器(304) 杯B身である。器高は低く、高台も低い。

底部は平坦で、高台は端部より内側につき、体部との境は明瞭である。

石製品 (305) 滑石製紡錘車である。断面台形を呈し、ほぼ半分を欠損している。

(5) ピット・その他の出土遺物

SP84 (第51図、図版29)

調査区東半部中央付近、SX19の西側で検出された。平面プランは円形で、直径約42cm、深さ約59cmを測る。

出土遺物 (第63図)

白磁 (306) 白磁椀W-1類の底部片である。内面見込みは釉を環状に掻き取っているが、段はつかない。高台はV類の高台部を短く切ったような形である。

SP114 (第51図、図版29)

調査区東半部西側、SX26の南東で検出された。平面プランは楕円形で、直径約30cm、深さ約37cmを測る。

出土遺物 (第63図)

青磁 (307) 龍泉窯系青磁皿 I-2 c類である。内面見込みには櫛目による文様が施される。底部 外面は焼成前に釉を掻き取っている。

SP129 (第51図、図版29)

調査区東半部西側、SX26の東側で検出された。平面プランは楕円形で、直径約50cm、深さ約51cmを測る。

出土遺物 (第63図)

土師器 (308) 杯である。底部外面は糸切りである。

SP132 (第51図、図版29)

調査区東半部西側、SX26の東側で検出された。平面プランは楕円形で、直径約40cm、深さ約32cmを測る。



出土遺物 (第63図)

土師器 (309) 杯である。底部外面は糸切りである。

SP158 (第51図、図版29)

調査区東半部西南隅で検出された。平面プランは円形で、直径約22cm、深さ約46cmを測る。

出土遺物 (第63図)

鉄製品(310) 板状の鉄を湾曲させているが、どのような製品なのかは不明である。

SP170 (第51図、図版29)

調査区東半部西側、SX26の西側で検出された。平面プランは楕円形で、直径約40cm、深さ約63cmを測る。

出土遺物 (第63図)

白磁(311) 白磁椀V類と思われる口縁部片。外面は口縁部近くまでヘラケズリが施される。内面には櫛目文がわずかに確認できる。

SP191 (第51図、図版29)

調査区東半部西側、SX26の北側で検出された。大きめのピットである。平面プランは不整楕円形で、長さ約1.2m、幅約78cm、深さ約30cmを測る。二段のテラスがつく。

出土遺物 (第63図、図版58)

土師器(312) 皿である。底部は糸切り。

SP192 (第51図、図版29)

調査区東半部西側で検出された。SP191に切られる。平面プランは楕円形で、直径約24cm、深 さ約30cmを測る。

出土遺物 (第63図)

青磁 (313) 龍泉窯系青磁椀Ⅱ-a類の口縁部片である。鎬のない片彫り蓮弁文を外面に描く。

SP201 (第51図、図版29)

調査区東半部西側、SX28の北側で検出された。平面プランは楕円形で、直径約30cm、深さ約40cmを測る。

出土遺物 (第63図)

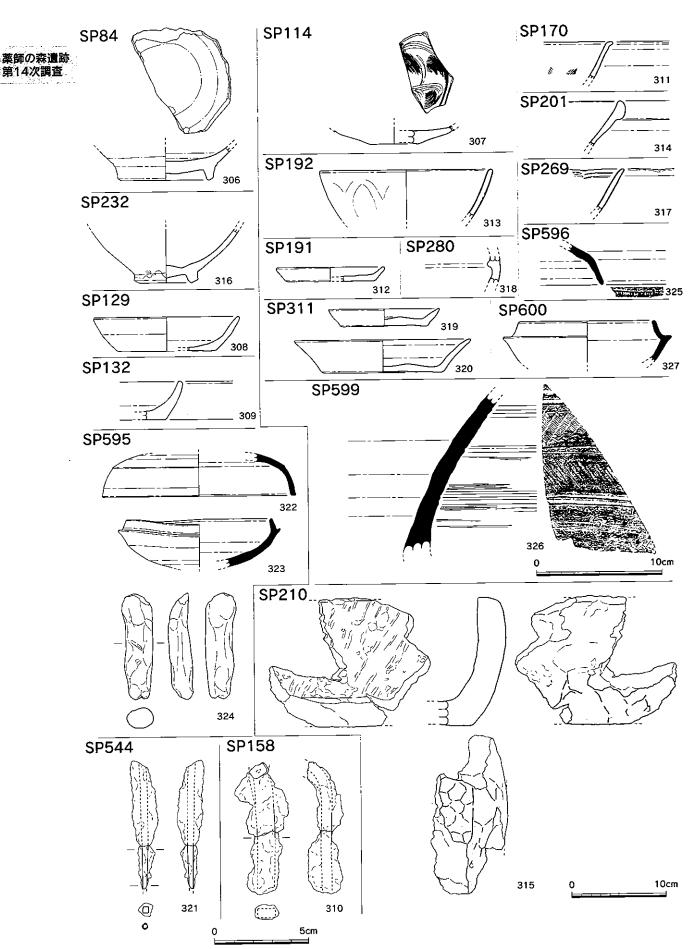
白磁(314) 白磁Ⅳ類の口縁部片である。玉縁は大きく、厚い。外面は玉縁直下まで回転ヘラケズリを施す。

SP210 (第51図、図版29)

調査区東半部西側、SP201の北側で検出された。平面プランは長楕円形で、長さ約50cm、幅約30cm、深さ約50cmを測る。

出土遺物 (第63図、図版58)

石製品(315) 滑石製石鍋の底部片である。石材自体はあまり質が良くない。底部外面に二次焼



第63図 第14次調査SP出土遺物実測図(310·323は1/2、315は1/4、他は1/3)

成を受ける。

SP232 (第51図、図版29)



調査区東半部西側、SX33の南側で検出された。平面プランは円形で、直径約35cm、深さ約25cmを測る。

出土遺物 (第63図)

白磁(316) 白磁楠IX-2a類の底部片である。内面見込みに高台径よりも小さな圏線を持ち、内面底部中心は凸状に膨らんでいる。高台は短く、径も小さい。高台に一部釉垂れする。

SP269(第51図、図版29)

調査区東半部西側、SX41の西側で検出された。平面プランは長楕円形で、長さ約39cm、幅約24cm、深さ約50cmを測る。

出土遺物 (第63図)

青磁 (317) 龍泉窯系青磁椀 I-4b類の口縁部である。口縁端部に輪花を有し、内面には二枚片 刀による文様を入れる。

SP280 (第51図、図版29)

調査区東半部西側、SP269の西側で検出された。平面プランは円形で、直径約40cm、深さ約45cmを測る。

出土遺物 (第63図)

陶器 (318) 中国製陶器鉢 I-1 類の口縁部片である。胎土は白色砂を多く含み、粗い。口縁部 内面に一条の突起を有する。

SP311 (第51図、図版29)

調査区東半部西側、SX33の西側で検出された。平面プランは楕円形で、溝状遺構に遺構の半分を切られる。直径約60cm、深さ約32cmを測る。

出土遺物 (第63図、図版58)

土師器 (319・320) 319は皿、320は杯である。いずれも底部糸切りを施す。320には灯明痕がみられる。

SP544 (第51図、図版29)

調査区西半部東側、SX50の東側で検出された。平面プランは円形で、直径約60cm、深さ約25cmを測る。

出土遺物 (第63図)

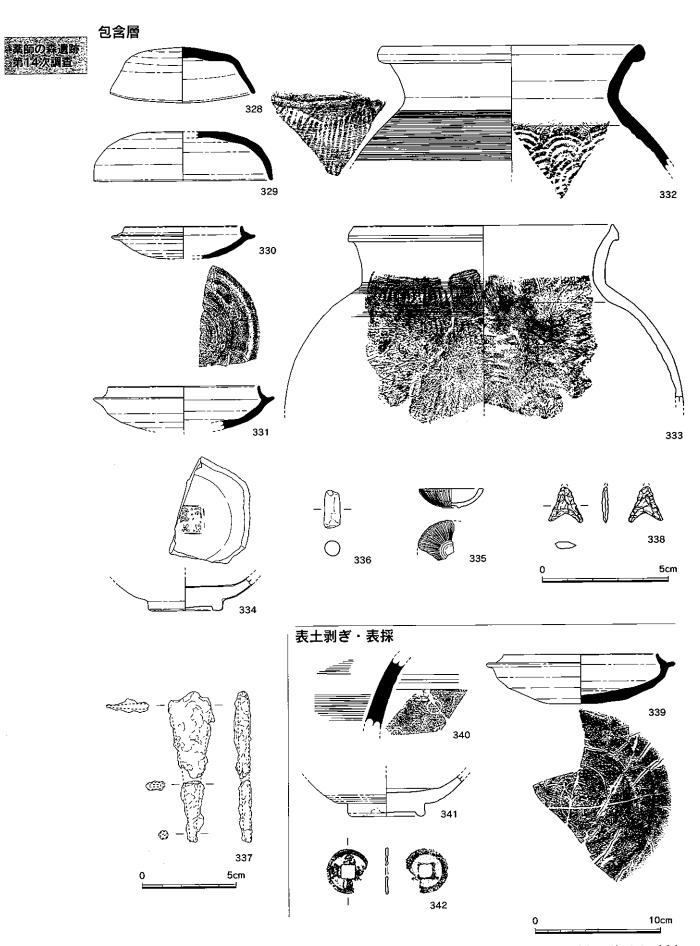
鉄製品(321) 棒状の鉄器である。鉄鏃の茎部と思われる。

SP595 (第51図、図版29)

調査区西半部西側、SD14の西側で検出された。平面プランは円形で、直径約24cm、深さ約12cmを測る。

出土遺物 (第63図、図版58)

須恵器 (322・323) 322は杯H蓋である。口縁端部はシャープで、平らな面をつくる。323は杯H身である。底部外面に回転ヘラケズリを施す。焼け歪みが著しい。



第64図 第14次調査包含層ほか出土遺物実測図(337は1/2、338は2/3、他は1/3)

土師器 (324) 甑の桟である。全体的にナデ調整だが、わずかに工具痕、布目が確認できる。 SP596 (第51図、図版29)

調査区西半部西側、SP595の東側で検出された。埋土から撹乱と判断した。平面プランは不整 楕円形で、長さ約90cm、幅約45cm、深さ約35cmを測る。

出土遺物 (第63図)

須恵器 (325) 杯H蓋である。内外面共に回転ナデを施し、口唇部外面に細かい刻目を入れる。 **SP599** (第51図、図版29)

調査区西半部中央、SB02内で検出された。平面プランは円形で、直径約26cm、深さ約23cmを 測る。

出土遺物 (第63図)

須恵器 (326) 整の頸部である。文様帯3段で、1・2段目に波状文、3段目に連続斜線文を施す。 波状文は沈線を廻らせる前に施され、連続斜線文は沈線を廻らせて文様帯をつくった後に施される。 **SP600** (第51図、図版29)

調査区西半部中央、SB02内で検出された。平面プランは長楕円形で、長さ約70cm、幅約59cm、深さ約45cmを測る。

出土遺物 (第63図)

須恵器 (327) 杯H身の口縁部である。口縁部の立ち上がりが1cm以上でやや高い。

包含層出土遺物 (第64図、図版59)

須恵器(328~332) 328は杯H蓋である。杯G身と迷ったが、蓋で報告する。天井部外面に回転ヘラケズリ後、不定方向のナデを施す。焼け歪みが激しい。329は杯H蓋で、天井部外面に回転ヘラケズリ、その他に回転ナデを施す。330は杯H身である。底部外面は回転ヘラケズリを施し、ヘラ記号が見られる。331は杯H身である。口縁部の立ち上がりはやや高い。底部外面に回転ヘラケズリ、その他は回転ナデを施す。332は甕である。肩部内面から下に同心円当て具痕が残る。肩部外面には平行タタキを消すようにカキメが施される。

土師器 (333) 甕である。肩部外面より下に平行タタキ、内面には同心円当て具痕が残る。

陶磁器(334・335) 334は龍泉窯系青磁椀 I-1 c類の底部片である。内面見込みに「河濱遺範」の文字印文が施される。高台畳付けには一部釉がかかる。釉は厚く透明である。335は磁器の紅皿である。口縁端部は水平に切られる。体部の途中まで釉がかかり、高台は露胎である。

土製品(336) 棒状の不明土製品である。

鉄器 (337) 鉄鏃の鏃身部と思われる。断面は扁平で、茎部から鏃身にむかって直線的に広がる 形状である。錆膨れが著しい。

石器 (338) 安山岩製石鏃である。先端部を一部欠損している。

表土剥ぎ・表採遺物 (第64図、図版59)

須恵器 (339·340) 339は杯H身である。底部外面には体部にまでヘラケズリが施され、底部



外面にはヘラ記号がみられる。340は甕の頸部片である。外面にカキメ後波状文を施し、最後に竹管文を施文する。竹管文は3箇所確認できる。内面にはカキメを施す。

青磁 (341) 龍泉窯系青磁椀 I-1 a類の底部片である。高台畳付けは釉を削り取るものの、一部 に残る。底部の高台内部は刳りが浅く、露胎であるが、一部に釉がかかる。釉は薄く均一にかかる。 銭 (342) 北宋1086年初鋳「元柘通寶」行書の銅銭で、一部を欠損している。

3. 小結

第14次調査では、縄文時代~鎌倉時代の遺物が出土し、古墳時代後期と平安時代~室町時代の遺構を主体としている。以下、主要な遺構・遺物について時期ごとに述べる。

古墳時代

遺構は、SB01・02、SC01・02がある。SB01はIVB期(7世紀前半)、SB02はIIB期(6世紀後半)の須恵器が出土している。平面精査では切り合い関係を確認できなかったが、出土遺物からSB02がSB01に前出するものと思われる。SC01・02はIVB期(7世紀前半)の須恵器が出土している。

平安時代~室町時代

遺構は、溝状遺構、土坑多数、ピット多数を調査区南西側で密に検出した。当該期の出土遺物は 陶磁器・土師器がほとんどで、古いものは11世紀後半まで遡るが、SX19では15世紀の白磁皿が 出土した。

薬師の森遺跡第19次調査

VI. 薬師の森遺跡第19次調査

1. 調査概要



薬師の森遺跡第19次調査地は区画整理事業地中央南側にあたり、大野城市乙金3丁目385、387 (小字:原口) に所在する。調査面積は1,090㎡を測る。調査地は四王寺山から西側にむかって舌状に派生する丘陵尾根部で、調査区は西および南北側にむかって緩やかな斜面となっている。当地の調査前の状況は原野であったが、尾根の平坦部は過去に畑地などの土地利用が予想された。そのため、尾根部はすでにかなり削平されていると考えられる。東には薬師の森遺跡第4次調査、南には薬師の森遺跡第3次調査が隣接している。発掘調査は、平成22年6月26日に調査区南東側からバックホーを用いた表土剥ぎをおこなった。バックホーにて約80cmの表土を除去すると明赤褐色粘土 (地山) が現れ、これを切り込んで黄褐色土の埋土をもつ遺構が検出された。そのため、これを遺構検出面と認識し、表土剥ぎを進めた。7月5日からは、作業員・機材を投入し、それと並行して写真撮影・遺構実測をおこない、9月10日に調査を終了した。すでに削平されたと思われる丘陵尾根部では、遺構がほとんど検出されず、比較的残りの良い南北の緩やかな斜面上にやや密に展開するような状況で、竪穴住居1軒・掘立柱建物3棟・土坑6基・溝状遺構1条・ピット多数を検出した。遺物は土師器・須恵器・陶磁器・石器・瓦などがパンケース1箱分出土した。

2. 遺構と遺物

(1) 掘立柱建物

SB01 (第66図、図版35·36)

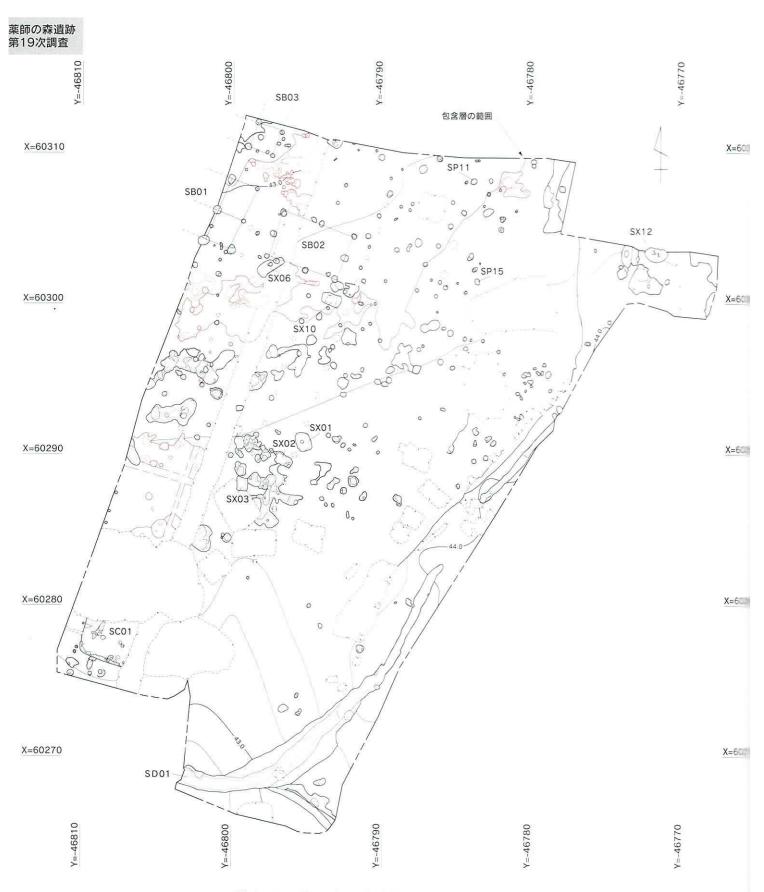
調査区西北に位置する掘立柱建物である。現状で1 間×2 間の長方形プランで、おそらく調査区外に続くと考えられる。南北方向を桁行きとするならば、現状で桁行き5.2m、梁行き2.6mの規模で、面積は13.5mである。柱穴掘り方は、直径 $30\sim70$ cm前後の不整楕円形、円形の平面プランを呈し、検出面からの深さは約 $25\sim65$ cmを測る。桁行きの主軸方向は $N-25^\circ-E$ を指す。柱痕は $P1\sim4$ で検出された。P6は断面2段掘りとなっている。遺物は平瓦が出土した。

出土遺物 (第70図、図版60)

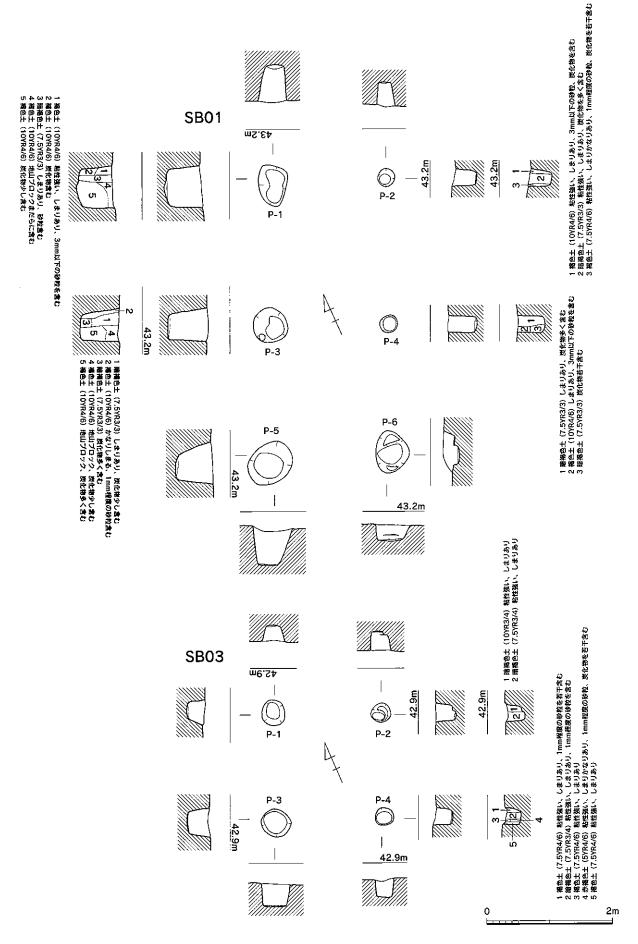
瓦(343) 平瓦である。凹面には布目痕、凸面には格子目タタキが認められるが、全体的に摩滅 している。また、凸面には「王」らしき字が微かに認められる。「四王」の「王」か。

SB02 (第67図、図版35·36)

調査区の北側に位置する掘立柱建物で、2間×2間の長方形プランの側柱建物である。桁行き 5.3m、梁行き3.6mの規模で、面積は19mである。桁行きの主軸方向はE-20°-Sを指す。柱痕は 平面・断面で観察したものの、確認できなかった。柱穴掘り方は、いずれも約 $30\sim50$ m前後の不整楕円形の平面プランを呈し、検出面からの深さは約 $25\sim60$ cmを測る。 $P2\cdot3\cdot4\cdot8$ は断面2段掘りとなっている。遺物は土師器が出土した。

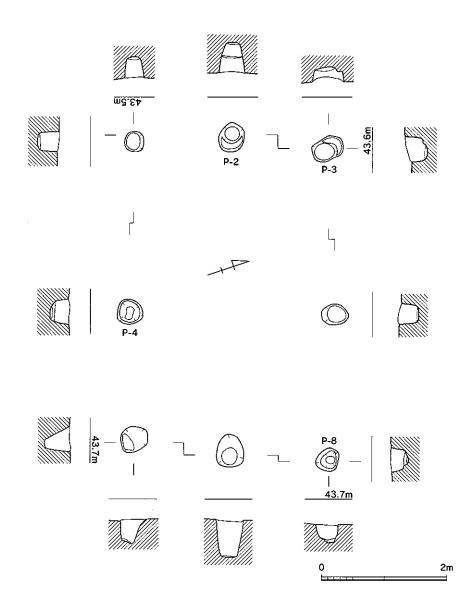


第65図 第19次調査遺構配置図(1/250)



第66図 第19次調査SB01·03実測図(1/60)





第67図 第19次調査SB02 実測図 (1/60)

SB03 (第66図、図版35·36)

調査区の北西隅に位置する掘立柱建物である。現状では1間×1間の方形プランしか確認できず、その他の柱は調査区外に続くと思われる。南北方向を桁行きとするならば、現状で桁行き2.2m、梁行き2.1mの規模で、面積は4.6mである。桁行きの主軸方向はN-24°-Eを指す。柱痕はP2・4で確認できた。柱穴掘り方は、いずれも30~45cm前後の楕円形の平面プランを呈し、検出面からの深さは約30cmを測る。P2は断面2段掘りとなっている。遺物は土師器、黒曜石が出土した。

(2) 竪穴住居

SC01 (第68図、図版37)

調査区南西端に位置する竪穴住居である。平面プランは方形と思われるが、西側・南側の一辺が一部消失し、東側・北側の一辺は完全に消失しているため詳細は不明である。現状で、西側の一辺が約2.2m、南側の一辺が約3.1mを測り、住居の深さは残りが良いところで検出面から13cmを測



る。貼り床は黄褐色の粘質土が3cm

の厚さで貼られていた。主柱穴は2基 検出され、いずれも柱痕を確認できな

かったが、直径20 ~ 30cmの円形を 呈し、床面からの深さ約20 ~ 40cm

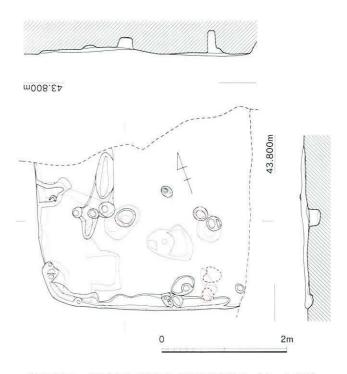
を測る。壁溝は南側の一辺で一部を検 出したのみで、長さ約3.2m、幅約

20cm、深さ約5cmを測る。西側の一 辺では、検出時にカマドの袖部と思わ れる黄褐色粘質土が一部確認された が、焼土・炭化物・支脚・煙道などが

確認できなかったため、カマドとは断

定できない。貼り床下には、直径約 20cm ~ 70cm、深さ約10 ~ 40cm

のピット6基、長さ約1.8m、深さ約



第68図 第19次調査SC01実測図(1/60)

10cmの土坑が検出された。

出土遺物 (第70図、図版60)

須恵器(344・345) 344は高杯の杯部である。体部と杯底部の境に段を有する。345は甕の口縁部である。口縁端部を肥厚させ、直下に波状文を施す。

土師器(346・347) 346は椀である。体部は直線的ではあるものの、やや湾曲しながら開く形態で、器高は高い。平底の底部には、断面四角形の高台をやや外側に開くように貼り付ける。内外面共に摩滅が著しく、調整は不明である。347は甑の把手部である。把手部の先端を欠損する。外面はナデ、内面はヘラケズリを施す。

(3) 土坑

SX01 (第69図、図版38)

調査区中央付近で検出された土坑である。平面プランは楕円長方形を呈し、長さ約1.3m、幅約1m、検出面からの深さ約25cmを測る。立ち上がりは急勾配で断面逆台形を呈する。底面は平坦で、床面には直径25cm、床面からの深さ約40cmの円形ピットが中央に1基掘り込まれる。土層観察の結果、埋土はかなりしまりのある黄褐色土で、自然堆積した状況である。ピットには杭などが打ち込まれた痕跡はなく、土坑の深さも浅いが、上面が削平された可能性を考えると、おとし穴状遺構の可能性が考えられる。

出土遺物 (第70図、図版60)

石器(348) 黒曜石製の二次加工剥片である。主要剥離面を残す。

SX02 (第69図、図版39)

調査区中央南側、SX01の南で検出された土坑である。平面プランは不整長方形を呈し、長さ約

薬師の森遺跡 第19次調査 1.2m、幅約0.7m、検出面からの深さ約40cmを測る。立ち上がりはオーバーハング気味の急勾配で断面逆台形を呈する。底面は平坦である。土層観察の結果、埋土はかなりしまりのある黄褐色土で、自然堆積した状況であった。出土遺物はなかった。

SX03 (第69図、図版40)

調査区中央南側、SX02の南で検出された土坑である。遺構の半分は撹乱され、撹乱された部分は底面のみ残っている状況であった。平面プランはおそらく長方形を呈し、現状で長さ約0.9m、幅約0.7m、検出面からの深さ約0.7mを測る。立ち上がりは急勾配で断面逆台形を呈する。底面は平坦で長方形を呈する。土層観察の結果、埋土はかなりしまりのある黄褐色土で、自然堆積した状況であった。

出土遺物 (第70図、図版60)

石器 (349) 安山岩製の石鏃である。ほぼ半分を欠損している。全体形は三角形を呈すると思われる。

SX06 (第69図、図版41)

調査区中央で検出された。2基のピットに前出する土坑である。土坑の半分は撹乱されるものの、 平面プランは隅丸長方形を呈し、長さ約1.8m、幅約0.9m、検出面からの深さ約40cmを測る。立 ち上がりはやや緩やかである。底面は平坦で隅丸長方形を呈する。土層観察の結果、埋土は黄褐色 土で、自然堆積した状況であった。

出土遺物 (第70図、図版60)

石器 (350) 黒曜石製の石鏃である。全体形はやや丸みを帯びた三角形を呈し、基部に深い抉りが入る。片方の脚部を欠損する。

SX10 (第69図、図版42)

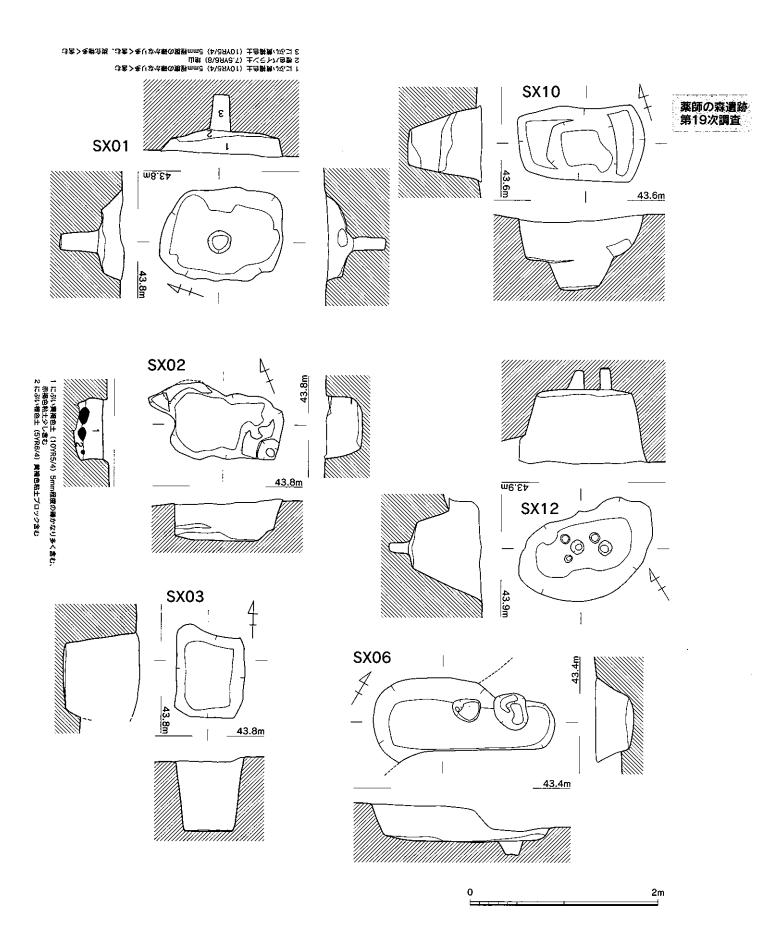
調査区中央北側で検出された土坑である。平面プランは長方形を呈し、長さ約1.3m、幅約0.8m、 検出面からの深さ約0.7mを測る。立ち上がりはやや急勾配で土坑中位にテラスがつき、底面にや や大きめのピット1基が掘り込まれる。土層観察では、ピットの部分で杭などの痕跡は確認できず、 杭の有無は不明である。埋土はかなりしまりのある黄褐色土で、自然堆積した状況であった。出土 遺物は黒曜石のみで、底面ピットの検出状況から、おとし穴状遺構の可能性も考えられる。

SX12 (第69図、図版42)

調査区北東側、調査区から一段高い場所で検出された土坑である。土坑の半分は掘削され上面が消失している。平面プランは不整楕円形を呈し、長さ約1.5m、幅約0.9m、検出面からの深さ約0.8mを測る。立ち上がりはやや急勾配で底面は平坦である。土坑底面には円形のピットが5基掘り込まれるが、土層観察の結果、杭などの痕跡は確認できなかった。埋土はかなりしまりのある黄褐色土で、自然堆積した状況であった。出土遺物は黒曜石のみで、底面ピットの検出状況から、おとし穴状遺構の可能性も考えられる。出土遺物は黒曜石製のチップ1点である。

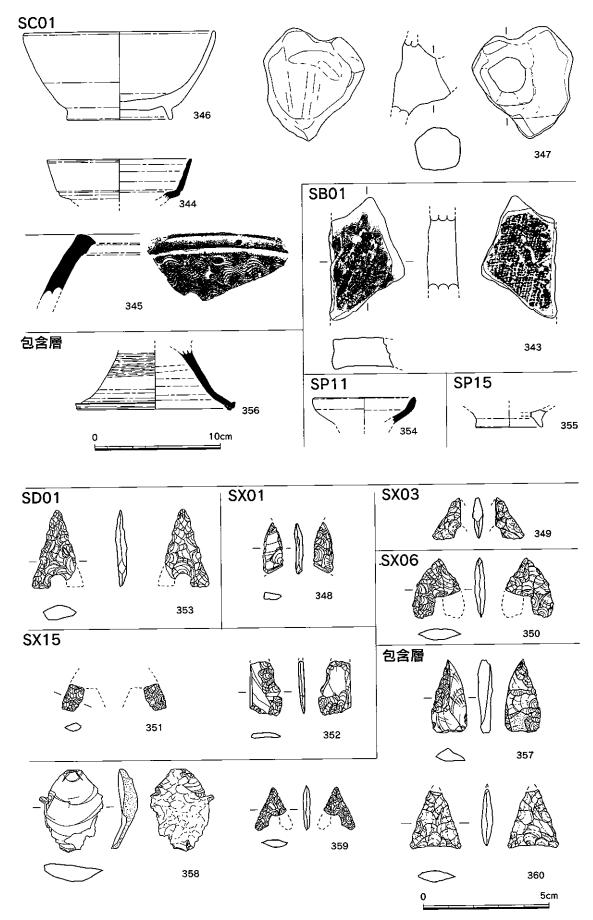
SX15 (第65図、図版35)

調査区北西端に位置する。平面プランは不整形を呈し、長さ約1.2m、幅約0.7m、検出面からの深さ約0.2mを測る。埋土はかなりしまりのある黄褐色土で、自然堆積した状況であった。出土遺



第69図 第19次調査SX01 ~ 03·06·10·12実測図 (1/60)





第70図 第19次調査出土遺物実測図(348~353·357~360は2/3、他は1/3)

物は黒曜石のみである。

出土遺物 (第70図、図版60)

石器 (351·352) 351 は黒曜石製の石鏃脚部片である。全体形は不明であるが、抉りの深いも **薬師の森遺跡** のと思われる。352は黒曜石製の二次加工剥片で、表裏とも主要剥離面を残すが、側面調整を片方 に行う。



(4) 溝状遺構

SD01 (第65図、図版35)

調査区西側から南西に走り、湾曲しながら調査区外にのびる。北東側は標高44.0m、南西側は 標高42.6mを測り、北東から南西へ緩やかに標高が下がる。高所の西側で幅約70cm、深さ約 10cm、南東側で最大幅約2.4m、深さ約35cmを測り、溝の断面は逆台形状を呈する。埋土は暗褐 色土で、しまりがない。土層精査の結果、流滞水の状況は見られなかった。遺物は図化したもの以 外に、近代の瓦が出土した。

出土遺物 (第70図、図版60)

石器(353) 黒曜石製の石鏃である。片方の脚部を欠損する。全体形は三角形を呈し、基部にや や内湾した小さな抉りが入る。

(5) ピット・その他の出土遺物

SP11 (第65図、図版35)

調査区北西端に位置する。平面プランは円形を呈し、直径約45cm、深さ約10cmを測る。人頭 大の石がピットの中にあったが、根石かどうかはわからなかった。

出土遺物 (第70図、図版60)

須恵器(354) 瓶の口縁部である。外反しながら立ち上がり、口縁端部で上方へ折れ曲がる。 SP15 (第65図、図版35)

調査区北西側に位置する。平面プランは楕円形を呈し、直径約40cm、検出面からの深さ約 25cmを測る。

出土遺物 (第70回、図版60)

土師器(355) 椀の高台部である。高台は体部との境目がない場所にやや斜めにつけられる。高 台端部は丸く仕上げられている。

包含層出土遺物 (第70図、図版60)

包含層からはチップ類を主体に総数36点の石器が出土した。本来なら2m程度のグリッドごと に掘り下げを行い、遺物の出土状況を記録するべきであるが、時間的な制約があり、できなかった。 また、1日作業を実施しても、数点の石器が出土するのみであったため、調査区北東付近の包含層 は掘り下げを諦め、包含層の範囲のみを確認して調査を終了した。

須恵器(356) 掘り残した遺構から出土したと思われる、高杯の脚部である。

薬師の森遺跡 第19次調査 石器 (357~360) 357は黒曜石製の二次加工剥片である。主要剥離面、自然面をかなり残す。 358は黒曜石製の剥片である。円礫の自然面を残した剥片である。359は黒曜石製の石鏃である。 全体形は三角形を呈し、基部にやや内湾した抉りが入る。片方の脚部を欠損する。360は安山岩製の石鏃である。基部は平基で、全体形は二等辺三角形を呈する。先端部を欠損する。

3. 小結

第19次調査では、縄文時代~平安時代の遺物が出土し、縄文時代~平安時代の遺構を検出した。 以下、主要な遺構・遺物について時期ごとに述べる。

縄文時代

この時期の遺構と思われるものに、 $SX01\cdot02\cdot03\cdot10\cdot12$ がある。いずれも長さ約 $1.0\sim1.5$ m の平面楕円形プランを呈し、埋土にはかなりしまった黄褐色土が自然堆積している。出土遺物は、石鏃($349\cdot351$)、二次加工剥片($348\cdot352$)など、石器のみであった。 $SX01\cdot12$ には底面にピットが掘りこまれており、落とし穴状遺構の可能性も考えられる。SX15は上記の遺構と同様の埋土であったが、平面プランがはっきりせず、自然の落ち込みのようなものと考えられる。

古墳時代~平安時代

遺構は、SB01・02・03、SC01が検出された。SB01からは平安時代の平瓦、SB02・03からは土師器が出土している。SC01は須恵器、土師器椀などが出土している。土師器椀は、9世紀代の所産と考えられるが、当該期の竪穴住居の存在は疑わしい。そのため、土師器椀は住居跡に切り込む遺構に伴うものと思われ、それを見逃した可能性が高い。なお、SC01から出土した須恵器は、 \square B \sim \square V A期(6世紀後半 \sim 7世紀初頭)前後に位置づけられよう。

WI. 自然科学分析の成果

薬師の森遺跡第13次調査の自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

1. はじめに

薬師の森遺跡は、福岡県大野城市乙金に所在し、乙金山から西側に派生する丘陵上に立地する。 第13次調査区は、丘陵上の西向き緩斜面にあたり、中世(鎌倉時代)を中心とする井戸、溝、柱 穴土坑等の遺構が検出されている。

本報告では、井戸内の埋土を対象に、古植生・植物利用に関する情報を得ることを目的として、 花粉分析、種実遺体分析を実施する。

2. 試料

対象とする遺構は、素掘り井戸とされるSE03と石組み井戸とされるSE04の2地点である。分析試料は、各遺構の埋土最下層より採取されている。分析試料を室内にて観察したところ、SE03最下層は細礫混じりの灰色シルト〜細粒砂からなる。SE04最下層は、細礫混じりの灰色砂質シルト〜粘土で、塊状の灰色粘土のブロックを含む。また、棒状の植物遺体の混入も認められた。これら2点について、花粉分析、種実遺体分析を実施する。

3. 分析方法

(1) 花粉分析

試料約10gについて、水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液(臭化亜鉛,比重2.3)による有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトリシス(無水酢酸9,濃硫酸1の混合液)処理による植物遺体中のセルロースの分解を行い、物理・化学的処理を施して花粉を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作成し、400倍の光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し、出現する全ての種類について同定・計数する。

結果は同定・計数結果の一覧表、および花粉化石群集の散布図として表示する。図中の木本花粉は木本花粉総数を、草本花粉・シダ類胞子は総数から不明花粉を除いた数をそれぞれ基数として、百分率で出現率を算出し図示する。

なお、今回は栽培種であるイネ属の産出にも着目する。イネ属については、検出されるイネ科花 粉の表面微細構造・発芽孔の肥厚状況・粒径などを考慮し、中村(1974)を参考にしてイネ属と 他のイネ科に分類する。

(2) 種実遺体分析

土壌試料中から植物遺体を分離するために、一定容積(100cc)の土壌を水に浸し、粒径0.5mm の篩を通して水洗する。篩内の試料を粒径別にシャーレに集めて双眼実体顕微鏡下で観察し、同定 が可能な種実をピンセットを用いて抽出する。多量 確認されたイネの額の破片は、主に基部の果実序柄 が残るものと径1mm以上を抽出する。

種実遺体の同定は、現生標本と石川(1994)、中山ほか(2000)等との対照より実施し、個数を数えて一覧表で示す。実体顕微鏡観察による区別が困難な複数種間は、ハイフォンで結んで表示する。なお、分類群を同定できなかった植物遺体や種実以外の遺体は一覧表の下部に一括してまとめ、プラスで表示する。分析後は、種実遺体を70%程度のエタノール溶液を入れた容器中で保存する。

4. 結果

た。

(1) 花粉分析

結果を第1表、図71に示す。図表中で複数の種類をハイフォンで結んだものは、種類間の区別が困難なものを示す。花粉の産出状況はいずれの試料も良好で、保存状態も良い。いずれも草本花粉、及びシダ類胞子が多産する傾向が認められる。

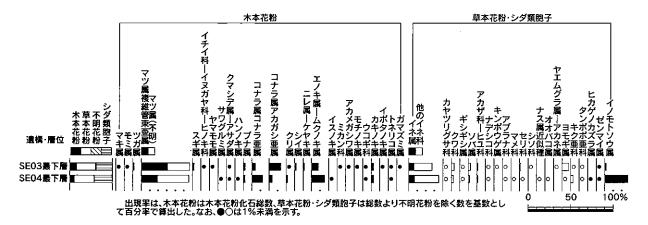
群集組成は、SE03最下層、SE04最下層のいずれも類似しており、木本花粉ではマツ属が多産する。 亜属まで同定できたマツ属は、いずれもマツ属複維管東亜属であった。その他ではコナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、エノキ属ームクノキ属なども多く認められ、ブナ属、カキノキ属等も伴う。草本花粉ではイネ科が多産し、クワ科、ソバ属、アカザ科、セリ科、ヨモギ属、キク亜科等を伴う。なお、多産するイネ科中には栽培種であるイネ属も含まれており、その割合は、SE03最下層で約22.7%、SE04最下層で約19.4%であった。それ以外の栽培種、あるいは栽培の可能性がある種類では、ソバ属、ナス属近似種などが挙げられる。

なお、いずれの試料からも、寄生虫卵が検出された。検出された種類は、SEO3最下層で鞭虫卵、SEO4最下層で回虫卵、宮崎肺吸虫卵近似種であっ

	遺構名・層位			
種 類	SE03	SE04		
	最下層	最下層		
木本花粉				
マキ属	1	_		
モミ属	1	_		
ツガ属	3	_		
マツ属複維管束亜属	64	20		
マツ属(不明)	54	38		
スギ属	4	_		
イチイ科ーイヌガヤ科ーヒノキ科	1	_		
ヤマモモ属	1	_		
サワグルミ属	_	1		
クマシデ属-アサダ属	2	1		
ハンノキ属		1		
ブナ属	4	2		
コナラ属コナラ亜属	8	13		
コナラ属アカガシ亜属	28	4		
クリ属	1	2		
シイ属	4	_		
ニレ属ーケヤキ属	3			
エノキ属ームクノキ属	16	16		
イスノキ属	_	1		
ミカン科	2	_		
アカメガシワ属	1			
モチノキ属	1	-		
ウコギ科	1	1		
カキノキ属	5	3		
イボタノキ属	1			
トネリコ属	1	1		
ガマズミ属	1			
草本花粉	02	67		
イネ属	82 279	67 279		
他のイネ科	11	9		
カヤツリグサ科 クワ科	47	22		
ギシギシ属	1	2		
インイン属 ソバ属	34	15		
アカザ科ーヒユ科	14	11		
ナデシコ科	7	8		
キンポウゲ属	5	_		
アプラナ科	2	6		
マメ科	_	1		
セリ科	17	5		
シソ科	1			
ナス属近似種	_	1		
プス属型版性 オオバコ属	_	4		
々なハコ属 ヤエムグラ属-アカネ属	1	_		
マエムシノ属ーテル不属 ヨモギ属	103	2		
キク亜科	6	29		
イン 亜科 タンポポ亜科	2	29		
不明花粉	22	6		
シダ類胞子				
とカゲノカズラ属	_	1		
ゼンマイ属	1	2		
イノモトソウ属	27	269		
他のシダ類胞子	477	146		
合計		1.0		
木本花粉	208	104		
草本花粉	612	463		
不明花粉	22	6		
シダ類胞子	505	418		
→ 7: ARHE 1	1325	985		
	1060	555		
総計(不明を除く)				
総計 (不明を除く) その他	_	2		
総計(不明を除く)	_ 2	2 _		

第1表 花粉分析結果

(2) 種実遺体分析



第71図 花粉化石群集

結果を第2表に示す。被子植物29分類群(木本のクワ属、キイチゴ属、草本のイネ、オヒシバ、エノコログサ属、イネ科、カヤツリグサ属、ソバ、スベリヒユ科、ナデシコ科、アカザ科、ヒユ科、アブラナ科、キジムシロ属ーヘビイチゴ属ーオランダイチゴ属、カタバミ属、トウダイグサ、ヒメミカンソウ、メロン類、アリノトウグサ、チドメグサ属、サクラソウ科、アカネ科、キュウリグサ属、イヌコウジュ属、シソ属、メハジキ属、ナス科、タカサブロウ、キク科)477個の種実が検出されたほか、不明植物、木材、炭化材、シダ植物の葉、蘚苔類、昆虫類が確認された。

種実遺体群は、栽培種のイネの穎が最も多く(224個; SE03:11個、SE04:213個)、一部は 炭化している。イネ以外の栽培種は、ソバの果実1個(SE03)、メロン類の種子1個(SE04)、 シソ属の果実1個(SE04)が確認された。以下に、試料別種実出土状況を記す。

- SE03

木本2分類群(クワ属、キイチゴ属)2個、草本21分類群(イネ、エノコログサ属、イネ科、ソバ、スベリヒユ科、ナデシコ科、アカザ科、ヒユ科、キジムシロ属ーヘビイチゴ属ーオランダイチゴ属、カタバミ属、トウダイグサ、ヒメミカンソウ、アリノトウグサ、チドメグサ属、サクラソウ科、アカネ科、キュウリグサ属、イヌコウジュ属、メハジキ属、ナス科、キク科)127個、計129個が検出され、栽培種のイネの穎11個(4個炭化)、ソバの果実1個が確認された。栽培種を除いた種実遺体群は、木本は、森林の林縁部などの比較的明るい林地を好み、伐採地や崩壊地などに先駆的に侵入する落葉高木のクワ属、落葉または常緑低木のキイチゴ属が確認された。草本は、明るく開けた場所に生育する、いわゆる人里植物に属する分類群が確認された。

- SE04

草本18分類群(イネ、オヒシバ、イネ科、カヤツリグサ属、スベリヒユ科、ナデシコ科、アカザ科、ヒユ科、アブラナ科、カタバミ属、ヒメミカンソウ、メロン類、チドメグサ属、サクラソウ科、アカネ科、キュウリグサ属、シソ属、タカサブロウ)348個が検出され、栽培種のイネの穎213個(2個炭化)、メロン類の種子1個、シソ属の果実1個が確認された。栽培種を除いた種実遺体群は、人里植物に属する草本のみの種類構成で、やや湿った場所に生育するタカサブロウを含む。

以下に、各分類群の形態的特徴等を記す。

			遺構名	 ・層位	
分類群	部位	状態 状態	SE03	SE04	備考
24 29/11	HIV 122	, , , , ,	最下層	最下層	714 7
木本			40.176	44.171	
クワ属	核	完形	1		
キイチゴ属	核	完形	1		
草本					
イネ	穎	破片 (基部)	3	22	
		破片(基部) 炭化	3	2	
		破片 炭化	1		
		破片	4	189	
オヒシバ	種子	完形		11	,
エノコログサ属	果実	完形	2		
		破片	4		
イネ科	果実	完形	3	29	
		破片	1	15	
カヤツリグサ属	果実	完形		1	
ソバ	果実	完形	1		
スベリヒユ科	種子	完形	4	1	
		破片	1		
ナデシコ科	種子	完形	23	11	-
	j	破片	2		
アカザ科	種子	完形	1	1	
ヒユ科	種子	完形	2	1	
		破片		1	
アブラナ科	種子	完形		17	イヌガラシ属に似る
キジムシロ類*	核	完形	9		
カタバミ属	種子	完形	23	7	
		破片	5		
トウダイグサ	種子	完形	1	•	
ヒメミカンソウ	種子	完形	4	1	
メロン類	種子	破片		1	
アリノトウグサ	核	完形	1		
チドメグサ属	果実	完形	2	31	
サクラソウ科	種子	完形	2	2	
アカネ科	核	完形	2	2	
キュウリグサ属	果実	完形	2	1	
イヌコウジュ属	果実	完形	4		
a or 🖹	E cto	破片	2	.	
シソ属	果実	破片		1	
メハジキ属 ユコギ	果実	完形	9		
ナス科	種子	完形	1	1	
タカサブロウ t ク料	果実 果実	完形 完形	2	1	
キク科	不夫	元形 破片	3		
不明		ו אַער ד	- 3	3	
木材				+	
炭化材			+	+	
シダ植物の葉			'	+	
ガラ 値がり来 蘇苔類			+	+	
昆虫類			+	+	
			100cc	100cc	
N NI EE			153.92g	151.33g	
	l	1	100.84g	101.00g	<u> </u>

^{1)*}キジムシロ類:キジムシロ属-ヘビイチゴ属-オランダイチゴ属

第2表 種実分析結果

<木本>

・クワ属(Morus) クワ科

核は灰褐色、長さ1.7mm、幅1.3mm、厚さ1mm程度の三角状広倒卵体。一側面は狭倒卵形で、他方は稜になりやや薄い。一辺が鋭利で、基部に爪状突起を持つ。表面には微細な網目模様がありざらつく。本地域に分布するクワ属は、ヤマグワ(M. australis Poir.)、ケグワ(M. cathayana Hemsley)と、栽培種のマグワ(M. alba L.)の3種があるが、実体顕微鏡下観察による判別は困難であることから、クワ属にとどめている。

・**キイチゴ属**(Rubus) バラ科

核 (内果皮) は灰黄褐色、長さ2.4mm、幅1.3mm程度の偏平な半倒卵体。腹面方向にやや湾曲する。表面には大きな凹みが分布し網目模様をなす。

<草本>

・イネ (Oryza sativa L.) イネ科イネ属

類は淡~灰褐色、炭化個体は黒色。長さ6.0-7.5mm、幅3.0-4.0mm、厚さ2.0mm程度のやや偏平な長楕円体。破片は最大6.0m程度。基部に斜切状円柱形の果実序柄と1対の護額を有し、その上に外額(護額と言う場合もある)と内額がある。外額は5脈、内額は3脈をもち、ともに舟形を呈し、縫合してやや偏平な長楕円形の稲籾を構成する。額は柔らかく、表面には顆粒状突起が縦列する。

・オヒシバ (Eleusine indica (L.) Gaertn.) イネ科オヒシバ属

種子は赤~黒褐色、長さ1.1-1.5mm、径0.4-0.7mm程度の三稜状狭倒卵体。種皮は薄く、表面には20数個の細い隆条が基部の臍から放射状に配列する

・エノコログサ属(Setaria) イネ科

果実は灰黄褐色、長さ2.7mm、径1.4mm程度の半偏球体。背面は丸みがあり腹面は偏平。果皮表面には横方向に目立つ網目模様が配列する。

・イネ科 (Gramineae)

果実は淡灰褐色、長さ3.0mm、径0.8mm程度の半狭卵体。背面は丸みがあり腹面はやや平ら。 果皮表面には縦長の網目模様が縦列する。

・カヤツリグサ属 (Cyperus) カヤツリグサ科

果実は灰褐色、長さ1.3mm、径0.6mm程度の三稜状狭倒卵体。頂部は尖り、基部は切形。果皮表面には微小な疣状突起が密布する。

・カヤツリグサ科 (Cyperaceae)

上記カヤツリグサ科以外の形態上差異のある複数種を一括している。果実は淡~黒褐色、径 1.0-1.5mm程度のレンズ状または三稜状倒卵体。頂部の柱頭部分はやや伸び、基部は切形で花被 片が伸びる個体がみられる。果皮表面は平滑~微細な網目模様がある。

・ソバ (Fagopyrum esculentum Moench) タデ科ソバ属

果実は灰褐色、長さ6.0mm、径3.5mm程度の三稜状狭卵体。三稜と頂部は鋭く尖り、面は凹む。 果皮表面はやや平滑で、浅く細い横筋状模様がある。

・スベリヒユ科 (Portulacaceae)

種子は黒色、径0.8mm程度のやや偏平な腎状円形。基部は凹み、臍がある。臍には種柄の一部 が残る。種皮表面には鈍円錐状突起が臍から同心円状に配列する。

・ナデシコ科 (Caryophyllaceae)

種子は灰褐色、径0.8-1.3mm程度のやや偏平な腎状円形。基部は凹み、臍がある。種皮は薄く表面には瘤~針状突起が臍から同心円状に配列する。

・アカザ科 (Chenopodiaceae)

種子は黒色、径1.3mm程度のやや偏平な円盤状。基部は凹み、臍がある。種皮表面には臍を取り囲むように微細な網目模様が放射状に配列し、光沢がある。

・ヒユ科 (Amaranthaceae)

種子は黒色、径1.2mm程度の偏平な円盤状。縁は稜状で、基部は凹み臍がある。種皮表面には 臍を取り囲むように微細な網目模様が配列し、光沢がある。

・アブラナ科 (Cruciferae)

種子は赤褐色、径0.7mm程度の歪で偏平な広倒卵形や楕円形など。基部は切形で、両面の同一側には臍点から頂部へ伸びる1個の浅い溝がある。種子表面には浅い凹みによるやや粗い網目模様がある。イヌガラシ属(Rorippa)に似る。

- ・キジムシロ属ーヘビイチゴ属ーオランダイチゴ属(Potentilla-Duchesnea-Fragaria) バラ科 核 (内果皮) は淡灰褐色、長さ1.2mm、幅0.7mm、厚さ0.3mm程度のやや偏平な腎体。内果皮は厚く硬く、表面は粗面で数個の海綿状隆条が斜上する個体がみられる。
- ・カタバミ属(Oxalis) カタバミ科

種子は黒褐色、長さ1.3-1.5mm、幅1.0mm程度の偏平な倒卵体。基部はやや尖る。種皮は薄く、 表面には4-7列の横隆条が配列する。

・**トウダイグサ**(Euphorbia helioscopia L.) トウダイグサ科トウダイグサ属

種子は黒褐色、長さ2.1mm、径1.3mm程度の倒卵体。腹面正中線に隆条がある。基部は舌状に 突出する。種皮は薄くて硬く、表面は5-6角形の凹みによる大型の網目模様が発達する。

- ・ヒメミカンソウ(*Phyllanthus ussuriensis* Rupr. et Maxim.) トウダイグサ科コミカンソウ属 種子は灰褐色、長さ1.2mm、径0.9mm程度の半広倒卵体。背面は丸みを帯び、腹面の正中線は 稜状。基部正中線上に細長い臍がある。種皮表面は粗面。
- ・**アリノトウグサ**(*Haloragis micrantha*(Thunb.)R. Br.) アリノトウグサ科アリノトウグサ 属

核は淡灰褐色、長さ1.0mm、径0.8mm程度の倒卵体。頂部は尖り、基部は切形。表面には顕著な8本の稜が縦列する。

・メロン類 (Cucumis melo L.) ウリ科キュウリ属

種子は淡灰褐色、長さ5-10mm、幅2-4mm、厚さ0.5mm程度の偏平な狭倒皮針形。破片は基部の倒「ハ」の字形の凹みがある部分で、長さ2mm程度。種皮表面は比較的平滑で、縦長の細胞が密に配列する。

・チドメグサ属 (Hydrocotyle) セリ科

果実は淡~褐色、径1.2mm程度のやや偏平な半月形。一端には太い柄があり、合生面は平坦。 果皮は厚く、やや弾力がある。表面には1本の明瞭な円弧状の稜がある。

・サクラソウ科 (Primulaceae)

種子は黒灰褐色、径1.2mm程度の倒台形、背面は平らで楕円状、菱形状、円形状などの4-5角形。腹面は長軸方向に薄くなり稜状で、稜上の中央付近に広線形の臍がある。表面には5-6角形の凹みによる微細な網目模様がある。

・アカネ科 (Rubiaceae)

核は黒褐色、長さ1.5mm、径1.8mm程度の偏球体。腹面中央に径0.5mm程度の楕円形の深い孔がある。表面には微細な網目模様が発達する。

・キュウリグサ属 (Trigonotis) ムラサキ科

果実は灰褐色、径0.8mm程度の倒三角錐。着点は基部(三角錐の頂点)から延び、直角に曲がった短い柄の先にある。果皮表面には微細な粒状突起がやや密に分布する。

・イヌコウジュ属 (Mosla) シソ科

果実は淡~灰褐色、径1.3mm程度の倒広卵体。基部には臍点があり、舌状にわずかに突出する。 果皮はやや厚く硬く、表面には浅く大きく不規則な網目模様がある。

・**シソ**属 (Perilla) シソ科

果実は灰褐色、径1.6-2.3mm程度の倒広卵体。破片は大きさ1.5mm程度。基部には大きな臍点があり、舌状にわずかに突出する。果皮はやや厚く硬く、表面は浅く大きく不規則な網目模様がある。

・メハジキ属 (Leonurus) シソ科

果実は灰褐色、長さ2.1mm、径1.4mm程度の三稜状広倒卵体。背面は丸みがあり、腹面の正中線上と左右の縁は稜をなす。基部は舌状。果皮表面は粗面。

・ナス科 (Solanaceae)

種子は淡灰褐色、長さ1.3mm、幅1.6mm程度の偏平で歪な腎臓形。種子の基部はやや肥厚し、 くびれた部分に臍がある。種皮表面には星型状網目模様が発達する。

・タカサブロウ (Eclipta prostrata (L.) L.) キク科タカサブロウ属

果実は灰褐色、長さ2.3mm、径1.2mm程度のやや偏平な三角状倒狭卵体。両端は切形、果皮は海綿状で、両面には瘤状突起が分布する。両縁に翼があり、水に浮きやすい。

・**キク科** (Compositae)

果実は淡灰褐色、長さ2.2mm、幅0.8mm程度の広線状長楕円体で腹面方向に湾曲する。縁は翼状。 果皮両面には5-6個の縦隆条が配列し、正中線上の隆条が最も太い。

5. 考察

(1) 古植生

中世(鎌倉時代)の素掘りの井戸とされるSE03最下層、及び石組み井戸とされるSE04最下層

の花粉化石群集は、いずれも類似しており、草本類が多産する傾向が認められる。同様の草本類が 多産する組成は、種実遺体分析の結果からも窺える。調査区周辺に生育していたと思われる草本類 についてみると、花粉ではイネ科が多産し、クワ科、アカザ科、セリ科、ヨモギ属、キク亜科等が 認められる。種実遺体でもイネ科、ナデシコ科、アブラナ科、カタバミ属、チドメグサ属等が多く 認められる。これらは、いずれも明るい場所を好む「人里植物」に属する分類群であることから、 調査区周辺域は明るく開けた草地環境で、植生に対する人為的攪乱の影響が強かったことが窺える。 また、SEO4ではタカサブロウの果実が確認されたことから、周辺域に水湿地の存在も推定される。

本本類についてみると、マツ属が50%以上と多産し、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ 亜属、エノキ属ームクノキ属等が10%前後と比較的多く認められる。多産するマツ属のうち亜属 まで同定できたものは、全て複維管東亜属であった。マツ属複維管東亜属 (いわゆるニョウマツ類) は生育の適応範囲が広く、尾根筋や湿地周辺、海岸砂丘上など他の広葉樹の生育に不適な立地にも 生育が可能であり、極端な陽樹であることから、伐採された土地などに最初に進入する二次林の代表的な種類でもある。落葉広葉樹のコナラ亜属は、二次林要素や、エノキ属ームクノキ属とともに 河畔林を構成する種を含む。常緑広葉樹のアカガシ亜属は照葉樹林の代表的な樹種であるが、アラカシなど二次林を構成する要素も含まれる。これらのことから、調査区周辺の丘陵の植生は、マツ属などを主体とする二次林であったことが推定される。また、調査区南側には谷部も検出されていることから、エノキ属ームクノキ属・コナラ亜属には調査区近傍の谷沿いなどに生育していたものも含まれる可能性がある。

九州における既存の調査事例をみると、縄文海進以降、アカガシ亜属、シイ属は、マキ属、ヤマモモ属等を随伴して高率に出現していたが、約1,500年前以降はアカガシ亜属、シイ属の衰退、マツ属、イネ科の急増へと変化し、人為的影響に起因する森林植生の破壊を反映しているとされている(畑中ほか,1998など)。周囲の分析事例では、下月隈C遺跡(福岡市)の弥生時代~古墳時代ではアカガシ亜属、シイ属が中心の群集組成を示すが、梅林遺跡(福岡市)の平安時代~戦国時代ではマツ属が優占する群集組成が得られている(パリノ・サーヴェイ株式会社,2000;鈴木,2006)。また、大宰府条坊跡では、第222次調査区・第225次調査区の花粉分析結果(パリノ・サーヴェイ,2004・2005)をみると、9世紀から12世紀にかけてアカガシ亜属が卓越する群集から、マツ属複維管東亜属の卓越する群集へ変化することが確認される。これらの周辺地域の調査事例と比較して、今回の結果は同調的であり、鎌倉時代には二次林の領域が拡大していたことが推定される。

(2) 植物資源利用

検出された栽培植物についてみると、種実遺体群では栽培種のイネが顕著で、特にSE04で穎が多く確認されている。花粉分析結果においてもイネ属花粉が検出されており、イネ科全体におけるその割合は20%前後であった。イネ属花粉は、生産された花粉の1/4が粉殻内に残留することが知られていることから(中村,1980)、検出されたイネ属花粉は、井戸内に混入した穎に由来する可能性がある。いずれにせよ、当時の本遺跡周辺でイネが栽培され利用されていたことが推定される。

イネ以外の栽培植物では、ソバ属の花粉、果実、メロン類の種子、シソ属の果実が確認され、当時の利用が推定される。また、カキノキ属、ナス属近似種の花粉が検出されることから、これらが 栽培されていた可能性も考えられる。

引用文献

畑中 健一・野井 英明・岩内 明子,1998,九州地方の植生史、安田 喜憲・三好 教夫 (編著), 図説 日本列島植生史、朝倉書店,151-161.

石川 茂雄、1994、原色日本植物種子写真図鑑.石川茂雄図鑑刊行委員会,328p.

中村 純,1974,イネ科花粉について、とくにイネ (Oryza sativa) を中心として.第四紀研究,13,187-193.

中村 純,1980,花粉分析による稲作史の研究.自然科学の手法による遺跡・古文化財等の研究-総括報告書-,文部省科学研究費 特定研究「古文化財」総括班,185-204.

中山 至大·井之口希秀·南谷 忠志,2000,日本植物種子図鑑.東北大学出版会,642p.

- パリノ・サーヴェイ株式会社,2000,梅林遺跡1次調査の自然科学分析.梅林遺跡第1次調査-一般 国道202号福岡外環状道路、及び福岡市営地下鉄3号線建設に伴う発掘調査-福岡市埋蔵文化財 調査報告書 第648集,福岡市教育委員会,138-165.
- パリノ・サーヴェイ株式会社,2004,VI.自然科学分析.「太宰府市の文化財第76集 大宰府条坊跡 26 -225次調査,太宰府市教育委員会,81-91.
- パリノ・サーヴェイ株式会社,2005, VI. 自然科学分析. 「太宰府市の文化財第81集 大宰府条坊跡 27 -222次・222-2次調査,太宰府市教育委員会,207-209.
- 鈴木 茂,2006,第7次調査出土試料の花粉化石.下月隈C遺跡VI-福岡空港周辺整備工事に伴う下 月隈C遺跡第7次調査報告-福岡市埋蔵文化財調査報告書 第881集-本文編-,福岡市教育委 員会,226-230.

Ⅷ.総括

1. 薬師の森遺跡第11次調査

薬師の森遺跡第11次調査地では、古墳時代後期の竪穴住居4軒、中世の溝状遺構2条、土坑多数などが確認された。古墳時代後期の竪穴住居は、SC01でIVA期、SC02でIIIB~IVA期、SC03でIVA期、SC04でIIIB期の須恵器が出土している。これらの竪穴住居は出土遺物に若干の時期差はあるものの、大きく時期が離れるものではない。また、いずれの竪穴住居も規模が近似値を測り、切り合うことなく、等高線に沿うように並んで検出された。これらの検出状況や出土遺物から、当地で確認された竪穴住居は大きな時間差なく継続的に営まれていたことがわかる。

周辺の調査地の状況をみてみると、第11次調査地は、西に位置する第5・8次調査地(未報告)、 と隣接している。両調査地は共に、古墳時代後期の遺構が検出されており、第5次調査で竪穴住居 35軒、第8次調査で竪穴住居11軒が確認されている。上記の計46軒の竪穴住居と当調査地で確認 された竪穴住居4軒は、おおよそ同時期に営まれていることから、古墳時代後期の集落域が当調査 地まで及んでいたことがわかる。

また、第5次調査では、鎌倉〜室町時代の柱穴群や水田が確認され、第8次調査でも鎌倉〜室町時代の区画溝、掘立柱建物6棟、中世墓1基、鍛冶炉1基が検出されている。当調査地でも、12世紀後半に埋没したと思われる溝状遺構2条などが確認され、第8次調査で確認された区画溝と繋がる可能性もあり、区画溝の一部になるかもしれない。いずれにせよ、第11次調査地の中世遺構の密度は低く、当地は中世集落の縁辺部に当たると思われる。

これらの状況から、薬師の森遺跡第11次調査地は、周辺の調査地とほぼ同様の性格をもち、第5・ 8次調査と共に集落の一部を形成することがわかった。

薬師の森遺跡は、区画整理事業に伴って、現在も広範囲に渡り調査が行われている。今後、当時 の集落景観がこれらの調査成果でより明らかになることを期待したい。 (吉田)

2. 薬師の森遺跡第13次調査地

薬師の森遺跡第13次調査では、奈良時代から室町時代の掘立柱建物4棟、井戸4基、土坑・溝多数を検出した。時期が明確な遺構は多くないが、各時期の様相について見てみたい。

まず、最も古く位置づけられるのは、谷頭部に接して検出されたSX26である。若干の時間幅はあるものの、下限は8世紀末頃に想定される。ついでSX20が古く、古墳時代後期~奈良時代の須恵器を含みながら、埋没時期は9世紀代と考えられる。10世紀代の遺構としては、SD23が挙げられ、黒色土器 A 類の形態的な特徴から10世紀前半に位置づけられよう。

 $12 \sim 14$ 世紀には遺構が増加し、掘立柱建物や井戸、大部分の土坑・溝がこの時期の所産と考えられる。中でも13世紀を中心にする遺構が多く、SE02、 $SX17 \cdot 19 \cdot 21 \cdot 24 \cdot 39$ 、 $SD01 \cdot 20$ 、 $SP40 \cdot 48$ などが概ねこれに相当する。これよりやや遡る12世紀中頃~後半の資料としては、 $SE01 \cdot SX28 \cdot 34$ 、 $SP36 \cdot 58$ などが、やや下る14世紀代の遺構としては、SE04、SX16などが挙げられる。なお当該期($12 \sim 14$ 世紀)の遺構群は、谷部北側の約10m四方の範囲で集中的

に検出されており、これをSD20・21が「L」字形(谷部SX01を含めると「コ」字形)に囲むように配置されている。屋敷地の1単位(区画)を示す可能性が高いといえよう。周辺の6・7・10・14次調査などの成果を合わせると、こうした遺構集中域が数十m間隔で点在する状況が見られ、集落構造を検討するうえで極めて興味深い。また一方で、区画面積が狭小であること、建物の併存が想定できないこと、井戸が多く検出されていること(周辺調査区では井戸は僅少)、谷部に接する特殊な立地であること、という特色から、通常の居住空間ではなく、集落の共有空間と想定することも可能ではなかろうか。いずれにしても、周辺の調査地と併せて分析を進める必要がある。続く15世紀以降、遺構数は激減する。確実に15~16世紀に位置づけられるのはSX30のみであり、17世紀以降に関しても、近世後期の染付猪口が出土したSX36が挙げられる程度である。

このことから、8世紀から12世紀前半まで単発的であった当該地の利用は、12世紀後半~14世紀には集落が営まれ、15世紀以降、再び集落の中心域から離れた後、やがて耕作地へと変化したものと理解できよう。

また今回の調査では、13~14世紀の井戸(SE03・04)埋土の自然化学分析(花粉分析・種実遺体分析)を行なっている。その結果、草本類では、人為的影響の強い明るく開けた草地環境が、 木本類ではマツ属を主体とする2次林的な環境が推定されている。今後、周辺の調査地での分析結果を蓄積させることによって、植生を含めた土地利用の状況、集落景観が明らかになるものと期待される。

3. 薬師の森遺跡第14次調査地

薬師の森遺跡第14次調査地では、古墳時代後期の竪穴住居2軒、掘立柱建物2棟、中世の土坑、ピットなどを検出した。古墳時代後期の竪穴住居1軒、掘立柱建物2棟は調査区北西側に位置し、竪穴住居1軒は調査区東側に位置している。竪穴住居は遺存状態が悪く詳細は不明であるが、掘立柱建物は、共に2間×2間の総柱建物で、2棟ともほぼ同じ規模である。遺構の時期は出土遺物が少ないため確実ではないが、SB02からⅢB期、その他はIVB期の須恵器が出土している。ただ、周辺調査地で検出された同規模の2間×2間の掘立柱建物からは、奈良時代の遺物が出土しており、当地の掘立柱建物2棟の時期はなお検討を要する。もし、当地で検出された掘立柱建物2棟が古墳時代後期のものならば、北と西に隣接する第5次調査、東に隣接する第6次調査で、当該期の掘立柱建物がほとんど検出されていないことは興味深い。いずれにせよ、第5次調査で確認された古墳時代後期の集落域が当調査区にまで及んでいることは間違いない。

また、当調査区で検出された平安末~室町時代の土坑・ピットは、調査区全域で密に展開するが、特に調査区南西側で密集して検出された。これらの遺構からは、11世紀後半~15世紀の遺物が出土しているが、その中でも12世紀後半~13世紀代の陶磁器・土師器の出土が多い状況である。遺構密度が高い調査区南西側では、ピットを多数検出し、複数の建物が存在していた可能性が高いが、明確な柱配置を復元できなかった。このように遺構密度が高い場所は、広範囲に渡る薬師の森遺跡に点在しており、当時の集落景観を復元する上で興味深い。 (吉田)

4. 薬師の森遺跡第19次調査地

薬師の森遺跡第19次調査では、縄文時代の可能性が高い土坑6基、古墳時代後期の竪穴住居1軒、平安時代の掘立柱建物3棟が検出された。土坑6基は、いずれも長さ1.5m前後、幅0.8m前後を測るが、深さは各々異なる。上面がかなり削平されていることを考えると、これらの土坑は、元はかなりの深さがあったものと推測される。埋土はいずれも固くしまった黄褐色土で、黒曜石のチップや石鏃などのみが出土する。また、SX01、10、12の底面にピットが検出されたことから、土坑6基は縄文時代のおとし穴状遺構の可能性が考えられる。

竪穴住居1軒は、調査区南西隅で検出された。この竪穴住居からは、9世紀代の土師器椀が出土したが、これ以外の出土遺物は古墳時代後期の所産である。したがって、竪穴住居に後出する、9世紀代の土師器椀を伴う遺構を検出時に見逃していた可能性が高く、竪穴住居の時期は、Ⅲ B~Ⅳ A期の須恵器が出土していることから、この時期に埋没したと考えられる。

掘立柱建物3棟は、調査区北西隅で検出された。SB01、03は主軸を揃え、SB02もSB01、03に直交する主軸であり、この3棟は斉一性を感じさせる。遺構の時期を示すような出土遺物はほとんどなく、SB01から平安時代の平瓦片が出土したのみである。なお、東に隣接する薬師の森遺跡第4次調査でも、同時期の掘立柱建物が数棟検出されており、主軸方向も当調査地の3棟とほぼ同じである。薬師の森遺跡は広範囲に渡る遺跡であるが、平安時代の遺構は少なく、第4次調査地も含め、当調査地周辺に平安時代の掘立柱建物が複数存在することは興味深い。 (吉田)

5. 薬師の森遺跡第11次調査SC02出土の高台付鉢について

薬師の森遺跡第11次調査SC02より高台付鉢(50)、包含層から高台付鉢の高台部片(109)が出土した。高台付鉢(50)は、調査区西側に位置するSC02の南壁付近で床面上約10cm、逆位で出土しており、原位置は保っていない。SC02から出土した遺物の多くは、住居南壁付近に集中し、高台付鉢も同位置にあるため、これらの遺物と共伴すると考えられる。共伴する遺物は、ⅢB期新相~IVA期の須恵器であり、高台付鉢も当該期の所産であると考えられる。この高台付鉢は口径24.1cm、器高9.95cm、高台径16.3cmを測り、ほぼ完形である。高台は高く、外側に直線的に開く。鉢は内湾しながら立ち上がり、口縁部は水平気味に外反し、端部は丸く収める。外面の大半は回転ナデ、体部中位に回転ヘラケズリを施し、口縁下に1条の沈線を廻らせる。この体部中位の回転ヘラケズリは、施した位置からすると、カキメを意識した可能性も考えられる。内面は激しく器面が剥離しており、調整はわからない。この剥離は鉢部内面全体に及んでおり、使用によるものか、意図的なものかは不明である。また、胎土・焼成は当該期の土師器と同様だが、製作技法には須恵器の影響を感じさせる。

類例

高台付鉢の類例は、当調査地周辺で散見されるのみである。当調査地の西に隣接する薬師の森遺跡第8次調査で高台付鉢がほぼ完形で出土し、さらに西に位置する薬師の森遺跡第5次調査地でも破片が2点確認されている。なかでも8次調査SX160出土の高台付鉢は、口縁部や高台端部の形状などが若干異なるものの、口径・器高はほぼ同じものである。この高台付鉢は、内外面共に回転

ナデを、外面体部中位に横方向のカキメを施し、内面は剥離しておらず、底部内面に同心円当て具痕を施している。共伴遺物にはIIB期新相の須恵器が出土しており、器形・製作技法・共伴遺物の共通点などから当調査地の高台付鉢と同一器種であると考えられる。なお、第5・8次調査の高台付鉢の詳細については、今後の報告書の刊行を待ちたい。

系譜

当調査地出土の高台付鉢は出土事例が少なく、その系譜を辿るのは困難である。あえて類例を挙げるならば、桃崎裕輔氏が取り上げた、山西省庫状廻洛墓出土の有段銅鉢、岡山県王墓山古墳出土の須恵器脚付鉢の2点(桃崎2006年「金属器模倣須恵器の出現とその意義」『筑波大学先史学・考古学研究第17号』)、寺井誠氏が取り上げた、奈良県桜井市上之宮遺跡、大阪府菱木下遺跡、難波宮跡出土の脚台付杯の3点(寺井2001年「近畿地方の三韓系土器」『大阪市文化財協会研究紀要第4号』)を紹介したい。

山西省庫状廻洛墓は、562年に没した庫状廻洛と妻の合葬墓である。有段銅鉢は口径約13.8cm、器高約4.4cm、高台径約7.5cmを測る。直線的に立つ脚部で、体部は内湾しながら立ち上がり、口縁端部を外反させ、口縁部と体部の境に段を有する。この有段銅鉢は、当遺跡の高台付鉢と比べると、材質は勿論、法量も異なる。ただ、全体的なおおまかな器形は類似するところがある。

岡山県王墓山古墳は明治42年に発見された古墳で、脚付鉢は大正5年6月に東京国立博物館に 寄贈された。出土遺物の時期は7世紀前半と考えられ、金属器模倣須恵器で最古の例と目される。 脚付鉢は口径26.0cm、器高10.4cm、高台径約16.6cmを測る。体部は内湾しながら立ち上がり、 外面中位に突線が1条廻る。口縁部はS字状に上方に伸び、口縁端部は丸く仕上げる。脚部は直線 的で、脚端部は外反する。内面は回転ナデ・不整方向のナデ、外面は回転ナデ、高台部と底部はへ ラ状工具によるナデが施される。この脚付鉢は、当遺跡の高台付鉢と比べると、須恵器と土師器、 突線と沈線の違いなどが見出される。ただ、法量や全体的な器形は類似している。

両者とも、地理的に当遺跡と離れていること、出土遺構が墓と住居という違いがあることなど、 器形が類似しているというだけで、系譜を辿るには難しいと思われる。ただ、両者とも高台付鉢と 出土時期は近接しており、高台付鉢が金属器模倣土器の可能性も考えられる。

奈良県桜井市上之宮遺跡出土の脚台付杯は、6世紀後半から末に比定される四面庇付掘立柱建物に切られた土壌から出土し、推定口径約25cm、推定器高約7cm、推定高台径約13cmを測る。体部はわずかに内湾しながら立ち上がり、口縁部は外に大きく開く。高台は直線的に外に開き、杯部下半にはケズリの痕跡が残る。焼成は瓦質である。この脚台付杯は、当遺跡の高台付鉢より一回り小さい法量で、体部と高台部の比、体部のプロポーションが異なるが、出土時期は近接している可能性がある。また、同様の器形を呈する、大阪府菱木下遺跡、難波宮跡の脚台付杯は、口径30cm以上を測る須恵器で、飛鳥時代前半の遺物が共伴している。

このように、上記5点の類例と当遺跡の高台付鉢を比較したが、確実に高台付鉢の系譜を辿れるような資料を発見することはできなかった。いずれにせよ、高台付鉢およびその類例は出土事例があまりにも少ないため、多くを検討する材料に乏しい。今後の出土事例の増加に期待したい。(吉田)

第3表 薬師の森遺跡第11次調査出土遺物観察表

图像	第上地点 SCO1 R-2・SCO1 IE SCO1 カマド内 SCO1 R-1 SCO1 2区 SCO1 カマド内 SCO2 IE SCO2 IE SCO2 IE SCO2 R-24・SCO2 IE SCO2 R-24・SCO2 IE SCO2 R-25・SCO2 IE SCO2 R-26・SCO2 IE SCO2 R-27 SCO2 IE SCO2 R-29 SCO2 IE SCO2 R-29 SCO2 IE SCO2 R-20 IE	○ (11年2) 陳本公 (11年2) 陳本 (11年2) 陳本 (11年2) 陳本 (11年2) 東京 (11年2) 中	形態・技法の特量 内外面外に到転ナタ、天井衛内面不定方向ナタ、天井都外面到低へラケズリ。 内外面外に到転ナタ、底原内面不定方向ナタ、底原外面側へラケズリ。 開転半月また、日間が出り最残さ、外面2~3条の改績かり。 の場所半月かへラケズリ。口障原3コナテ後ハケ、外面ハケ、 内面半月また、日間が出たナラ、外面終子状のクタキ。 内外面外に到転ナテ。天井衛内面側がナラ後不定方向ナタ、天井衛外面回転へラケズリ。 内外面外に到転ナラ、天井衛内面が大力を一番で走方向ナタ。 内外面外に到転ナタ、天井衛内面が大力が大力。 内外面外に到転ナタ。天井衛内面が大力を一番で走方向ナタ。 内外面外に到転ナタ。天井衛内面が大力を一番であります。 大井衛外面接続へラケズリ。 内外面外に到転ナタ。天井衛内面に当て具成現る。大井部外面回転へラケズリ。 内外面外に到転ナタ。天井都内面に当て具成現る。大井部外面回転へラケズリ。 内外面外に到転ナタ。天井都内面が大力を一番が大力が大力。 大井衛内面が大力を一番であります。 大井衛内面を一定方向ナタ。天井都内面回転へラケズリ。 内外面外に到転ナタ。天井都内面回転へラケズリ。 内外面外に到転ナタ。天井都内面回転へラケズリ。 内外面外に到転ナタ。天井都内面回転へラケズリ。 内外面外に到転ナタ。天井都内面回転へラケズリ。 内外面外に到転ナタ。天井都内面回転へラケズリ。 内外面外に到転ナタ。天井衛内面を一定方向ナタ。天井衛内面に一次で大力が大力で、大井衛内面を一次で大力が大力で、大井衛内面を一次で大力が大力で、大井衛内面を一次で大力が大力で、大力が大力が大力で、大力が大力で、大力が大力で、大力が大力で、大力が大力で、大力で、大力が大力で、大力が大力で、大力で、大力が大力で、大力で、大力が大力で、大力が大力で、大力が大力で、大力が大力で、大力で、大力が大力で、大力で、大力で、大力で、大力で、大力で、大力で、大力で、大力で、大力で、	### 1997 (18.75) 1997 (19.7	個 年 ・ 大井高外面を日均が ・ 大井高外面を日均が ・ 中間であるり ・ 一部環状 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・
怀身 系杯 (脚体) 數 形 新 杯 新 杯 新 杯 新 杯 新 杯 新 杯 新 杯 新 新 新 新 新 新 新 新 新 新 新 新 新	SC01 カヤド内 SC01 R-1 SC01 ZE SC01 カヤド内 SC02 IE SC02 R-37 SC02 L層・SC02 IE SC02 R-24・SC02 IE SC02 R-26・SC02 IE SC02 R-27 SC02 ZE	(14.2) ②3.8 受罪性 (16.4) ②6.7+α (報罪経9.2) ① (17.8) ②10.5+α ② (15.0) ②13.9+α ③ (15.0) ②13.9+α ④ (13.1) ②4.1 ④ (12.8) ②4.2 ④ (13.4) ②6.0 ⑤ (14.4) ②4.25 ④12.8 ②4.7 ④ (13.7) ②4.25 ④14.5 ②4.3 ④ (14.8) ②4.0 ④ (12.0) ②3.45+α ⑥14.2 ②4.4 ④ (14.0) ②5.1 ⑥15.85 ②5.2+α ⑥10.6 ②4.1 受罪任13.1 ③9.9 ②4.85 受罪任12.75 ⑥10.8 ②4.9 受罪任13.7	内外派共に担転ナテ、底部向面不定方向ナテ、底部角面関係へクケズリ。 開発ナア成形、内面シボリ直鉄店、外面2~3条の改建かり。 内面子科らヘラケズリ。口鞍部ヨコナア後ハケ、外面ハケ。 内面子科らヘラケズリ。口鞍部ヨコナア後ハケ、外面ハケ。 内衛子科らへラケズリ。口鞍部ヨコナア後ハケ、外面ハケ。 内外面共工回転ナテ、天井部内面関転ナテルを定方向ナテ、天井部外面回転へクケズリ。 内外面共工回転ナテ、天井部内面では最後。 天井部外面回転へクケズリを一番イエ方向ナテ。 内外面共工回転ナテ、天井部内面に当て具直线8、外面回転へラケズリ。 内外面共工回転ナテ、天井部内面に当て具直域8、外面回転へラケズリ。 内外面共工回転ナテ、天井部内面に当て具直域8、外面回転へラケズリ。 内外面共工回転ナテ、天井部内面に当て具直域8、外面回転へラケズリ。 内外面共工回転ナテ、天井部内面回をヘラケズリ。 内外面共工回転ナテ、天井部内面回をヘラケズリ。 の外面共工回転ナテ、天井部内面回をヘラケズリ。 の外面共工回転ナテ、天井部内面回をヘラケズリ。 の外面共工回転ナテ、天井部内面回をヘラケズリ。 の外面共工回転ナテ、天井部内面回をヘラケズリ。 の外面共工回転ナテ、天井部内面回転へラケズリ後ナテ。 内外面共工回転ナテ、天井部内面回転へラケズリ後ナテ。 内外面共工回転ナテ、天井部内面回転へラケズリ後ナテ。 内外面共工回転ナテ、天井部内面回をヘラケズリ後ナテ。 内外面共工回転ナテ、天井部内面回をヘラケズリ。 内外面共工回転ナテ、医部外面回転へラケズリ。 内外面共工回転ナテ、医部外面回転へラケズリ。 内外面共工回転ナテ、医部外面回転へラケズリ。 内外面共工回転ナテ、医部外面回転へラケズリ。 内外面共工回転ナテ、医部外面回転へラケズリ。 内外面具工回転ナテ、医部外面回転へラケズリ。	A. 4ema以下の長石をや中多量に含む。B. や中良好C: 内浜10Y7/1、外点 10Y7/1。 A. 3ema以下の自危をや中多量に含む。B. や中良好C: 内浜10Y7/1、外点 10Y7/1。 A. 3ema以下の自危をやす多量に含む。B. や中良好C: 内浜オリーブ 5YR62。外長75Y3/1、接口5Y7/1。 A. 4ema以下の自危をやする重し含む。B. や中良好C: 内浜オリーブ 5YR62。外長75Y3/1、接口5Y7/2。A. 3ema以下の自危をや事るした。 4 2emay下の自危をやするした。 4 2emay下の自免をや事者し、 8 2 2emay下の事色をを争量含む。B. や中 34FC: 内ボリアのほんで、 8 2emay下の自免をや事者し、 8 2 2emay下の事色をを争量含む。 8 2 2emay下の自免をや事者し、 8 2 2emay下の自免をや事者し、 8 2 2emay下の事を対し、 9 2 2emay下の自免をを申るし、 9 2 2emay下の自免をを申るし、 9 2 2emay下の良石をや中多量に含む。 8 2 2emay下の良石をや中多量に含む。 8 2 2emay下の良石をや中多量に含む。 9 2 2emay下の良石をや中多量に含む。 9 2 2emay下の良石をや中多量に含む。 9 2 2emay下の現の表であるとをものです。 2 2emay下の見石をや中多量に含む。 8 2 2emay下の現石をや中多量に含む。 8 2 2emay下の最石をや中多量に含む。 8 2 2emay下の成石をや中多量に含む。 8 2 2emay下の成石をや中多量に含む。 8 2 2emay下の成石をや中多量に含む。 8 2 2emay下の自免をや争量に含む。 8 2 2emay下の自免をを少量となり。 8 2 2emay下の自免をを少量を含む。 8 2 2emay下の自免をとかる重さむ。 8 2 2emay下のの免疫を少するした。 1 2emay下の自己をとかる量に含む。 8 2 2emay下の見石をやりを目に含む。 8 2 2emay下の自己をとかる量に含む。 8 2 2emay下の自己をとかる要言む。 8 2 2emay下の自己をとかる要言な。 8 2 2emay下の自己をとかる要言な。 8 2 2emay下の自己をとかる要言な。 8 2 2emay下の自己をとかるを書言な。 8 2 2emay下の自己をとかるを含む。 9 2 2emay下の自己をとかるを含む。 9 2 2emay下の自己をとかるを含む。 9 2 2emay下の自己を含む。 9 2emay下の目のでは、 9 2emay下のでは、 9 2emay下のでは、 9 2emay下のでは、 9 2emay下のでは、	大井高外高を日が北 大井高外高を日が北 東次 東次 東次 大井高外高を日が北 東次 大井高外高を日が北 東次 大井高外高を日が北 東京 東京 大井高外高を日が北 東京
系杯 (脚部) 整	SC01 R-1 SC01 ZE SC01 ZE SC01 カマド内 SC02 IE SC02 R-37 SC02 上層・SC02 IE SC02 R-37 SC02 上層・SC02 IE SC02 R-30 IE SC02 R-24・SC02 IE SC02 R-29 SC02 IE SC02 R-29 SC02 IE SC02 R-30・SC02 IE SC02 R-30・	②6.7+α (報源経9.2) ① (27.8) ②10.5+α ② (15.0) ②13.9+α ②13.3 ②4.15 ③ (12.8) ②4.2 ③ (13.4) ②5.0 ④ (14.4) ②4.25 ⑤ (13.4) ②5.0 ⑥ (14.4) ②4.25 ⑥ (13.7) ②4.25 ⑥ (14.8) ②4.2 ⑥ (14.9) ②3.45+α ⑥ (14.9) ②3.45+α ⑥ (14.0) ②5.1 ⑥ (15.8) ②4.2 ⑥ (14.0) ②5.1 ⑥ (15.8) ②4.2 ⑥ (14.0) ②5.1 ⑥ (15.8) ②6.2+α ⑥ (10.0) ②5.1 ⑥ (15.8) ②6.2+α ⑥ (10.0) ②5.1 ⑥ (10.0) ③ (10.0) ③ (10.0) ③ (10.0) ③ (10.0) ④ (10.0) ④ (10.0) ④ (10.0) ④ (10.0) ④ (10.0) ④ (10.0) ⑥ (10	回転ナア成形。内面シボリ森頂名、外面2~3条の改縮かり。 内面手行ちへクケズリ。口口部2・3十世人小で、外面ハウ。 内面手行ちて見。口部20世紀ナア、外面的大切。 内面半行らて見。口部20世紀ナア、外面的大切。 内外面共に回転ナア。天井部内面回転ナア後不定方向ナア。天井部外面回転ヘラケズリ。 内外面共に回転ナア。天井部内面回転・ア後不定方向ナア。 内外面共に回転ナア。天井部内面回転へクケズリ。 内外面共に回転ナア。天井部内面回転へクケズリ。 内外面共に回転ナア。天井部内面回転へクケズリ。 内外面共に回転ナア。天井部内面に当て口森頂名。外面回転へラケズリ。 内外面共に回転ナア。天井部内面に当て口森頂名。外面回転へラケズリ。 内外面共に回転ナア。天井部内面当て日のち不定方向ナア。天井部内面回転へラケズリ。 内外面共に回転ナア。天井部内面当て日のち不定方向ナア。天井部外面回転へラケズリ。 内外面共に回転ナア。天井部内面回転へラケズリ。 内外面共に回転ナア。天井部内面回転へラケズリ。 内外面共に回転ナア。天井部内面回転へラケズリ。 内外面共に回転ナア。天井部内面回転へラケズリ。 内外面共に回転ナア。天井部内面回転へラケズリ。 内外面共に回転ナア。天井部内面回転へラケズリ。 内外面共に回転ナア。天井部内面回転へラケズリ。 内外面共に回転ナア。天井部内面回転へラケズリ。 内外面共に回転ナア。天井部内面可配をつりたメリ。 内外面共に回転ナア。民部外面回転へラケズリ。 内外面共に回転ナア。民部内面可配をつりてズリ。 内外面共に回転ナア。民部内面可配をつりてズリ。 内外面具に回転ナア。民部内面可配をつりてズリ。	1077/1.	天井黒外面を自住店 森、森皮 機力をみあり 一部線状 ヘクを号
數 整 杯畫 杯畫 杯畫 杯畫 杯畫 杯畫 杯蓋 杯蓋 杯蓋 杯蓋 杯蓋 杯蓋 杯蓋 杯蓋 杯 養 杯 養 杯 養 杯 新 養 養 科 新 新 新 新 新 新 新 新 新 新 新 新 新	SCO1 2区 SCO1 1 カマド内 SCO2 1区 SCO2 R-37 SCO2 上層 - SCO2 1区 - SCO1 2区 - SCO1 2区 - SCO1 2区 - SCO2 1区 - SCO2 2区 - SCO1 2区 - SCO2 2	① (27.8) ②10.5+α ① (15.0) ②13.9+α ① (13.3) ②4.15 ① (13.1) ②4.1 ② (12.8) ②4.2 ② (13.4) ②5.0 ② (14.4) ②4.25 ③ (13.7) ②4.25 ③ (14.8) ②4.3 ③ (14.8) ②4.0 ③ (12.0) ②3.45+α ④ (14.0) ②5.1 ④ (14.0) ②5.1 ④ (15.85 ②5.2+α ④ (10.0) ②4.85 类響後12.75 ⑥ (10.8) ②4.9 类響後13.7	内裏手行ちへラケズリ、口口部ココナア後ハケ、外質ハケ、 内裏手行ちて見、口部部担転ナア、外面格子状のタタキ。 内外面共に回転ナア、天井部内面回転ナア後不定方向ナア、天井部外面回転ヘラケズリ。 内外面共に回転ナア、天井部内面回転サア後不定方向ナア。 内外面共に回転ナア。天井部内面回転のラケズリ。 内外面共に回転ナタ、天井部内面回転のラケズリ。 内外面共に回転ナタ、天井部内面回転のラケズリ。 内外面共に回転ナタ、天井部内面回転のラケズリ。 内外面共に回転ナタ。天井部内面回転のラケズリ。 内外面外に回転ナタ。天井部内面に当て具直残る。天井部外面回転へラケズリ。 内外面外に回転ナタ。天井部内面に当て具直残る。天井部内面回転へラケズリ。 内外面外に回転ナタ。天井部内面に当て具直残る。天井部内面回転へラケズリ。 内外面外に回転ナタ。天井部内面回転へラケズリ。 内外面外に回転ナタ。天井部内面回転へラケズリ。 内外面外に回転ナタ。天井部内面回転へラケズリ。 内外面外に回転ナタ。天井部内面回転へラケズリ。 内外面外に回転ナタ。天井部内面回転へラケズリ。 内外面外に回転ナタ。天井部内面回転へラケズリ。 内外面外に回転ナタ。天井部内面回転へラケズリ。 内外面外に回転ナタ。天井部内面回転へラケズリ。 内外面外に回転ナタ。天井部内面回転へラケズリ。 内外面外に回転ナタ。天井部内面回転へラケズリ。 内外面外に回転ナタ。医原内面で定方向ナテ。外面直距回転へラケズリ。 内外面外に回転ナタ。底原内面で定方向ナテ。外面直距回転へラケズリ。 内外面外に回転ナタ。底原内面で定方向ナテ。外面直距回転へラケズリ。 内外面外に回転ナタ。底原内面不定方向ナテ。外面直距回転へラケズリ。 内外面外に回転ナタ。底原内面不定方向ナテ。外面直距回転へラケズリ。 内外面外に回転ナタ。底原内面可定方向十テ,外面直距回転へラケズリ。 内外面具に回転ナタ。底原内面可定方向十テ,外面直距回転へラケズリ。	外表75公(1・株在7.57/7).	天井黒外面を自住店 森、森皮 機力をみあり 一部線状 ヘクを号
第 杯蓋 杯蓋 杯蓋 杯蓋 杯蓋 杯蓋 杯蓋 杯蓋 杯蓋 杯	SC01 カマド内 SC02 IE SC02 R-37 SC02 上曜 - SC02 IE SC02 R-3 - SC02 IE SC02 R-24 - SC02 IE SC02 R-25 - SC02 IE SC02 R-26 - SC02 IE SC02 R-27 - SC02 IE SC02 R-28 - SC02 IE SC02 R-27 - SC02 IE SC02 R-27 - SC02 LE	① (15.0) ②13.9+α ① (15.0) ②13.9+α ① (13.3) ②4.15 ① (13.1) ②4.1 ② (12.8) ②4.2 ① (13.4) ②6.0 ③ (14.4) ②4.25 ① (13.7) ②4.25 ① (14.5) ②4.3 ① (14.5) ②4.0 ④ (12.0) ③3.45+α ① (14.0) ②5.1 ① (15.85 ②6.2+α ① (10.0) ②4.85 受罪後13.7 ② (10.8) ②4.9 受罪後13.7	内画平行当て日、口縁部担配ナア、外裏格子状のクタキ、 川外裏共に回転ナテ、天井器内裏回転ケ子後不定方向ナテ、天井器外面回転ヘクケズリ。 川外裏共に回転ナテ、天井器内裏回転・子後不定方向ナテ、天井器外面回転ヘクケズリ。 川外裏共に回転ナテ、天井器内裏一定方向カラテ、発揮整理を、クケズリ。 内外裏共に回転ナテ、天井器内裏一定方向カラテ、発揮整理を、クケズリ。 内外裏共に回転ナテ、天井器内裏一定方向ナテ、天井器内裏回転ヘクケズリ。 内外裏共に回転ナテ、天井器内裏に当て具直現る。天井部外裏回転ヘクケズリ。 内外裏共に回転ナテ、天井器内裏に当て具直現る。天井部外裏回転ヘクケズリ。 内外裏共に回転ナテ、天井器内裏に当て具直現る。天井部外裏回転ヘクケズリ。 内外裏共に回転ナテ、天井器内裏に当て具直現る。天井部内裏回転ヘクケズリ。 内外裏共に回転ナテ、天井器内裏回転へクケズリ。 内外裏共に回転ナテ、天井器内裏回転へクケズリ。 内外裏共に回転ナテ、天井器内裏回転へクケズリ。 内外裏共に回転ナテ、天井器内裏回転へクケズリ。 内外裏共に回転ナテ、天井器内裏回転へクケズリ。 内外裏共に回転ナテ、天井器内裏回転へクケズリ。 内外裏共に回転ナテ、天井器内裏回転へクケズリ。 内外裏共に回転ナテ、医窓内裏回転へクケズリ。 内外裏共に回転ナテ、医窓内裏回転へクケズリ。 内外裏共に回転ナテ、医窓内裏回転へクケズリ。 内外裏共に回転ナテ、医窓内裏回転へクケズリ。 内外裏共に回転ナテ、医窓内裏回転へクケズリ。	A:4mm以下の白色也、非常色なそ多量、整理を習識、物を中や多重に含む。 B: BFCで用す。SYR76.8.5.4.4. 博覧10YR714-C.a. 博了5YR54-模型2.5YS71. A:2mm以下の6日を見、系資を中多量、2mm以下の季色校を少量含む。 B:中中 具材で: 内,程了5YR54- 系数で3YR54- A: 2mm以下の6色粒を少量含む。 B: 具料で: 内,来リーブダ2.5CYS71. 男,末リーブダ2.5CYS71. 男,本リーブダ2.5CYS71. 男,本リーブダ2.5CYS71. 男,本リーブダ2.5CYS71. 男,本リーブダ2.5CYS71. 男,本リーブダ2.5CYS71. 男,本リーブダ2.5CYS71. 男,本リーブSYR2.5CYS71. 男,本リーブSYR2.5CYS71. 男,女子リーブSYR2.5CYS71. 男,女子リーブSYR2.5CYS71. 男,女子リーブSYR2.5CYS71. 男,女子リーブSYR2.5CYS71. 男,女子リーブSYR2.5CYS71. 男,女子リーブSYR2.5CYS71. 男,女子リーブSYR2.5CYS71. 男,女子リーブSYR2.5CYS71. 男,女子リーブSYR2.7 男,女子リーブSYR2.7 男,女子リーブSYR2.7 男,女子リーブSYR2.7 男,女子リーブSYR2.7 男,女子リーブSYR2.7 男,女子リーブSYR2.7 男,女子リーブSYR2.7 男,女子リーブSYR2.7 男,女子リーブSYR2.5CY21. A: 2mm以下の身石をヤー多量に含む。 B: ヤー良材で: 内,灰10YS71. 男,灰3YS71. 男,女子リーズの音をヤーチを置に含む。 B: 中中良材で: 内,灰10YS71. 男,灰10YS71. 男,灰10YS71. 男,灰3YS71. 男,女子リーブ5YS2.5CYS71. 男,女子リーブ5YS2.5CYS71. 男,次3YS71. 男,女子リーブ5YS2.5CYS71. 男,次3YS71. 男,女子リーブ5YS2.5CYS71. 男,次3YS71. 男,女子リーブ5YS2.5CYS71. 男,次3YS71.	天井黒外面数目位は 数、開皮 機力定みあり 一部開ビ ヘク配号
杯蓋 杯蓋 杯蓋 杯蓋 杯蓋 杯蓋 杯蓋 杯蓋 杯蓋 杯蓋 杯蓋 杯蓋 杯 数 杯 数	SC02 R-37 SC02 上層・SC02 I区 SC02 R-24・SC02 I区 SC02 R-24・SC02 I区 SC02 R-25 SC02 I区 SC02 I区 SC02 I区 SC02 R 第・56区 型検出時 SC02 R-29 SC02 R-4・SC02 I区・公会権 I区・SC02 R-4・SC02 I区・公会権 I区・SC02 R-14・SC02 I区・公会権 SC02 R-14・SC02 I区・SC02 I区・SC02 R-26・SC02 I区 SC02 R-26・SC02 I区・SC02 L層 SC02 R-27・SC02 上層 SC02 R-27・SC02 上層 SC02 R-27・SC02 L層 SC02 R-27・SC02 L層 SC02 R-25	(D13.3 ②4.15 (D13.1 ②4.1 (D (12.8) ②4.2 (D (13.4) ②6.0 (D (14.4) ②4.25 (D12.8 ②4.7 (D (13.7) ②4.25 (D14.5 ②4.3 (D (14.8) ②4.0 (D (12.0) ②3.45+α (D (14.0) ②5.1 (D (15.85 ②6.2+α (D (10.6 ②4.1 受郵催13.1 (D (10.8 ②4.9 受郵催13.7 (D (10.8 ②4.9 受郵催13.7 (D (10.8 ②4.9 受郵催13.7 (D (10.8 ②4.9 受郵催13.7 (D (10.8 ②4.8 受郵催13.7 (D (10.8 ②4.8 受郵催13.98	内外面共に回転ナテ、天井部内面回転・ア後不定方向ナテ、天井部外面回転へラケズリ。 内外面共に回転ナテ、天井部内面回生で設定した。 天井部外面回転へラケズリを一番イご方向ナテ。 内外面共に回転ナテ、天井部内面で立方向ウテ、発揮血費6。 天井部外面回転へラケズリ。 内外面共に回転ナテ、天井部内面に当て具直現6。 外面回転へラケズリ。 内外面共に回転ナテ、天井部内面に当て具直現6。 外面回転へラケズリ。 内外面共に回転ナテ、天井部内面に当て具直現6。 外面回転へラケズリ。 内外面共に回転ナテ、天井部内面に当て具直現6。 大井部外面回転へラケズリ。 内外面共に回転ナテ、天井部内面回転へラケズリ。 内外面共に回転ナテ、天井部内面回転へラケズリ。 内外面共に回転ナテ、天井部内面回転へラケズリ。 内外面共に回転ナテ、天井部内面回転へラケズリ。 内外面共に回転ナテ、天井部内面回転へラケズリ。 内外面共に回転ナテ、天井部内面回転へラケズリ後ナテ。 内外面共に回転ナテ、天井部内面回転へラケズリ後ナテ。 内外面共に回転ナテ、天井部内面回転へラケズリ後ナテ。 内外面共に回転ナテ、天井部内面回転へラケズリ後ナテ。 内外面共に回転ナテ、天井部内面回転へラケズリ。 内外面共に回転ナテ、東部の角回転へラケズリ。 内外面共に回転ナテ、東部の角回転へラケズリ。 内外面共に回転ナテ、底部外面回転へラケズリ。 内外面共に回転ナテ、底部外面回転へラケズリ。 内外面具に回転ナテ、底部外面回転へラケズリ。 内外面具に回転ナテ、底部外面回転へラケズリ。 内外面具に回転ナテ、底部外面回転へラケズリ。 内外面具に回転ナテ、底部外面回転へラケズリ。 内外面具に回転ナテ、底部外面回転へラケズリ。 内外面具に回転ナテ、底部外面回転へラケズリ。 内外面具に回転ナテ、底部外面回転へラケズリ。 内外面に可能してのサービーに関する	A: 2mm以下の長右、石英や中今単、2mm以下の本色校を少量なむ。B: や中 見好で: R, 個了577865、 外面757856。 A: 2mm以下の危险を少量さむ。B: 見好で: 内ボリーブ炭2.5075/1、外ボリー グK2.507871・約5W/。 A: 2mm以下の危险を少量さむ。B: 見好で: 内ボロンファックスで、By R) 10707/2、外ズロンファックスで、By R) 10707/2、外ズロンファックスで、By R) 10707/1。 A: 3mm以下の良石を中今単にさむ。B: や中平良で: 内ボリーブ5782~氏白577/1、外末リーブ5782・R白577/1、外末リーブ5782・R白577/1、外末リーブ5782・R白577/1、外末リーブ5782・R白577/1、外末リーブ5782・R白577/1、外末リーブ5782・Rウ57/1、外末リーブ5782・Rウ57/1、米は、B: 4Pm以下の自己をや中今単にさむ。B: や中良好で: 内ボロンファックスで、RD 2577/2。A: 2mm以下の自己をや中多量に含む。B: や中良好で: 内ボロンア・オスのストの長石を中や多量に含む。B: 中中良好で: 内ボロンア・オスのストの長石を中や多量に含む。B: 中中良好で: 内ボロンア・オスのストの長石を中今半量に含む。B: 中中良好で: 内ボロンア・オスのストの長石を中今半量に含む。B: 中中良好で: 内ボロンア・オスのストの長石を中多量に含む。B: 中中良好で: 内ボロンア・オスのストの長石を中多量に含む。B: 中中良好で: 内ボロンア・オスのストの自己をや半まに含む。B: 日中に、内ボロンア・オスのストの自己を中多量に含む。B: 日本で、内ボロンア・オスのストの自己を中多量に含む。B: 日本で、内ボロンア・カスのストの自己を中多量に含む。B: 日本で、内ボロンア・カスのストの自己を中の多量に含む。B: 中央日で: 内ボロンア・オスのストの自己を中の多量に含む。B: 中央日で: 内ボロンア・オスのストの自己を中の多量に含む。B: 中央日で: 内ボロンア・オスのストの自己を中の多量に含む。B: 中央日で: 内ボロンア・オスのストの自己を中の多量でも、B: 日本で、中ズロンア・オスのストのこのでは、カスのストのこのでもを中の多量でも、B: 日本で、中ズロンア・オスのストのこのでは、カスのこのでは、カスのでは、カスのこのでは、カスのこのでは、カスのでは	4、降灰後け変みあり一部降灰ヘク配号焼け変みあり
杯蓋 杯蓋 杯蓋 杯蓋 杯蓋 杯蓋 杯蓋 杯蓋 杯蓋 杯蓋 杯蓋 杯 養 杯 養	SC02 R-37 SC02 上層・SC02 I区 SC02 R-24・SC02 I区 SC02 R-24・SC02 I区 SC02 IX - SC02 I区 SC02 IX - SC02 I区 SC02 R-30 第 - 56区 型板油的 SC02 R-14・SC02 I区 SC02 R-14・SC02 I区 SC02 R-30・SC02 I区 SC02 R-30	(12.8) 受4.2 (13.4) 受5.0 (14.4) 受4.25 (13.4) 受5.0 (14.4) 受4.25 (14.5) 受4.25 (14.5) 受4.3 (14.8) 受4.0 (14.8) 受4.0 (14.0) 受3.45+α (14.0) 受5.1 (15.85) 受5.2+α (10.0) 受3.45+3 (10.0) 受3.45+3 (10.0) 受5.1 (10.0) 受5.1 (10.0) 受6.1 (10.0) 受6.1 (10.0) 受6.1 (10.0) 受6.1 (10.0) 受6.1 (10.0) 受6.1 (10.0) 受6.2+3 (10.0) 受4.85 受罪後13.7 (10.0) 受4.8 受罪後13.7 (10.0) 受4.8 受罪後13.7	内外番共に回転ナテ、天井都内着当て良産残る。 天井部の新田松へラケズリを一届不定方向ナテ、指揮の乗る。 天井部内着回転へラケズリ、 内外番共に回転ナテ、天井都内面対応ヘラケズリ。 内外番共に回転ナテ、天井都内面が立つ方向ナテ、系列を開発をヘラケズリ。 内外番共に回転ナテ、天井都内面が立つ方向ナテ、天井郡内面がなヘラケズリ。 内外番共に回転ナテ、天井都内面が立つ方向ナテ、天井郡内面がなヘラケズリ。 内外番共に回転ナテ、天井都内面がて、日本のあるで、大井郡内面がなヘラケズリ。 内外番共に回転ナテ、天井都内面が、日本のあるで、大井郡内面が、ラケズリ。 内外番共に回転ナテ、天井都内面が、日本のあるで、大井郡内面が、ファズリ。 内外番共に回転ナテ、天井郡内面が、日本の本で、大井郡内面が、ファズリ。 内外番共に回転ナテ、天井郡内面が、ファズリ・大井郡内面が、ファズリ。 内外番共に回転ナテ、天井郡内面が、ファズリ・大井郡内面が、ファズリ。 内外番共に回転ナテ、天井郡内面が、ファズリ・大井郡内面が、ファズリ。 内外番共に回転ナテ、天井郡内面が、日本の本が、ファズリ。 内外番共に回転ナテ、成都内面がな、ファズリ。 内外番共に回転ナア、成都内面がな、ファズリ。 内外番片に回転ナテ、成都内面が、ファズリ。 内外番片に回転ナテ、成都内面が、ファズリ。 内外番片に回転ナテ、ストの外番片に回転ナテ、ストのからなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり	A: 2mm以下の自色数を少量さむ。B: 良好に: 向末り一ブ度2.5GY5(1、男末り一プ度2.5GY5(1、男女4) の	(4) 発伏(4) 変みあり(5) 一部発伏ヘク配号(4) 数け変みあり
杯蓋 杯 蓋 杯	SC02 上層・SC02 IE SC02 上層・SC02 IE SC01 ZE SC01 ZE SC01 ZE SC02 ZE SC0	① (12.8) ②4.2 ① (13.4) ②5.0 ② (14.4) ②4.25 ③12.8 ③4.7 ① (13.7) ②4.25 ⑤14.5 ②4.3 ① (14.8) ②4.0 ③ (12.0) ②3.45+α ⑥14.2 ②4.4 ③ (14.0) ②5.1 ①15.85 ②5.2+α ⑥10.6 ②4.1 受器報3.1 ⑤9.9 ②4.85 受器報3.7 ⑥10.8 ②4.9 受器報3.7	内外番共に回転ナテ、天井都内着当て良産残る。 天井部の新田松へラケズリを一届不定方向ナテ、指揮の乗る。 天井部内着回転へラケズリ、 内外番共に回転ナテ、天井都内面対応ヘラケズリ。 内外番共に回転ナテ、天井都内面が立つ方向ナテ、系列を開発をヘラケズリ。 内外番共に回転ナテ、天井都内面が立つ方向ナテ、天井郡内面がなヘラケズリ。 内外番共に回転ナテ、天井都内面が立つ方向ナテ、天井郡内面がなヘラケズリ。 内外番共に回転ナテ、天井都内面がて、日本のあるで、大井郡内面がなヘラケズリ。 内外番共に回転ナテ、天井都内面が、日本のあるで、大井郡内面が、ラケズリ。 内外番共に回転ナテ、天井都内面が、日本のあるで、大井郡内面が、ファズリ。 内外番共に回転ナテ、天井郡内面が、日本の本で、大井郡内面が、ファズリ。 内外番共に回転ナテ、天井郡内面が、ファズリ・大井郡内面が、ファズリ。 内外番共に回転ナテ、天井郡内面が、ファズリ・大井郡内面が、ファズリ。 内外番共に回転ナテ、天井郡内面が、ファズリ・大井郡内面が、ファズリ。 内外番共に回転ナテ、天井郡内面が、日本の本が、ファズリ。 内外番共に回転ナテ、成都内面がな、ファズリ。 内外番共に回転ナア、成都内面がな、ファズリ。 内外番片に回転ナテ、成都内面が、ファズリ。 内外番片に回転ナテ、成都内面が、ファズリ。 内外番片に回転ナテ、ストの外番片に回転ナテ、ストのからなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり	A: 2mm以下の長石、石美や中や少量から、B: 平身に: 内疾的5772. 外皮的5772. 外皮的5772. 外皮的5772. 外皮的5772. 外皮的5772. 外皮的5772. 外皮的5772. 外皮的5772. 外皮的5772. 外皮的5773. 外皮的近径中や多量に含む。B: やや中耳に: 角灰が5773. 外皮サーブ5752. 皮的5773. 外皮サーブ5752. 皮的5773. 外皮サーブ5752. 皮的5773. 外皮サーブ5752. 皮的5773. 外皮はサーブ5752. 皮的5773. 外皮はサーブ5752. 外皮の11. 外皮の12. 外皮の12. 外皮の12. 外皮の12. 外皮の12. 外皮の12. 外皮の12. 人 : 2mm以下の自色粒をやや多量に含む。B: や中良好に: 内皮の5772. 外皮の5772. 人 : 2mm以下の自色粒を少量。 静を整置含む。B: 具好に: 内皮の5772. 外皮の5772. 人 : 2mm以下の自色粒を少量。 かりりに : 3 : 2 ** 中良好に: 内皮の573. 外皮の573. 人 : 2 ** 2 ** 2 ** 2 ** 2 ** 2 ** 2 **	(4) 発伏(4) 変みあり(5) 一部発伏ヘク配号(4) 数け変みあり
杯蓋 杯 蓋 杯	SC02 R-24 - SC02 IE - SC01 ZE - SC01 ZE - SC01 ZE - SC02 IE - SC02 IE - SC02 ZE 増 - SER 型検出的 SC02 R-29 SC02 IE - SC02 R-30 - SC02 IE - SC02 R-30 - SC02 IE - SC02 R-30 - SC02 IE - SC02 R-26 - SC02 IE - SC02 R-27 - SC02 LE - SC02 R-27 - SC0	① (13.4) ②5.0 ① (14.4) ②4.25 ①12.8 ②4.7 ① (13.7) ②4.25 ①14.5 ②4.3 ① (14.8) ②4.0 ① (12.0) ②3.45+α ①14.2 ②4.4 ① (14.0) ②5.1 ①15.85 ②5.2+α ①10.6 ②4.1 受都能3.1 ②9.9 ②4.85 吳郷報12.75 ①10.8 ②4.9 吳郷報12.75 ①10.8 ②4.9 吳郷報13.7 ②10.4 ②4.8 吳郷報13.98	内外番貝に回転ナタ。天井都内番三板へクケズリ。 内外番貝に回転ナタ。天井都内番回転へクケズリ。 内外番貝に回転ナタ。天井都内番回転へクケズリ。 内外番貝に回転ナタ。天井都内番回転へクケズリ。 内外番貝に回転ナタ。天井都内番回転で、日本の大力の大力。 内外番貝に回転ナタ。天井都内断に当て具在現る。大井部内御回転へクケズリ。 内外番貝に回転ナタ。天井都内断に当て具在現る。天井部内御回転へクケズリ。 内外番貝に回転ナタ。天井都内断に当て自らちで走方向ナタ。天井都内御回転へラケズリ。 内外番貝に回転ナタ。天井都内断回転で、1000年で、大井都内御回転へラケズリ。 内外番貝に回転ナタ。天井都内断回転・ア後不定方向のナタ。 天井部内御門板へクケズリ後ナタ。 内外番貝に回転ナタ。天井都内断回転へクケズリ。 内外番貝に回転ナタ。天井都内断回転へクケズリ。 内外番貝に回転ナタ。天井都内断回下で、天井都内断回転へラケズリ。 内外番貝に回転ナタ。天路の南西で左方向ナタ。天井都内断回転へラケズリ。 内外番貝に回転ナタ。成都内面が取りたび、1000年の大力が開りた。 内外番貝に回転ナタ。成都内面が取りためで、外面直が開め、フケズリ。 内外番貝に回転ナタ。成都内面が取りため、1000年の大力が関い、1000年の大力が開発に回転ナタ。成都内面が取りため、1000年の大力が開発に回転ナタ。成都内面が取りため、1000年の大力が開発に回転ナタ。成都内面が取りため、1000年の大力が開めたりでありため、1000年の大力が開めたりでありため、1000年の大力が開発に回転ナタ、1000年の大力が開発している。 1000年の大力が開発している。1000年の大力が開発しているのが開発している。1000年の大力が開発しているのが用力が発生のよりでは、1000年の大力が開発しをいるが、1000年の大力が開発しなりが、1000年の大力が開発しなり	A:SamuX下の長石を中や多量に含む。B:やや良好C:内浜(NYG/I、外底 10YG/I、外底 4)を設定し、B:のかしまり、B:やや耳及C:内浜オリーブSYG/2・炭 GSY7/I、外底キリーブSYG/2・炭 GSY7/I、外底キリーブSYG/2・炭 GSY7/I、外底キリーブSYG/2・炭 GSY7/I、外底キリーブSYG/2・炭 GSY7/I、外底キリーブSYG/2・炭 GSY7/I、外底キリーブSYG/2・炭 GSY7/I、外底サーブSYG/2・炭 GSY/I、A:SamuX下の長石をやや多量に含む。B:やや良好C:内浜(NYG/I、外底)SY7/I、A:SamuX下の長石をやや多量に含む。B:やや良好C:内浜(NYG/I、外底)SYG/I、外底 GSYG/I、A、SamuX下の長石をやや多量に含む。B:やや良好C:内浜(NYG/I、外底)GYG/I、外底 GSYG/I、A、SamuX下の長石をやや多量に含む。B:やや良好C:内浜(NYG/I、外底)GYG/I、外底 GSYG/I、外底 GSYG/I、外底 GSYG/I、外底 GSYG/I、外底 GSYG/I、外底 GSYG/I、大阪 GSYG/I 、大阪 GS	(4) 発伏(4) 変みあり(5) 一部発伏ヘク配号(4) 数け変みあり
杯蓋 杯	SC02 R-24 - SC02 IE - SC01 ZE - SC01 ZE - SC01 ZE - SC02 IE - SC02 IE - SC02 ZE 増 - SER 型検出的 SC02 R-29 SC02 IE - SC02 R-30 - SC02 IE - SC02 R-30 - SC02 IE - SC02 R-30 - SC02 IE - SC02 R-26 - SC02 IE - SC02 R-27 - SC02 LE - SC02 R-27 - SC0	① (13.4) ②5.0 ① (14.4) ②4.25 ①12.8 ②4.7 ① (13.7) ②4.25 ①14.5 ②4.3 ① (14.8) ②4.0 ① (12.0) ②3.45+α ①14.2 ②4.4 ① (14.0) ②5.1 ①15.85 ②5.2+α ①10.6 ②4.1 受都能3.1 ②9.9 ②4.85 吳郷報12.75 ①10.8 ②4.9 吳郷報12.75 ①10.8 ②4.9 吳郷報13.7 ②10.4 ②4.8 吳郷報13.98	内外面共に回転ナテ、天井都内面に当て具成残る。外面回転ヘラケズリ。 内外面共に回転ナテ、天井都内面に当て具成残る。外面回転ヘラケズリ。 内外面共に回転ナテ、天井都内面に当て具成残る。外面回転ヘラケズリ。 内外面共に回転ナテ、天井都内面に当て具成残る。天井部内面回転ヘラケズリ。 内外面共に回転ナテ、天井都内面に当て具成残る。天井部内面回転ヘラケズリ。 内外面共に回転ナテ、天井都内面当在人ラケズリ。 内外面共に回転ナテ、天井都内面回転ヘラケズリ。 内外面共に回転ナテ、天井都内面回転ヘラケズリ。 内外面共に回転ナテ、天井都内面回転ヘラケズリ後ナテ。 内外面共に回転ナテ、天井都内面回転ヘラケズリ後ナテ。 内外面共に回転ナテ、医療外面回転ヘラケズリ後ナテ。 内外面共に回転ナテ、医療外面回転ヘラケズリ。 内外面共に回転ナテ、医療外面回転ヘラケズリ。 内外面共に回転ナテ、医療外面回転へラケズリ。 内外面共に回転ナテ、医療外面回転へラケズリ。 内外面共に回転ナテ、医療外面回転へラケズリ。 内外面共に回転ナテ、医療外面回転へラケズリ。 内外面共に回転ナテ、医療外面回転へラケズリ。 内外面共に回転ナテ、医療内面下定方向ナテ。外面直整回転ヘラケズリ。	A:3cm以下の長石をやや多量に含む、B:やや耳及に、角度オリープ5782・K 自5771. 外景オリープ5782・接自5771. 人 3cm以下の自む数をやや多量、 國本管量含む。B:負好に:角末リーブ5 2.5CYG/I、外景オリープ5782・接自5771. 人 3cm以下の長石をやや多量に含む。B:中中員好に:角度65772。外景自5772。 人 3cm以下の長石をやや多量に含む。B:や中員好に:角度65772。外景の5772。 人 3cm以下の長石をやや多量に含む。B:や中員好に:角度60761、外景の57-度N67。 人 3cm以下の長石をやや多量に含む。B:や中員好に:角度60761、外景の57-度N67。 人 3cm以下の長石をやや多量に含む。B:や中員好に:角度60761、外景の57-度N67。 人 3cm以下の自己数を少量含む。B:中日員好に:角度60757。外景 10787。 人 3cm以下の自己数を少量含む。B:中日員好に:角度7577。外景7571、制度7577。以下3672。 人 3cm以下の自己数をや単常な。B:負折に:角度7577、外景7571、外景75767。以下37677。表末リープ57582。 人 4cm以下の自己数を少量含む。B:具好に:角度7577、月末リープ57582。 人 4cm以下の自己数を少量含む。B:月日に:角度7577、月末リープ57582。 人 3cm以下の自己数をや単常とな。B:中日日に:角度757767。外景75767。 人 3cm以下の自己数をやを多量に含む。B:中日目で:角度75776767。 人 3cm以下の自己数をやを多量で含む。B:中日日で:角度757767676771。 人 3cm以下の自己数をやを多量さむ。B 月好に・角度757771。外表757771,外层757771,外层757771,外层757771,外层757771,外层757771,外层757771,外层757771,外层757771,外层757771,外层757771,外层757771,外层757771,外层757771,从下3cm以下0分已数をや中多量含む。B 月好に:角度6757771,外层757771,外层757771,从下3cm以下0分已数を少多。	(4) 発伏(4) 変みあり(5) 一部発伏ヘク配号(4) 数け変みあり
杯蓋 杯蓋 杯蓋 杯蓋 杯蓋 杯蓋 杯蓋 杯蓋 杯 数 杯 数 杯 数 杯 分 分 分 分 り を り を り を り を り を り を り を り を	SC02 3区・SC02 1区・SC02 周 博・5日区 型検出的 SC02 R-29 SC02 R-30 SC02 R-14・SC02 1区・独合層 IIK・SC02 RH工機ペルト下標 SC02 R-30・SC02 1区 SC02 IIK・SX41 SC02 1区・SX41 SC02 1区・SX41 SC02 3区 SC02 R-23 SC02 R-27・SC02 1区・SC02 上層 SC02 R-27・SC02 上層 SC02 R-27・SC02 上層 SC02 R-27・SC02 上層 SC02 R-27・SC02 上層	(14.4) ②4.25 (12.8 ②4.7 (13.7) ②4.25 (14.5 ②4.3 (14.8) ②4.0 (11.2) ②3.45+α (14.1) ②5.1 (14.0) ②5.1 (14.0) ②5.1 (14.0) ②5.1 (14.0) ②5.1 (14.0) ②5.1 (14.0) ②5.1 (16.6 ②4.1 受路報3.1 (19.9) ②4.85 受罪発12.75 (10.1) ②4.9 受路報13.7 (10.1) ③4.8 受器程13.98	内外面外に回転ナテ、天井郡内面に当て貝威境名。外面回転ヘラケズリ。 内外面外に回転ナテ、天井郡内面に当て貝威境名。外面回転ヘラケズリ。 内外面外に回転ナテ、天井郡内面に当て貝威境名。 天井郡内面回転ヘラケズリ。 内外面外に回転ナテ、天井郡内面回工具のち不定方向ナテ、天井郡外面回転ヘラケズリ。 内外面外に回転ナテ、天井郡内面回工具のち不定方向ナテ、天井郡外面回転ヘラケズリ。 内外面外に回転ナテ、天井郡内面回工具のち不定方向ナテ、天井郡外面回転ヘラケズリ。 内外面外に回転ナテ、天井郡内面回転・フ後不定方向のナテ。 天井郡外面回転へラケズリ後ナア。 内外面外に回転ナテ、天井郡内面回転へラケズリ後ナア。 内外面外に回転ナテ、天井郡内面回転へラケズリ後ナア。 内外面外に回転ナテ、天井郡内面回転へラケズリ。 内外面外に回転ナテ、東京郡外面回転へラケズリ。 内外面外に回転ナテ、東京郡外面回転へラケズリ。 内外面外に回転ナテ、東京郡外面回転へラケズリ。 内外面外に回転ナテ、底郡外面回転へラケズリ。 内外面外面の下面の下面の下面の下面の下面の下面の下面の下面の下面の下面の下面の下面の下面	A: 4mm以下の白色粒をやや多種、環を製置さむ、B: 良好C: 内ネリーブK 2.507k1/、外来オリープ2.507k1/、例次4/、外来オリープ2.507k1/、例次4/、外来カリープ2.507k1/、例次4/、外来のサースをであった。 日: 中中良好C: 内来の577/2. 外来自 577/2. A: 2mm以下の良石をやや多量に含む。B: 中中良好C: 内来の57/2. 外来の57/2. A: 3mm以下の良石をやや多量に含む。B: 中中良好C: 内来107k1/、外来の57/2. A: 4mm以下の良石をやや多量に含む。B: 中中良好C: 内来107k1/、外来の57/2. A: 2mm以下の白色粒をや量さむ。B: 中中良好C: 内来9/107k5/2. 外来月 107k5/2. A: 2mm以下の白色粒をや量なむ。B: 中中良好C: 内来5757/、外来7.57k1/、除来サーブ7.57k2/、外来7.57k1/、除来サーブ7.57k2/、外来7.57k1/、除来9.77/57k2/、米米回以下の白色粒をや単常となる。B: 具体C: 内来7リーブ57k2/、上系・環境107kk3/、外来557k7/、条ボリーブ57k3/、8、年中良好C: 内来7リーブ57k3/、外来7.57k1/、原本リーブ57k3/、米米リーブ67k3/、米米の107k1/、条ボ9.57k1/、表ボ9.57k1/、スポースを10.57k1/	(4) 発伏(4) でありり(4) でありり(5) でありり(6) でありり(7) でありり(7) でありり(8) でありり(9) であり(9) であり(9)
杯蓋 杯	SC02 R-29 SC02 IK SC02 R-14・SC02 IK・独合層 IK・SC02 R-14・SC02 IK・独合層 IK・SC02 R-30・SC02 IK SC02 R-30・SC02 IK SC02 IK・SX41 SC02 R-23 SC02 R-27・SC02 IK・SC02 R-27・SC02 IK・SC02 R-25	①12.8 ②4.7 ① (13.7) ②4.25 ①14.5 ②4.3 ① (14.8) ②4.0 ① (12.0) ②3.45+α ① (14.0) ②5.1 ①15.85 ②5.2+α ① (10.0) ②4.85 受罪後13.1 ②9.9 ②4.85 受罪後12.75 ①10.8 ②4.9 受罪後13.7 ②10.4 ②4.8 受罪後13.98	内外面共に担能ナテ、天井都内面に当て具有資金。 天井部外面回転ヘラケズリ。 均外面共に担能ナテ、天井都内面に当て具有資金。 天井部外面回転ヘラケズリ。 均外面共に担能ナテ。天井部内面当て自のち不定方向ナテ、天井部外面回転ヘラケズリ。 内外面具に担能ナテ。天井部内面当て自のち不定方向ナテ、天井部外面回転ヘラケズリ。 内外面具に担能ナテ。天井都内面目転す了資かテ、天井部外面回転ヘラケズリ。 内外面具に担能ナテ。天井都内面目転か于後不定方向のナテ。 天井部分面開転からカズ以後ナテ。 内外面具に回転ナテ。天井都内面目転へラケズリ後ナデ。 内外面具に回転ナテ。天井都内面目工具接到板ナテ。天井都外面回転ヘラケズリ。 内外面具に回転ナテ。底面内面当て直接到板ナテ。天井都外面回転ヘラケズリ。 内外面具に回転ナテ。底面内面下定方向ナテ。外面底面回転ヘラケズリ。 内外面具に回転ナテ。底面内面下定方向ナテ。外面底面回転へラケズリ。 内外面具に回転ナテ。底面内面下定方向ナテ。外面底面回転へラケズリ。 内外面具に回転ナテ。底面内面下定方向ナテ。外面底面回転へラケズリ。	A:4mm以下の長石を中や多単に含む、B:中中良好に: 内坂白SY7/2. 外坂白SY7/2. A:2mm以下の白色粒を少量。 御を養置含む。B:良好に: 内級NS/、外坂NS/- 第2.5GY2/1. A:3mm以下の長石を中や多量に含む。B:中中良好に: 内坂10Y6/1. 外坂NS/- 8NNA/. A:4mm以下の長石を中や多量に含む。B:中中良好に: 内坂10Y6/1. 外坂NS/- 8NNA/. A:4mm以下の長石を中や多量に含む。B:中中良好に: 内坂10Y6/1. 外坂 10Y6/1. A:2mm以下の白色粒を少量含む。B:中中良好に: 内坂5/Y5/1. 外坂5/Y5/1. 常坂NX/- 9の色粒を少量含む。B:良好に: 内坂5/Y5/1. 外坂7.5Y6/1. 米太7-5Y6/1. 米太7-7-5Y6/2. よ4mm以下の白色粒を少量なむ。B:良好に: 内坂10Y6/1. 外坂10Y6/1. A:3mm以下の良石を中の多量に含む。B:中日以7/1. 米太7-7-5Y6/2. A:4mm以下の白色粒を少量と含む。B:中日以7/1. 米太7-7-5Y6/2. A:2mm以下の白色粒を中多素含む。B 日村に内坂NS/、メオリーブ泉2.5GY6/1. A:2mm以下の白色粒を少量。 湯を養置含む。B 日村に内坂NS/、メオリーブ泉2.5GY6/1. A:2mm以下の白色粒を少量。 湯を養置含む。B 日村に: 内坂67-5Y//1. 外坂610Y7/1. 米(10Y4/1.)	(4) 発伏(4) でありり(4) でありり(5) でありり(6) でありり(7) でありり(7) でありり(8) でありり(9) であり(9) であり(9)
杯蓋 杯蓋 杯蓋 杯蓋 杯蓋 杯蓋 杯蓋 杯 数 杯 数 杯 数 杯 身 杯 身 杯 身 杯 身 杯 身 杯 身 杯 身	SC02 IR SC02 R-14・SC02 IK・独合層 IK・SC02 R-14・SC02 IK・独合層 IK・SC02 R-30・SC02 IK SC02 R-30・SC02 IK SC02 IK・SX41 SC02 R-23 SC02 R-27 SC02 R-27 SC02 R-28 SC02 R-27 SC02 L-期 SC02 R-27・SC02 L-期 SC02 R-27・SC02 L-期 SC02 R-27・SC02 L-期 SC02 R-27・SC02 L-R	① (13.7) ②4.25 ①14.5 ②4.3 ① (14.5) ②4.0 ① (12.0) ②3.45+α ①14.2 ②4.4 ① (14.0) ②5.1 ①15.85 ②5.2+α ①10.6 ②4.1 受器様13.1 ②9.9 ②4.85 実課後12.75 ①10.8 ②4.9 受器様13.7 ①10.4 ②4.8 受器様13.98	内外番片に回転ナテ。天井都内留に当て具章機名。 天井部外衛刊をヘラケズリ。 内外番片に回転ナテ。天井都内留的に一つクズリ。 内外番片に回転ナテ。天井都内留台で、自のも不定方向ナテ。天井都外留回転ヘラケズリ。 内外番片に回転ナテ。天井都内留台で、自のも不定方向ナテ。天井都外留回転ヘラケズリ。 内外番片に回転ナテ。天井都内留日転ナデ後不定方向のナテ。 天井郡外別部体へウケズリ後ナテ。 内外番片に回転ナテ。天井都外留回転ヘラケズリを持っ。 内外番片に回転ナテ。天井都外留回転ヘラケズリを持っ。 内外番片に回転ナテ。天井都外面回転ヘラケズリ。 内外番片に回転ナテ。底部内面が成った方向ナテ。外面底部部をヘラケズリ。 内外番片に回転ナテ。底部内面で定方向ナテ。外面底部部をヘラケズリ。 内外番片に回転ナテ。底部内面で定方向ナテ。外面底部部へラケズリ。 内外番片に回転ナテ。底部内面で定方向ナテ。外面底部部へラケズリ。 内外番片に回転ナテ。底部内面で定方向ナテ。外面底部部へラケズリ。 内外番片に回転ナテ。底部内面を定方向ナテ。外面底部部を入ったズリ。 日本の大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大	A: 2mm以下の自色粒や少量、滑を置合む、B: 臭杯C: 内底(NYA/、外及NS/- 配2S(727)。 A: 3mm以下の長石や中多量に含む、B: 中や良杯C: 内底(NYA/、外及NS/- をNA/。 A: 4mm以下の長石を中や多量に含む。B: 中や良杯C: 内底(NYA/、外及NS/- のNS/2。 A: 4mm以下の自色粒や少量含む、B: 中や良杯C: 内底(NYA/、外及 A: 2mm以下の自色粒や少量含む。B: 中や良杯C: 内底(NYA/、外及NYA/- A: 2mm以下の自色粒や中多量に含む。B: 良杯C: 内底(NYA/- A: 2mm以下の自色粒・中多量と含む。B: 良杯C: 内底(オリープ、NYA/- のNYA/A/、A: 4mm以下の自色粒や少量含む。B: 克科C: 内底(オリープ、NYA/- A: 4mm以下の自色粒を少量含む。B: 元良C: 内底(オリープ、NYA/- A: 4mm以下の食石を中や多量に含む。B: 中良(NYA/- 外及) A: 4mm以下の食石を中や多量に含む。B: 中良(NYA/- 外及) A: 3mm以下の食石を中や多量に含む。B: 中良(NYA/- 外及) A: 2mm以下の食石を中や多量に含む。B: 中良(NYA/- 外及) A: 2mm以下の食石を中や多量に含む。B: 中良(NYA/- 外及) A: 2mm以下の食石を中や多量に含む。B: 日子(C: 内底(NYA/-) A: 2mm(NYA/-) A: 2mm(NYA/-) A: 2mm(NYA/-) B: 2mm(NYA	(4) 発伏(4) でありり(4) でありり(5) でありり(6) でありり(7) でありり(7) でありり(8) でありり(9) であり(9) であり(9)
杯蓋 杯蓋 杯蓋 杯蓋 杯蓋 杯蓋 杯蓋 杯	SCO2 R-14・SCO2 IE・電台欄 IE・SCO2 東西土曜・ペルト 下層 SCO2 R-30・SCO2 IE SCO2 カマド周辺 SCO2 IE・SX41 SCO2 IE・SX41 SCO2 IE・SX41 SCO2 IE・SCO2 東西土曜・ペルト下層 SCO2 3区 SCO2 R-23 SCO2 R-26・SCO2 IE・SCO2 上層 SCO2 R-27・SCO2 上層 SCO2 R-27・SCO2 上層 SCO2 R-27・SCO2 上層	(0)4.5 ②4.3 ① (14.8) ②4.0 ② (12.0) ②3.45+α ① (14.0) ②5.1 ① (14.0) ②5.1 ① (15.85 ②5.2+α ① (10.6 ②4.1 受容格13.1 ② 9.9 ②4.85 受滞後12.75 ① (10.8 ②4.9 受滞後13.7 ② (10.4 ②4.8 受邪後13.7	内外面共に回転ナテ、天井都内面目転へラケズリ、 内外面共に回転ナテ、天井都内面当て自のち不定方向ナテ。天井都外面回転へラケズリ。 内外面共に回転ナテ、天井都内面回転ナテ後不定方向ウナテ。 天井都内面目転へラケズリ後ナテ。 内外面共に回転ナテ。天井都内面回転へラケズリ後ナテ。 内外面共に回転ナテ。天井都内面回転へラケズリ後ナテ。 内外面共に回転ナテ。天井都内面当て自後対転ナテ。天井都外面回転へラケズリ。 内外面共に回転ナテ。医郊南回転へラケズリ。 内外面共に回転ナテ。底郊南回転へラケズリ。 内外面共に回転ナテ。底郊南回転へラケズリ。 内外面共に回転ナテ。底郊南回転へラケズリ。 内外面共に回転ナテ。底郊内面中で方向ナテ。外面直整回転へラケズリ。 内外面共に回転ナテ。底部内面中で方向ナテ。外面直整回転へラケズリ。	限25(72)。 A: 3mm以下の長石を中や多能に含む。B: や中良好C: 内底(10Y6/1、外級)公グの (20%)。 A: 4mm以下の長石を中や多能に含む。B: や中良好C: 内底(10Y6/1、外級)公グの (20%)。 A: 4mm以下の自色粒を少量含む。B: や中良好C: 内底(10Y6/1、外級)(10Y6/2。 A: 3mm以下の自色粒を少量含む。B: 4p+C: 内底(10Y6/1、外級)(10Y6/2。 A: 3mm以下の自色粒を中等量に含む。B: 点件C: 内底(10Y6/1、外底(10Y6/1、外域)(10Y6/1、外面)(10Y6/1、例面)(10Y6/1、Ma)(10Y6/	使け更みあり 一部発送 ヘク起号 集け更みあり
杯蓋 杯蓋 杯蓋 杯蓋 杯蓋 杯蓋 杯為 杯身 杯身	IG - SC02 東西土曜ペルト 下層 SC02 R-30 - SC02 IK SC02 R-30 - SC02 IK SC02 IK - SX41 SC02 R-27 - SC02 IK - S	① (14.8) ②4.0 ③ (12.0) ②3.45+α ①14.2 ②4.4 ④ (14.0) ②5.1 ①15.85 ②5.2+α ①10.6 ②4.1 癸春福(3.1) ①9.9 ②4.85 癸寿禄(2.75 ①10.8 ②4.9 受務を13.7 ①10.4 ②4.8 癸春福(3.98)	内外面共に担転ナテ。天井都内面1で見のち不定方向ナテ。天井都外面回転ヘラケスリ。 内外面共に担転ナテ。天井都内面不定方向ナテ。天井都外面回転ヘラケスリ。 内外面は比較セナラ。天井都内面10年。 天井部外面10年のティスリカナア。 内外面は比較セナラ。天井都外面10年の大スリカナア。 内外面は比較セナラ。天井都内面10年の大スリカナア。 内外面11年の大田町・ファ、天井都内面10年の大田・大田・大田町・ファスリ。 内外面11年の大田町・ファ、東京都内面10年の大田・大田町・ファスリ。 内外面11年の大田町・ファ、東京の大田町・ファスリ。 内外面11年の大田町・ファ、東京の大田町・ファスリ。 内外面11年の大田町・ファ、東京の大田町・ファスリ。 内外面11年の大田町・ファ、東京の大田町・ファスリ。 内外面11年の大田町・ファ、東京の大田町・ファスリ。 内外面11年の大田町・ファ、東京の大田町・ファスリ。 内外面11年の大田町・ファ、東京の大田町・ファスリ。 内外面11年の大田町・ファ、東京の大田町・ファスリ。 内外面11年の大田町・ファ、東京の大田町・ファスリ。 内外面11年の大田町・ファスリ。	※NAC. A. 4mm以下の長石をや中多量に含む。B: やや良好C: 内原目のYS1、外及1078/1。 A. 2mm以下の危色をや豊富なむ。B: やや良好C: 内原質MYS2、外及目別のYS2、外のでは、B: 良好C: 内原質MYS2、外のでは、B: 良好C: 内原含YS1、外のでは、Bに関いている。A: 2mm以下の白色をややや多量に含む。B: 良好C: 内原オリーブフSYG1、外のでは、原本リーブフSYG1、外のでは、原本リーブフSYG1、外のでは、原本リーブフSYG2、A: 4mm以下の白色をや重点な。B: 不良C: 内原オリーブSYG2、にお・賃貸りYSG2、外が65771、米ブリーブSYG2、A: 4mm以下の良石をやや多量に含む。B: やや良好C: 内原のYSG1、外のでいている。A: 3mm以下の白色をやや多量に含む。B: やや良好C: 内原のYSG1、外のでいている。A: 2mm以下の白色をやや多量である。B: やり良好C: 内原のYSG1、外のでいていている。A: 2mm以下の白色をやや多量され。B: 日好C内原NS/N、外オリーブ段2.5GYSG1、A: 2mm以下の白色をやや多量され。B: 日好C内原NS/N、外オリーブ段2.5GYSG1、A: 2mm以下の白色をやや多量され。B: 日好C内原NS/N、外オリーブ段2.5GYSG1、A: 2mm以下の白色をやや多量され。B: 日好C内原NS/N、外オリーブ段2.5GYSG1、A: 2mm以下の白色をやや多量され。B: 良好C: 内原の7.57/1、外の8.51/10/17/1。東/07/4/1。	一部際状 ヘク配引 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・
杯蓋 杯蓋 杯蓋 杯蓋 杯身 杯身 杯身 杯身	SC02 カマド周辺 SC02 IK・SX41 SC02 IK・SX41 SC02 IK・SC02 東西上海ペルト下層 SC02 3K SC02 R-23 SC02 R-26・SC02 IK SC02 R-27・SC02 上版 SC02 R-27・SC02 上版 SC02 R-27・SC02 上版 SC02 R-27・SC02 上版	① (12.0) ②3.45+α ① (14.0) ②5.1 ① (14.0) ②5.1 ① (15.85 ②5.2+α ① (10.6) ②4.1 受容性(3.1) ② 9.9 ②4.85 受罪後(2.75 ① (10.8) ②4.9 受罪後(3.7) ② (10.4) ②4.8 受罪後(3.8)	四外面共に担転ナテ。天井都内面回転ナデ後不定方向のナテ。 天井郡外面回転ペラケズリ。 内外面共に担転ナテ。天井都内面回転ナデ後不定方向のナテ。 天井郡外面回転ペラケズリ後ナデ。 内外面共に回転ナテ。天井都外面回転ペラケズリ後井デ。 内外面共に回転ナテ。天井都外面回転ペラケズリ。 内外面共に回転ナテ。底部外面回転ペラケズリ。 内外面共に回転ナテ。底部内面回転ペラケズリ。 内外面共に回転ナテ。底部内面回転ペラケズリ。 内外面共に回転ナテ。底部内面可能へラケズリ。	1076/1. A 2mm以下の白色粒や少量なか、B: やや良好で: 肉灰質薬10785/2. 外灰質	へう配号 電け変みあり
杯蓋 杯蓋 杯蓋 杯点 杯身 杯身 杯身	SC02 IK・SX41 SC02 IK・SX41 SC02 IK - SC02 東西上海ペルト下海 SC02 R-23 SC02 R-23 SC02 R-26・SC02 IK・SC02 L海 SC02 R-27・SC02 上郷 SC02 R-27・SC02 上郷 SC02 カマド周辺・SX41	①14.2 ②4.4 ① (14.0) ②5.1 ①15.85 ②5.2+α ①10.6 ②4.1 受客報3.1 ②9.9 ②4.85 受課報12.75 ①10.8 ②4.9 受器報13.7 ①10.4 ②4.8 受器報13.98	四外素共に担転ナテ、実計器内閣回転ナデ後不定方向のナテ。 天井器外第時転へラケズリ後ナア。 四外素共に回転ナテ、天井部内閣当ち 直接回転・ラケズリ後ナア。 内外素共に回転ナテ、正成外面回転へラケズリ。 内外素共に回転ナテ、底部外面回転へラケズリ。 同外素共に回転ナテ、底部内面回転へラケズリ。 内外素共に回転ナテ。成部内面で定方向ナテ。外面直移回転へラケズリ。 内外素共に回転ナテ。成部内面で定方向ナテ。外面直移回転へラケズリ。	第107K5/2. A: 3cmm以下の白色度や中や多量に含む。B: 良好C: 内灰分5/3 外 灰5/5/1・	へう配号 電け変みあり
杯蓋 杯蓋 杯身 杯身 杯身 杯身	SC02 I区・SC02 東西上海ペルト下標 SC02 3区 SC02 R-23 SC02 R-26・SC02 I区・ SC02 上標 SC02 R-27・SC02 上版 SC02 カマド院辺・SX41	① (14.0) ②5.1 ①15.85 ②5.2+α ①10.6 ②4.1 癸醛相3.1 ①9.9 ②4.85 癸醛程12.75 ①10.8 ②4.9 癸醛铂3.7 ①10.4 ②4.8 癸醛租3.98		報告323. A: 2mm以下の自色数、康全機量含む。B: 良好C: 内灰オリーブT.5Y6/I、外 灰 7.5Y6/I・炭オリーブT.5Y6/I、外 灰 A: 4mm以下の自色数を少量含む。B: 不良C: 内 灰オリーブSY6/2・に ム・境間 10Y8/3、外 次 65Y7/I・炭オリーブSY6/2。 A: 4mm以下の 反 石 を やや 多量に 含む。B: や や 良好C: 内 灰 10Y6/I、外 灰 10Y6/I、 A: 3mm以下の自色数をや 多量含む。B 良好C: 内 灰 (5/15/I)、外 灰 610Y7/I・炭 10Y4/I。 A: 2mm以下の自色数を 少量。 確そ機量含む。B: 良好C: 内 灰 67 5Y7/I、外 灰 610Y7/I・炭 10Y4/I。	へう配号 電け変みあり
杯蓋 杯身 杯身 杯身 杯身	東京上層ペルト下層 SC02 3区 SC02 R-23 SC02 R-26・SC02 I区・SC02 上層 SC02 R-27・SC02 上層 SC02 アーフィーSC02 上層 SC02 アーフィーSC02 エアーSC02 アーフィーSC02 R-25	①15.85 ②5.2+α ①10.6 ②4.1 受器性13.1 ①9.9 ②4.85 受器能12.75 ①10.8 ②4.9 受器性13.7 ①10.4 ②4.8 受器権13.98	内外衛共に回転ナテ、天井部内着当て員後回転ナテ、天井部外面回転へラケスリ。 内外衛共に回転ナテ、底部外面回転へラケズリ。 内外衛共に回転ナテ。底部内面回転へラケズリ。 内外衛共に回転ナテ。底部内面可能へラケズリ。 内外衛共に回転ナテ。底部外面回転へラケズリ。	7.5/56: 東オリープ1.5/52. A : 4mm以下の自免費や更高力。B : 不良C: 戸 原オリープ5/52 : にお・貝管 10/5/63. 男 ※ おき5/77 : ※ オリープ5/52. A : 4mm以下の負 名 や 中 多 置 に 含 ひ . B : 中 や 良 好 C: 内 戻 10/5/1. 男 長 10/5/1. A : 3mm以下の自免費や 中 多 置 合 む . B : 中 や 良 好 C: 内 戻 の だ O/5/1. A : 3mm以下の自免費や 中 多 置 合 む . B : 良 け C : 内 戻 67.5/7/1. 男 よ B : 2mm以下の自免費を 少 是 . B : 良 好 C : 月 天 67.5/7/1. 男 よ B : 10/7/1. 実 10/4/1.	載け正みあり
 杯身 杯身 杯身 杯身 杯身 杯身 杯身 杯身 	SC02 R-23 SC02 R-26 · SC02 I版 · SC02 上欄 SC02 L-27 · SC02 上欄 SC02 R-27 · SC02 上欄 SC02 R-25	①10.6 ②4.1 受容性13.1 ①9.9 ②4.85 失落後12.75 ①10.8 ②4.9 受容性13.7 ①10.4 ②4.8 受容性13.98	内外編集に担配ナテ。底部外看担配ヘラケズリ。 内外編集に開配ナテ。底部内面不定方向ナテ。外面底部超配ヘラケズリ。 内外編集に回転ナテ。底部内面不定方向ナテ。外面底部超配ヘラケズリ。	IOYRG2、外 共6577/1・東オリープ5762。 A: 4em以下の原石を中や多量に含む。B: やや良好C: 内戻IOYG/1、外 戻 IOYG/1。 A: 3em以下の白色粒をやや多量含む。B: 見好C: 内 戻が、外 オリープ灰2.5GYG/1。 A: 2em以下の白色粒を少量。 羅そ養量含む。B: 良好C: 内 戻67.5Y7/1、外 戻 白1077/1・戻1074/1。	
杯身 杯身 杯身 杯身	SC02 R-26・SC02 I区・ SC02 上欄 SC02 R-27・SC02 上欄 SC02 カマド周辺・SX41 SC02 R-25	①9.9 ②4.85	内外裏共に回転ナテ。近島内高不定方角ナテ。外高近監知駅へラケズリ、 内外裏共に回転ナテ。近島内高回転へラケズリ。	10YS/1。 A:3mm以下の白色数をやや多量含む。8.良好C内点NS/、外オリーブ級2.5GYS/1。 A:2mm以下の白色数を少量。 毒を養量含む。8.良好C:内,長台7.5Y7/1、外長白10Y7/1、牙,日0Y4/1。	
杯身 杯身 杯身 杯身	SC02 上層 SC02 R-27・SC02 上層 SC02 カマド周辺・SX41 SC02 R-25	①10.8 ②4.9 受際後13.7 ①10.4 ②4.8 受際後13.98	内外質共に回転ナア。底部外質回転ヘラケズリ。	A: 2mm以下の白色粒を少量、硼を微量含む、B: 良好C: 内.灰白7.5Y7/1、外.灰 白10Y7/1・灰10Y4/1。	
杯身 杯身 杯身	SC02 カマド剛辺・SX41 SC02 R-25	①10.4 ②4.8 受罪崔13.98		自10Y7/1·获10Y4/1。	
杯身 杯身	SC02 R-25		AND THE PROPERTY AND ADDRESS OF THE PARTY.	A:3mm以下の白色粒を少量、器を微量含む。B:やや不息C:内.目底2.5V6/2	口録部に 別個体付着
杯身		①11.6 ②4.65 受部領14.1	内外面共に回転ナテ。底部内面シッタ痕残る。底部外面回転ヘラケズリ、	外 灰オリーブ576/2。	
杯身	SC02 4E · SC02 3E		内外面共に回転ナア。内外面磨耗により襲整不明瞭。	A: 2mm以下の白色粒を少量合む。B: 不良C: 内.灰白2.5Y8/2。外.灰白5Y8/1。	受罪に 二次策成あり
		① (12.3) ②4.4 受部径 (14.6)	内外面共に回転ナア。底部内面一定方向のナテ。底部外面回転ヘラケズリ。	A:3mm以下の長石を少量含む。B:やや良好C:内.灰黄2.5Y7/2、外.灰黄2.5Y7/2。	
杯身	SC02 3区	① (12.95) ②4.75 受部後 (16.0)	内外面共に回転ナテ。底部内面回転ナデ後不定方向ナデ。底部外面回転ヘラケズリ。	A:3mm以下の白色粒をヤや多量含む。B:ヤや良好C:内.駅7.5Y6/1. 外.オリープ以2.5GY6/1・灰白N7/。	降疾
	SC02 R-36・SC02 東西土層ベルト・SC02 2区	①13.0 ②5.4+α 受滞径15.9	内外面共に回転ナデ。底部内面回転ナデ後不定方向ナデ。底部外面回転ヘラケズリ。	A:3mm以下の長石をヤヤ多量に含む。B:ヤヤ良好C:内.反10Y6/1、外.反 10Y5/1・反白N7/。	异灰
杯身	SC02 R-28	①13.9 ②5.65 受都後17.2	内外面共に回転ナテ。旅部内面回転ナデ後一定方向ナデ。旅部外面回転ヘラケズリ。	A:4mm以下の白色粒を少量、得を費量含む。B: 良好C: 内.疣N6/、外.灰白 N71:オリーブ灰2.5GY5/I。	焼け歪みあり、降灰 外面に別倒体付着
杯身	SC02 1区 · 85区 包含層 · SX38 · B4区 検出面	① (11.8) ②3.7 曼都径 (14.0)	内外面共に回転ナア。底部外面回転ヘラケズリ。	A:4mm以下の長石をやや多量に含む。B: やや良好C:内.氏10Y7/1、外.氏 10Y7/1。	
杯身	SC02 上層・4-B区 検出面	① (13.6) ②3.8 受部径 (15.8)	内外面共に回転ナデ。底部内面回転ナデ後不定方向ナデ、指オサエ痕あり。 底部外面回転ペラケズリ後不定方向ナデ。	A: 3mm以下の白色粒を少量、硬を微量含む。B: 良好C: 内.灰白5Y7/1、外.灰白5Y7/1。	
杯身	SC02 東西土層ペルト下層・ 包含層 1区・SC02 1区	① (14.2) ②3.0 受那提 (16.0)	内外面共に回転ナテ。底部外面回転へラケズリ。	A:4mm以下の長行をやや多量、imm以下の行奏をやや少量含む。B:やや良好C: 丸灰10Y6/1、外灰10Y6/1・灰N5/。	
杯身	SC02 1EK - SC02 3EK	① (10.4) ②3.8+α 受部径 (15.0)	内外面共に回転ナテ。底部外面回転へラケズリ。	A:4mm以下の白色粒、藍色粒をやや多量、硬を微量含む。B:良好C:内灰 5Y5/1、外.駅5Y5/1。	_
杯身	- SC02 上層	① (13.4) ②3.55+α 受部径 (15.6)	内外面共に回転ナア。	A: 3mm以下の白色粒を少量含む。B: ヤヤ良好C: 克.沃白5Y7/2。 外.沃白7.5Y7/1· 板7.5Y6/1。	
杯身	SC02 東西土屋ペルト下層	① (13.0) ②4.2+α 受部径 (15.3	内外面共に回転ナデ。外面降灰により不明瞭。		雅 获
高杯	SC02 上層·SC02 1区·SC02 3区·	① (13.8) ②4.1+α	内外面共に回転ナデ、乾部内面回転ナデ株不定方向ナデ。乾部外面カキメ。	A:3mm以下の白色粒、裸を少量含む。B:良好C:内:オリーブ級2.5GY6/1、外オ	_
高杯 (脚部)	SC02東西土層ペルト下層・SX37 SC02 東西土層ペルト下層	Ø11.2 ③6.7+α	内外面共に回転ナデ。杯底塚内面不定方向のナデ。	リープKSGY6/1・哺春氏10GY4/1。 A:4mm以下の長石をヤヤ多量合む。B:ヤヤ良好C:内.K補7.5YR6/2・妖器	
高杯 (脚部)	SC02 R-32 - SC02 LM	@15.0+α	内外面共に回転ナテ。内面シボリ森、外面方形透孔(3孔)、2~3条の沈撃あり。	7.5YR5/2、外 妖術7.5YR5/2。 A: 4mm以下の白色粒をやや多量、標を少量含む。B: 負好C: 内 灰5Y5/1、外 灰	勢けぞみあり
		T	内外面共に回転ナテ。内面降灰。肩部外面に2糸、体部に1条の状線を廻らせ、連続何突文蔵す。	N4/・KNS/。 A:4mm以下の白色粒をヤヤ多量、碟を養量含む。B:良好C:内.氏NS/・氏	R E
				NOV、外よXNSV。 A:3mm以下の長石、石英、末端色粒をヤや多量、縁を少量含む。B:不良C:内浅	
	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·			★2.5Y7/3、外 妖貴2.5Y7/2。 A: 4mm以下の長石をやや多量に含む。B: やや良好C: 内.疾10Y5/1、外 オリー	降灰、艦都焼け歪み
	SC02 R-1 · SC02 1E · SC02 1			ブ貴5Y6/3・オリーブ第5Y3/1。 A:5mm以下の長石を多量、imm以下の石英をやや多量に含む。B:やや良好C:内.に	定 雙付着
	区・SC02南北土層ベルト			ぶい黄樹10YR7/4、外.橙7.5YR6/6・黒10YR2/1。	外面條付着
9	SC02 下層ピット③		体部外面タテハケ。底部外面ナナメ方向のハケ。	10YR5/2・にお・黄種10YR6/3、外、におい黄橋10YR6/4・陽灰10YR4/1・におい使7.5YR6/4。	内面に
	SC02 R-31	①11.4 ②14.0	口線部付近輪機の直接る。外面ハケ。	む。B: やや良好C: 内によい黄橙10YR6/4・貴族2.5Y5/1、外によい黄橙10YR6/4。	年の付着あり
飯	SC02 1E	②6.3+α	ナア、指オサエ皮形。	10YR7/4、外.极7.5YR6/6。	
95	SC02 3IZ	26.9+α	ナア、指オサエ収形。	得10YR7/4·灰5Y5/1、外.明黄得10YR7/4·灰5Y5/1。	
RE.	SC02 11g	②4.2+α	ナテ、指オサエ、一部ハケ成形。	10YR6/4 · MI0YR6/4.	
业	SC02 R-11・SC02 I区・ SC02 東西土曜ベルト 上層	① (9.75) ②5.1+α	内面手持ちヘラケズリ。口縁体内外面共にナデ、外面は最終により不明瞭。		
	SC02 R-35	①10.9 ②7.5+α	崩耗により不明瞭。	A:3mm以下の長石、素色数、1mm以下の石英、雪母をやや多量に含む。B:や や不良C:内.機7.5YR7/6。 外で表	
188	SC02 R-17	()11.6 @6.5	口縁部内外面共にナデ。内面ハケ後ミガキ。外面タタキ後ナア。	A:2mm以下の長石、石英をや中多量に含む。8:中中良好C:内.機5YR5/6、外.明 褐色5YR6/6。	
磁		①欠損 ②3.6 受部径 (14.6)	内外面へラミガキ。口縁部内外面ナア、底部外面へラケズリ。	A: 穀陽な白色粒、実段を数量含む。B: 丸好C: 内. 優7.5YR6/6・黒橋7.5YR3/1、 外. 優7.5YR6/6・黒橋7.5YR3/1。	無禁あり
	SC02 1区 · SC02 上層	@ (941) @cor ***	内外面共に回転ナテ。内面は器壁が激しく剥離し調整不明瞭。 口縁下に1条の比較を弱らす。鉢路外面中位に回転へラケズリ。	A:4mm以下の石英、長石をや中多量、礫を少量含む。B:やや良好C:内.億7.5YR7/- 残貨機10YR8/4、外.億7.5YR7/6。	
杯	SC02 I区・SC02 上層 SC02 R-33・SC02 不明土器・ SC02 I区・試搬トレンチ	U (24.1) (29.95 萬曾後16.3		-	黑曜石
杯機破杯	SC02 R-33 · SC02 不明土塁 ·	① (24.1) ②9.95 高台後16.3 長1.2+α 幅1.5+α 厚0.3 重0.57	-		
	変 版 版 版 敬	類解像 SC02 カヤド周辺 - SX41 第 SC02 R-1 - SC02 IX	照照機 SCO2 カヤド周辺・SX41 ②9.3+α 更 SCO2 R-1・SCO2 IE・SCO2 I	照数 SCU2 たい	照数

		_		0-40-40-40-4			
番号	祖用	器推	出土地点	①口径②器高③底径 (cm) ④重さ (g) * (復元額)	形態・技法の特徴 	A:胎士 B:焼成 C:色質	俊 考
53	須恵器	高杯蓋	SC03 RI	①12.8 ②4.55 つまみ径2.45	内外画共に回転ナデ。天井部内面回転ナテ後一定方向のナデ。天井部外面回転へラケズリ。 	A:2mm以下の白色粒をやや多量、裸を微量含む。B:良好C:内.灰オリーブ7.5Y6/2、 外.灰オリーブ5Y6/2・灰5Y6/1。	
54	須恵器	杯蓋	SC03 上東西土手内	① (13.0) ②4.2+α	内外面共に回転ナテ。天井部外面回転へラケズリ。	A:2mm以下の長石を多量に含む。B:やや良好C:内.灰10Y6/、外.灰10Y6/。	
55	須恵春	杯蓋	SC03 31£	① (11.95) ②3.55+α	内外画共に回転ナデ。天井部内面回転ナデ後不定方向のナデ。天井部外面回転ヘラケズリ。 	A: 2mm以下の白色粒を多量合む。B: 良好C: 内.灰10Y5/i、外.灰7.5Y6/i・暗 灰N3/。	ヘラ記号
56	須追盟	杯菓	SC03 2½ · SC02 1₺	① (13.4) ②3.75	内外面共に回転ナデ。天井像内面不定方向のナデ。天井像外面回転ヘラケズリ。	A: 2mm以下の白色粒をやや多量含む。B: やや良好C: 内.灰オリーブ5Y6/2、外.灰オリーブ5Y6/2。	ヘラ記号
57	叙电器	杯蓋	SC03 R-4	① (13.4) ②3.5	内外面共に回転ナア。天井部内面不定方向のナデ。天井部外面回転へラケズリ。	A: 2mm以下の長石を少量含む。B: 良好C: 内.灰5Y6/1、外.灰10Y5/1。	ヘラ記号
58	ass.	杯蓋	SO03 R-2·SC3 2区·SC03 4区・ 包含層 2区・SC03 東西ペルト	①12.2 ②3.8	内外畜共に回転ナテ。天井部内面不定方向のナデ。天井部外面回転ヘラケズリ。		ヘラ記号 降灰
59	領息器	杯身	SC03 上南北土手内	① (9.2) ②2.8 受器程 (11.4)	内外畜共に回転ナテ。天井都内面不定方向のナテ。天井都外面回転ヘラケズリ。	A:2mm以下の長石を少量合む。B:やや良好C:内.灰N5/、外.灰N6/。	
60	領息器	析身	SC03 2E	① (10.0) ②3.2 受鄰径 (12.1)	内外面共に回転ナデ、底部内面不定方向のナデ。底部外面回転ヘラケズリ、一部工具痕あり。	A: 2mm以下の長石をやや多量含む。B: やや良好C: 内.灰IOY6/I、外.灰 10Y6/I。	ヘラ記号
61	雅恵器	# S	SC03 2区・SC03 東西ベルト・スローブ包含層	① (9.8) ②3.35+α 受罪性 (12.2)	内外面共に回転ナデ。底部内面不定方向のナデ。外面磨耗により不明瞭。	A: 2mm以下の白色粒を少量、線を微量含む。B: やや良好C: 内.灰N6/・暗灰 N3/、外.灰N6/・オリーブ灰2.5GY6/1。	р
62	REB	杯身	SC03 4E	① (11.5) (23.9+a 受事経 (14.0)	内外面共に回転ナテ。底部内面不定方向のナデ。底部外面回転ヘラケズリ。	A:3mm以下の長石を多量に含む。B:やや良好C:内.灰10Y5/、外.灰10Y5/。	
63	根支数	析身	SC03 上東西土手内・SX26	① (11.8) ②3.5+a 長郡径 (13.8)	内外面共に回転ナア。底部内面打撃による穿孔痕有り。底部外面回転ヘラケズリ。	A:3mm以下の長石を多量に含む。B:やや良好C:内.灰白5Y7/、外.灰白5Y7/。	打撃痕か?
64	NED.	杯身	SC03 R-6	①10.6 ②3.8 受事任12.6	内外面共に回転ナテ。底部内面不定方向ナテ。底部外面回転へラケズリ。	A:4mm以下の長石をやや多量含む。B:やや良好C:内,灰N6/、外,灰10Y6/1。	ヘラ記号
65	類意思	ff-9	SC03 上南北土手内	① (11.0) ②3.8 受罪任13.2	内外面共に回転ナテ。底部内面不定方向ナテ。底部外面回転へラケズリ。	A:4mm以下の長石を多量含む。B: やや良好C:内.灰10Y6/、外.灰10Y6/。	ヘラ記号
66	#ES	- 81	SC03 25E · SD02 15E · St2:#4	① (12.2) ② 6.8	内外面共に回転ナア。底部内面不定方向のナデ。外面中位に2条沈線、その上下にカキメ。		ヘラ配号 糖灰
67	MES.		医·SC03 2区 麻癬區上 SC03 2区	096 249	歌感外番回転ヘラケズリ。 内外番共に回転ナテ。歌塚内面不定方向のナデ。歌塚外面回転ヘラケズリ。	A: 2mm以下の長石を少量含む。B: やや良好C: 内.灰N6/・暗灰N3/、外.灰N6/・	ヘラ記号
H	ガ末器	**	SOUS 282 PERIOLE	(f) (10.8) 25.2+α	内外面状に回転ナデ。杯歌等内面不定方向のナデ。杯歌等外面回転ヘラケズリ。	・	MAX.
68	RED RED	短報者	SC03 R5·包含服 5底·SC03 4	Q7.4 Q 7.3	内外番共に回転ナア。 ボモルロ・南川・佐ノバッシップ・、 Tiske アルロー・マノハス	A: 4mm以下の長石を多量含む。B: やや良好C: 内.灰N6/、外.灰10Y6/1。	
69		71.30E	区上版·SC03 R-1·SC03 R-6 SC03 4区·SC03 東西ペルト・		内外面林に回転ナデ。内面シボリ察。底部外面回転へラケズリ、	A:1~3mm以下の白色粒をやや多量含む。B:やや良好C:内.褐灰10YR5/1、外.灰	 へラ配号
70	無意思	**	SC03上兩北土手内·包含層 4区 SC03 東西ベルト・	Ø5.8+α	副部カキ目、指鞭圧収、2条沈線網に連続制定文を施す。	黄褐10YR5/2。 A:dmm以下の形石を名乗に含み、2mm以下の赤色粒 imm以下の石英をやや多	黒斑
71	土師器	-	SC03 1E - SC3 2E	① (29.4) ②9.0+α	内面ハウ、口縁部ナデ、外面タタキ。	量に含む。B:やや良好C:内.にぶい黄檀10YR6/4、外.浅黄2.5Y7/3・黒5Y2/1。 A:2mm以下の石英、長石、赤褐色粒をやや多量、微細な雲母を微量含む。B:良	内面煤付着
72	上野器	#	SC03 2E	Ø9.7+a	内外書共に口縁郡ヨコナデ、内曹タテ方向のハケメ、外書格子目タタキ。	好C:内.にぶい程7.5YR6/4・にぶい掲7.5YR5/3、外、橙7.5YR6/6。 A: 2mm以下の石英、長石、角閃石、繁母をやや多量、碑を微量合む。B:良好C:	対面線付着 穿孔あり
73	土師智	-	9003 #7F#	24.9+α	外面ハケメ。内面磨耗により不明瞭。	内・檀5YR6/8、外・檀5YR6/8。 A:1~3mm以下の石英、長石をやや多量、線を少量合む。B:良好C:内・明黄褐	**16のツ
74	土師器	•	SC03 3E	€9.4+α	内面磨耗により不削減。外面平行タタキ。	A:1~3mm以下の白突、後行をヤヤラ重、様をシ重点は。B:及びこ・バ・の内で 107R7/6、外・機7.5YR7/6。 A:4mm以下の白色粒、微細な響母を多量、裸をやや多量に含む。B:良好C:内・機	
75	上野型	*	SC03 R-1	②11.35+α ③ (15.6)	内面摩耗により不明瞭。外面不明瞭を平行タタキ、ハケ、底部にヨコナデ。	A: 4mm以下の日巴起、数据な器する多量、様でヤマ多重に占む。B: 及対・ドルセ 7.5YR6/6・によい黄檀10YR6/4、外・檀7.5YR6/6・によい黄檀10YR6/4。 A: 4mm以下の長石、1mm以下の石英を多量、2mm以下の赤色粒を少量合む。B:	
76	土野型		SC03 上南北土手内	@4.9+α	ナデ、指オサエ成形。	良好C: 内.橙7.5YR6/6、外.橙7.5YR6/6。	
77	北野島	*	SC03 RI	②6.7+α	ナデ、指オサエ成形。	A:4mm以下の白色粒、藤を多量、3mm以下の角閃石を少量含む。B:やや良好C: 内にぶい黄便10YR7/4、外別黄褐10YR6/6・灰黄2.5Y6/2。	
78	土師器	•	SC03 R-7	©6.7+α	ナデ、指オサエ成形。	A:4mm以下の石英、長石をやや多量、裸を少量合む。B:良好C:外、権7.5YR7/6。	_
79	鉄器	βŢ	SC03 上南北上手内	長5.0 幅1.1 月0.7 重5.20	_	· -	茎部で
80	#5	77-7	SC03	長7.5 朝1.65 厚0.4 重10.18			折れ曲がる
81	石製品	紡錘車	\$003	長3.85 幅3.75 厚1.55 童42.20	_		潜石
	\vdash				1		
82	石製品	71	SC03 3E	長2.95 個1.95 年0.7 童5.27			滑石 - 四十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二
82 83	石製品	与玉	SC03 3E SC04 R-1 - SC04 4E	展2.95 個1.95 第0.7 第 5.27 ① (14.3) ②4.9	内外番共に回転ナテ。天井部内質不定方向のナテ、シック仮あり。天井部外面回転ヘラケズリ。	A:3mm以下の長右を中や多量含む。B:やや良好C:内灰白5Y7/1、外次オリープ5Y5/2・灰白5Y7/1。	滑石 複数の別個体付着、 焼け歪みあり
_				200 200 000	ー 内外面共に関範ナア。天井部内値不定方向のナテ、シッタ痕あり。天井部外面関範へラケズリ。 ナア、指オヤエ成形。	ブ575/2・灰白5Y7/1。 A:3mm以下の石英、及石を多量、Imm以下の赤色粒を少量含む。B:や牛良好C: 外.覆7.5YR6/6。	複数の別個体付着、
83	漫意思	杯准	SC04 R-1 - SC04 4E	① (14.3) ② 4.9		ブ5Y5/2・灰白5Y7/1。 A:3mm以下の石英、長石を多量、Imm以下の赤色粒を少量含む。B:やや良好C:	複数の別個体付着、
83	表思思 土麻器	将推	SC04 R-1 - SC04 4E SC04 ±#	① (14.3) ②4.9 ②4.6+α	ナデ、指オサエ成形。	 オラバラン・ 校島577/1。 A: 3mm以下の市英、長石を多量、Imm以下の赤色粒を少量含む。B: やや良好に が用って5865。 A: 2mm以下の白色粒を養量含む。B: やや良好に: 内沢黄2.5Y7/2。 外 灰白 5Y7/2。 A: 2mm以下の白色粒を養量含む。B: やや良好に: 東沢日5Y7/1。 軸別オリーブ灰 2.507/7/1。週期都有9。 軸がはうすく均一。 	複数の別個体付着、 焼け歪みあり
83 84 85	無意思 土庫器 須恵器	新華 電 新寿	S004 R-1 - S004 482 S004 ±8-54-1 SXIII	① (14.3) ②4.9 ②4.6+α ① (12.3) ②4.4+α 受課程 (14.6)	ナア、指オウエ成形。 内外審共に担転ナア、底部外面例転へラケズリ。	スランス・ 項目577/1。 A:3mm以下の石炭、 長石を多量、1mm以下の赤色数を少量含む。B:や中良好に が確っ378(2)。 A:2mm以下の白色数を需量含む。B:や中良好に:内災費2.5Y7/2。 外 採白 SY7/2。 A:2mm以下の白色数を微量含む。B:良好に:素灰白5Y7/1。 熱明オリーブ収 2.5GY7/1、透明素打り、結野は3寸く均一。 A:数量な白色数を微量含む。B:良好に:素灰白2.5Y8/1・熱明オリーブ収 SY7/7、透明素、202。夏入村り、藤塚は厚い。	複数の別個体付着、 焼け歪みあり
83 84 85 86	景意思 土葬器 須恵器 白曜	杯蓋 鑑 杯身	SC04 R-1 - SC04 4E SC04 ±B-4-1 SX11 SX11	① (14.3) ②4.9 ②4.5+α ① (12.3) ②4.4+α 支際径 (14.5) ②1.85+α ③3.7	ナデ、指オサエ成形、 穴外番件に影像ナデ、底部外面開始へラケズリ。 影験、外面開始ナデ、底部外面開始へラケズリ。	A:3mm以下の石奈、吳石を多量、Imm以下の赤色数を少量含む。B:中中良好ご、 本理の7500名。 A:2mm以下の白色数を微量含む。B:中や良好ご: 角沢貴2.5Y7/2。外沢白 5Y7/2。 A:2mm以下の白色数を微量含む。B:東好ご:東沢日5Y7/1。 龍期オリーブ灰 2.5O/7/1。透明維持9、能別は3ケく均一。 A:2mm以下の白色数を微量含む。B:良好ご:東沢日5Y7/1。龍期オリーブ灰 2.5O/7/1。透明維持9、能別は3ケく均一。 A: 微量な白色を微量含む。B.田子:東沢日25Y8/1・稚期オリーブ灰	複数の別個体付着、 焼け至みあり
83 84 85 86 87	東京 土庫書 須恵器 白曜	杯蓋 鑑 杯身 里	SO04 R-1 - SO04 48 SO04 ±8-4+ SO11 SO11	① (14.3) ②4.9 ②4.6+α ① (12.3) ②4.4+α 至霧症 (14.6) ②1.85+α ③3.7 ②4.7+α	ナア、指オウエ成形。 内外番件に形象ナア、底部外面附をヘラケズリ。 職職、外面回転ナテ、底部外面付数ヘラケズリ。 職職、外面回転ナテ、底部外面付数ヘラケズリ。	 A: 3mm以下の行災、長石を多量、Imm以下の赤色粒を少量含む。B: やや良好に 系理了57862。 A: 2mm以下の白色粒を養量含む。B: やや良好に、内沢貞2.5Y7/2、外 反白 5Y7/2。 A: 2mm以下の白色粒を養量含む。B: やや良好に、内沢貞2.5Y7/2、外 反白 5Y7/2、 西川部下の白色粒を養量含む。B: 良好に、東沢白15Y7/1、 韓川オリーブ灰 2.5OY7/1、透明感、大松、質人有力、 軸架は序1、2、戻口2.5Y8/1・ 絵明オリーブ及 5OY7/1、週刊感、火松、質人有力、軸架は序1、2、 A: 養国な白色粒を養量含む。B: 良好に、東沢白2.5Y7/1・ 絵明オリーブ A: 養国な白色粒を養量含む。B: 良好に 東沢白2.5Y7/1・ 輪原オリーブ 	複数の別個体付着、 機り歪みあり
83 84 85 86 87 88	須恵郡 土麻郡 須恵郡 白田 青田	杯蓋 低 杯身 里 杯	SOM R1 - SOM 48 SOM ±10-4-1- SKII SKII SKII	(0 (14.3) ②4.9 ②4.6+α ① (12.3) ②4.4+α 乗群径 (14.6) ②1.65+α ③3.7 ②4.7+α ②4.85+α 第9.0+13.95+α ■3.05	ナア、指オウエ成形。 内外番件に形象ナア、底部外面附をヘラケズリ。 職職、外面回転ナテ、底部外面付数ヘラケズリ。 職職、外面回転ナテ、底部外面付数ヘラケズリ。	 A: 3mm以下の行災、長石を多量、Imm以下の赤色粒を少量含む。B: やや良好に 系理了57862。 A: 2mm以下の白色粒を養量含む。B: やや良好に、内沢貞2.5Y7/2、外 反白 5Y7/2。 A: 2mm以下の白色粒を養量含む。B: やや良好に、内沢貞2.5Y7/2、外 反白 5Y7/2、 西川部下の白色粒を養量含む。B: 良好に、東沢白15Y7/1、 韓川オリーブ灰 2.5OY7/1、透明感、大松、質人有力、 軸架は序1、2、戻口2.5Y8/1・ 絵明オリーブ及 5OY7/1、週刊感、火松、質人有力、軸架は序1、2、 A: 養国な白色粒を養量含む。B: 良好に、東沢白2.5Y7/1・ 絵明オリーブ A: 養国な白色粒を養量含む。B: 良好に 東沢白2.5Y7/1・ 輪原オリーブ 	複数の別個体付着、 機り歪みあり
83 84 85 86 87 88 89	景思 土飾器 須恵器 白曜 青曜 鉄器	杯蓋 塩 杯身 里 杯	SOM R1 - SOM 48 SOM ±8-4-1 SXII SXII SXII SXIII SXIII	(① (14.3) ②4.9 ②4.6+α ① (12.3) ②4.4+α 乗群径 (14.6) ②1.65+α ③3.7 ②4.7+α ②4.85+α 展9.0+13.95+α ■3.05 乗1.05 ~ 2.5 ■32.00	ナア、指オサエ成形、 穴外番件に形能ナア、皮部外面附能ヘラケズリ。 顕軌、外面開能ナタ、皮部外面附能ヘラケズリ。 動物、 動物、 動物、 動物、 動物、 一	A:3mm以下の行祭、長石を多量、Imm以下の赤色数を少量含む。B:や中良好に: 水理73所総合、 水理73所総合、B: 中中良好に: 内災費2.5Y7/2。外 採白 SY7/2。 A:2mm以下の白色数を微量含む。B: 中や良好に: 内災費2.5Y7/2。外 採白 SY7/2。 A:2mm以下の白色数を微量含む。B:良好に: 果灰白5Y7/1、糖期オリーブ灰 SY7/1、透明都有り、能解は3寸(均一。 A: 微量含色色を微量含む。B:以野に:果灰白2.5Y8/1・絵期オリーブ灰 SY7/1、透明感、気色、質入有り、動脈は多い。 A:微量含色数を微量含む。B:良好に:果灰白2.5Y7/1・絵灰オリーブ SYS/3、透明感、質入有り、物解は少い。 - A-4mm以下の石灰、長石を多量含む。B:中良好に: 内以白2.5Y7/1・後成之5Y7/1。 人工4mm以下の石灰、長石を多量含む。B:中良好に: 内以白2.5Y7/1・後成之5Y7/1。	複数の別個体付着、 機り歪みあり
83 84 85 86 87 88 89 90	須恵器 土師器 須恵器 白曜 青曜 鉄器	杯蓋	SOM R1 - SOM 48 SOM ±8-4-1 SXII SXII SXIII SXIII SXIII SXIII	① (14.3) ②4.9 ②4.5+α ① (12.3) ②4.4+α 乗隊任 (14.5) ②1.65+α ③3.7 ②4.7+α ②4.85+α 第3.0+(3.95+α 第3.05 第1.05 ~ 2.5 第92.00 ②3.85+α ③ (11.4)	カデ、指オウエ成形。 の外番共に起来すが、底部外面回転へラケズリ。 動能、外面回転ナテ、底部外面回転へラケズリ。 動能、 動能、 動能、 動電・ の外番供に開催により不可識、影響・ の外番供に開催により不可識、影響・ の外番供に開催により不可識、影響・ の外番供に開催により不可識、影響・ の外番供に開催により不可識、影響・ の外番供に開催により不可識、影響・ の外番供に開催により不可識、影響・ の外番供に	A: 3mm以下の白色粒を製量合む。B: 中や良好C: 内沢貴25Y7/2。外沢の 25Y7/2。 A: 2mm以下の白色粒を製量合む。B: 中や良好C: 内沢貴25Y7/2。外沢白5Y7/2。A: 2mm以下の白色粒を製量合む。B: 東洋C: 東沢白5Y7/1。 他別オリーブ級 2.5CY7/1。週間春7。 MW 4874 5 45—A: 開催らせる製量合む。B: 東洋C: 東沢白25Y8/1・ 他別オリーブ級 5CY7/1。 規則成 200. 東入村り、 他所は5中、5CY7/1。 現期成 200. 東入村り、 他所は5中、5CY7/1。 地原オリーブス 5CY7/1。 200. 東京 24 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5	複数の別個体付着、 機け至みあり
83 84 85 86 87 88 89 90	東京 五 上海 3 須京 3 白収 青収 株 3 外生土 3 須京 3	杯蓋	SCO4 R-1 - SCO4 4E SCO4 ± 1 - SCO4 4E SX11 SX11 SX11 SX11 SX11 SX11 SX47	(① (14.3) ②4.9 ②4.8+α ① (12.3) ②4.4+α 受罪性 (14.6) ②1.85+α ③3.7 ②4.7+α ②4.85+α ■33.05 第1.05~2.5 ■52.00 ②3.85+α ③ (11.4)	カア、指オウエ成形。 内外番件に対象ナア、底部外面例をヘラケズリ。 振動、外面回転ナテ、底部外面例数ヘラケズリ。 振動、頻差弁文を与する。 - 内外面件に取析により不可識。数部ナア。 内外面件に配析する。	A:3mm以下の石炭、長石を多量、Imm以下の赤色散を少量含む。B:や中良好に:	複数の別個体付着、 機付至みあり
83 84 85 86 87 88 89 90	無意思 上海等 須息器 白曜 青曜 株器 外生土 第 類形器	杯蓋	SOM R1 - SOM 48 SOM ±8-4-1 SXII	(① (14.3) ②4.9 ②4.6+α ② (12.3) ②4.4+α 乗器径 (14.6) ②1.65+α ③3.7 ②4.7+α ②4.85+α 展9.0+13.95+α ■3.05 第1.05 ~ 25 ■92.00 ②3.85+α ③ (11.4) ②3.4+α ③ (3.8) ②4.1+α	ナア、指オサエ成形、 内外番共に影転ナア、底部外面形転へラケズリ。 駆動、外面回転ナタ、底部外面形転へラケズリ。 動動、 動動、 動動、 無動、 無事件文を与する。 一 内外面共に脱転により不可識。 表部ナア。 内外面共に回転ナテ。 内外面共に回転ナテ。 内外面共に回転ナテ。 内外面共に回転ナテ。	A:3mm以下の行政、長石を多量、Imm以下の赤色数を少量含む。B:や中良好に:	複数の別様体付着、 機付近みあり
83 84 85 86 87 88 89 90 91 92	無影響 主声響 須思器 白 磁 青 磁 株 等 東 生土 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五	杯蓋 塩 杯合 具 杯 検 不明 夏 点杯 短 数 原 数 の の の の の の の の の の の の の の の の の	SOD4 R-1 - SOD4 4E SOD4 ±BC+ + SX11 SX11 SX11 SX11 SX17 SX47 SD01 3E SD01 5E	(① 114.3) ②4.9 ②4.5+α ① 112.3) ②4.4+α 乗隊任 (14.5) ②1.65+α ③3.7 ②4.7+α ②4.85+α 第3.0+13.95+α 第3.05 第1.05 - 2.5 第52.00 ③3.85-α ③ (11.4) ②3.4+α ① (3.8) ②4.1+α ②2.0+α ③ (5.4) 聚1.5+α 第1.15+α	ナア、指オサエ成形、 内外番共に影転ナア、底部外面形転へラケズリ。 駆動、外面回転ナタ、底部外面形転へラケズリ。 動動、 動動、 動動、 無動、 無事件文を与する。 一 内外面共に脱転により不可識。 表部ナア。 内外面共に回転ナテ。 内外面共に回転ナテ。 内外面共に回転ナテ。 内外面共に回転ナテ。	A:3mm以下の行政、長石を多量、Imm以下の赤色数を少量含む。B:や中良好に:	複数の別様体付着、 機付近みあり 電泉田-1点類 主類口縁 健泉11-2類 健泉 (1-2) 健泉 (1-2) 能泉 (1-2)
83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93	無影響 (東京) (東京) (東京) (東京) (東京) (東京) (東京) (東京)	作置 低 作身 里 作 校 不明 更 高杯 知期後 故 石廠	SCO4 R-1 - SCO4 48 SCO4 18-4-1 SX11 SX11 SX11 SX11 SX11 SX47 SX47 SD01 38 SD01 58 SD01 58	① (14.3) ②4.9 ②4.5+α ① (12.3) ②4.4+α 乗隊任 (14.5) ②1.65+α ③3.7 ②4.7+α ②4.85+α 第3.0+(3.25+α ■2.05 第1.05-2.5 ■52.00 ③3.85+α ③ (11.4) ②3.4+α ① (3.8) ②4.1+α ②2.0+α ③ (5.4) 至1.5+α ■1.15+α #0.25 ■0.51+α	カア、指オウエ成形。 の外番共に起転ナア、底部外面回転ヘラケズリ。 動能、外面回転ナア、底部外面回転ヘラケズリ。 動能、断置弁文を有する。 一 内外面共に開催により不可識、影響サテ。 内外面共に回転ナア。 の外面共に担転ナア。 の外面共に担転ナア。 の外面共に担転ナア。 の外面共に担転ナア。 の外面のみケズリにより電能。	A: 3mm以下の白色粒を養量合む。B: 中や良好C: 内沢貴25Y7/1。株別オリーブ 株型の78(6%) A: 2mm以下の白色粒を養量合む。B: 中や良好C: 内沢貴25Y7/2。外沢白 5Y7/2。 A: 2mm以下の白色粒を養量合む。B: 東好C: 東沢白5Y7/1。 他別オリーブ級 2.50Y7/1。 効果が1。 数解は3字、49	経験の別様体付着、 機付近みあり 電奈田-I t (原 五線口 日 (原 展 泉) I - a 原 降 灰 ヘラ配号 離泉 I 駅
83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94	東京 (東京) 東京 (東ri) 東ri) 東京 (東ri) 東京 (東ri) 東ri) 東ri (東ri) 東ri (東ri) 東ri) 東ri (東ri	作蓋 低 仟身 里 杯 校 不明 更 点杯 知限者 校 石廠	SCD4 R-1 - SCD4 4E SCD4 ± 1 - SCD4 4E SX11 SX11 SX11 SX11 SX47 SX47 SD01 3E SD01 5E SD02 2E	(① (14.3) ②4.9 ②4.6+α ② (12.3) ②4.4+α 乗器径 (14.6) ②1.65+α ③3.7 ②4.7+α ②4.85+α R9.0+13.95+α ■3.05 第1.05 ~ 25 ■92.00 ②3.85+α ③ (11.4) ③3.4+α ③ (3.8) ②4.1+α ②2.0+α ③ (5.4) 第1.5+α ■1.15+α 第0.25 ■0.51+α ③11.2 ②4.0 乗器後13.85	カア、指オウエ成形、 内外編件に起転ナア、底部外裏回転ヘラケズリ。 職職、外番回転ナテ、底部外裏回転ヘラケズリ。 職職、頻繁弁文を有する。 一 内外編件に回転ナラ。 内外編件に回転ナテ。 内外編件に回転ナア。 成部内属回転ナテー 大部内属回転ナテー 大部の用用サー 大 大 大 大 大	A: 3mm以下の行祭、 長石を多量、 lmm以下の赤色数を少量含む。B: やや良好に:	複数の別様体付着、 機付近みあり
83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95	知思想 上海等 知思题 白 概	肝蓋	SOD4 R-1 - SOD4 4E SOD4 ±BC+ SX11 SX11 SX11 SX11 SX11 SX47 SX47 SD01 3E SD01 5E SD01 5E SD02 2E SD02 2E	(① (14.3) ②4.9 ②4.6+α ② (12.3) ②4.4+α 乗器径 (14.8) ②1.65+α ③3.7 ②4.7+α ②4.85+α □4.85+α ■3.05 〒1.05-2.5 ■32.00 ②3.85+α ③ (11.4) ②3.4+α ② (3.8) ②4.1+α ②2.0+α ③ (5.4) ■1.15+α ■0.25 ■0.25+α ③11.2 ②4.0 乗器径13.85 ②2.35+α	ナア、指オウエ成形。 内外編件に起転ナテ、底部外編回転ヘラケズリ。 職職、外編回転ナテ、底部外編回転ヘラケズリ。 職職、解雇弁文を有する。 一 内外編件に開催により不可識、変部ナア。 内外編件に回転ナア。 内外編件に回転ナア。 内外編件に回転ナア。 内外編件に回転ナア。 内外編件に回転ナア。 内外編件に回転ナア。 内外編件に回転ナア。 成部、 成部外面のみケズリにより電能。 一 内外編件に回転ナア。 成部内偏回転ナア後不定方向ナア。 旅部外面回転ヘラケズリ。 動能、 内偏は原列後患権。	A: 3mm以下の行政、	複数の別様体付着、 機付近みあり
83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96	無影響 上声響 須熟器 白磁 青磁 青磁 素等生态 類影器 青磁 石器 類影器	ドカ エ ドカ エ ドカ エ ドイ 校 不明 夏 本 本 な な な	SOD4 R-1 - SOD4 4E SOD4 1	(① 114.3) ②4.9 ②4.5+α ② 112.3) ②4.4+α 乗隊径 (14.5) ②1.85+α ③3.7 ②4.7+α ②4.85+α R9.0+13.95+α ■3.05 第1.05 − 2.5 ■92.00 ③3.85+α ③ (11.4) ②3.4+α ① (3.8) ②4.1+α ②2.0+α ③ (5.4) E1.5+α ■1.15+α #0.25 ■0.51+α ③11.2 ②4.0 乗客径13.85 ②2.35+α E5.2+α ■1.75+α #1.9	カア、指オウエ成形。 の外盤共に起来すず、底部外面回転へラケズリ、 動強。 動強。 動強。 動強。 動強。 の外盤共に提続により不可識。 影響・前電か大を付する。 一 の外盤共に提続により不可識。 影響・かっ。 一 の外盤共に担転すず。 一 の外盤共に担転すず。 ののカケズリにより電能・ 一 の外盤共に提転すず。 放露内面回転すず後不定方向すず。 証据外面回転へラケズリ。 動強。 内面に路域を発施。 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	A: 3mm以下の行祭、長石を多量、Imm以下の赤色数を少量含む。B: 中中良好に、 株理73所総合、 株理73所総合、 株理73所総合、 は757/2。 A: 2mm以下の行息粒を微量含む。B: 中や良好に: 所买費2.5Y7/2。外 灰白 SY7/2。 A: 2mm以下の行息粒を微量含む。B: 良好に: 果灰白2.5Y8/1・ 能明オリーブ灰 2.5Q77/1。透明都有り、簡単は7寸、49。 A: 微量な合色数を微量含む。B: 良好に: 果灰白2.5Y8/1・ 能明オリーブ灰 SY7/1。透明感色、製売、買入有り、簡単は7寸、49。 A: 微量な合色数を微量含む。B: 良好に: 果灰白2.5Y7/1・ 他灰オリーブ SY5/3。透明色、質入有り、簡単は7寸、49。 A: 4mm以下の行祭、長石を多量含む。B: 良好に: 果灰白2.5Y7/1・ 快双7.5Y5/1・ 反 SY5/3。 次期、10年で、10年で、10年で、10年で、10年で、10年で、10年で、10年で	複数の別様体付着、 機付近みあり
83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96	無思想 上無器 自認 青世 养生土 類思器 有证 大器 外生土 類思器 有证 石器 知思器	ドルカ エ ドルカ エ ドルカ エ ドルカ エ ドルカ ス ボル ガル ス ボル ガル ボル ガル オ オ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	SCO4 R-1 - SCO4 48 SCO4 28-4-1 SX11 SX11 SX11 SX11 SX11 SX47 SX47 SD01 38 SD01 58 SD01 58 SD02 28 SD02 28 SD02 28 SD02 28 SP20	① (14.3) ②4.9 ②4.5+α ① (12.3) ②4.4+α 乗隊径 (14.5) ②1.85+α ③3.7 ②4.7+α ②4.85+α 第39.13 95+α ●2.05 第1.05 ~ 2.5 ■252.00 ③3.85+α ③ (11.4) ②3.8+α ① (3.8) ②4.1+α ②2.0+α ③ (5.4) 至1.5+α ■1.15+α 第0.25 ■0.51+α ① (11.2 ②4.0 乗隊任3.85 ②2.35+α R5.2+α ■1.75+α ■1.9 ②8.7+α		A: 3mm以下の行祭、	経験の別領体付着、 機付近みあり 電泉田-I e原 電泉田-I e原 電泉日-I e原 電泉日-I e原 電泉 I I e原 を入った配号 電泉 I I I I I I I I I I I I I I I I I I I
83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97	無思想 上声音 須恵島 白底 青泉 東郡 東北土 西 東郡 青龍 石 石 田 東 東 田 田 東 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田	ドルカ	SOD4 R-1 - SOD4 4版 SOD4 生態~心-ト SX11 SX11 SX11 SX11 SX11 SX47 SX47 SD01 3版 SD01 5版 SD01 5版 SD02 2版	(① (14.3) ②4.9 ②4.5+α ② (12.3) ②4.4+α 乗弊種 (14.5) ②1.65+α ③3.7 ②4.7+α ②4.85+α 展9.0+13.95+α ■3.05 素1.05 ~ 2.5 重型2.00 ②3.85+α ③ (11.4) ③3.4+α ③ (3.8) ②4.1+α ②2.0+α ⑤ (5.4) 素1.5+α ■1.15+α 素0.25 重0.25+α ②11.2 ②4.0 乗募権[13.85 ②2.35+α 属5.2+α 編1.75+α 第1.9 ②3.7+α ② (8.6) ②2.6 乗募種 (10.5)	カテ、指オウエ成形。 京外番供に起転ナラ、底部外面回転ヘラケズリ。 電池、外面回転ナラ、底部外面回転ヘラケズリ。 電池、外面回転ナラ、底部外面回転ヘラケズリ。 電池、原面中文を有する。	A: 3mm以下の行為、	福敦の宗原体付着、 機が至みあり
83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98	無思點 上声器 與影影 白磁 有磁 表型 東影影 東影器 有磁 有磁 東影器 有磁 有磁 東影器 有磁 有磁 東影器 有磁 有磁 東影器 有磁 有磁 有磁 有磁 有磁 有磁 有磁 有磁 有磁 有磁 有磁 有磁 有磁	ドル	SOD4 R-1 - SOD4 4程 SOD4 生命-4-ト SX11 SX11 SX11 SX11 SX11 SX47 SX47 SD01 3E SD01 5E SD01 5E SD02 2E SD02 2E SD02 2E SP20 CSE 包含用	(① 114.3) ②4.9 ②4.6+α ② 112.3) ②4.4+α 乗器径 (14.5) ②1.65+α ③3.7 ②4.7+α ②4.85+α □9.0+13.95+α ■3.05 第1.05-25 ■32.00 ②3.85+α ③ (11.4) ②3.4+α ① (3.8) ②4.1+α ②2.0+α ③ (5.4) ■1.5+α ■1.15+α №0.25 ■0.51+α ③11.2 ②4.0 乗器後13.85 ②2.35+α □1.2 ②4.0 乗器後13.85 ②2.35+α □1.2 ②4.0 乗器後13.85 ②2.35+α □1.2 ③4.0 乗器後13.85	ファ、指オヤエ成形。 内外維持に担能ナア。底部外面回転ヘラケズリ。 電航。外面回転ナテ、底部外面回転ヘラケズリ。 電航。外面回転ナテ、底部外面回転ヘラケズリ。 電航。 開票介文を与する。	A: 3mm以下の百色粒を製量含む。B: 中や良好C: 角灰質25Y7/1。 株別オリーブ (A: 3mm以下の百色粒を製量含む。B: 中や良好C: 角灰質25Y7/2。 外 沢白 A: 2mm以下の百色粒を製量含む。B: 中や良好C: 角灰質25Y7/2。 外 沢白 A: 2mm以下の百色粒を製量含む。B: 良好C: 東灰白5Y7/1。 他 別オリーブ級 5/3/7/1、週間があり。	経験の別領体付着、 機力ぶみあり 超急回-I 4.0類 超急回-I 4.0類 超泉回-I 4.0類 超泉 1 4.0類 超泉 1 4.0類 相解 インデ記号 相解 インデ記号 相常 インデ記号 カーラション 1 5.00円 ハーラション 1 5.00円 ハーラン 1 5.0
83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98	東京 東京 東京 東京 東京 東京 東京 東京	ドルカ	SOD4 R-1 - SOD4 4版 SOD4 主要でルト SX11 SX11 SX11 SX11 SX11 SX47 SX47 SD01 3版 SD01 5版 SD01 5版 SD02 2版 SD02 2版 SD02 2版 SD02 2版 SP20 CS版 包含層 E4 包含層 E4 包含層 E4 不会版 包含層 E4 不会版 包含層 E4 不会版 包含層 E5 不是 SE	(① 114.3) ②4.9 ②4.5+α ② 112.3) ②4.4+α 乗隊径 (14.5) ②1.65+α ③3.7 ②4.7+α ②4.85+α 第3.0+13.95+α 第3.05 第1.05-2.5 第52.00 ②3.85-α ③ (11.4) ②3.4+α ② (3.8) ②4.1+α ②2.0+α ③ (5.4) 第1.5+α 第1.15+α 第0.25 第0.51+α ②11.2 ②4.0 吳鄉径13.85 ②2.35+α ②5.2+α 第1.75+α 第1.9 ②8.7+α ③ (8.6) ②2.6 吳鄉径 (10.5) ③ (11.1) ②3.4 吳鄉径 (13.0) ④ (11.3) ②3.7+α 吳鄉径 (13.4)	カア、指オウエ成形。 の外層共に起転ナア、底部外面回転ヘラケズリ。 動態。 外層回転ナア、底部外面回転ヘラケズリ。 動態。 開業弁文を与する。 一 内外層共に回転ナア。 内外層共に回転ナア。 内外層共に回転ナア。 内外層共に回転ナア。 内外層共に回転ナア。 内外層共に回転ナア。 内外層共に回転ナア。 内部のカケズリにより電能。 一 内外層共に回転ナア。 内部のカケズリにより電能。 一 内外層共に回転ナア。 大学成形。 内側上降的機能を ナア成形。 内側上降が表現して、 大学成形。 内側手科もヘラケズリ。 内外層共に回転ナア。 大学成形。 大学成形。 内側手科もヘラケズリ。 内外層共に回転ナア。 大学成形。 大学な外層回転・フケズリ。 内外層共に回転ナテ。 東部外層回転・フケズリ。 内外層共に回転ナテ。 東部外層回転・フケズリ。 内外層共に回転ナテ。 東部外層回転・フケズリ。 内外層共に回転ナテ。 東部外層回転・フケズリ。	A: 3mm以下の行為、	経験の別価体付着、 機が歪みあり 電影田-Ia類 電影田-Ia類 電影I-a類 電影I-a類 電影 II の類 原次 ヘラ配号 最終 I 類 和電石 ヘラ配号 大型降灰 ヘラ配号 を 1 類 ・ クラ配号 ・ クラ配号 ・ クラ配号 ・ クラ配号 ・ クラ配号 ・ のか ・ の ・ のか ・ のか ・ のか
83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 100 101	東京 東京 東京 東京 東京 東京 東京 東京	ドルカ エ ドルカ エ ドルカ エ ドルカ エ ドルカ ス ボルカ ボ	SOD4 R-1 - SOD4 4版 SOD4 土地ベルト SX11 SX11 SX11 SX11 SX11 SX47 SX47 SD01 3R SD01 5K SD01 5K SD02 2版 SD02 2版 SD02 2版 SD02 2版 SP20 CSE 包含期 E4 完全期 E4 完整版 包含期 E4 平 ESEE 包含期 含含期 6版	(① (14.3) ②4.9 ②4.6+α ② (12.3) ②4.4+α 乗器径 (14.8) ②1.65+α ③3.7 ②4.7+α ②4.85+α R3.0+13.95+α ■3.05 第1.05-25 ■32.20 ②3.85+α ③ (11.4) ②3.4+α ② (3.8) ②4.1+α ②2.0+α ⑤ (5.4) 第1.5+α 第1.15+α 第0.25 ■0.25 ■0.51+α ②1.12 ②4.0 乗器径13.85 ②2.35+α ② (8.6) ②2.6 乗器径 (10.6) ③ (11.1) ②3.4 乗器径 (13.0) ③ (11.3) ②3.7+α 乗器径 (13.4) ③ (10.6) ③3.85 乗器径 (13.0) ④ (11.3) ②3.7+α 乗器径 (13.0) ④ (10.6) ③3.85 乗器径 (13.0)	ファ、指オウエ成形。 内外番件に記載ナア、北部外面回転ヘラケズリ。 電池、外面回転ナテ、武部外面回転ヘラケズリ。 電池、外面回転ナテ、武部外面回転ヘラケズリ。 電池、 無理弁文を与する。 一 内外面共工回転ナテ、内外面がより電池。 電池、武部外面回転・アクスリ、上の電池、 電池、武部外面回転・アクスリ、上の電池、 一 内外面共工回転ナテ、武部内面回転ナテを完立方向ナア、武部外面回転ヘラケズリ、 内面は路球投影池、 ナデ成形。 内面は路球投影池、 ナデ成形。 内角は路球投影池、 ファ、大井部内面不定方向のナア、天井部外面干積らヘラケズリ、 内外面共工回転ナテ、武部外面回転・ア後不定方向のナア、北部外面回転へラケズリ。 内外面共工回転ナア、成部外面回転・ア後不定方向のナア、北部外面回転へラケズリ。 内外面共工回転ナア、成部外面回転・アクスリ、 内外面共工回転ナア、成部外面回転・ア後不定方向のナア、北部外面回転へラケズリ。 内外面共工回転ナア、成部外面回転・ア後不定方向のナア、北部外面回転・アクズリ。 内外面共工回転ナア、成部外面回転・ア後不定方向のナア、北部外面回転・アクズリ。 内外面共工回転ナア、成部外面回転・ア後不定方向のナア、北部外面回転・アクズリ。 日外面共工回転ナア、成部外面回転・ア後不定方向のナア、北部外面回転・ア後不定方向のナア、北部外面回転・アクズリ。 日外面のサード・最初の回転・アクズリ。 日外面外面に対しています。 日外面の中で、北部外面回転・アクズリ。 日外面のサード・ 日外面ののサード・ 日外面ののサード・ 日外面ののサード・ 日外面ののサード・ 日外面ののサード・ 日外面ののののののののののののののののののののののののののののののののの	A:3mm以下の行意、長石を参量、Imm以下の赤色粒を少量含む。B:中中良好に:外板73所60名。 A:2mm以下の行意、長石を参量、Imm以下の赤色粒を少量含む。B:中中良好に:外板73所60名。A:2mm以下の白色粒を覆置含む。B:中中良好に:内灰黄2.5Y77/2。 外状白 5Y77/2。 A:2mm以下の白色粒を覆置含む。B:良好に:東灰白5Y7/1。 他期末リーブ灰 5CY7/1。透明感形り、能がは3寸く均一。 A:2mm以下の白色粒を覆置含む。B:良好に:東灰白2.5Y8/1・絵期オリーブ灰 5CY7/1。透明感 ** 20.4年。 ** 3.2 株式 1.2 株式 1	複数の別様体付着、 機が至みあり
83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98	無思想 上海器 白磁 青磁 青磁 养生土 類思想 類思想 有磁 工器 類思想 有磁 上部 類思想 有磁 工器 類思想 有磁 工器 有磁 工器 有磁 工器 有磁 工器 有磁 工器 有磁 工器 有磁 工器 有磁 工器 工器 工器 工器 工器 工器 工器 工器 工器 工器 工器 工器 工器	ドル	SCO4 R-1 - SCO4 4版 SCO4 上版-4-1 SX11 SX11 SX11 SX11 SX11 SX47 SX47 SX47 SD01 3版 SD01 5版 SD02 2版 SD02 2	① 114.3) ②4.9 ②4.5+α ① 112.3) ②4.4+α 乗隊径 (14.5) ②1.85+α ③3.7 ②4.7+α ②4.85+α 第39.13 95+α ■2.05 第1.05 ~ 2.5 ■252.00 ③3.85+α ③ (11.4) ②3.8+α ① (3.8) ②4.1+α ②2.0+α ① (5.4) 至1.5+α ■1.15+α 第0.25 ■0.51+α ① (11.2) ②4.0 乗隊径(3.85) ②2.35+α 及2.35+α 及5.2+α ■1.75+α 単1.9 ②8.7+α ① (8.6) ②2.6 乗隊径 (13.0) ① (11.1) ②3.4 受隊径 (13.0) ① (11.1) ②3.4 受隊径 (13.0) ① (11.1) ②3.7+α 免隊径 (13.0)	アア、指オヤエ成形。 京路・外面円転ナア・底部外面円転ヘラケズリ。 京路・外面円転ナテ・底部外面円転ヘラケズリ。 コ路・外面円転ナテ・底部外面円転ヘラケズリ。 コ路・ 原理弁文を与する。 一 円外面共に開催により不可識。世部ナア・ 内外面共に回転ナア・内面シボリ泉。 電路・底部外面のみケズリにより電路・ 一 円の外面共に回転ナア・内面シボリ泉。 電路・底部外面のみケズリにより電路・ 一 円の外面共に回転ナア・内面シボリ泉。 電路・成部外面のみケズリにより電路・ 一 円外面共に回転ナア・内部のカケズリにより電路・ 一 円外面共に回転ナア・表部外面回転ナア後不定方向カナア・実際外面回転ヘラケズリ。 内外面共に回転ナア・表部外面回転ナア後不定方向のナア・設部外面回転へラケズリ。 内外面共に回転ナア・成部外面回転ナア後不定方向のナア・成部外面回転ナア後不定方向のナア・成部外面回転へラケズリ。 内外面共に回転ナア・成部外面回転ナア後不定方向のナア・成部外面回転へラケズリ。 内外面共に回転ナア・成部外面回転ナア後不定方向のナア・成部外面回転ナア・ 京部外面回転ナア・ 京部外面回転ナア・大きなり向のナア・成部外面回転へラケズリ。 内外面共に回転ナア・成部外面段により不可能。 内外面共に回転ナア・成部外面段により不可能。 日本のサービー・ 日本のサー・ 日本のサービー・ 日本のサー・ 日本のサー・ 日本のサー・ 日本のサービー・ 日本のサー・ 日本のサ	A: 3mm以下の行為、	経験の別領体付着、 機が歪みあり

遺物 番号	権類	器種	出土地点	①口径②器高③航径 (cm) ④重さ (g) * (復元値)	影響・技法の特徴	A:粘土 B:機械 C:色質	# *
106	須恵器	雙	調査区北東陽土樹群 F6区包含層 - F6区包含層	©20.4+α	内面同心円当て其収。外面上方はカキ目、下方は要格子目タタキ。	A:3mm以下の長石をや中多量含む。B:良好C:内.灰10Y5/1・屋7.5Y2/1、外.灰.7.5Y6/1・屋7.5Y2/1。	発灰、底部に 別個体付着。
107	須惠器	高杯	資查区北東馬土器群	①9.1 ②4.2+α	勝純により不明確。外面中位に4条の沈線有り、鬱郁後合ハガレ。	A:Imm以下の白色粒、褐色粒を微盤含む。B:不具C:内.銀7.5YR6/8、外種7.5YR6/8。	
108	土師器	遊か	E5 ~ F5区 包含層	②2.8+a	内面ハケ、外面に維知わり。	A: Imm以下の石灰、常母を中や少量含む。B: やや良好C: 内によい質賞 10YR5/3、外によい質量10YR6/4。	三角形文あり
109	上解器	高台付鉢	F6区 包含層	Q3.8+α ·	内外面共にナア。	A:3mm以下の長石、1mm以下の石英を多量、導を養量含む。B:やや良好C:内によい責補10YR5/4、外、標7.5YR6 5。	50と同じ書他
110	土製品	ミニチュア 土器	黄金区北東隣土番郡	①4.0 ②3.65 ③2.8	指類圧痕、ナア	A:2mm以下の白色粒を少量、養無な常母を養置含む。B-良好C:内.貴灰2.5Y4/1、 外.貴灰2.5Y4/1。	
111	土解器	上製模造鏡	F6区 包含層	長 (2.0) 幅 (2.7) 厚1.6		A: lmm以下の長石、石英を少量含む。B: やや良好C: 外によい責得107R7/4。	
112	石器	石匙	B6区 包含層	長7.0 幅5.2 厚1.3 童30.42	-	-	安山岩製
113	石器	二次加工 剥片	F6区 包含層	長4.4 編6.2 厚1.4 重27.06	_	_	安山岩質
114	石製品	石鏃	包含層 2区	長1.7 幅1.3+α 厚0.3 重0.51+α			946¥
115	石製品	紡雞車	D3区 包含層	長4.1 観2.4+α 厚1.8 重24.82	_		游石製
116	石製品	砥石	包含層 5区	長8.5+α 幅4.8+α 厚4.5+α 銀217.21	-	_	砂岩製
117	須惠器	杯蓋	遺構検出面	① (12.4) ②4.2+α	内外面共に回転ナデ。天井郡内面回転ナデ後不定方向ナデ。天井郡外面回転へラケズリ。	A:3mm以下の長石をヤヤ多重に含む。B:ヤヤ不良C:中.改奠2.5Y7/3。外.改复 2.5Y7/3。	ヘラ記号
118	須惠器	杯身	遺構検出面・ SC03 カマド周辺	Φ12.6+α	内外面共に回転ナデ。底部内面回転ナデ後不定方向ナデ。底部外面回転へラケズリ。	A: 2mm以下の長石をヤヤ多素に含む。B: ヤヤ良好C: 丸灰黄2.5Y7/2、外 灰 5Y6/1。	ヘラ配号
119	須惠器	. 杯身	C6区 検出面	① (11.2) ②3.7 受罪任12.9	内外面共に回転ナテ。底部内面不定方向のナテ。底部外面回転へラケズリ。	A: 2mm以下の長石を中中多量、1mm以下の石英、雷母をヤヤ少量含む。B: 不良C: 内.灰黄2.517/2、男.オリーブ黄5∀6/2。	
120	土静器	m	遠舞校出面	① (14.8) ②1.45 ③ (11.8)	内外歯磨耗により不明確。底部に板状圧盛が残る。	A:2mm以下の長石、石英、赤色数をやや多能含む。B:良好C:内浅黄檀 JOYR8/3、外浅黄檀JOYR8/3。	
121	土師器	高台付碗	遠郷検出面	Q2.9+α ③ (8.0)	内面磨耗により不明瞭。外面回転ナア。底部磨耗の為不明瞭。	A:2mm以下の長石、1mm以下の石英をヤヤ多重、1mm以下の赤色粒を少量さむ。 B: ヤヤ良好C:内 浅黄2.59772、外によい黄龍2.597/4。	
122	土飾器	高台付皿	遺傳検出面	①10.8 ②3.3 ③8.1	内外面共にナデ。高台部回転ナデ。	A:3mm以下の長石、石英を多量、2mm以下の赤色収をやや多量、5mm以下の違。 lmm以下の望谷を少量含む。B:やや良好に:兒期資報107円7/6、男期資報107円7/6、	
123	土師器	蜕	F5区 検出面・ E4 ~ E5区 包含層	① (19.0) ②10.2+a	内面ハケ後ナデ、内外面共に口縁部ナア。口縁部から豊原外面9コナデ、肩部格子目タタキ。	A: 2mm以下の白色粒、褐色粒をヤヤ多量含む。B: 良好C: 内.槽7.5YR6/6、外.種7.5YR6/6。	
124	土鄉器	麹	F5区 検出間	① (21.6) ②25.3+α	内資へラケズリ他は磨耗により不明瞭。口縁部内外番共ヨコナデ。 外面磨耗のため不明瞭であるか、一部ハケ。	A:4mm以下の長石、1mm以下の石美を多量、2mm以下の赤色粒をやや多量、線を少量さむ。B: やや不良C:内港7.5YR6/6、外港7.5YR6/6。	
125	土製品	電支脚か	遠標校出面	長11.85 幅8.05 厚6.95	ナア。指戴圧痕。	A:4mm以下の具石、石英、褐色粒をやや多量含む。B:良好C:外によい黄檀 10YR7/4・によい黄檀10YR6/4。	
126	須恵器	杯身	試掘トレンチ 2区	① (10.6) ②3.95+a 受鄰後 (12.8)	内外面共に回転ナア。底部外面回転へラケズリ。	A: 4mm以下の長石、石英をやや多量含む。B: 良好C: 内.灰10Y6/1、外.灰 10Y6/1。	
127	須恵器	高杯	試掘トレンチ 2区	① (14.6) ②5.3+α	内外面共に回転ナデ。杯部外面にカキ目を施す。	A: 3mm以下の白色数を少量含む。B: 良好C: 内.灰575/1、外.灰10Y6/1・選 10Y2/1。	自然権かかる
128	網製品	銅銭	SD02 東壁掃除中	長2.25+α 幅2.55 厚0.15 輸1.38	-	-	元福東

第4表 薬師の森遺跡第13次調査出土遺物観察表

3000				①口径②器膏③底径 (cm)				
遺物 番号	推類	2948	出土地点	①口径(2番輪(3)敷径 (cm) ④重さ (g) * (復元値)	形態・技法の特徴	A:胎土 B:漿皮 C:色調	• •	-
129	木製品	柱材	SP53	展32.2+α 幅8.0 厚6.2	ケズリ?と思われるが加工模は不明瞭、ケズリ	-		
130	木製品	柱材	SP59	長28.2+α 幅10.9 厚7.8	-			
131	土師器	小皿	SP48	① (8.8) ②1.2 ③ (6.7)	内頭回転ナデ 外面回転ナデ、回転糸切り後板状圧痕	A: 機能な自色砂粒少量、機能な意思やや多く含む。B: やや不良C: 内面に高い 表7.5YR7/4、外面に高い後7.5YR7/4 〜に高い資産10YR7/3。		
132	上師器	小皿	SE01	① (8.5) ②1.2 ③ (7.4)	内外面回転ナア、底部外面回転糸切り	A:微額な白色砂粒・金雲母をやや多く含む。B:良C:内外側にぶい貝権 10YR7/2。		
133	須恵器	杯身	SE01	@1.2+α ③ (9.6)	内面回転ナア、外面回転ヘラケズリ、高台張付に伴う回転ナア、外面調整不明	A: やや包、複編~1.0mmの自色が放多く含む。B:真C:内面.灰7.5Y4/1、外面.灰N6/~5/胎土、にぶい資格10YR5/3。		
134	白磁	槐	SEOI	@1.7+α	内外面能物、内面沈緯	A:密、微砂多く含む。B:良C:蜘蛛灰白SY7/I胎上灰白SY7/2。	V ≋	
135	瓦賞 土器	描鉢	SE01中層~上層	②3.9+α	内面ハケメ、棚目、外面ナデ	A:思い、複響~2.0mmの白色砂粒多く、雲母・角四石少量合む。B:やや不良C: 内面.灰オリーブ5Y6/2外面.灰5Y6/1。		
136	土師器	88	SE01	Ø4.4+α	内外面ヨコナデ、内面ヨコナデ後ハケメ	A: 中中根、機関〜3.0mmの砂粒多く、機関な整件・赤褐色粒を少量含む。B: 中中不良C: 内外裏には、板7.5YR7/3。		
137	上師器	小皿	SE02下層曲げ物内	① (8.4) ②1.15 ③ (6.3)	内外面摩託により不明	A:密、表面な製品・2.0mm程の砂粒を少量含む。B:良C:内面、白IOYR7/I ~ 掲灰IOYR5/I外面、灰白IOYR7/I。		
138	土師器	杯身	SE02下層曲げ物内	Ø1.3+α ③ (8.2)	内外面回転ナア、底部外面回転糸切り	A: 密、養職な客母2.0mm程の砂粒を少量含む。B: 良C: 内海灰白10YR8/2外 高灰白10YR8/1。		
139	上師器	杯身	SE02下層曲げ物内	① (12.0) ②2.9 ③8.0	内外面回転ナア、底部外面回転糸切り、板状圧痕	A: E: 養羅~2.0mm程の白色砂粒・養糖な業母・温色粒・非常色粒をやや多く含む。B: やや不良C:内質 灰白2.518/2~浅黄檀107R8/4外種 灰白107R8/2~によい巻57R7/4。		
140	施釉 陶器	桐	SE02下層曲げ物内	②2.7+a 高台径6.0	内外面施輸、底部内面施輸係を取り、沈維、底部外面回転へラケズリ、ナデ	A:密、数据な砂粒含む。B:良C:能能温褐色2.5Y3/1胎上灰黄2.5Y7/2。		
141	青磁	椈	SE02下層曲げ物内	②1.8+α 高台径 (4.8)	内外面能輸、底部外面回転ペラケズリ	A: 密。B: 良C: 施強 晴オリープ7.5Y4/3舶上級10YR6/1。	打ち欠き有り	
142	瓦費 土器	44	SE03最下層 青灰褐色粘土 明灰色砂質土 泥土層	②2.4+α	内面ハケメ、口縁部ナデ、外面調整不明	A:微器~2.0mmの白色砂粒多く、金雲母やヤ多く、赤色粒少量含む。B:食C: 内質. 個7.5YR6/6外質. 星色N2/。	學付着	
143	木製品	建築部材	SE03	長13.5+a 編4.9 厚3.3	-	_		
144	練器	椀	SE03最下層 青灰色粘土 明灰色砂質土 混土層	① (19.4) ②3.3+1.5+α	内面回転を利用したケズリ、外面回転を利用したケズリ、手持ちヘラケズリ	_		
145	木製品	曲げ物 (側板)	SE03	段9.4+α 幅4.1+α 厚0.3	表面に木目と垂直と針めのキザミ、裏面に斜めのキザミ	-		
146	上師器	小皿	SE04最下層 青灰褐色粘土層中	①8.3 ②1.15 ③6.2	内外面回転ナデ、底部外面回転糸切り	A:数額な砂粒をこく少量、金雲母を少量さむ。B:やや不良C:内外面採白10 YR8/2。	底部内外黑斑	i
147	上師器	小皿	SE04据方上層	① (8.0) ②1.95 ③ (6.0)	内外間回転ナデ、底部外面回転糸切り	A:2.0mm以下の白色砂粒を多量、全景段を少量含む。B:不良C:内面:貴灰2.5Y4/1 にぶい黄橙10YR6/4外面,黒褐2.5Y3/1。		
148	土御膠	杯	SE04北半擺方内	②1.2+α ③ (7.0)	内面不定方向ナデ、外面回転ナデ、底部外面回転糸切り	A: 機構な砂粒こく少量 - 1.0mm以下の明条構色粒こく少量 - 金雲母少量含む。B: 良C: 内外裏によい典極10YR6/4。		
149	土解器	杯	SE04最下層 青灰褐色粘土層中	① (14.0) Ø3.1 ③ (8.6)	内外面回転ナア、鉄部内面不定方向ナア、ស部外面回転糸切り	A: 後期な砂粒をごく少量、全雲母を多く含む。B: ヤヤ良C: 内外質によい黄後 10YR6/3域県海色10YR3/1。	煤付着	
150	主節器	杯	SE04最下層 青灰褐色粘土層中	① (12.0) ②3.4 ③7.0	内外面回転ナデ、底部内面不定方向ナデ、底部外面回転糸切り	A:模値~2.0mmの白色砂粒を少量、3.0mm以下の明本褐色収をごく少量、会質収を多く合む。B:や中不良C:内面に広い黄檀10YRS/3 外面に応い黄檀10YR7/3糟糕灰10YR4/1。	内外面 煤付着穿孔	
151	土野型	杯	SE04起方上層	① (11.2) ②2.7 ③ (8.0)	内外面回転ナア、底部外面摩託により調整不明	A:1.0mm以下の白色砂粒をごく少量、金舗母を少量含む。B:やヤ不良C:内外面.浅黄檀10YR8/3。		
152	須忠器	杯蓋	SE04 級下層 青灰発褐色粘土層	@1.5+α	内外面回転ナデ、外面へラケズリ	A:や中相、微調な白色砂粒を多く含む。B:良C:内外面.灰5Y6/1。		
153	銀忠器	杯蓋	SE04最下層 青灰発褐色粘土層	@1.1+α	内外側回転ナデ、外面回転ヘラケズリ	A:密、機器な砂粒を多く合む。B:及C:内面,黄灰2.5Y5/l外面,灰白N7/。		
154	須惠器	杯身	SE04掘方上層	②1.0+α 高台径 (8.0)	内外面回転ナア、外面高台張付に伴う回転ナア	A:1.0mm以下の白色砂粒を多く合む。B:良C:内外面:青灰585/1。		
155	青磁	核	SE04北半ഏ方内	©2.8+α	内外面總積、外面連升 (片曜リ)	A:密、装御な砂粒を多く含む。B:及C:施施.オリーブ灰10Y6/2胎土.灰白7.5Y7/1。	主 泉川梨	

遺物	推頻	281	出土地点	①口径②器膏③底径 (cm)	形態・技法の特徴	A:胎士 B:焼成 C:色鯛	健 考
番号	兵費		SE04最下層	④酸さ (g) * (復元値) 長6.6+α	形態・技法の特徴 内外面ナデ	A: 粗、機器~ 1.5mmの白色・黒色砂粒を多く含む。B: 良C: 内外面 灰黄2.5Y	
156	土器	棒状土製品	海灰発褐色粘土層 SE04最下層			7/2底部.黑色N2/0。	
157	木製品	水球 曲げ物	考庆褐色土層 SE04最下層	長6.0 幅4.6 厚3.6	<i>5</i> x19		
158	木製品	底板	青灰褐色土層	直径20.5 厚0.7	ケズリ森		
159	白礁	Ħ	SX01下層反転部	① (14.4)~@2.4+α	内外菌藥物	A: 名、費欄な砂粒を多く含む。B: 良C: 施釉.灰白10Y7/1胎土.灰白5Y7/1。	IV類
160	白軽	HR.	SX01下層反転部	① (17.6) ②4.35+α	内外側筋熱、外面底部付近ケズリ難胎	A:密、機綱な砂粒を多く含む。B:良C:施札.灰7.5Y6/1胎土.灰白5Y7/1。	
161	青盛	H	SX01下層反転部	① (15.0) ②6.0+a	内外編施物、内面連弁 (片端)、外面ケズリ	A: 密、微砂含む。B: 良C: 施絵 略灰オリーブ7.5Y4/3胎土、灰5Y6/1。	館県
162	白観	•	SX01下層反転部	① (9.6) ②1.7 高台程 (3.8)	内外面能権、高台部へラケズリ	A: 密、復報~1.0mmの砂粒少量含む。B: 良C: 維袖.灰白7.5Y8/2胎土.灰白 10YR7/1~にぶい黄程10YR6/6。	Ⅲ-1類
163	瓦魯	HE	SX01下層反転部	©2.7+a	内外面回転ナア、内面一部ミガキ	A: 密、微細な白色砂粒をやや多く含む。B: 良C: 内面 駅N4/外面 灰5Y6/1 ~ 灰N4/。	内外面黑色化
164	青田	N	SX01下層反転部	① (16.4) ②6.6 ③5.2	内外質能験、外面連升 (片架リ)、底部外面回転ヘラケズリ、外面ナテ	A: 密、微砂合む。B: 良C: 維熱・暗灰オリーブ7.5Y4/3胎土、灰5Y6/1。	龍泉川類
165	五百 土器	雑件	SX02b	Ø3.55+σ	内面郷目、外面ナテ(磨料)	A: 组. 機構な砂粒を多く含む。B: やや不良C: 内面.灰白5Y8/1外面.灰白5Y8/1 ~にぶい異種10YR7/3。	
166	五質 土器	推辞	SX04c	23.9+α	内質博見、内外資率耗により測整不明	A:粗、養銀~1.0mmの白色砂粒を多く含む。B:不良C:均外面,灰白5Y8/1。	
167	須恵書	杯蓋	SX05e	23.6+α	内外面回転ナテ、外面回転ヘラケズリ、内外面沈線	A:1.0mm以下の白色砂粒を少量含む。B:良C:内面.灰N6/外面.灰N5/断面、にぶい稿7.5YR5/3。	
168	上師器	**	SX05a	②4.4+ α	内備ハケメ、外面回転ナデ	A:2.0mm以下の白色砂粒を多量・金雲母を少量合む。B:やや不良C:内面、明.赤 褐5Y5/8外面、明赤褐5YR5/8~褐灰5YR4/1。	
169	上師器	*	SXIIa	23.6+ α	内面カキメ(磨鈍)、外面回転ナデ	A:密、漿糊~ 1.5mm程の白色砂砂粒多く、閃石少量合む。B:良C:内面によい黄橙10YR7/3胎上岩部.原褐2.5Y3/1外前.灰黄褐10YR4/i。	煤付着
170	上新器	×	SX11b	②3.7+α	内番ハケメ、外番ナデ、ヨコナデ、指頭収	A:租. 養棚な白色砂粒を多く合む。B:良C:内面.橙7.5YR6/6 ~褐灰7.5YR4/1 外面にぶい黄褐10YR5/3。	外面煤付着
171	北野郡	杯	SX15	②1.7+α	内外書回転ナア、外面近郊回転糸切り	A: 密、微細な雲母~ 2.0mm程の砂粒をやや多く含む。 B: 良C: 内外面 灰白 7.5YR8/2。	
172	土師器	*	SX16	① (30.6) ②13.65+a	内面ヨコナデ、ハケメ、外面調度不明	A:やや粗、微糊~3.0mmの白色砂粒多く、0.5~2.0mmの赤色粒少量含む。B: 良C:内面.7.5YR7/6~灰黄褐10YR5/2外面.7.5YR4/3。	外面煤付着
173	±新星	小量	SX17	① (8.2) ②1.1 ③ (6.0)	内外側回転ナデ、外質底部回転糸切り	A:1.0mm以下の白色砂粒を少量、金雲母を少量含む。B:良C:内外面.根5YR6/6。	
174	上師器	小■	SX17	① (8.4) ②1.1 ③ (6.0)	内外面回転ナデ、外面底部回転糸切り	A:L0mm以下の白色砂粒を少量、金繋母を多量含む。B:QC:内外面.投貨機 7.5YR6/4。	
175	#祖	×	SXI7	②1.7+α 萬台径 (6.6)	内外面臨軸、高台底部軸の掻き取り	A: 密、微砂を少量含む。B: 良C: 施粒.投資7.5Y7/3胎土.灰白7.5Y7/1。	
176	上野豆	*	SXI8	22.95+α	内面ハケメ、ヨコナテ、ナデ?	A:粗、微線な業母・2.0mm程の砂粒を少量含む。B:良C:内面にぶい赤褐 5YR5/4外面にぶい赤褐色5YR5/4~黒褐5YR3/1。	外面煤付着
177	上新書	#	SX19	① (12.8) ② 2.7 ② (8.4)	内面回転ナア、外面強いナア、底部外面回転糸切り	A:密、微細な製母・2.0mm程の砂粒をやや多く含む。B:良C:内外面、灰白7.5YR8/2。	
178	192	#	SXI9	⊕ (12.8) @3.05+α	内外面図板ナア	A: やや粗、微細~ 1.0mmの自色砂粒を多く、金雲母やや多く含む。B:良C:内	
179	Net 8	小童	SXI9	②1.7+α	内外面同転ナデ、外面施物	面.にぶい黄檀10YR6/3外面.補10YR4/1。 A:密。B:QC:施にぶい赤褐色2.5YR4/3胎土.灰褐7.5YR5/2。	
180	±#2		SX19	23.5+α	内面ハケメ、ナデ、口縁部ヨコナデ、外面調整不明	A: やや粗、微糊~3.0mmの白色砂粒を多く、0.5~3.0mmの赤色粒・繁母少量	外面煤付着
181	和意思	##	SX20	②1.2+α	内外面回転ナデ、回転ヘラケズリ	含む。B:良C:内部,明赤褐色5YR5/6外面,風色 (媒)。 A:微翻な白色砂粒を少量含む。B:やや不良C:内部,灰褐7.5YR5/2外面,にぶい	
182	変真章	杯攤	SX20上層後出時	20.9+a	内外前时载十字	褐7.5YR5/4 ~灰N5/0。 A: 密、微編な砂粒含む。B: 良C:内外面.灰N5/。	
183	北野田	ff.	SX20 ENERGIA	②1.2+a ③ (7.4)	内外衛国転ナデ	A:1.0mm以下の白色砂粒・金雲母を少量含む。B:不良C:内外面.被黄2.5Y8/3。	
-					内外畜回転ナデ	A:2.0mm以下の砂粒・金雲母を少量合む。B:やや不良C:内面にぶい褐7.5YR5/3	
184	上師器	高台付税	SX20	21.6+α ③ (7.6)		外面、明梅7.5YR5/6。 A:賽母·白色砂粒を少量含む。B:やや不良C:均面 哨灰N3/外面,灰白10YR8/1~	A\$8
185	1.0	HR _	SX20	©2.2+α	内面書献(ミガキ?)、外面回転ナデ(原献)	にぶい程7.5YR7/4。 A: 粗、機能な白色砂粒少量、機細~2.0mmの茶色粒多く合む。B: 不良C: 内	
186	東西西	杯身	SX20上層検出時	②1.5+a ③ (10.2)	内面回転ナテ、外面回転ヘラケズリ、軟部外面回転ヘラケズリ換ナデ	外面、灰白577/1。 A:2.0mm以下の白色砂粒をごく少量合む。B:やや不良C:内面、灰7.5Y5/1外面.オ	
187	策定器	英仟	SX20	②2.2+α ③ (13.8)	内外面回転ナテ	リーブ展7.5Y3/I。 	
188	上師器	*	SX20	\$3.6+a	内外面ヨコナデ、外面数方向のハケメ	A:砂粒を多く含む、雲母を多く含む。B:良C:内外面にぶい種7.5YR6/4。 Δ:砂粒を多く含む。雲母を多く含む。B:良C:内外面にぶい種7.5YR6/4。	
189	上師器	X	SX20	②4.0+α	内外番ヨコナデ、内面ケズリ?、外質縦方向のハケメ 	A:砂粒を多く含む、赤褐色粒・雲母を少量含む。B:良C:内面 淡黄檀10YR8/3 〜黄灰2.5Y4/1外面 浅黄檀10YR8/3 〜電7.5YR6/6 〜風7.5YR2/1。 A:1.0mm以下の白色砂粒を多量に、5.0mm大の礫をごくわずか含む。B:やや不	
190	須恵塾	莱	SX20	②6.2+α	内外前回転ナア	及C: 内面、KN4/外面、KN3/~5/。	
191	東京書	*	SX20	25.45+α	内面ヨコナデ、外面カキメ後斜線文、沈静	A:密、微細~ 1.0mm程の砂粒を多く含む。B:QC:内外面.次5Y6/1。	内面に降灰
192	K.	A E	SX20	18 8.6+α 1 52.0	凸質舞目文(魔化により不酵明)、凹面布目	A: 密、機関~2.0mmの白色砂粒を多く、2.0~7.0mmの白色球をやや多く合む。 B: やや不良C:凹凸面.灰7.5Y4/1。	i.
193	ī.	平瓦	SX20	長8.5+a 編4.6+a 厚2.3	凸質質證文、同顧布證	A:祖、数編~2.0mmの白色・赤色粒を多く合む。B:やや不良C:凹凸面 権2.5YR6/8。	
194	Ä	平瓦	SX20	個7.2+ α 與2.6	凸面照日文、凹面布目	A:個機構~ J.Ommの自色砂粒を多く、1.5 ~ 4.0mmの課をやや多く、赤色粒を 少量合む。B:やや不良C:凹凸面.億2.5YR7/6。	
195	上鮮器	移業式 カマド	SX20	Ę8.9+α	内面強いナデ、外面ナデ	A: 砂粒を多く含む、赤褐色粒・雲母を少量含む。B: 夏C: 内面にぶい権7.5YR7/4 外面.根7.5YR6/6。	
196	土斯思	移動式 カマド	. SX20	211.5+α 3 (41.0)	内質阻いナデ、外質ナデ、縦方向のハケメ	A:大きめの砂粒を多く含む、赤褐色粒・雲母を少量含む。B:良C:内面・橙7.5YR6/6 外面・浅黄橙10YR8/3~オリーブ黒5Y3/1。	黒斑 -
197	北海	小具	SX21	①9.0 ②I.1 ③7.2	底部内裏不定方向ナデ、口線~外面回転ナデ、底部外面回転糸切り後板状圧痕	A:粗、養細な雲母・3.0mm程の白色砂粒を少量含む。B:良C:内外面、浅黄橙 7.5YR8/3。	
198	土斯思	ŧ	SX21	②1.25+a ③8.7	内質不定方向ナア、外質回転ナア、底部外面回転糸切り	A:租、微額な砂粒、製母と4.0mm程の礫を少量含む。B:良C:内面、浅炭種7.5YR8/4 外面によい黄種10YR7/3。	
199	青盛	R	SX2I	②1.65+α	内面底槽、外面速弁	A:密、農砂合む。B:良C:施糖.灰オリーブ7.5Y6/2.胎土.灰白N7/。	龍泉 li 類
200	角框	枚	SX21	②3.4+α	内外面施釉、外面进升	A:密、微砂含む。B:QC:施輸.オリーブ灰2.5GY6/1胎土.灰白N7/。	龍泉Ⅱ類
201	土師器	ff	SX22	21.25+α ③ (8.1)	内面摩滅により顕整不明、外面回転ナデ、回転糸切り	A: 祖、秦綱な繋母〜 3mmほどの碑をやや多く合む。B: 良C: 内面. 灰褐7.5YR6/2 外面.によい権7.5YR7/4。	
202	K.B	换	SX22	②1.7+α 高台径 (6.1)	内面ミガキ、外面回転ナア、著台貼り付けの為のナデ	A: 密、機砂を少量合む。B: 良C: 内外面,灰白N8/。	
203	施士	-	SX22	24.65+α	内面回転ナデ、外面回転ヘラケズリ (節箱の痕跡)	A:密、微糊な砂粒含む。B:QC:内面.灰黄2.5Y7/2外面.黄灰2.5Y6/1。	
204	抽器	Λ■	SX24	② 1.5	内画摩拝により調整不明、外面回転糸切り	A: 密、機構な白色砂粒を多く3mm程の赤色礫をわずか含む。B:やや不良C:内 外面にぶい質視10YR7/2。	
205	白曜		SX24	②1.7+α	内外面能袖、外面露胎	A: 衛、微細な砂粒多く含む。B: 良C: 施軸明オリープ級2.5GY7/1胎土.仮白5Y8/1。	
206	土新名	ff .	SX24	②1.5+α ③ (8.2)	内面摩幌により調整不明、外面回転ナテ、回転糸切り	A: やや相、 機綱な砂粒多く含む。B : やや不良C: 内面.褐灰iOYR5/1外面にぶい機5YR7/3~褐灰7.5Y5/1。	
207	石鋼	滑石	5X24	2β3.3+α	内外面ケズリ、摩託によるへこみ		
	石橋	源石	SX24	25.8+α	内外面ケズリ	_	
208				1	1	1	

_							
遺物 番号	種類	器種	出土地点	①口径②器奏③絃径(cm) ④度さ(g) *(復元値)	形態・技法の特徴	A:動土 B:類成 C:色層	4 4
209	領惠聚	杯蓋	SX26b	@0.7+α	内外番回転ナデ	A:密、最積~2.0mmの砂粒多く含む。B:良C:内外面.灰5Y6/1。	
210	須恵器	杯蓋	SX26.L.M	@0.95+α	内外面回転ナア	A:组、産業~3.5mm程の砂礫やや多く含む。B:良C:内外質・明常灰5P7/1~ 哺育灰5P84/1。	
211	須惠器	杯身	SX266	@3.45+α	内外番回転ナア	A: 機構~3.0mmの白色粒多く機構な黒色粒を少量含む。B: 良C:内筒.氏NS/ 外筒.灰7.574/1。	
212	銀恵器	杯身	SX26b	① (12.0) ②2.6+α	内外高回転ナア	A:Imm以下の白色砂粒少量含む。B:及C:内外需。灰白N7/0。	
213	須惠器	杯蓋	SX26.L/	②2.05+α	内質不定方向のナデ、回転ナデ、外面ナデ、回転ナデ、ヘラ記号	A: 他、機構~2.0mmを担めをセヤマ多く含む。B: 良C: 内面:承託SPS/I外面:青 灰SBS/I。	
214	器忠康	杯蓋	SX26.上層	① (12.8) ②1.8+α 受器径 (10.6)	内面回転ナテ、内外面端常調整の為ナデ、外面回転ナデ	A: 後、数個~2.0mm程の砂粒含む。B: 及C: 内面反視5YR6/2外面.褐灰 5YR6/1·茯苓5YR6/2滴面灰褐5YR6/1·将膝灰10CY7/1。	
215	器速泵	杯身	SX26b	②1.2+α ③ (7.8)	内面不定方向ナア、外面刺繍、回転ナア、高台取付による回転ナア	A: 1mm以下の白色砂粒を多量含む。B: 及C: 内外質 及NS/。	
216	須惠器	杯身	SX26b	Ø1.3+α ③ (7.4)	内面ナア、外面調整、同転ナア、高合取付による回転ナデ	A: lmm以下の白色砂枚を多量含む。B: 不良C: 内外層 灰5Y6/l。	
217	須恵器	杯身	SX26b	②1.1+α高台径 (11.0)	内外面回転ナデ	A:後、数据~0.5mmの白色砂粒多く含む。B:良C:内外質 灰7.5Y6/l。	
218	※出版 選用服	杯身	SX26上層	②1.5+a 高台径 (8.2)	内面一定方向ナテ、回転ナデ、外面回転ナデ、回転へラケズリ、場都関係の為のナデ	A:密、微觀な砂粒少量含む。B:及C:内面灰白2.5Y8/1外面灰白5Y7/1~灰	
				WISH WITE (6.2)		N6/。 A:祖、我順~2.0mm砂粒を多く含む。B:真C:内外裏棚7.5YR5/6~にぶい	
219	土師器	把手	SX26b	_	内面体部取付部、外面ナデ	黄便10YR6/3。 A:根、提展~1.0mm砂粒を多く含む、金雲母少蔵含む。B:やや不良C:内面.褐	
220	土飾器	現	SX26b	① (19.6) ②12.5+a	内面ハケメ、摩託内外面ココナア、外面単純により顕璧不明、タール状付着物あり	7.5YR4/3外面によい本権5YR5/4。 A: 祖, 養婦~1.0mm白色砂粒、本色粒を多く含む、金雲母やや多く含む。B: や	
221	土解醫	*	SX26b	① (21.4) ②10.5+α	内省ハケメ、内外面単純により創整不明	や不良C: 内外面にぶい得7.5YR5/4。	
222	上師器	竞	SX26b	① (24.3) ②10.45+α	内面ハウメ、ケズリ、外面ヨコナデ、ハケメ、粘土帯継ぎ目	内外曲によい板7.5YR7/4~灰質器IGYR4/2。	集付書
223,	土練器	尭	SX26b	① (27.6) @14.5+α	内面ハウメ、ケズリ〜一部ナデ、外面ヨコナデ、ハウメ	7.51R0/0 ~ C.St. A@101R3/4.	外面保付着
224	上鄉墨	9.	SX26b	⊕ (27.8) @13.7+α	内面ハケメ、ケズリ、外割ナア、ハケメ	A: 毛、機器~3.0mm自色砂粒を多く、赤・茶色粒やや多く、全質母を少量さむ。 B: 良C: 内質・提7.5YR5/6~矢質得10YR5/2外重に口い模7.5YR5/4。	外面保付着
225	石器	二次加工 劉片	SX26上層	高3.8 幅2.1 厚0.7 ④5.8	-		安山岩
226	鉄製品	鉄滓	SX26b	タテ2.35 ヨコ1.75 厚1.3 ④4.0	-	_	
227	青磁	п	SX28	20.95+α ③ (4.6)	内面能権、片彫り文様、外面能権、回転へラ切り	A:密。B:良C:胎土灰白N7/施オリーブ灰5GY5/1。	對安皇系
228	土師器	杯	SX29	②2.6+α	内面ナデ、回転ナデ、外面回転糸切り、回転ナデ?層被害しい	A: 根、機能な営得~4mm程の砂礫をヤヤ多く含む。B: QC: 内面:美沢2.5Y6/J 外面:海沢10YR5/I断面、に以・映数10YR7/2。	
229	土師器	杯	SX30	① (11.4) ②3.1 ③ (5.8)	内面回転ナテ、外面磨耗により測度不明	A: 歴 最悪な業界~3mm程の砂粒を含む。B: やや不良C: 内面原白10YR8/2 集 集構10YR3/2外面減費5YR8/3。	内面保付着
230	須恵器	*	SX34	©1.0+α	内外裏回転ナデ	A: 密, B: 與C: 內外面,灰白N7/面面,灰白N8/。	
231	白磁	#4	SX34	②2.0+α	内外刺激物	A: 密。B: 與C: 助土灰白NS/m 灰白NS/。	
232	白磁	小椀	SX34	23.0+α	内外面能物、外面高台ケズリ	A: 密, B: 泉C: 贴上灰白578/2堆.英贯578/3。	
\vdash	白糖	AR.	SX34	① (13.0) ②1.6+α	内外面除物	A: 街。B: 及C: 胎上灰白5Y7/1難・灰白7.5Y7/2少し繰りゆかっている。	
233							
234	須惠器	捏ね鉢	SX34	②3.9+α ③ (12.0)	内前回転ナデ、外前回転ナデ、不定方向のナデ	A:1mm以下の白色砂粒を多量に含む。B:良C:内外重:青灰5PBA/I。	
235	白磁	燗台か?	SX34	②3.0+α 最大径 (5.0) 高3.15 幅2.0	内面指環境、外面離胎、キザミ、節物	A:精良。B:良C:胎主・明るい乳白色、 株・透明・光沢あり・うすく膨弛。	
236	鉄製品	鉄滓	SX34	厚1.9~1.95 ④15.7	- :		
237	白磁	桃	SX35	②1.5+α 高台領 (5.6)	内面施輸、外面タテ方向のケズリ、高台ケズリ、目跡	A: やや想い。B: やや不良C: 胎土.灰白N8/糖・卵オリーブ灰2.5GY7/1。	
238	磁器	猪口	SX36	① (5.8) ②3.4+α	内外面総軸、外面鐵船、一部文様あり	A:密、微砂やや多く含む。B:及C:表地.K自5Y7/1靴.K(自7.5Y7/1,	
239	瓦賞 土器	為釜	SX36	① (13.8) ②5.6+α	内閣ヨコナデ、指オサエ後ハケメ外面ヨコナデ、ハケメ、 耳取付けのナデ指痕あり、取手 (耳) 取付け	A: 微細な砂粒多く含む。B: QC: 内外面.オリーブ量7.5Y3/1胎土.灰黄2.5Y6/2。	
240	青磁	88	SX37	@2.6+α	内外面總軸	A:密。B:良C:船上灰白7.5Y7/1推 緑灰(OGY6/1内面)黄色味あり。	龍泉窟系 動が探い
241	上解器	小皿	SX39下層	① (8.0) ②1.3 ③ (6.6)	内面回転ナデ、磨軽の為調整不明、外面ナデ	A:機構な赤色粒をごく少量含む。B:良C:内外質によい機5YR7/4。	
242	瓦器	椀	SX39	②1.75+α 高台径 (7.8)	内面ナア、外面回転ナア、ナア	A: 中下値い、数据な白色砂粒、茶色放をやや多く含む。B: 良C: 内 - 高台内面 氏 白7.5Y8/1外面 暗灰N4/。	
243	土師器	杯	SX39上層	@1.15+α ③ (9.2)	内面ナデ、外面回転ナデ、回転糸切り	A:徳、徽編な金雲母、後~ 3mm程の砂粒を少量含む。B:良C:内外編 浜白 10YR8/2。	
244	須惠器	提拉鉢	SX39	②2.65+α	内外面ヨコナデ	A: やや他い、数据な砂セ多く含む。B: 良C: 内外面,ENS/外口級オリーブ級 10Y3/1。	
245	須恵器	变	SX39	@3,3+α	内面ヨコナア、ナデ (摩託)、外面ヨコナア	A:徳、魏砂ヤヤ多く含む。B:良C:内面、KN4/外面増灰N3/。	
246	須惠器	捏ね鉢	SX39	@6.7+α	内面ヨコナデ、ヨコ方向のナデ、不定方向のナデ、外面ヨコナデ、ナデ	A: やや抱い、養績~ 2.0mmの白色が粒やや多く1.0mm程の葉色粒少量含む。B: 及C: 内外面 灰い5/外口線 灰い4/。	
247	上解器	鎖	SX39上 階	@4.5+α	内面調整の為ナデ、回転ナデ、外質調目文?、調整の為ナデ、回転ナデ、ハケメ	A: 密整線な繁명~4mm程の未得色砂と砂礫をやや多く含む。B: 良C: 内面によい未得5YR5/4外裏 無視5YR3/1。	
248	青磁	掬	SX39	@4.2+α	内面施物、文様 (片影り)、外面施物	A: ※、機関合む。B: QC: 胎土氏白5Y7/1軸オリーブ質7.5Y6/3。	龍泉1景
249	青磁	#8	SX39上層	25.0+α	内外部無他, 外面兼井	A: 徳. B: QC: 胎上灰白7.5Y7//軸灰オリーブ7.5Y5/3。	建 泉川県
				25.9+α	ドラアの回転性、アルリエケー 内面維物、形込み、外面能物、塞弁	A: 密。B: 皮C: 胎上灰白N8/簡明オリーブ灰2.5GY7/1。	在泉川梨
250	青磁	挽	SX39上階			A: E. 路田・及じ: 知正:及日Nの福用オッツーン次と3017/1。 A: E. 路舗~2.0mmの自色分段多く1.0mm程の赤色皮を市少量、全質界を少量含む。 B: ヤや不良に内画:度7.5787/6~#57866分差にお・使7.5786/4~にお・得7.5785/3。	
251	土師器	M	SD01下層	Ø3.9+α	内外面層純により調整不明		
252	白磁	#i	SD01下階	①11.6②3.1+α	内外面総軸、釉の量を取り	A: 密、機綱な砂粒多くさむ。B: 良C: 胎土 灰白5Y8/1準 灰7.5Y7/1。	N/類 龍泉、高台内側
253	青磁	椀	SD01下層	②1.9+α 高台径 (5.1)	内面総権、外面総権、高台ケズリ、回転ヘラケズリ、重胎	A: 中中組い、養福な砂位含む。B: 夏C: 胎土 灰白5Y7/1線 灰オリーブ5Y5/2。	部分的に能袖
254	須恵器	高杯	SD20b	②2.3+α 新部径 (12.4)	内外側回転ナデ	A: 密、数据~2.0mm自砂粒を多く含む。B: 及C: 内外額 F/N4/。	やや至みあり
255	土郎器	類	SD20b	Ø3.8+α	内面ハケメ、ヨコナデ、外面ヨコナデ、磨耗により調整不明	A: 担い、機器な台色砂粒多く未補色粒少量、金葉母少量含む。B: 良C: 胎土機 5YR7/8内質によい黄種10YR7/4外面にぶい黄種10YR6/3。	集付着
256	白磁	л	SD20b	Ø0.6+α ③ (7.0)	内面能物、外面一部総称描き取り	A: やや密。B: 及C: 胎土.疾自5Y8/1離.疾自10Y8/1。	
257	上師器	杯	SD20b	① (15.0) ②1.6 ③ (10.1)	内面ナア、回転ナアか(摩戴者しい)、外面回転糸切り、摩耗の為興整不明	A:2mm以下未色砂粒少量、1mm以下白色砂粒少量含む。B:不良C:内外面.氏 白10YR8/2。	口器部列度の A秩存器高
258	土飾器	杯	SD21c	②1.9+α 萬台径 (6.0)	内面ナア、回転ナア、外面回転ナアか (唐乾蕃しい)、回転糸切り	A: 機綱な砂粒少量、全雪母多量さむ。B: やや不良C: 内面 灰N4/外面 灰白2.5Y8/2。	
259	須恵器	杯身	SD23	②1.5+α 高台径 (8.0)	内面回転ナデ、外面回転へラケズリ残存少ない為不明、 高台貼付け後回転ナデ、摩託により側弧不明	A: 您、發頭な砂粒やや多く含む。B: 良C: 内面.灰N4外面灰N5/~黑N2。	
260	黒色 土器	换	SD23	②4.3+α	内面手持ちヘラケズリ (風色)、外面ヨコナア、一定方向のナデ	A:帯、機構~ 2.0mm自色砂粒多く含む。B:良C:内面.オリーブ葉7.5Y3/1外面.にぶし、食包10YR6/3。	煤付着
261	無色 土器	枫	SD23	① (18.0) ②8.2 廣台後 (8.6)	内面ヨコナデ、手持ちヘラケズリ (集色)、外面ヨコナデ、回転ヘラケズリ	A:街、養績~2.0mm砂粒多く含む。B:良C:内断.黒10YR2/1外筒.機5YR6/6~によい養機10YR6/3。	底部残存少ない為日 緑水平にて実測
				1	L	<u> </u>	

遺物 番号	推奨	整備	出土地点	①口径②器高③拡径 (cm) ④載さ (g) * (復元値)	形態・技法の特徴	A:胎士 B:焼烧 C:色胸	備考
262	土鮮器	小里	SP36	① (9.6) ②1.2 ③ (7.8)	内面回転ナア、不定方向のナア、外面回転ナア、回転糸切り後板状圧痕	A:1mm以下白色砂粒少量、金黎母多量含む。B:良C:内外面にぶい黄褐10YR5/4〜黒橋10YR3/2。	
263	土鮮器	小里	SP40	①8.6 ②1.1 ③6.2	内面回転ナア、不定方向のナア、外面回転ナテ?磨耗者しい、回転糸切り後板状圧痕	A:2mm以下白色砂粒多量、金雲母多量合む。B:やや不良C:内外面.灰黄褐10YR6/2~にぶい檀5YR6/4。	歪み少しあり
264	土師器	捏ね鉢	SP42	① (28.2) ②10.1 ③ (12.1)	内面ョコナデ、ハケメ、不定方向のナデ、摩耗により頻繁不明、 外面ヨコナデ、摩託により調繁不明、拍頭痕	A:担い、機幅~2.0mm砂粒多く含む、1.0~2.0mm赤色粒少量、2.0~3.0mm 白色環少量含む。B:やや不良C:内面.性5YR7/6~灰白5YR8/1外面.性5YR7/6。	
265	土鮮器	φ∎	SP48	Ø1.1	内面回転ナテ、不定方向のナテ、外面回転糸切り? 磨耗著しい	A: Imm以下白色砂粒少量、金雲母多量含む。B: やや不良C: 内外面 オリーブ 概2.574/3。	
266	北海田	小里	SP48	① (8.4) ②1.3 ③ (7.0)	内圓層純により調整不明、外面ヨコナデ?磨耗者しい、回転糸切り	A:Imm以下白色砂粒少量、金雲母多量合む。B:良C:内面にぶい黄橙 10YR7/4外面にぶい黄橙10YR7/4~灰黄梅10YR6/2。	
267	白礁	Ħ	SP58	⊕ (16.0) Ø3.5+α	内外資能物	A:密、微細な砂粒ごく少量含む。B:良C:胎土原白7.5Y8/1種.原白7.5Y7/1。	V類
268	青磁	R	谷郡中層	②2.7+a 高台程6.2	内外面能能、外面回転へラケズリ	A: 密。B:精良C:内外面,灰白N7/物灰.オリーブ7.5YR6/2。	龍泉 やや光沢大き い貫入が入っている
269	土舞器	*	谷部中層	@4.5+α	内面パケメ、回転ナデ、外面回転ナデ、強いナデ、調整の為のナデ	A: やや根い、数据な繋母、赤褐粒~2mm程の砂粒やや多く合む。B:良C:内面.によい後5YR7/4外面.程5YR6/8~褐灰5YR5/1~浅黄橙7.5YR8/3。	
270	五世 土容	湯釜	谷部中層	Ø3.9∗a	内外面回転ナア、外面菊花文	A:中午包1、養細な宴母と1mm程の角閃石~3mm程の砂礫を少量合む。B:良C:内 盛によい地5YR6/4~褐灰5YR5/1分面.技貨程7.5YR8/3~程2.5YR7/6斯面.灰6Y4/1。	
271	瓦器	ĸ	谷澤中層	Q4.3+α	内外面回転ナア	A:やや粗い、数砂~5mm程の砂礫少量合む。B:良C:内外面,灰白N8/~灰N5/。	
272	Ā	平瓦	谷部中層	タテ (14.2) ヨコ (14.1) 最大厚2.5	凸面布目、凹面斜格子タタキ	A:密、砂粒多く合む。B:不良C:凹凸面 JC白7.5YR8/2~10YR8/1。	
273	領意器	杯蓋	古代包含層	Ø1.1+α	内面回転ナテ、不定方向のナデ、外面回転ナデ、回転ヘラケズリ	A: 0.5mm以下白色砂粒少量含む。B: 不良C: 内面.灰5Y6/i外面.灰白5Y8/i ~ 灰5Y6/i。	
274	土師器	=	最合於介古	① (13.8) ②1.5 ③ (9.8)	内面不定方向ナデ、回転ナデ(唐托著しい)、外面回転ナデ、ナデ	A: 0.5mm以下白色砂粒少量、金雲母ごく少量合む。B: やや不良C: 内外面にぶい黄橙10YR7/4。	
275	土師器	#	最合的介古	@4.95+α	内面ナア、増耗害しい、外面回転ナデ、ナデ?権耗者しい	A:Imm以下白色砂粒多量、金要母多量含む。B:やや不良C:内外面にぶい黄 板IOYR7/4。	
276	東意思	*	古代包含層	23.6+α	内外省回転ナア	A: Imm以下白色砂粒多量合む。B: 良C: 内面:赤灰2.5YR5/1外面:赤灰2.5YR5/1~暗灰N3/。	
277	領忠器	杯身	古代名合用	②3.4+α 高台径 (10.8)	内面回転ナア、不定方向のナア、外面回転ナア、真台取付けに伴う回転ナア、ナア	A:2mm以下白色砂粒多量含む。B:良C:内外面:青灰5PB5/1。	
278	須恵器	杯身	古代包含層	① (15.0) ②3.2+a	内外御回転ナア	A: 0.5mm以下白色砂粒少量含む。B; やや不良C: 内外面.灰白7.5Y7/1。	
279	景思器	杯身	古代包含層	②1.4+α 高台径 (11.8)	内面不定方向のナテ、外面高台取付けに伴う回転ナデ、回転ナテ	A: 0.5mm以下白色砂粒ごく少量含む。B: 良C: 內外面,灰N5/-N4/。	
280	須恵器	杯身	古代名字層	②2.7+a 萬台任 (10.0)	内面回転ナア、外面回転ナア、高台取付けによる回転ナア	A: 0.5mm以下白色砂粒ごく少量含む。B: QC: 内外面.灰N5/。	

第5表 薬師の森遺跡第14次調査出土遺物観察表

	T			①口務②要高③軟径 (cm)	(PP vs 44/2233) Slot 11/2 (PP P P P P P P P P P P P P P P P P P		
書号	機類	54	出土地点	④虚さ (g) * (復元銀)	形態・技法の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色網	備有
281	須恵器	¥	SP551 (SB01.P6)	Ø5.95+α	内外面共に回転ナテ。内面シボリ痕。	A:4mm以下の白色粒を少量合む。B:やや良好C:内.黄灰2.5Y6/1、外.にぶい褐 7.5YR6/3。	
282	類意識	*	SP567 (SB01.P3)	@4.2+α	内外面共に回転ナデ。内面ナナメ方向に回転ナデ。	A:1mm以下の長石をやや少量含む。B: やや良好C: 内.灰10Y6/i、外.灰 10Y5/i。	
283	Res	杯身	SP551 - SP569 - G10区 検出面・ G10区 包含層 (SB01.P5)	①11.8 ② (4.0+α) 受都征 (13.7)	内外面共に回転ナテ。底部内面ナテ。底部外面回転ヘラケズリ。	A: 2mm以下の長石、石英をやや多量含む。B: やや良好C: 内.灰オリーブ SY6/2、外.灰オリーブSY6/2。	
284	須息器	拼身	SP552 (SB01.P9)	Ø (2.5)	内外面共に回転ナデ。	A:Imm以下の長石を少量含む。B:良好C:内.灰10Y5/1、外.灰10Y5/1。	
285	REB	杯身	SP569 (SB01.P5)	① (11.7) ②3.7 受鄰径 (12.6)	内外面共に回転ナア。外面ナア。	A: lmm以下の長石をやや少量合む。B: やや良好C: 内.灰10Y5/1、外.灰 10Y5/1。	
286	須恵器	任者	SP548 (SB02.P5)	① (10.7) ②2.1+a ③ (6.9) 受揮任 (13.5)	内面底部に当て具収残る。底部外面回転ヘラケズリ。	A:4mm以下の白色粒、礫を少量含む。B:良好C:内.灰N5/、外.灰N5/。	
287	Aes	杯重	SCOL カマド馬辺	① (14.2) ② 3.6+α	内外面共に回転ナア。天井部外面回転ヘラケズリ後回転ナデ。	A:Imm以下の長石、礫をやや少量含む。B:やや良好C:内.灰10Y5/1、外.灰 10Y6/I。 	口縁部に刻目を 施す
288	NES	杯蓋	SCOI IE	⊕ (11.8) 2 (3.0+α	内外面共に回転ナア。天井部外面ヘラケズリ。	A:2mm以下の長石、石英をやや多量に合む。B:やや良好C:内.灰}0Y5/1、外.灰10Y5/1。	-
289	REB	杯推	SC02	①11.6 ②4.3	内外面共に回転ナデ。天井都外面回転へラケズリ。	A:3mm以下の長石をやや多量、1mm以下の石英をやや少量、裸を微量含む。B: や中良好C:内.KN5/1、外.KN5/1。	焼き歪みあり
290	領意器	₩Æ	SC02 4E	① (14.0) ②3.7+a	内外面共に回転ナデ。天井部外面ナデ。	A: 2mm以下の長石をやや少量含む。B: 良好C: 内.黄灰2.5Y4/1、外.灰10Y3/1。	
291	青疸	R	SX18 石列群去後	(22.65+a 高台径 (6.4)	内面除料後能補。底部外面、螺胎例9出し高台。	A:微線な白色数を微量含む。B:良好C:来灰白2.5Y7/2・にぶい黄檀 10YR7/3、株灰オリープ7.5Y6/2・透明感有、触原はうすく均一。	龍泉[類
292	ĤŒ		SX18	① (10.8) ②4.05 高台種 (4.3)	施施。 底部外面、露始前9出し高台。	A:機構な黒色粒を微量含む。B:良好C:業.灰白7.5Y8/1、独.明オリープ灰2.5GY7/1・透明感有、 機厚はうすく均一。	1-1規
293	άŒ	小里	5X19	①7.5 ②1.45 高台径4.2	薬物。内面目跡あり。底部外面、薫絵。	A: 精製土B:良好C:素.灰白N8/、糖.灰白5GY8/1・透明終有、軸厚はうすく均一。	高台に抉り込み
294	鉄器	8.0	SXI9	長19.0 概23.9+a 厚1.0 重170.14	_	_	
295	銀倉器	Æ	SX21	Ø8.85+α	内外面共に回転ナア。外面、沈緑、朝突文あり。	A:4mm以下の白色粒を少量含む。B:良好C:内.灰7.5Y4/I、外.灰N4/。	
296	土野器		SX24	① (8.9) ②1.2 ③ (7.3)	内外面共に回転ナデ。底部外面糸切り、板状圧痕機る。	A: 2mm以下の白色粒、褐色粒を少量合む。B: 良好C: 内.にぶい黄橙10YR7/3、外.にぶい黄橙10YR7/3・褐灰10YR5/1。	
297	848		SX25	① (11.7) Ø3.0 ③ (6.0)	悪糖、底部外面、まだらに積かかる。	A: 機概な無色粒を微量含む。B: 泉好C: 素.灰白5Y8/1、釉.灰白2.5GY8/1・光沢、透明感有、釉厚はうすく均一。	IX-1:55
298	鉄器	鉄線	SX26 4 X	長5.3+α 幅1.75 厚1.45 重13.70	_	_	
299	鉄器	ЛŦ	SX28 一段番とし	長7.75 幅2.4 厚0.8 量25.89	-	-	
300	上鮮器		SX38	① (9.1) ②1.5 ③ (7.4)	内外面共に回転ナア。底部内面回転ナア後ナア。底部外面回転糸切り。	A:2mm以下の白色粒、赤色粒を少量、微細な雲母を微量含む。B:良好C:内.によい黄檀10YR5/3、外.によい黄檀10YR5/3。	
301	上海器	杯	SX38	① (12.9) ② 2.5 ③9.4	内外面共に回転ナテ。底部外面回転糸切り。	A: 2mm以下の白色粒、雲母を少量合む。B: 良好C: 内.明禍7.5YR5/6、外.明禍7.5YR5/6。	
302	鉄器	不明	SX50	長6.2 幅1.5 厚0.5 重7.43	-	_	
303	須尼器	秤畫	SX65	① (14.0) ②3.0+α	内外面共に回転ナデ。	A: 2mm以下の長石をやや少量含む。B: やや良好C: 内沢10Y6/1、外沢 10Y6/1。	
304	領市器	肝療	SD14 21Z	① (10.3) ②4.4 ③13.8	内外面共に回転ナデ。底部内面一定方向ナテ。底部外面ナテ。	A: 2mm以下の長石、1mm以下の石英をやや多量に含む。B: やや不良C: 内.灰 黄2.5Y7/2、外.灰黄2.5Y7/2。	杯B
305	石製品	紡錘車	\$D14 1EX	兵4.1+α 幅2.5+α 厚1.3 重21.2 4		-	滑石製
306	6WE	ĸ	SP84	Ø2.7+α ③ (7.6)	施物。内面見込み蛇の目執剤が。外面回転ナア、底部高台閉り出し。	A: 機能 な自色粒を含む。B: 真好C: 素.灰白N8/・灰白5Y7/2、箱.灰白7.5Y7/2。 光沢、透明感有り、釉厚ややうすい。	/唯-1/類
307	黄疸	=	SP114	②1.4+α ③底器 (3.8)	施物。内面見込み響音さ文。底部外面解散。	A: 微調な白色粒を微量合む。B: 良好C: 素.灰白5Y7/1、釉.オリーブ質5Y6/3。 透明感有り、軸厚ややうすく均一。	龍泉1-20類
308	土馬亞	#	SP129	① (11.6) ②2.7 ③ (8.0)	内外面共に回転ナデ、底部外面糸切り。	A:1mm以下の長石、石英、繁母をやや多量に含む。B:やや良好C:内, 灰黄2.5Y7/2、外、灰黄2.5Y7/2。	
309	上師器	ff	SP132	23.04	内外面共に回転ナデ、底部外面回転糸切り。	A: Imm以下の長石、石英、饗母、原色粒をやや多量、2mm以下の赤色粒をやや 少量含む。B: やや良好C: 内.にぶい黄権10YR6/3、外.にぶい黄権10YR6/3。	
310	快器	不明	SP158	長7.0+α 報2.85 厚0.8 載23.57	-	-	
311	88	Ħ	SP170	②2.95+α	施物。内面排標文後施效。	A: 機構な風色粒を微量合む。B: 良好C: 紫.灰白10Y8/1、粒.灰白5Y7/2。光沢、透乳感行り、釉原ややうすく均一。	V類

10.1	Ī	器植	出土地点	①口後②器裏③底径 (cm) ④重さ (g) * (復元値)	形態・技法の特徴	A:站上 B:娘成 C:色劇	n 4
131	Ī	ш	SP191 周辺	① (8.6) ②1.15 ③ (7.2)	内外面共に回転ナア。底部外面回転糸切り。	A:2mm以下の長石、養婦な賞母をやや多量、1mm以下の赤色粒をやや少量含む。 B: やや不良C: 内.着7.5YR7/6、外によい権7.5YR7/4。	
18	r	梅	SP192	① (13.8) ②3.95+α	高 朝。外面進弁文後施軸。	A: 装備な白色粒を装置さむ。B: 良好C: 素灰黄2.5Y7/2、軸灰オリーブ SY5/3。気泡: 光沢り、軸厚は厚い。	董泉II-a類
18	T	棉	SP201 一段落とし	Ø3.6+α	総額	A:機關な白色粒を表面含む。B:良好C:非.灰白N8/、瞳.灰白7.5Y7/2。	N#
35 日本 表 3502		滑石製石鍋	SP210	長13.55 幅17.0 厚3.0	-	_	清石、工具模 及少煤付着
377 前日 別 SP200	ľ	検	SP232	②4.25+a 高台径5.1	椒味。底部外面削9出し高台。	A: 微細な葉色粒を少量含む。B: 良軒C: 象灰白N8/・灰黄2.5Y7/2、葉灰白 5GY8/i。光沢、気泡育り、鶴原ややうすく均一。	IX-2e
19		椒	SP269	Ø3.45+α	施柚。口赫部搞文後施釉。後花。	A:機構な白色粒を機能含む。B:良好C:素灰白7.5Y7/L、軸 灰オリーブ7.5Y5/2。 光沢、透明感、気泡有り、軸厚はうすく均一。	建 集1-4b
19 19 18 18 19 19 19 19	Ī	鲜	SP280	②2.15+α	内外面共にヨコナデ。	A:2mm以下の白色粒を多量含む。B:良好C:内.灰NS/、外.褐灰SYRS/I。	1-1無
25	İ	m	SP311	① (8.8) ②1.4 ③ (7.0)	内外面共に回転ナデ。底部外側回転糸切り。	A:4mm以下の長石、石英、雪母をヤヤ多葉に含む。B:良好C:内.にぶい黄體 10YR7/3、外.にぶい黄體10YR7/3。	
22 別場	Ī	杯	SP311	① (14.0) ②2.6 ③ (9.8)	内外面共に回転ナア。内面層針により不明瞭、底部外面回転糸切り。	A:2mm以下の長石、石英、4mm以下の身種色的、養土な質様を少量合む。B:や予良好で内氏 日10YR7/1・にぶい黄便10YR7/3・灰質第10YR4/2、外、浅黄酸10YR9.3・灰質第10YR5/2。	灯明底あり
322 現場 存置		不明	SP544	反6.8+α 幅1.45 №0.7 第 28.99			
323 製造品 作身 SPSSS (0) (1) (1) 公 (23-5-2 美部社 (12-5) P(5)条件(14-7) ・ 株田の日 エンカイア・ 株田の田 エンカイア・ 株園 エンカイア・ 大田の田 エンカイア・ 株園 エンカイア・ 大田の田 エンカイア・ 株園 エンカイア・ 株園 エンカイア・ 株園 エンカイア・ 株園 エンカイア・ 株園 エンカイア・ 大田の田 エンカイア・ 大田の田 エンカイア・ 大田の田 エンカイア・ 株園 エンカイ エンカイ・ 大田の田 エンカイ・ 株園 エンカイア・ 株園 エンカイ・ 株園 エンカイ エンカイ エンカイ エンカイ エンカイ エンカイ エンカイア・ 株園 エンカイ エンカイ エンカイ エンカイア・ 株園 エンカイ エンカイ エンカイ エンカイ エンカイ エンカイ エンカイ エンカイ		杯蓋	SP595	① (15.4) ②3.4+α	内外面共に回転ナア。天井郡外面回転へラケズリ。	A:3mm以下の白色粒を少量含む。B:良好C:内.KNS/、外.KIOY6/1・暗跃 N3/。	
324 上製画 駅の枝 SPS955	١	杯身	SP595	① (11.4) ②3.8+a 受審任 (12.9)	内外面共に回転ナテ。底部内面一定方向ナテ。底部外面回転ヘラケズリ。		焼き歪みあり、 降灰
325 別意思	Ī	瓶の桟	SP595	長8.4+α 幅2.45 厚1.95	ナア、指オサエ級形。	A: 2mm以下の石英、長石、葉母をやや多量含む。B: 良好C: 、外によい責権 10YR7/3・によい責権10YR6/4・海灰10YR5/1。	布目指紋残る
287 別思想	Ī	杯蓋	SP596	② 3.3+α	内面回転ナテ、一部一定方向のナア。天井部外面回転ヘラケズリ。	A:4mm以下の白色粒を少量含む。B:良好C:内.RN6/、外.RN6/、	口味部に 別み目有り
328 別思路 杯蓋 SP570 周辺信合理 ①5.3~ (11.5) ②4.4	Ī	39.	SP599	@12.5+α	内外面共に回転ナア。連続制突文、被状文、カキ目能す。	A:3mm以下の長石をやや多量含む。B:やや良好C:内:オリーブ重10Y3/1、外、場 RN3/。	
328 新北勝 杯蓋 SP570 周辺信命階 (19.3~ (11.5) ②4	1	杯身	SP600・表土ハギ	① (10.6) ②3.3+α 受部径 (13.4)	内外面共に回転ナデ。	A:2mm以下の長石をやや少量含む。B:やや良好C:内、駅NS/、外、駅NS/。	
229 新産船 杯蓋 SP570 周辺信命権 ①14.25 ②3.3 円外番末に延転すず、天井郡内書画をヘラケスリ。 10761、男 泉田次、 横台10771、	Ī	杯蓋	SP570 周辺包含層	①9.3 ~ (11.5) ②4.4	内外面共に回転ナテ。天井部外面回転ヘラケズリ。	A:4mm以下の白色粒をヤや多量合む。B:良好C:凡オリーブ灰5GY5/1・灰 N4/・灰7.5Y6/1、外オリーブ灰5GY5/1・灰N4/・灰7.5Y6/1。	除 灰
33 知思想 杯介 SPS70 周辺包含層 ① (12.1) ②3.5+α 受那症 (14.4) 内外異共に回転ナテ、此意外裏回転ヘラケズリ。 A:3mm以下の白色粒を少量含む。B:食料で・内具取SS、 132 別思想 異 GSE 包含層 ① (21.3) ②10.0+α 内外条件に回転ナテ、内裏四人円状の当て具象。保護平行タタキ徒か今日。 7562・によい 恒プ5767/4、外 実成と5772・収 実例10733 上野器 異 SPS70 周辺包含層 ② (21.3) ②14.4+α 内裏四人円状の当て具象。口障部の高層料により不可慮、外面コナテ、カキ目。	Ī	杯蓋	SP570 周辺包含層	①14.25 ②3.9	内外面共に回転ナデ。天井郡内面一部ナデ。天井郡内面回転へラケズリ。	A:3mm以下の長石、2mm以下の黒色粒をやや多量含む。B:や中良好C:内.灰 10Y6/1. 外.RNS/、場底NS/・灰白10Y7/1。	雅庆
332 別形別 見 GSE 合合層 ① (21.3) ②10.0+α 円外高鉄に回転ナア。内面両心円状の含て異似、体部平行クタキ独カキ目。 A: 3mm以下の白色板、赤色散ややや多量なり、B: やや SYG2 - C.お. 電ブ5787/4、外裏数2.577/2・実質報10・333 上部別 異 SP570 周辺自合層 ① (21.3) ②14.4+α 円面間の円状めらて異似、印管が高層器により不可課、外質コナテ、カキ目。 名: 4mm以下の行気、長石、赤色をやや多量なり、B: AFG 2、 カキ目 2	Ī	杯身	G9区 包含層	② (9.5) ③2.55+α 受部径 (II.4)	内外面共に回転ナデ、底部内面一部ナデ、底部外面回転ヘラケズリ。	A:lmm以下の白色数を少量含む。B:良好C:内.灰7.5Y6/1、外.灰7.5Y6/1。	ヘラ記号
332 別思期 異 GSG 合音階 () (21.3) ②10.0+α 円力番目に関係する。 (1.3) (21.3) ②10.0+α 円力番目に関係する。 (1.3) (21.3) ②10.0+α 円力番目に関係する。 (21.3) ②10.0+α 円力数の音目に対して、 (21.3) ②10.0+α 円力数に対して、 (21.3) ②10.0+α 円力数に対して、 (21.3) ②10.0+α 円力数の音目に対して、 (21.3) ③10.0+α 円式を可能を可能を可能を可能を可能を可能を可能を可能を可能を可能を可能を可能を可能を	Ī	杯身	SP570 周辺包含層	① (12.1) ②3.5+α 受鄰径 (14.4)	内外面共に回転ナデ。底部外面回転ヘラケズリ。	A:3mm以下の白色粒を少量含む。B: 良好C:内.KNS/、外.KN4/。	
333 土野器 葉 SPS70 周辺信合着 ① (21.3) ②14.4+α 網路タタキ (指子?)、カキ目底. 電10YK7/4、外に点・項ブSPK2/2・(東下3)TR4/2・(東下3)TR4/2・(東下3)TR4/2・(東下3)TR4/2・(東下3)TR4/2・(東下3)TR4/2・(東下3)TR4/2・(東下3)TR4/2・(東下3)TR4/2・(東下3)TR4/2・(東下4)で、原本(日で3)TR4/2・(東下4)で、日本(日で3)TR4/2・(東下4)で、日本(日で3)TR4/2・(東下4)で、日本(日で3)TR4/2・(東下4)で、日本(日で3)TR4/2・(東下4)で、日本(日で3)TR4/2・(東下4)で、日本(日で3)TR4/2・(東下4)で、日本(日で3)TR4/2・(東下4)で、日本(日で3)TR4/2・(東下4)で、日本(日で3)TR4/2・(東下4)で、日本(日本(日で3)TR4/2・(東下4)で、日本(日本(日本)日で3)TR4/2・(東下4)で、日本(日本(日本)日本(日本)日本(日本(日本)日本(日本(日本)日本(日本(日本)日本(日本(日本)日本(日本(日本)日本(日本(日本)日本(日本(日本)日本(日本(日本)日本(日本(日本)日本(日本(日本)日本(日本(日本)日本(日本(日本)日本(日本(日本)日本(日本(日本)日本(日本(日本)日本(日本)日本(日本(日本)日本(日本(日本)日本(日本(日本)日本(日本(日本)日本(日本(日本)日本(日本(日本)日本(日本)日本(日本(日本)日本(日本(日本)日本(日本(日本)日本(日本(日本)日本(日本)日本(日本(日本)日本(日本(日本)日本(日本(日本)日本(日本(日本)日本(日本(日本)日本(日本)日本(日本(日本)日本(日本(日本)日本(日本(日本)日本(日本)日本(日本(日本)日本(日本(日本)日本(日本(日本)日本(日本)日本(日本(日本)日本(日本)日本(日本)日本(日本(日本)日本(日本(日本)日本(日本)日本(日本(日本)日本(日本)日本(日本(日本)日本(日本)日本(日本)日本(日本)日本(日本)日本(日本(日本)日本(日本)日本(日本)日本(日本)日本(日本)日本(日本)日本(日本)日本(日本)日本(日本)日本(日本)日本(日本)日本(日本)日本(日本)日本(日本)日本(日本)日本(日本)日本(日本)日本(日本)日本(日本)日本		獎	G9区 包含層	① (21.3) ②10.0+ α	内外面共に回転ナデ。内面同心円状の当て具象。体部平行タタキ後カキ目。	A:3mm以下の自色程、赤色柱をヤヤ多貫含む。B:やヤ不良C:内状オリーブ 5Y6/2 - によいセフ.5Y67/4、外沢質2.5Y7/2・沢黄陽10YR5/2。	
334 素紙 終	Ī	98	SP570 周辺包含層	① (21.3) ②14.4+α	内面同心円状の当て具痕。口縁部内裏唇軽により不事識、外省ヨコナデ、カキ目。 脚部タタキ(格子?)、カキ目転。		
336 白虹 紅瓜 83度 急合質 (0 (5.1) 20.1.5 無機、転送機能・ アルクテス 通用・ アルクラス 通用・ アルクテス 通用・ アルクラス 通用・ アルクテス 通用・ アルクテス 通用・ アルクラス 通用・ アルクテス 通用・ アルクラス 通用・ アルクテス 通用・ アルクテス 通用・ アルクラス 通用・	Ī	8%	E3区 包含層	@2.7+α @5.9	施練。底部露胎、預り出し着台。	A: 微欄な白色粒を微量含む、B: 良好C: 素灰白10Y7/L. 難オリーブ灰 10Y6/2。貫入、光沢軒り、袖厚はあつく透明。	配来1-1C類。 「河液造能」印あり
337 鉄影 康 SP\$70 周辺始命層 異8.0 幅2.5 79.7 重13.45 ー	Ī	arm.	E3区 包含層	① (5.1) ②1.5	施袖。乾部露胎。	A:養棚な白色粒を微量さむ。B:良好C:素.灰白NEV、輸.灰白NEV。 光沢有り。 類 厚はうすく透明。	
337		不明	. G9区 包含層	長3.0 報1.35 厚1.2	-	A: 2mm以下の石英、長石、重母をやや多量合む。B: 良好C: 外.槽7.5YR6.6。	
339 超影 将身 変土剥ぎ ① (12-3) ②4.0支部程 (15.0) 内外要共に回転ナデ。故部外面回転ヘラケズリ。	I	厳	SP570 周辺包含層	長8.0 帳2.5 厚0.7 第13.45	_		
333 302数 科分 女士別き	J	石嶽	G10区 包含層	長1.45+a 幅1.35 厚0.25 皇0.34			安山岩雲
A:密数文括石を整置合む。B:及好C:素次白5Y7/L. 種族	I	杯身	表土刺ぎ	① (12.3) ②4.0受部後 (15.0)	内外面共に回転ナデ。旅部外面回転ヘラケズリ。	A: 2mm以下の長石をやや多量に含む。B: やや不良C: 内.疾費2.5Y6/2、外.疾費 2.5Y6/2。	ヘラ記号
A:微超な長石を微量合む。B:良好C:素灰白SY7/1、糖灰	I	號	表土剥ぎ	②5.7+α	内外面共に回転ナデ。内面カキ目、外面ハケ後波状文及び竹管文。	A:2mm以下の自色粒を少量含む。B:良好C:内:オリーブ票7.5Y3/1.外.灰7.5Y6/1。	竹骨文有り
341 併成 接 支援 ②3.3+α ③6.2 器軌、収票原幣、用り出し高台。 光沢村り、輸車はフすく均一、透明都有り。	I	株	表採	②3.3+α ③6.2	施軸。底部輝胎、削り出し高台。	A: 薬却な長石を微量含む。B:良好C:素 灰白5Y7/I、雑. 灰オリーブ5Y6/2。 買入、 光沢村り。触導はうすく均一、透明感有り。	龍泉 (-la無
342 鋼製品 竣 廃土收採 足2.5 幅2.3+α 厚0.13 重1.81 —	Ī	鉄	廃土表採	長2.5 幅2.3+α 厚0.13 1 / ₂ 1.81	_		元柘建實

第6表 薬師の森遺跡第19次調査出土遺物観察表

遺物 番号	種類	器板	出土地点	①口径②器高③乾径 (cm) ④重き (g) * (収元値)	形態・技法の特徴	A:胎土 B:焼皮 C:色鯛	# *
343	ĸ	平瓦	SB01	Ξ 9.6+α 4 5.9+α 4 2.4	凹頭布目収残る。凸面準滅により不明。	A:密、4~5mmの砂粒含む。B:普通C:内外.7.5YR8/4线質要~7.5YR7/4によい表	関王の「王」
344	須恵器	嶌杯	SC01貼り床内	① (11.5) ②3.3+α	内外面共に回転ナデ、外面の威器と体部の境に沈線を1条制らせる。	A:密、费顺な砂粒を含む。B:良好C:内外-灰NS/	
345	須惠器	衰	SC01周辺検出時	26.15+α	内面図転ナテ、外面、回転ナデ接口線下に波状文を施す。	A: 密、機嫌な砂粒を含む。B: 真好C: 内.灰白N8/ ~ 7/ 外.鸡灰~腹N3/ ~ 2/	
346	上師器	棉	SCOI R-I	① (15.3) ②7.0 萬台径 (8.4)	内外面共に摩滅のため顕整不明	A:密、5mm程度の石英、金潔母職較合む。B:番瀬C:内.美徳10YR8/6 外.にぶ い赤裸5YR4/3	
347	土師器	R	SC01 21₫	26,05+ α	内面タテハケ後ナデ、外面ナデ	A:密、2mm程度の砂粒、全番母数粒含む。B:普通C:内外、體5YR6/8	
348	石器	二次加工利片	SX01	展2.0 幅0.8 厚0.3 銀0.4	_	_	里電石製
349	石器	石緻	SX03	長1.65 観1.1+α 厚0.4 銀0.5			安山岩製
350	石優	石鏃	SX06	長2.35 幅1.8+α 単0.4 第 1.2	_	-	異項石製
351	石器	石鏃	\$X15	長1.1+α 幅0.8+α 厚0.3 頭0.3	-		黑曜石製
352	石器	二次加工利片	SX15	長2.15 幅1.3 厚0.2 盛0.6		_	黑曜石製
353	石器	石鏃	SP01	長3.1 幅2.0+α 厚0.5 第 1.9	-		黑曜石製
354	須忠器	瓶	SP11	① (8.2) ②2.15+α	内外面共に回転ナデを施す	A:密B:良好C:内外.楊灰7.5YR5/1~4/1	
355	土節器	椀	SP15	②1.9+α 高台雀 (6.3)	内領、撃滅のため無整不孝。外面回転ナテを施す。	A:密、1mmの砂粒をわずかに含む。B:良好。C:内外・明褐灰~にぶい被7.5YR7/2 ~ 7/3	
356	須惠器	高杯	J5区包含層	@4.7+α ③ (12.7)	内側回転ナデ、外面回転ナデ後、一部カキノ施す	A:密、Immの石英・長石を含む。B:良好。C:内外、使NS/	
357	石器	二次加工	EI区包含層	長2.9 幅1.45 厚0.25 歳1.7		_	黑曜石製
358	石器	刺片	F2区包含層	長3.25 幅2.5 厚0.7 線4.2	_	_	黒曜石製・円礫の自 然面を残す
359	石袋	石鏃	J5区包含曆	長1.7 朝1.2+α 厚0.25 重0.4		-	黑曜石製
360	石器	石鏃	J5区包含層	長2.3+α 幅2.05 F0.45 重1.5	_		安山岩製

図 版



(1) 第11次調査調査前風景(南西から)



(2) 第11次調査第1面全景(北から)



(1) 第11次調査第2面全景(北から)



(2) 第11次調査SC01全景(西から)



(1) 第11次調査SCO2全景(北から)



(2) 第11次調査SCO2遺物出土状況(北から)

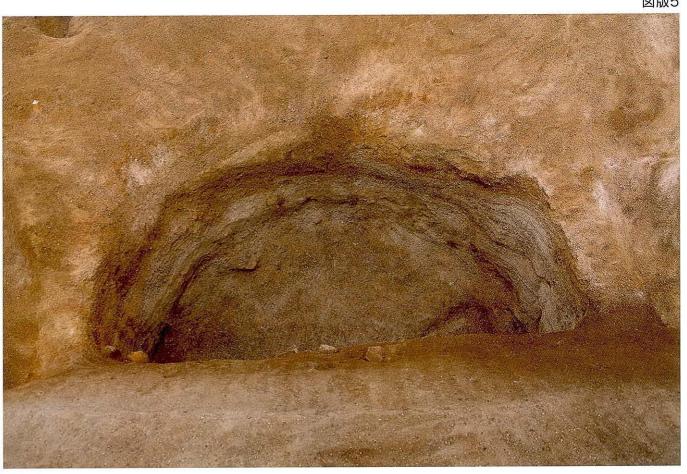
図版4



(1) 第11次調査SC03全景(北から)



(2) 第11次調査SC04全景(北から)



(1) 第11次調査SX11全景(西から)



(2) 第11次調査SX11南北土層(東から)





(1) 第13次調査 調査前風景(北から)



(2) 第13次調査 作業風景(南東から)



(3) 第13次調査 調査完了状況(南から)



(1) 第13次調査東半部全景(南東から)



(2) 第13次調査東半部北側(西から)



(1) 第13次調査東半部東側(北東から)



(2) 第13次調査西半部全景(東から)



(1) 第13次調査西半部全景(北から)



(2) 第13次調査西半部北側(南東から)

図版10



(1) 第13次調査 調査区東壁土層 (南西から)



(2) 第13次調査 調査区北壁東側土層 (南西から)



(3) 第13次調査 調査区西壁土層 (東から)



(1) 第13次調査ピット集中域(南東から)



(2) 第13次調査SP53柱材出土状況(南東から) (3) 第13次調査SP59柱材出土状況(東から)

図版12



(1) 第13次調査SE01土層(南東から)



(2) 第13次調査SEO1完掘状況(南東から)



(1) 第13次調査SEO2井筒内完掘状況 (東から)



(2) 第13次調査SEO2完掘状況(西から)

図版14



(1) 第13次調査 SE03土層(南西から)



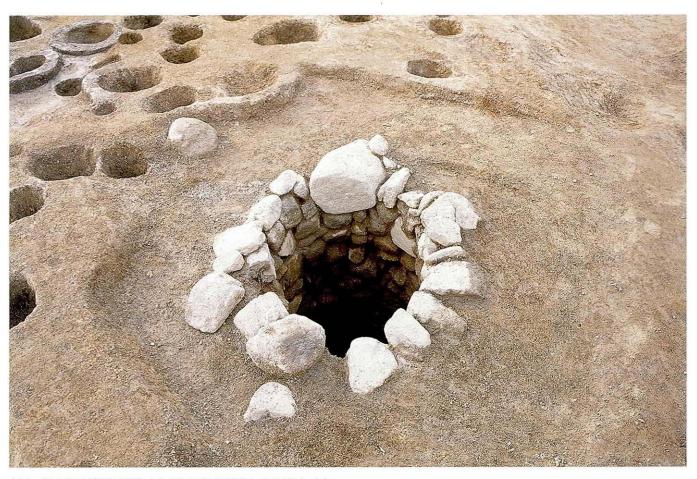
(2) 第13次調査 SE03漆器椀出土状況 (北から)



(3) 第13次調査 SE03完掘状況 (北東から)

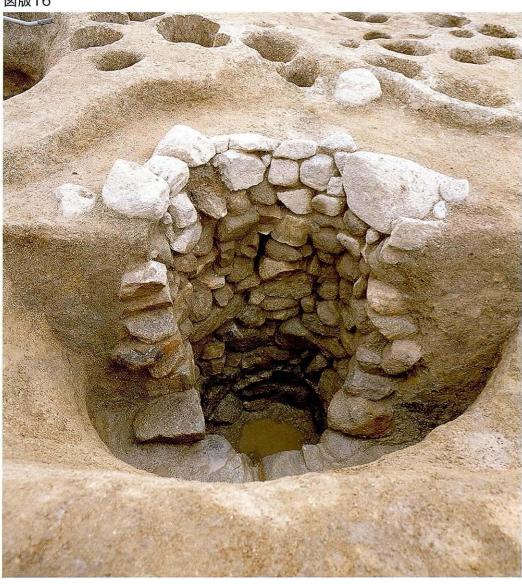


(1) 第13次調査SE04井筒内礫出土状況(東から)



(2) 第13次調査SE04井筒内完掘状況(南東から)

図版16



(1) 第13次調査SE04井筒半裁状況(北東から)



(2) 第13次調査SE04完掘状況(東から)



(1) 第13次調査SX01全景(東から)



(2) 第13次調査SXO1南側肩部(西から)

図版18



(1) 第13次調査 SX02完掘状況 (北から)



(2) 第13次調査 SX04土層(南から)



(3) 第13次調査 SX05土層(南から)



(1) 第13次調査 SX15土層(南西から)



(2) 第13次調査 SX15完掘状況 (北東から)



(3) 第13次調査 SX16土層(南西から)

図版20



(1) 第13次調査 SX17土層(南東から)



(2) 第13次調査 SX17完掘状況 (北西から)



(3) 第13次調査 SX18土層(東から)



(1) 第13次調査 SX19土層(北西から)



(2) 第13次調査 SX19完掘状況 (南西から)



(3) 第13次調査 SX20土層(北西から)

図版22



(1) 第13次調査 SX20完掘状況 (南西から)



(2) 第13次調査 SX21土層(北西から)



(3) 第13次調査 SX21完掘状況 (北東から)



(1) 第13次調査 SX25完掘状況 (北東から)



(2) 第13次調査 SX26土層(西から)



(3) 第13次調査 SX26完掘状況 (西から)

図版24



(1) 第13次調査 SX27土層(東から)



(2) 第13次調査 SX29土層(南から)



(3) 第13次調査 SX30土層(北から)



(1) 第13次調査 SX30完掘状況(北から)



(2) 第13次調査 SX31礫出土状況 (北西から)



(3) 第13次調査 SX31完掘状況 (北西から)

図版26



(1) 第13次調査 SX36土層(南東から)



(2) 第13次調査 SX39土層(西から)



(3) 第13次調査 SX39完掘状況 (北東から)



(1) 第13次調査 SD01完掘状況 (東から)



(2) 第13次調査 SD20土層(北西から)



(3) 第13次調査 SD20完掘状況(西から)

図版28



(1) 第13次調査 SD21土層(北東から)



(2) 第13次調査 SD21・SX22完掘状況 (北から)



(3) 第13次調査 SD23完掘状況 (南西から)



(1) 第14次調査反転前全景(南から)



(2) 第14次調査反転後全景(西から)

図版30



(1) 第14次調査SB01全景(西から)



(2) 第14次調査SB02全景(北西から)



(1) 第14次調査SC01全景(北から)



(2) 第14次調査SC02全景(西から)



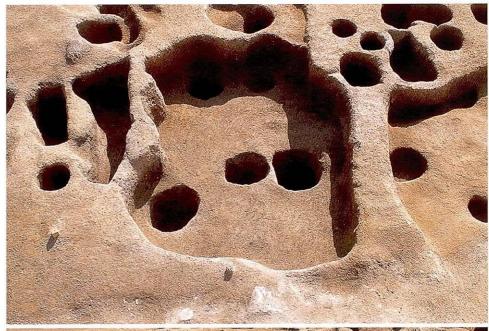
(1) 第14次調査 SX16全景(西から)



(2) 第14次調査 SX18全景(西から)



(3) 第14次調査 SX19全景(西から)



(1) 第14次調査 SX20全景(西から)



(2) 第14次調査 SX26全景(南から)



(3) 第14次調査 SX38全景(東から)



(1) 第14次調査 SX65全景(西から)



(2) 第14次調査 反転後1面目全景 (東から)



(3) 第14次調査 SC01カマド土層 (西から)



(1) 第19次調査全景(東から)



(2) 第19次調査SB01 ~ 03全景(北から)

図版36



(1) 第19次調査SB01·03全景(南から)



(2) 第19次調査SB02全景(東から)



(1) 第19次調査SC01全景(東から)

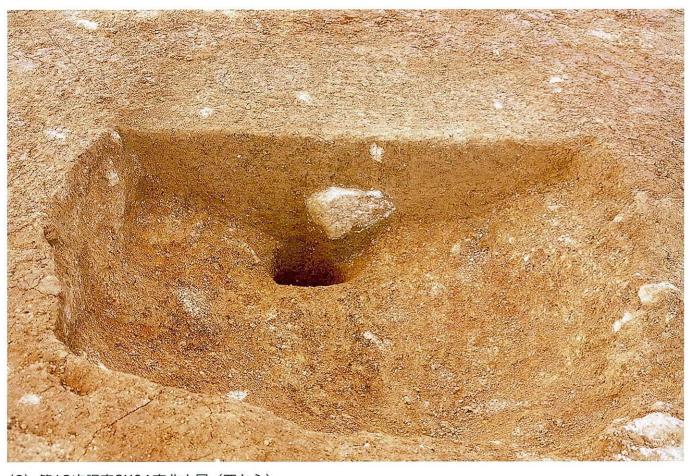


(2) 第19次調査SC01貼り床除去後全景(東から)

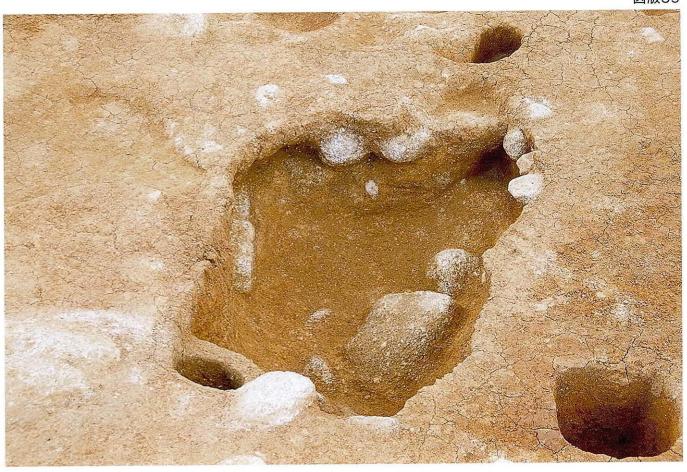
図版38



(1) 第19次調査SX01全景(東から)



(2) 第19次調査SX01南北土層(西から)



(1) 第19次調査SX02全景(東から)



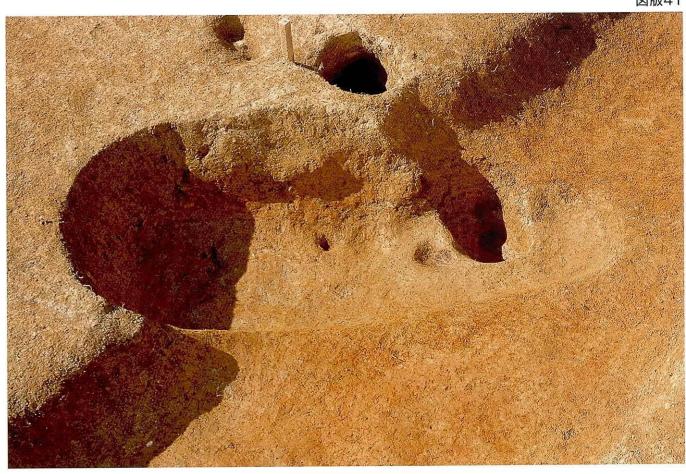
(2) 第19次調査SXO2南北土層(西から)



(1) 第19次調査SX03全景(南から)



(2) 第19次調査SXO3東西土層(南から)



(1) 第19次調査SX06全景(南から)



(2) 第19次調査SX06東西土層(南から)

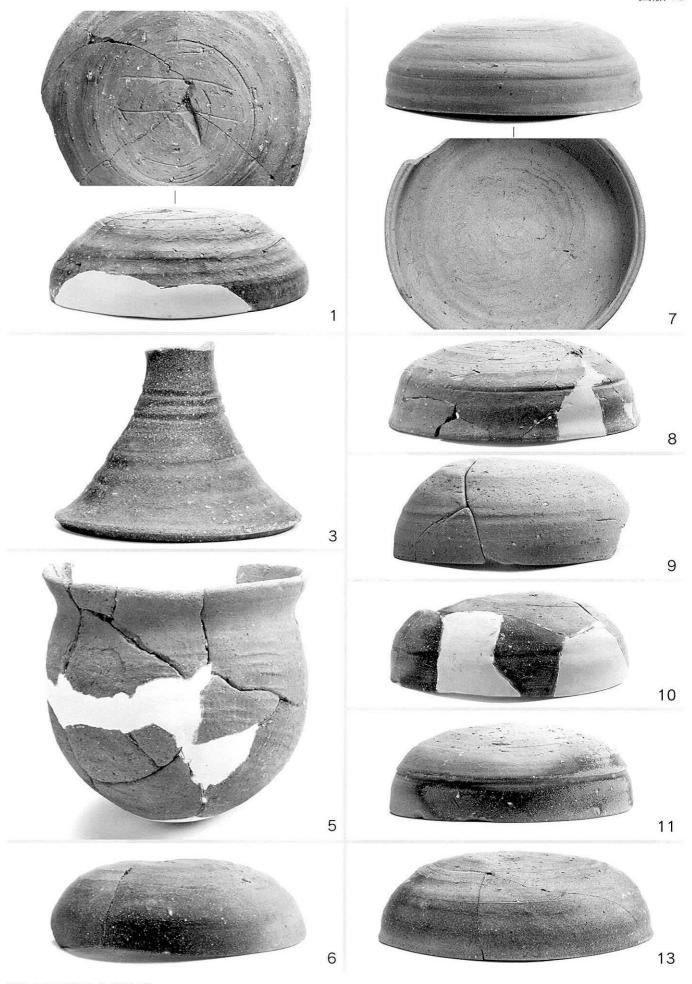
図版42



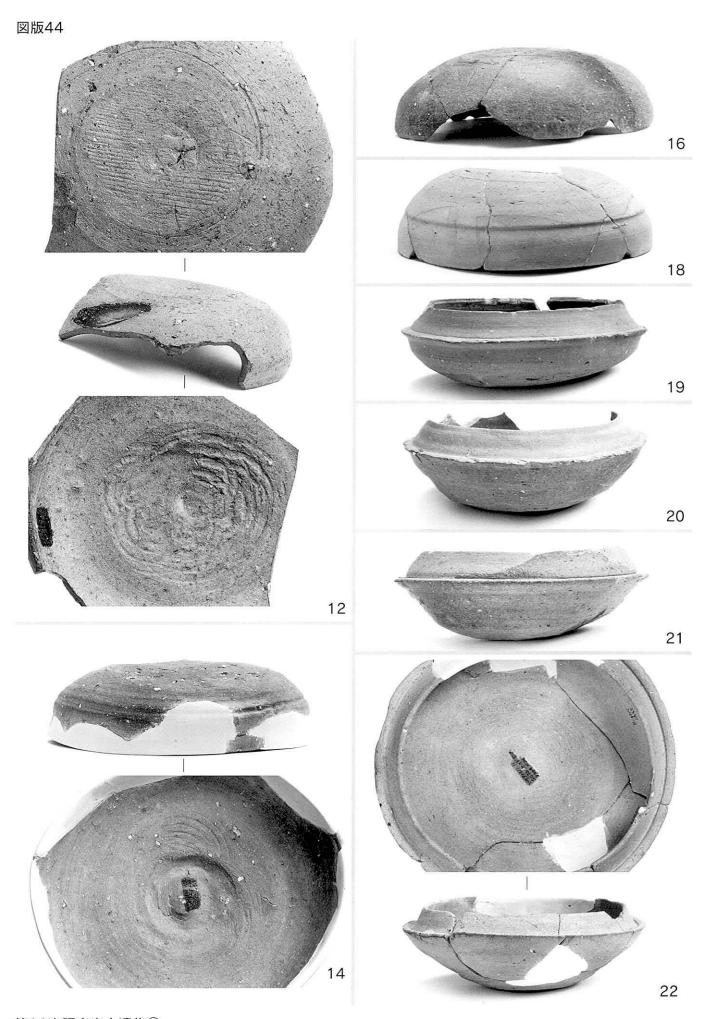
(1) 第19次調査SX10全景(北から)



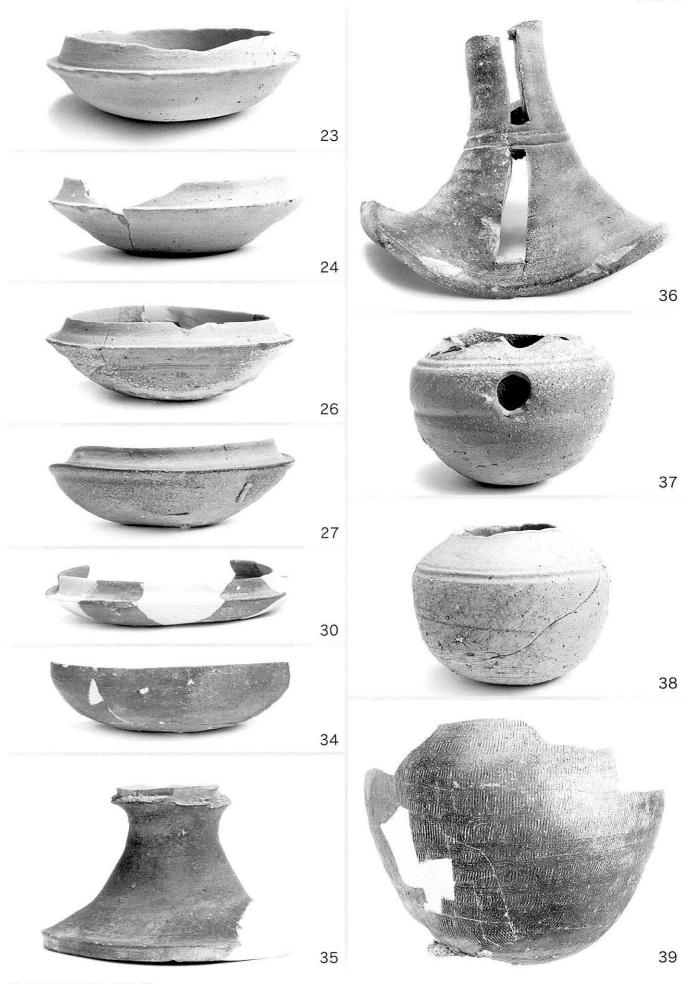
(2) 第19次調査SX12全景(北から)



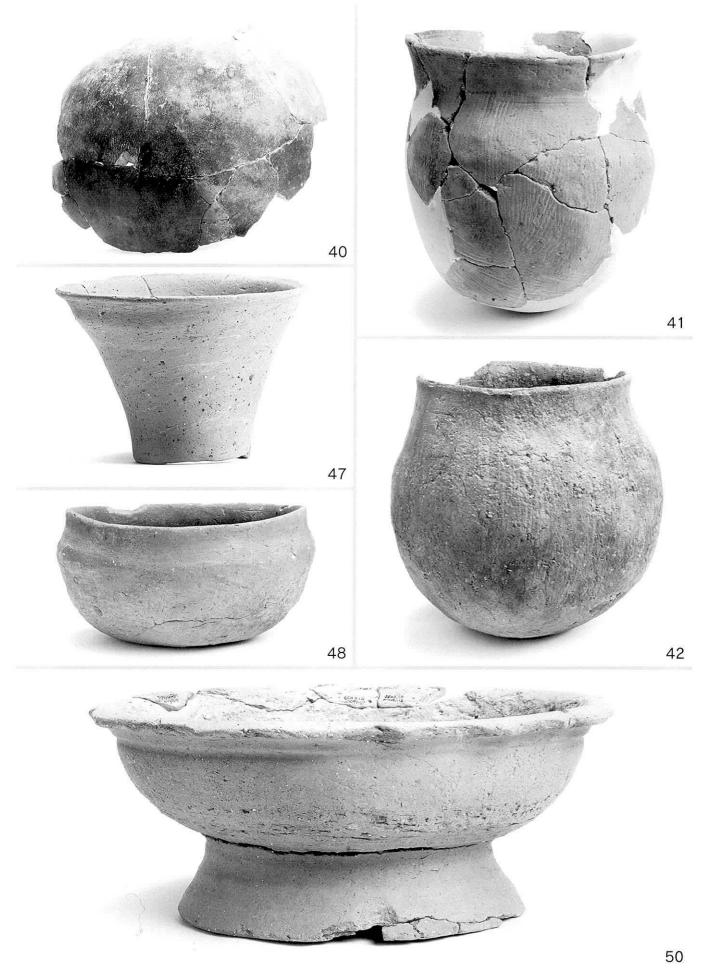
第11次調査出土遺物①



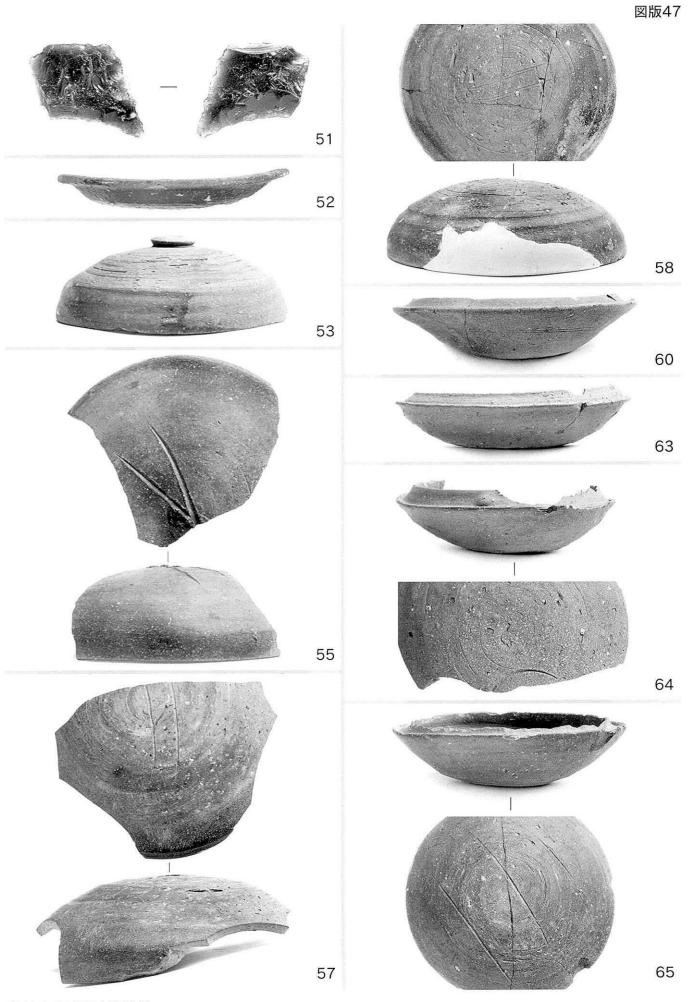
第11次調査出土遺物②



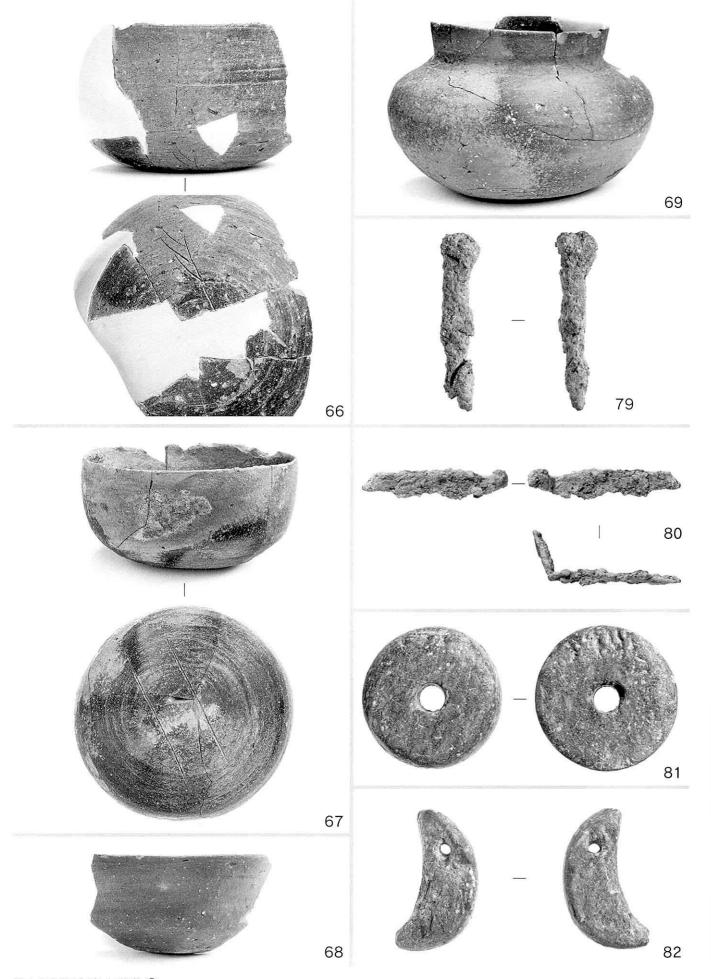
第11次調査出土遺物③



第11次調査出土遺物④



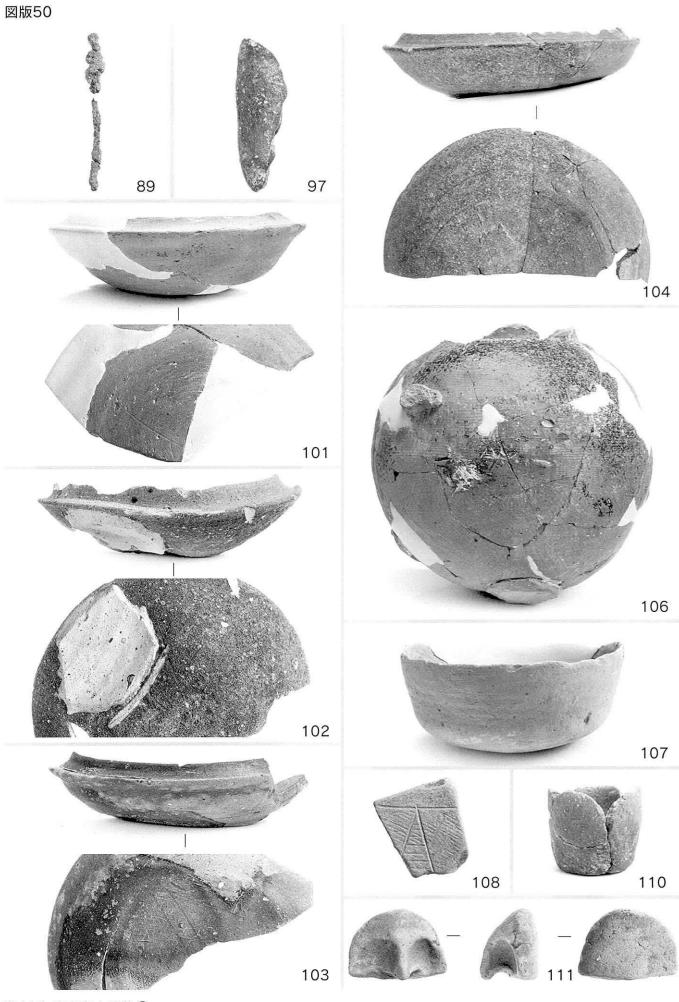
第11次調査出土遺物⑤



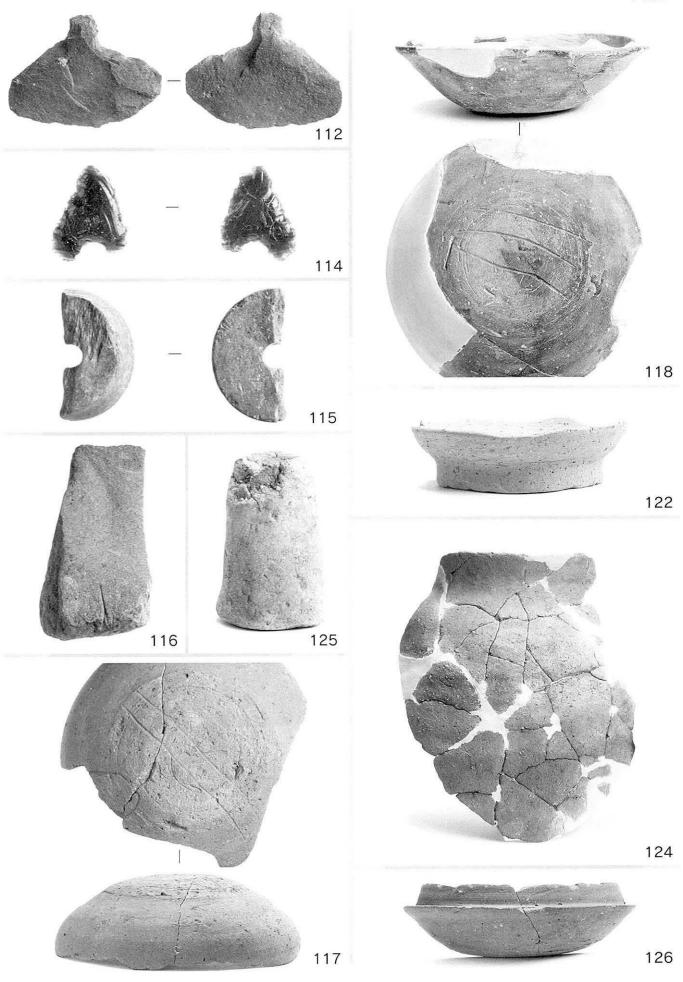
第11次調査出土遺物⑥



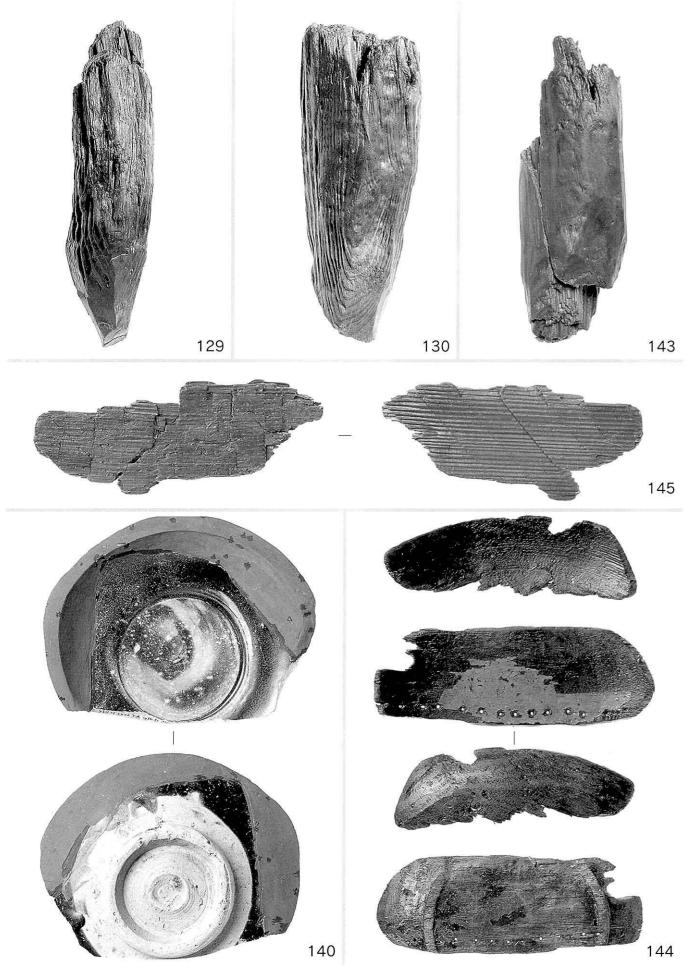
第11次調査出土遺物⑦



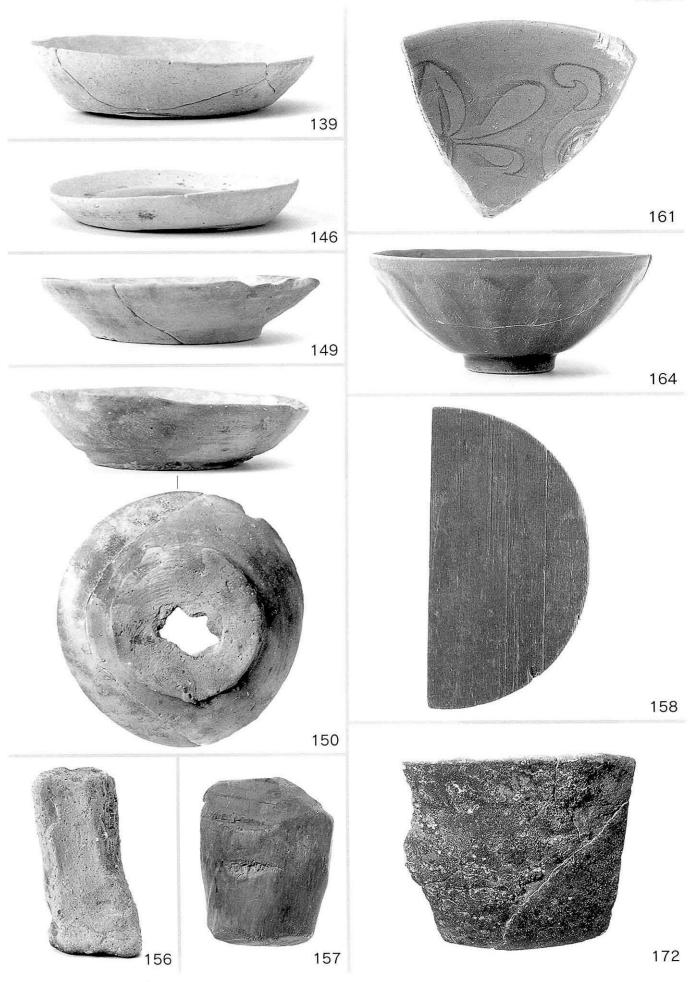
第11次調査出土遺物⑧



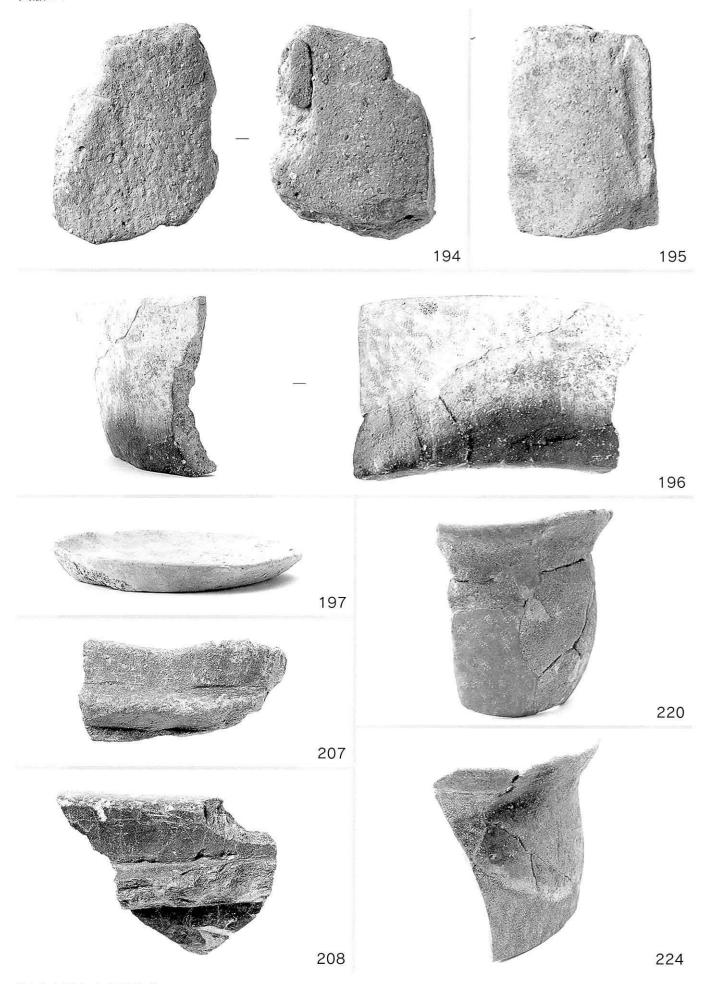
第11次調査出土遺物⑨



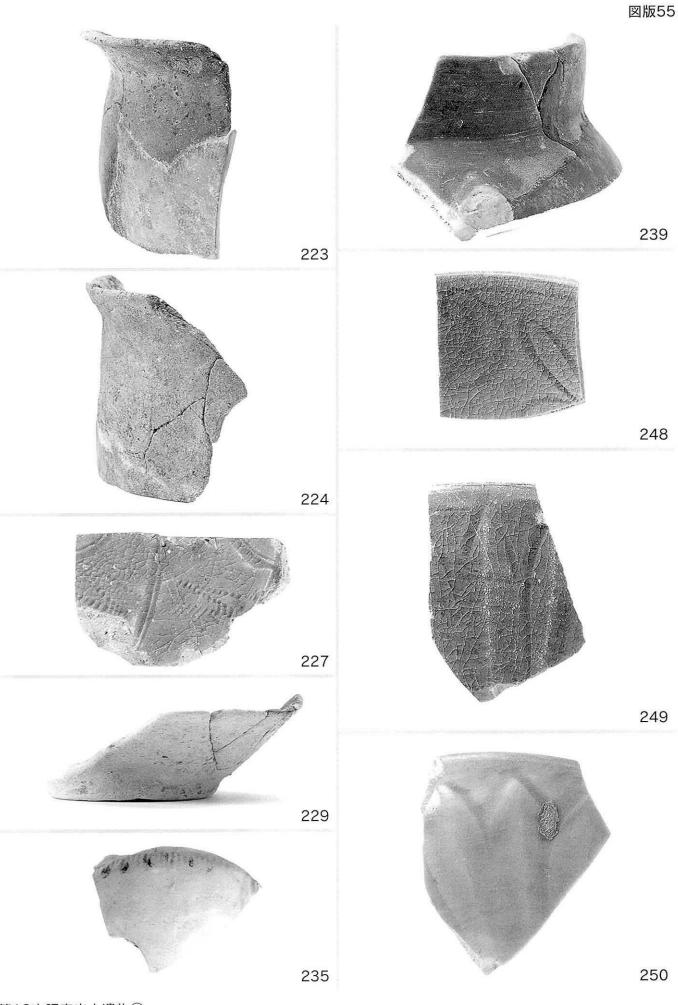
第13次調査出土遺物①



第13次調査出土遺物②



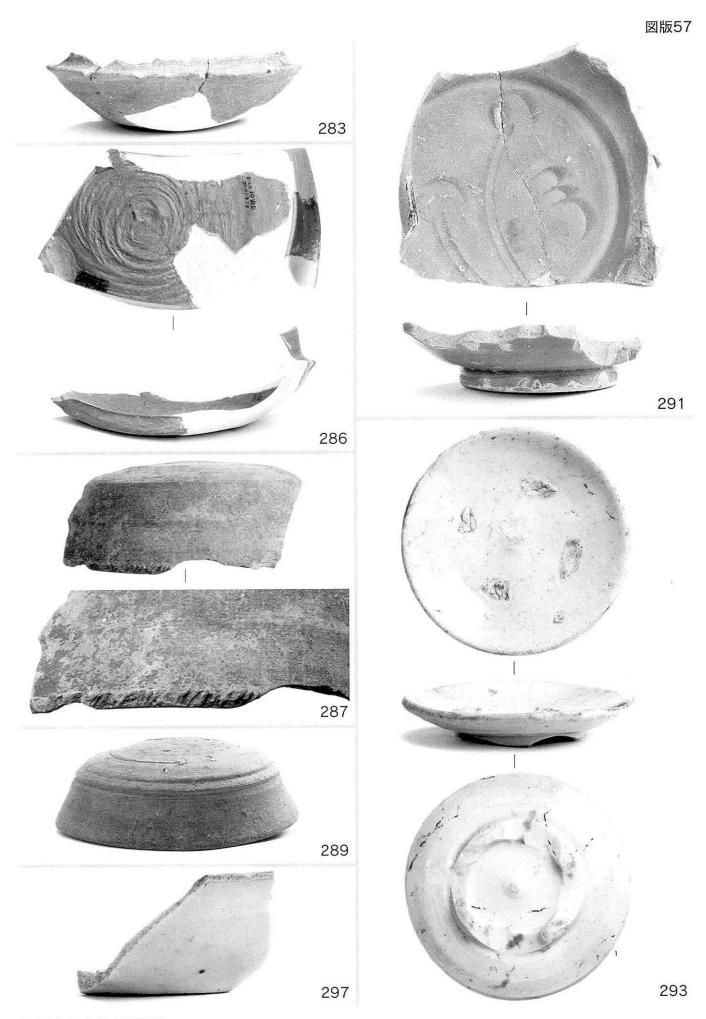
第13次調査出土遺物③



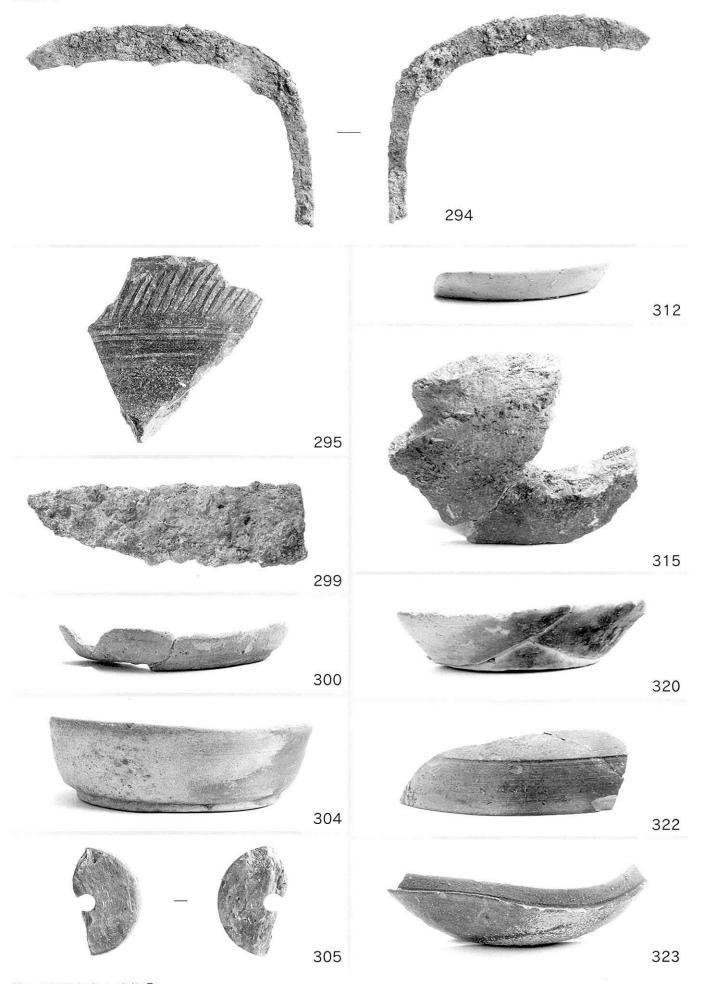
第13次調査出土遺物④



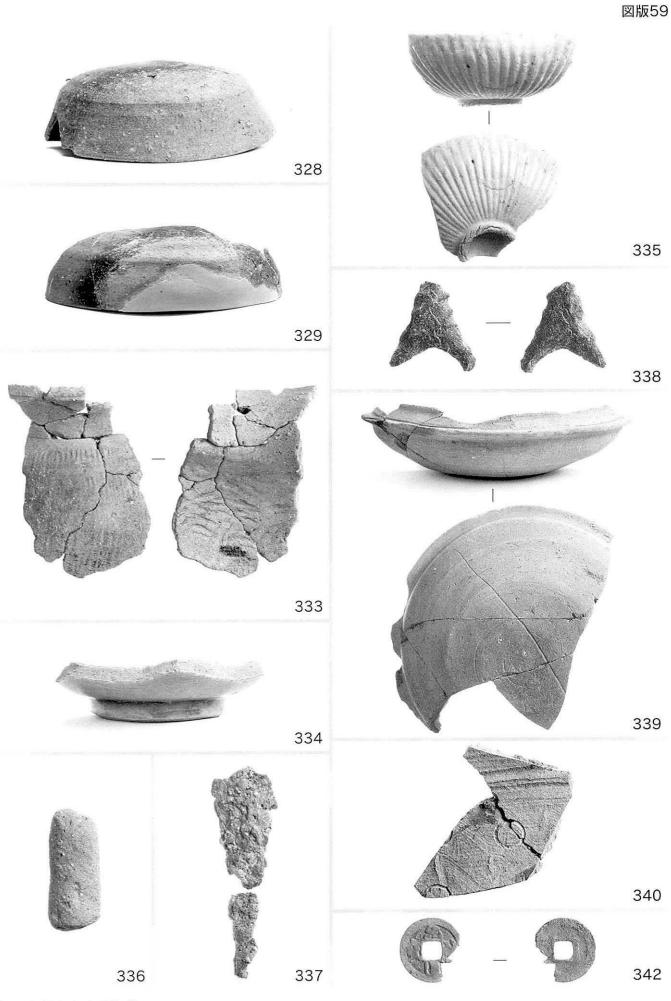
第13次調査出土遺物⑤



第14次調査出土遺物①

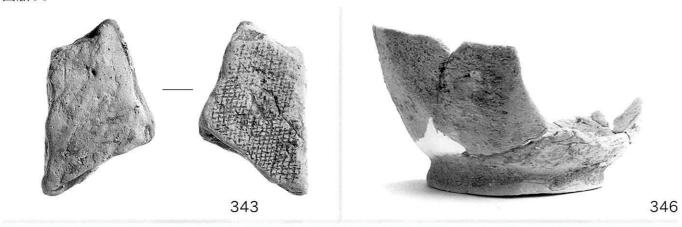


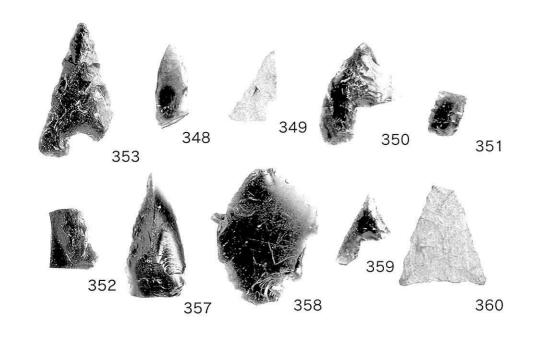
第14次調査出土遺物②

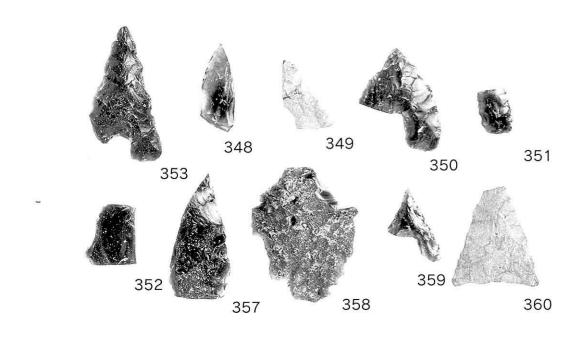


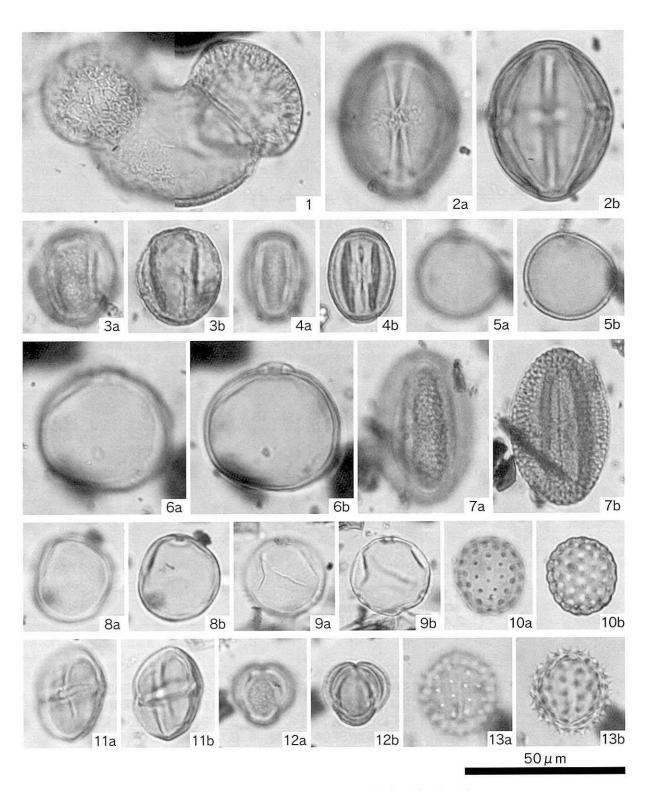
第14次調査出土遺物③

図版60



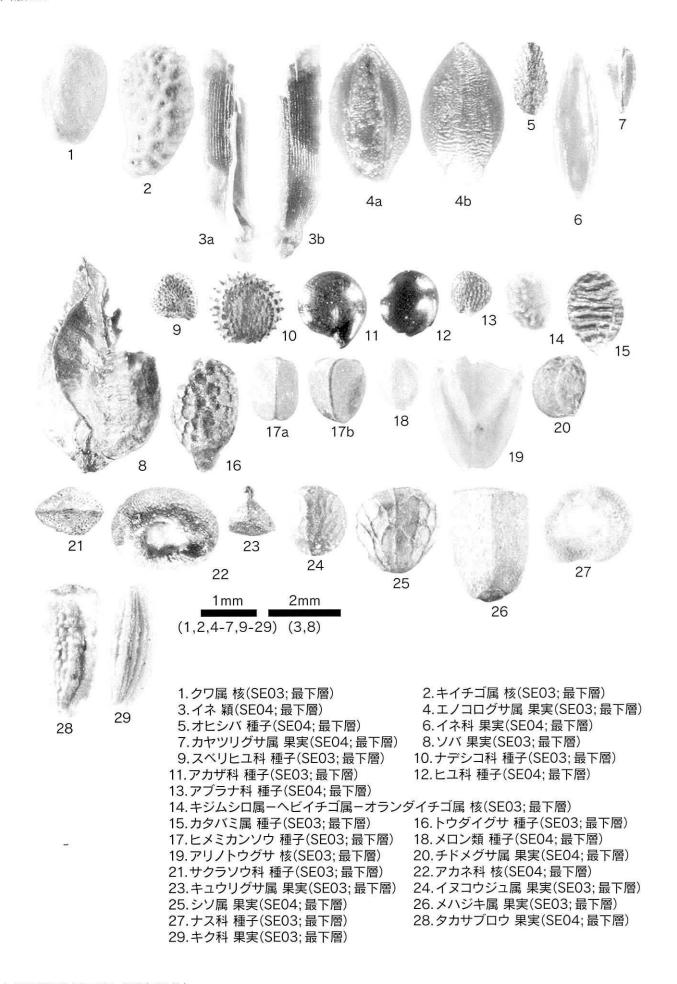






- 1. マツ属(SE03; 最下層)
- 3. コナラ属コナラ亜属(SEO3; 最下層)
- 5. エノキ属-ムクノキ属(SE03; 最下層)
- 7. ソバ属(SE03; 最下層)
- 9. クワ科(SE03; 最下層)
- 11. ナス属近似種(SE04; 最下層)
- 13. キク亜科(SE03; 最下層)

- 2. カキノキ属(SE03; 最下層)
- 4. コナラ属アカガシ亜属(SE03; 最下層)
- 6. イネ属(SE03; 最下層)
- 8. イネ科(SE03; 最下層)
- 10. アカザ科(SE03; 最下層)
- 12. ヨモギ属(SE03; 最下層)



報告書抄録

·										
ふりがな	おとがなちくいせきぐん さん									
書 名	乙金地区遺跡群 3									
副書名	乙金第二土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書									
	3									
シリーズ名	大野城市文化財調査報告書									
シリーズ番号	第98集									
編著者名	林 潤也·吉田 治	告之・石木 秀啓・上	田龍児	·森 隆·㈱	パリノ・サー	-ヴェイ 				
編集機関	大野城市教育委員会									
所在地	〒816-8510 福岡県大野城市曙町二丁目2番1号 電話092 (501) 2211									
発行年月日	2011年3月31日									
ふりがな	ふりがな		コード		北緯	束経	÷m -k: (In tit	Not the title the	391 ★ 197 TH	
所収遺跡名	所在地		市町村	遺跡番号	• 1 11	• 1 H	調査期間	調査面積	調査原因	
やくしのもりいせき	ふくおかけんおおのじょうしおとかな				33°	130°	2009.10.5			
薬師の森遺跡	福岡県大野城市乙金		As h Nickto		32'	29'	2009.12.7	約390㎡	区画整理	
第11次調査	3丁目405				,	52"				
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物			特記事項		
薬師の森遺跡 第11次調査	集落遺跡 古墳・平安・鎌倉		竪穴住居・土坑・溝		須恵器・土師器・ 陶磁器・石器・鉄製品				_	
要約	の竪穴住居4軒・	認され、上面で中世 上坑を検出した。下面 うえで重要な資料とい れる。	iの竪穴住/	居群は、近接	・隣接する	5次・8次調	査地と同一集落	と考えられ、	集落の広がり	
ふりがな 所収遺跡名) がな 在地	市町村	一ド 遺跡番号	北緯	東経 "	調査期間	調査面積	調査原因	
やくしのもりいせき	ふくおかけんおお	のじょうしおとがな			33°	130°	2010.1.12	-		
薬師の森遺跡	福岡県大野城市乙金				32′	29'	~	約960㎡	区画整理	
第13次調査 		3丁目350-1・3・4				38" 29"		2010.2.25		
所収遺跡名	種別	主な時代	主	な遺構	主な	: 遺物		特記事項		
薬師の森遺跡 第13次調査	集落遺跡 奈良・鎌倉・室町 -		堀立柱建物・井戸 土坑・溝		須恵器・土師器・ 陶磁器・木製品					
要約	づけられ、掘立柱を も確認されており、	ンて、奈良時代から室 建物・井戸などが比較 当該期集落の構造を 養落景観の復元の上で	を的狭い範 考える上	囲に集中的に で興味深い。	展開する。。 また井戸埋	これらの遺構 土の花粉分析	群を「し」字形	/に区画するよ	うな溝状遺構	
 ふりがな	ふりがな 所在地 ふくおかけんおおのじょうしおとがな		コード		. 北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因	
所収遺跡名										
やくしのもりいせき					33° 130°		2010.1.7			
薬師の森遺跡	福岡県大野城市乙金 3丁目413の一部ほか				32'	29' 39"	~	約460㎡	区画整理	
第14次調査 ————). L)mb 129		39"		2010.4.30	## ≛TNICTS		
所収遭跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		 			
薬師の森遺跡 第14次調査	集落遺跡	古墳・鎌倉・室町	竪穴住居 堀立柱建物 土坑・溝		須恵器・土師器・ 陶磁器・鉄製品					
要約	古墳時代後期(6世紀後半~7世紀前半)の竪穴住居2軒、掘立柱建物2棟、平安時代〜室町時代のピット群、土坑、溝状遺植などを検出した。古墳時代の遺構群は、北側に隣接する5次調査地と同一集落と考えられ、集落の広がりや変遷を考える上で興味深い。平安時代〜室町時代の遺構群は、調査区南西側に集中する傾向が見られ、その点在的なあり方は、乙金地区の中世集落の構造を検討するうえで重要である。									
ふりがな	1)がな	_ =	ı — K	北緯 "	東経 "	調査期間	調査面積	調査原因	
所収遺跡名	所在地		市町村	遺跡番号		"				
やくしのもりいせき 薬師の森遺跡 第19次調査	福岡県大	:のじょうしおとがな 野城市乙金 35・387			33° 32′ 33″	130° 29′ 50″	2010.6.26	約1,090㎡	区画整理	
		主な時代		と 連絡	 	1	2010.0.11	 特記事項	<u> </u>	
所収遺跡名	種別	工化四八	主な遺構		主な遺物		-	ᄁᆝᇚᆄᄷ		
薬師の森遺跡 第19次調査	集落遺跡	縄文・古墳・平安	竪穴住居 堀立柱建物・土坑		須惠器·土飾器·瓦· 石器					
要約	縄文時代の可能性が高い土坑6基、古墳時代後期の竪穴住居1軒、平安時代の掘立柱建物3棟などを検出した。縄文時代の可能性が高い土坑の中には、平面形態や底面ピットのあり方から「落とし穴」としての機能を想定できるものもある。平安時代の掘立柱建物は、東側に隣接する4次調査地でも確認されており一連の集落と考えられる。古代~中世集落の変遷を検討するうえで貴重な成果を得ることができた。									

大野城市文化財調查報告書 第98集

乙金地区遺跡群3

平成23年3月31日

発 行 大野城市教育委員会 福岡県大野城市曙町2-2-1

印刷 瞬報社写真印刷株式会社 福岡県福岡市中央区天神5丁目4番16号3F